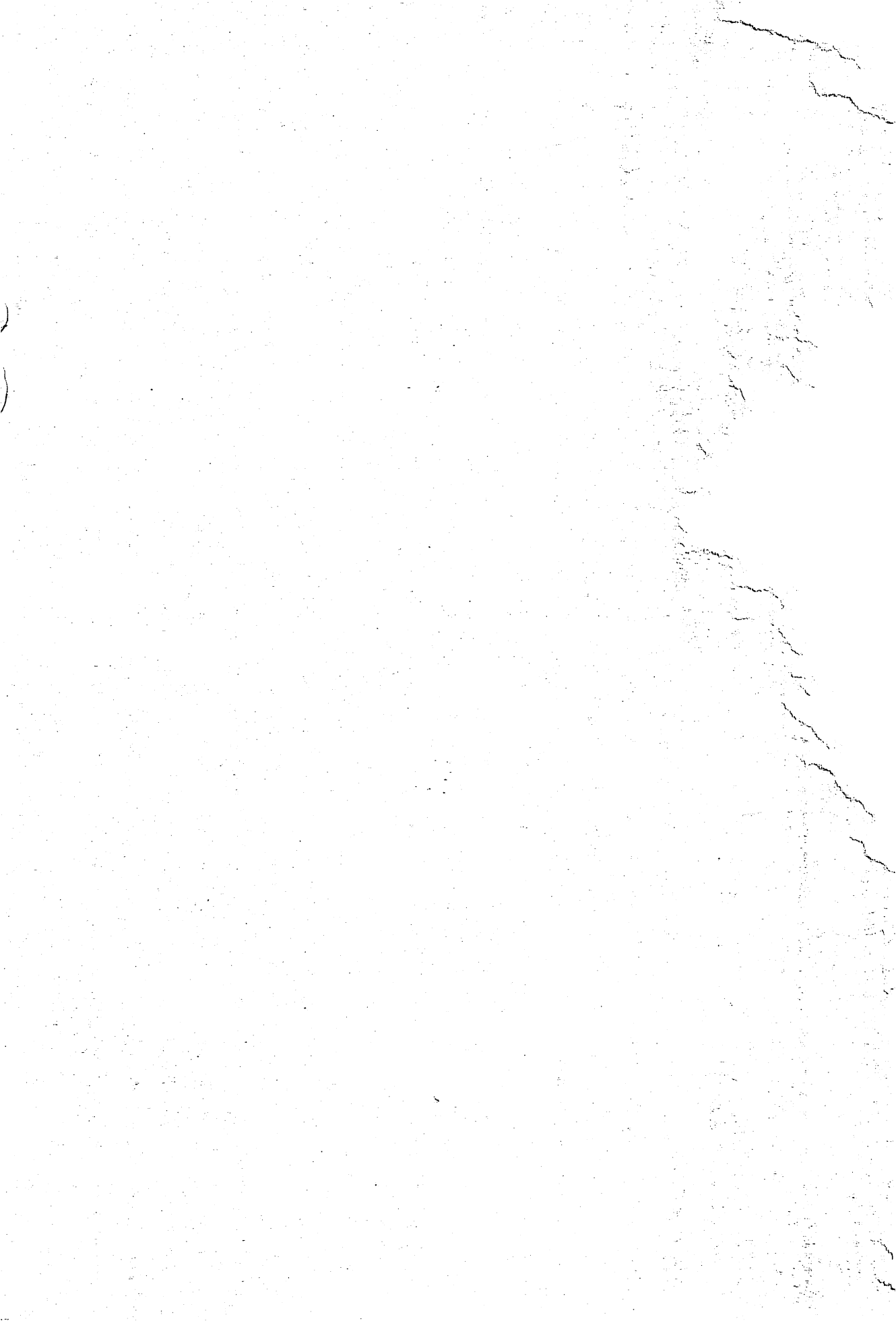


平成十二年三月
津山郷土博物館紀要第十三号

安永三年（一七七四）
安永五年（一七七六）

津山松平藩町奉行日記 八

津山郷土博物館



津山松平藩町奉行日記 八

目次

町奉行御用日記 安永三年 大沢三平筆

同 五年 大沢三平筆

津山城下町町人地家割図

.....

1
} 69

.....

70
} 137

.....

138
} 145

凡例

- 1 平出・欠字は、省略した。
 - 2 漢字は、原則として常用漢字（人名用漢字を含む）に改めたが、他は正字体とした。
 - 3 誤字・脱字と思われる場合は、右傍らに（ママ）と注記した。
 - 4 近世期一般に慣用されていた左記のような文字・用語等は、そのまま記載した。
体てい 扣ひかえ 噁あつぷう 欺あつか 喧嘩けんか 音物いんもの 稠敷ちひく 又候またさう 与風よふう 風かぜ 舛まが
 - 5 変体がなは、原則としてひらがなに改めたが、助詞等に用いられている、而（て）、江（え）、者（は）、茂（も）、与（と）及び片仮名のニ、并は、小活字で示した。
ㇿ（より） ㇿ（して）は、例外として残した。
 - 6 訂正・削除がある場合、消された文字の左側に見消記号（ㇿ）を付し、右側に訂正の文字を記した。
また、消された文字が不明の場合はその文字を■で示した。
 - 7 虫損・破損は、「」でその状態を示した。
 - 8 日記の表紙・奥書等は、その部分を□で囲み、（表紙）のように注記した。
 - 9 記載を配慮すべき地名・固有名詞は□□のようにした。
- 一、本資料中に、封建的身分差別を表現する名辞・賤称が認められるが、事実に基づく科学的な歴史研究を進める立場から、これらをそのまま掲げた。もとより我々は、この不当な差別を容認するものではなく、科学的な歴史認識を通じて差別と差別意識の根絶にいたることを望んでいる。読者においても、この立場を理解し、この資料を正しく利用されることを期待する。
- 一、本書の翻刻・編集は乾貴子と尾島治が担当した。

安永三 甲午年

町奉行御用日記

正月の二月三月四月五月六月七月
八月九月十月十一月十二月ニ至ル
大沢三平

(表紙)

一辰上刻諸士登城於桜之間御帳付松之間於御縁側御名代御家老大熊
勘解由殿御受礼有之以前当役詮議方御勘定奉行山岡与左衛門ハ郡代兼役也各例
之通御祝義申上ル

二日 晴

一御用初ニ付日参之面々出仕御用席江当役大沢三平詮議方平井郷左
衛門御勘定奉行清水多橋山岡与左衛門郡代兼役近藤伊左衛門御勘定奉行補欠御金奉
行 御藏奉行岸権六野井伝七各罷出御祝義申述之畢而七間廊下ニお
いて御吸もの御酒頂戴之済支配方江御礼相述べ
一昼後例之通大年奇札元盃事致候
一勝山筑摩源右衛門渡部庵兵衛の年頭祝書到来

一乃井野河端代八の年頭祝書別書ニ錢相場之儀申来奥書印申付ル

一御藏米五拾目町米四拾六匁

三日 晴

一勝山へ返書遣ス乃井野返書相場書遣ス

一御藏米四拾八匁町米四拾四匁

一町方年礼例之通

一司馬五郎様御社参御仏詣被遊尤旧冬稻垣茂士の御先触通用有之候

四日 雪 五日 雪

一例之通御仏参

六日 晴

一御用達御藏元諸吟味年頭受礼盃事畢而町々年寄共受礼次に問屋同
断

一幾野御代官所手代中里忠助大井田与五郎の年頭書且又吉野郡江之

原村口留番所十歩一御運上去巳一年分錢相場書之儀申来奥書印調

遣ス

一西川役所坂井良藏永松太惣左衛門の年頭之祝書到来返書差越候

七日 晴

一坪井吉田勝右衛門の年頭祝書到来返書遣ス

一西川の通谷越近来中絶ニ而不送来候処旧冬到来右ニ付以前之通鱈

相送り可申哉乍去外々江音物此方無之候得者いかゞ可致哉之旨

永井甚太夫へ聞合遣候処先例も当時ニてハ不都合ニ候間中絶幸ニ

此度の外並之通音物なしニ而も可然様有之旨申来り其通ニ致し候

八日 晴

一 来十六日大年寄札元町医師御用達諸吟味御蔵元共登城之儀市郷奉行中へ伺之上御城内通行之儀ニ付名前大目付中へ差出し右書付中(マ)奥目中へ被相廻候尚又例之通中奥目付中へ申談ス

九日 雨

一 河原町組屋徳兵衛断町内茶園地之内まゆみ櫃之内四五寸計鏡式面栄ニ入有之候ニ付註進申出内古鏡老面金指四寸式歩裏模様南天表面四寸八九歩裏模様南天櫛子何れも栄に入今鏡之よし右ニ付乍晩大年寄へ申し付旧冬金蔵吟味中ニ吉田屋喜八方之頭子書出候紛失物之内鏡式面有所不知候ニ付彼呼出し尋候様ニと廻り同心に申含メ遣ス

十日 晴小雨

一 勝間田金谷伴六〇年頭書并小杉五束到来中村与次右衛門和田安兵衛両所も連名之年頭書返書遣候

十一日 晴 十二日 雨

一 恒例之通大盤(マ)若転読無滞相濟尤宇治橋間相詰候座並御奏者番御番頭寺社取次三奉行大目付町奉行御使番寺社取次中奥目付御修法畢而御家老中御年寄中詰之面々例之通拜礼濟追々御用席へ罷出無滞相濟恐悦之段申述候先格之通也

十三日 雨上ル

一 御奏番市村数馬黒田彦四郎廻状半紙江戸旧臘廿五日出之飛脚到来殿様益御機嫌克被成御座十一月廿三日淡路守様御家督無御相違被仰出候旨申来恐悦之御事依之為御悦御帳付候間来十六日辰上刻巳上刻迄之内出仕可有之候此旨同役属役并支配方も可被相違旨

一 井上弥三兵衛鈴木此右衛門永井甚大夫廻状半切主税様御儀旧臘淡路守様与御改被成淡路守様御儀大内記様与御改被成候此段為相知候様被仰出候

一 安岡町若田屋源七小田中分菜洗場之向空地開発仕度村方故障無之旨御郡代所御代官所五も願差出候由願書今日永井甚大夫五申達候所御勘定所へ懸合候様則引合候

十四日 晴

一 中之町菓屋兵蔵断出候ハ私借屋のゝじ屋徳三郎と申者今朝戸を明不申候ニ付不審ニ存近所之者戸をたゞき候へ共家内四人之もの一向返答不仕候ニ付私并組合打寄戸を明内へ入及見候処荒増諸道具鍋釜相見不申家内之者立退候と奉存夫ニ付請人橋元町三笠屋五兵衛二階町早助右之体見セ申候旨書付を以届出ル尚又近所之者組合等相札し書付を以申出候様申渡ス別紙ニ乃し屋徳三郎四十余同人妻三十余粹茂吉十三才妹六七才役介之妻母橋元町借屋ニ罷出候由此者之儀ハ去歲四月十一日之日記ニ取捌之儀有之候

十五日 晴 十六日 雨

一 諸士登城御具足御祝儀頂戴役筋如前格宇治橋間ニおいて御奏者刑法奉行御勝手奉行御政事奉行大目付一同ニ並居頂戴致候

一 表御祝儀相濟町奉行刑法勘定奉行郡代補闕一所ニ御用所へ罷出御祝儀相濟候恐悦申上ル且淡路守様御家督被仰出候御悦恐悦申上ル

一 淡路守様御悦於桜ノ間諸士御帳付

一 大年寄町医札元其外町人共御用所之御方面謁之次第如左

松ノ間御縁側通り並居

御家老御年寄松ノ間へ

御出御政事奉行甚太夫

大目付極人東ノ方下段

町奉行同西何も年頭

御祝儀申上候旨取合セ述之

中ノ口北之方ヲ頭ニ並居

御家老御年寄銀鷲之間へ

御出御政事奉行大目付

閑際ニ着座町奉行同閑

際下段ニ着名披露取計之

但南ノ方ニ大庄屋並居郡代

披露畢而屏風ノ内へ御家老

御年寄入座此間ニ各退かせ

跡へ左之面々居並せ

中ノ口北を頭ニ並居御家老

御年寄御出座御政事奉行

大目付町奉行着座

同断名披露取計

之上直ニ御退出

岩佐孝碩

川嶋桃庵

当病箕作丈庵

同 北山修斎

中嶋仙庵

河部周益

茂渡市右衛門

蔵合孫左衛門

齋藤孫右衛門

当病玉置忠兵衛

山本三右衛門

川口藤十郎

茂渡藤右衛門

竹田七郎兵衛

三室屋宇左衛門

高松屋平兵衛

当病浜野屋善十郎

塩屋八郎右衛門

当病沢屋孫四郎

福永屋藤助

大島屋平右衛門

当病伊勢長右衛門

姫路屋伝蔵

熊野屋伝兵衛

一 昨日之書面乃、字屋徳三郎組合受人吟味致させ候処徳三郎義手廻り悪ク相見へ其外何之心懸り之儀も無之家賃七拾目計り借候由家主書付出ス組合之もの共相残り候諸道具書付出ス立退之趣ニ候得共自然後日ニ掛り合も無覚束並之通尋申付之勿論徳三郎先妻之母橋本町作人猪兵衛借家ニ罷在候由書付差出ス請人共書付是又同様取置之候

一 今日先例之通組中盃事致候

十七日 晴

一 西今町直屋市郎左衛門弟備中倉敷油屋丈助昨日罷越商事ニ付十

五日計り逗留断出ル

一 司馬五郎様明十八日五ツ時御供揃ニ而杉山へ御鹿狩田町御門大番

所蘭田之前御帰ハ二ノ宮安岡町夫々京橋へ本町通り稲垣茂次公通

用

一 新田村八郎兵衛同村持宝院紛失之脇指海府郡代所々書付相廻り町

方へ質或ハ売調候ものありや触書昨日差出ス

一 大年寄三人并惣町去歳暮当年頭御祝儀御肴一種ツ、差上披露相済

候旨江戸御奉者本多出兵衛申来右紙面大年寄へ相渡し御礼相廻り候様申渡

十八日 晴 十九日 晴

一 御藏米四拾七匁町米四拾三匁
一 盗人金藏吟味中出牢郷左衛門江懸合手形出し先方同心立合此方ハ
甚藏多藏差出し候呼出し再吟味ニ及候処大島屋へ置候ふとん式ツ
之外決而不存由申之目付中市市左衛門出合

廿日 晴

一 明廿一日五ツ半時泰安寺御仏詣稲垣茂士ハ通用

一 今日金藏品平呼出候尤対決ニ而ハ無之一所ニ呼出し双方へ尋之返
答為致候処金藏ハ品平誘候ニ無相違段申之品平ハ盗に入候儀も無
之元ハ金藏ヲ誘候儀と見不申日用頭理右衛門所ニ而金藏ハ能仕事
有と申候を籠廻し仕候間駕籠を昇候を仕事と申ニ付其儀と心得可
参与挨拶仕候旨相答双方実否不相決又々牢へ歸し申候尤例之通手
形差遣候而詮議方ハも同心被差出候立合目付藤森権六中市市左衛
門出番福井甚藏神田権兵衛
一 船頭町小大工庄助小性町元日用頭利右衛門金藏品平兩人儀ニ付不
審懸り今夕兩人ともニ組合預ケ申付候

廿一日 晴

一 今日御仏參之儀昨日大年寄江為知可申之処無念いたし候ニ付郷左
衛門を以差扣候候処追付甚大夫ハ今大沢三平差扣伺之儀御用番へ
申達候処伺ニハ不及已後可入念旨ニ御座候此段通達候様同人江申
来候ニ付即刻司馬五郎様付弥三兵衛へ其段及沙汰尚以甚大夫江も
為御礼罷越候

廿二日 晴

一 錢八拾式文遣之旨断出る

一 今日小大工庄助并粉弥八本次元日雇頭理右衛門呼出金藏品平懸り
合之紛失小布団鏡之儀尋申付候処不相決差返預ケ置立合年寄組合
部屋目附藤森権六大年寄孫右衛門

一 去ル卯之年先役新五兵衛相触候御停止之紙鷲町方又ハ御家中ニて
もてはやし候ニ付様子相尋候処紺屋町借屋罷在候長四郎相挨拶
由申付手前へ取寄セ及見置尤紙鷲ハ同人へ預ケ置候

廿三日 晴

一 昨日設置候紙鷲之事永井甚大夫へ及沙汰置候

一 繁屋治右衛門此度勝山原田屋甚兵衛と申もの引請寺子取申度当年
ハ戌ノ年迄五ヶ年之間通ヒ出職仕度願聞届ケ置候

一 今日甚大夫ハ近來博奕沙汰ケ拳と申勝負ニ事寄不宜合町方ニおい
て催候由且又兼而御法度之水祝ヒ往来へも罷出事晴之仕方共相聞
候御留被置候儀ニ付右相止候様存寄可有之旨被申聞マ午日両様之事
大年寄へ触書出候様申渡置ク

一 旧年ハ出入今津屋孫十郎方ニ而船頭町長藏打擲ニ逢其御参り懸り
候吹屋町治左衛門船頭町庄助同福井屋新右衛門今日呼出今津屋方
ニ而口論之次第実否相尋候立合藤森権六大年寄孫右衛門両町年寄
五人組罷出候

一 去ハ橋元町福市屋茂兵衛後家粉幸右衛門与母子之出入幸右衛門
女房之親林田町桶屋藤兵衛今日呼出吟味申付候立合藤森権六大年
寄孫右衛門年寄両町兼帯候ニ而罷出ル

一 播州今市綿屋嘉市郎手代忠七茂兵衛両例年之通呉服売昨日入境屋

伊右衛門切手。備前山田牛窓大工喜右衛門市兵衛半右衛門善助五郎左衛門小作以上六人例年之通細工ニ昨日入同宿

一吹屋町次左衛門船頭町喜右衛門新右衛門呼出し孫十郎長蔵掛り合ニ付尋申付候

廿四日 少雨

一はもの屋太郎兵衛願數年來裏やしき之内東西老間半南北五間北隣ハ鍛冶町かち屋甚兵衛西隣ハ宗道宮代銀札百六拾匁ニかち屋甚兵衛江売渡し同月廿九日証文出る

廿五日 晴

一上こん屋町渡部休庵願西々条郡薪森原村ニ持来之田畑高拾八石七斗半有之右田地ノリ之為同人役介人之兄弟恵助と申者を作代ニ遣シ恵助ニ名前付替置候処甚不埒之致方ニ付私名前に書替呉候様申遣候得共返書も不指越原村和助磯右衛門と申者双方へ掛り合候義有之然ル所去ル辰暮漸四俵指越残老俵半ハ今指越不申其上已之加徳米一粒も指越不申右之田地書入五百目之講取立貰候ニ付当年貢并講之利米濟不申内老粒も地所払不相成旨庄屋ニ申渡候ニ付得不遣よし申候段講取立申候儀一言之届も不致恵助と相對に仕候儀私田地引取候儀ハ不相成不申候間私田地ニ障り不申候様一重奉願候段申出候

右之趣ニ付勝間田役所江添願出候得共不容易儀ニ付遣候当否

一 通り永井甚大夫江も及沙汰置候

一 一方村伊兵衛娘つね拾七歳此度養女仕候旨新魚町油屋清右衛門願

一 中之町浜吉屋茂八借屋三雲娘粉山村嘉兵衛妻ニ貰聞届

来月八日及き、入

一 豆腐屋共願書去巳十月拾三文ニ商売仕候処錢相場下直相成候ニ付十四文ツ、ニ売立願一九分六厘大豆式升三分薪代ノ売匁式分六厘十丁分元入拾四文ニ而百四拾文ニノ老匁分七厘内老匁式分六厘元ノ引残而四分五厘手間代今日書付出ル

一 小倉屋茂兵衛当廿八日往来六十日撰州大坂伏見堀真島屋金兵衛方へ

一 西新町なき屋庄助他国酒株直屋市郎左衛門差返し

一 同人去ル巳三月借受候自国受酒株西今町久屋常右衛門江戻し

廿六日 晴

一 直屋市郎左衛門ハ断備中油屋城助今朝罷帰候届

一 京町徳屋吉之丞願北側ニ而私家やしき表口四間裏行拾五間五尺五寸御堀切七步役東隣ハ二階町とき屋太兵衛西隣高瀬屋文助代銀八百目ニ同町とよ屋和助へ売同月廿九日証文出る

一 船頭町長蔵吟味存寄申聞遣候

一 中之町荒もの屋伝右衛門願当国土岐美濃守殿領分英田郡川北村平六俵忠助三十四歳借屋ニ居申幸助引受申度願

一 西新町紙屋左七西今町勝屋常右衛門所持自国請酒株当正月より西正月迄借受

一 同人他国酒株直屋市郎左衛門ハ当正月ハ酉正月迄借受

廿七日 夜ハ雨後晴

一 今日金藏品平吟味目付市左衛門出番佐助孫八掛り合虚実不相分(ツ)
一 一身之職人町乗物屋伝七俵安田左六と改渡部惣右衛門殿へ奉公人別

除

一新魚町竹島屋七兵衛甲州身山来月四日立五十日逗留

一橋元町福市屋茂兵衛後家ハ旧冬ハ已来悴幸右衛門并同人妻林田町お

け屋藤兵衛方へ参り候以来訴答之事後家并藤兵衛共ニ願下歎申出候
同月廿九日証文出

一平吉西隣大工仁右衛門代銀札六百拾匁野山正軒へ売

廿八日 雪

一豆腐直段之事今日御聞届

一鍛冶町伊賀屋和兵衛屋敷表四間裏行四間之所内式間借屋ニ致し先達而入牢打穴屋利ハ借置候処妻老人居申候病身相成少々仕切置くれ候様願候ニ付裏之方半分仕切置申度表之方ハ私方へ一所に仕度願當時入牢者之妻ニ付及噂御聞届申渡ス

一福渡町しけ屋治右衛門願当国かつ山原田屋甚六兵衛与申候親類ニ而右甚六兵衛方へ当年ハ成之歳迄引受くれ候様やく束五ヶ年之間通ひ之出職彼地ニ而寺子集申度此ものハ旧冬八木をも被下候者ニ付乍出職一応ハ申達も聞届候

一坪井町かき屋吉兵衛小田中村十三郎同村勤兵衛へ田地宛作に致候処宛米三拾俵之処十五俵卷斗廿歩ノ「三斗余一向筋立不申候ニ付願出一通り甚太夫ハ及噂大庄屋中島徳助へ斎藤孫右衛門ハかけ合ニ為及候

一勝南郡植月東村観音寺観音開帳其外靈宝当三月八日ハ廿八日迄ハ両橋へ建札之儀大円寺へ頼越大年寄申出及御沙汰勝手次第可立旨

申渡ス

一土岐美濃守殿領分福本村小三郎弟八十八三拾七才此度親分へ引請

東新町因幡屋茂市願

一船頭町田原屋六兵衛自国請酒株辰正月ハ当午暮東新町茶屋六右衛門方へ預ケ申候処勝手ニ付此度取戻し

一渡守次助船頭町渡し船見分請繕被仰付候様申出申達ス

一安岡町小倉村弥四郎願大久保七郎右衛門殿領分久米北条郡宮部村百姓源三郎娘かね式十三歳此度妻貫

一西新町次惠屋弥六当午式十七此度大谷村弥六方へ妻ニ貫

一伏見町「屋文助願一宮湯谷村九兵衛娘つま二拾九歳此度妻に貫

一西今町古金屋伊兵衛弟伊八二十才林田村吉兵衛後家方へ養子貫

廿九日 晴

二月朔日 晴

一御蔵米四拾五匁町米四十式匁

一組中去月十六日ニ残り面々盃事致候

二日 晴

一旧冬ハ掛り合候橋元町福市屋後家并林田町おけ屋藤兵衛願下ニ申出候ニ付今日後家并幸右衛門夫婦おけ屋藤兵衛呼出し申渡し夫々へ書付を以読渡し候以来年寄共為心得書面為写候様大年寄孫左衛門申含メ右立会目付藤森権六年寄組合例之通一卷袋ニ入

一平吉西隣大工仁右衛門代銀札六百拾匁野山正軒へ売
同月廿九日証文出
一鍛冶町伊賀屋和兵衛屋敷表四間裏行四間之所内式間借屋ニ致し先達而入牢打穴屋利ハ借置候処妻老人居申候病身相成少々仕切置くれ候様願候ニ付裏之方半分仕切置申度表之方ハ私方へ一所に仕度願當時入牢者之妻ニ付及噂御聞届申渡ス
一福渡町しけ屋治右衛門願当国かつ山原田屋甚六兵衛与申候親類ニ而右甚六兵衛方へ当年ハ成之歳迄引受くれ候様やく束五ヶ年之間通ひ之出職彼地ニ而寺子集申度此ものハ旧冬八木をも被下候者ニ付乍出職一応ハ申達も聞届候
一坪井町かき屋吉兵衛小田中村十三郎同村勤兵衛へ田地宛作に致候処宛米三拾俵之処十五俵卷斗廿歩ノ「三斗余一向筋立不申候ニ付願出一通り甚太夫ハ及噂大庄屋中島徳助へ斎藤孫右衛門ハかけ合ニ為及候
一勝南郡植月東村観音寺観音開帳其外靈宝当三月八日ハ廿八日迄ハ両橋へ建札之儀大円寺へ頼越大年寄申出及御沙汰勝手次第可立旨

長四郎江預置此度も一同演説ニても可取計段甚大夫及噂候処御沙汰有之其通に致し長四郎相成之咎メ可申付旨被申聞今日左之趣大年寄宅ニ而藤森権六立合申渡ス

其方儀常々何之家業商売躰も不相見且又先達而異風成紙鳶拵候もの有之右等ニ不限無益成事存付候もの相知候ハ、急度可申付候旨御町へ相触候其儀致忘脚マツ又候異風成紙鳶相調殊ニ子供之弄もの其方大人之自身不相成衣服を着し身の程を不省もてはやし候事及見聞難心得法外不埒之至ニ候仍之追込申付候相慎可罷在候以上

一 旧冬掛り合今津屋孫十郎船持長藏今日藏合孫左衛門於宅目付藤森権六立会申渡ス一卷袋ニ入置

一 入牢久米右衛門足痛不食致候由福田嘉兵衛申聞中村以籍ヲ遣ス
一 西新町高松屋平兵衛同町升屋惣兵衛身延参来る四日立往来七十日計聞届

一 鍛冶町梶兵衛親子去四月身延山へ参候処旧冬十一月迄之日延願以今不能帰道中へ便りも無之候ニ付又々五十日之日延申出一通りハ甚大夫江噂ニ及聞届遣申候

三日 晴 四日 晴
四日立七十日 五百立八十日
一 船頭町ふさ屋繁藏元魚町灰屋次左衛門上船屋町灰屋六右衛門右三人甲州身延参

一 司馬五郎様明五日四時ニ宮御遠乗京橋口ハ本町通り御帰ハ田邑村御殺生被成町分へハ御懸り不被成候由稲垣ハ通用
一 伏見町くら敷屋太兵衛願粹和助孫二郎例年之通京都近江屋市右衛

門ハ呉ふく商因州伯州之内参くれ候様ニ相頼来候八日罷立当暮十二月迄逗留為仕度聞届ケ

五日 雨

一 中之町龜田屋浅右衛門此度小島浅右衛門と改井上弥三兵衛出入奉公町内人別除願聞届

一 勝間田町吉田屋与三兵衛娘ふミ十七歳林田上之町清助世話ニ而西一宮和助拵并蔵妻に遣シ

一 細工町家主弥五太願借屋弥平次粹弥吉十三勝部村伝六養ニ差遣シ
一 同町次左衛門借屋太郎右衛門娘ふ四十四歳孫せう九才沢田村太助妻子遣シ

六日 雨

一 船頭町 小大工庄助今日呼出し此もの并小姓町利右衛門此間金藏品平吟味筋ニ付不審カ、り預ケ申付置候得共兼而博奕宿致候儀相聞候ニ付御ノリ之為入牢も被仰付可然と存相伺候処先相考候様之御移も承り手錠申付候左之通

兼々沙汰悪敷然処去已十二月 元日用頭

四日之夜居町借屋ニ罷有候和助 利右衛門

方紛失物等ニ付役人共へ申含メ同月十三日

之夜金藏召捕へ引続品平両人之者入牢申付吟味之内其方儀不審相懸り町内預ケ申付置候有之候妄事触出し之制禁を不恐不宿風来者右金藏品平等不行跡もの宿致候事不届之至ニ候此度急度可申付者ニ候へ共一端御用捨手錠申付候

船頭町小大工と称ス

申渡し粗同前

庄助

一 大年寄玉置忠兵衛儀役免之願今日同役蔵合孫左衛門の内意申出文段左之通

私儀大年寄役相統結構被為仰に御威光數年來相勤難有仕合奉存候其上勝手向に付御憐愍之御手当商売御聞届被成下以御蔭家相続仕難有然上ハ無怠慢相勉可申御義奉存候処近来病身罷成足痛歩行不自由就中少々物覺等薄く相成甚心惑奉存候依之御役儀難相勤乍急御免許被成下候ハ、退而保養仕度と存候

御慈悲之上——右に付今日甚大夫江尚又内意申達置候

一 小性町一石屋儀に付備中行雜用耆間口ニ六文ツ、取集候処并蔵組五人割方不承知ニ而外々迄妨差出候者迄惡言申右に付年寄手前取計甚差支書付を以申出候処船頭町年寄今津屋孫十郎存寄ヲ以内濟割方取集之儀組頭ニ為致同人氣を付可致世話之旨一条貫候ニ付大年寄共ノ相心之挨拶ニ而一端差出候願書指下ケ候

七日 晴

一 船頭町長瀬屋長蔵下紺屋町長四郎追込差免シ相届ル

八日 晴

一 古道屋店具ニ何ニても合印付候品相見へ候由廻りノ其分ニ置可申哉伺出候ニ付為念伺候処不可然候旨為引候儀宜之由則同心共ニ申合候

一 玉置忠兵衛役免願ニ付孫左衛門江今一応之差詰り為致候趣何分難相勉候を押而申ニハ無之候得共年若之儀ニ候間今暫同役助成ヲ得候様申聞候処難有御座候得共進も勉り不申候を怠慢仕候事恐多奉

存候間以御憐愍を安堵仕養生仕度旨返答申出候故其旨を以甚大夫へ申達シ候処願被請被取候

一 祇園之御札今日孫左衛門差上御奏者番中へも申達ス

九日 不正

一 雲州御家中祝介大夫ノ玉置忠兵衛方へ來書当町御仕置役ニ付相務候名前承度候当二月二日銀荷之才頼參候間是江返書越候又便りも今幸便も候ハ、繼送りを以当月中頃迄に御国当職江戸表之当職申越候様申來一通り及沙汰其旨返事為致候

十日 晴

一 はん州か古川ノ捻粹細工手伝九郎兵衛長次郎二人來島屋藤届

十一日 晴

一 桶屋町おけ屋善右衛門ノ同町おけ屋善六へ掛り訴状一件追々可相糺旨趣略之

一 三丁目組屋伊助酒運上五枚之処商売不手廻ニ付連上造込相心減少被下候様願候

十二日 晴

一 中村以籍ニ更り井上一粹牢中療治ニ罷越由

一 願主福渡町惣十郎当月三日立百廿日計之逗留千ヶ寺參

一 元魚町いせ屋半四郎へ加々美村惣三粹千之助養子ニ遣ス

一 境屋伊右衛門切手勢州白子村形屋忠右衛門例年之通形売

十三日 晴

一 大坂屋次十郎かしの屋茂市ノ里よ儀ニ付断書之趣預之内内外了簡を付遣し候得共決方而納得不致長々之儀迷惑いたし殊更下宿ニ置候

儀賃錢等入難儀致し候筋立くれ候様申出候併彼等^ニ預ケ候も里よ
一条ハ役所^ニ而取捌候へ者品^ニのた屋方を初其余懸合者難儀爰
事も無覚束有免を加へ右^ニ取計候処押^而裁許を与候儀法外^ニ付右
書面差戻し候其訳大年寄心得^ニ付略之

十四日 晴

一直屋市郎左衛門借屋ぬし屋喜助妻七千ヶ寺順礼明後十五日^(マ)出立百
八十日計相廻り申度旨願

一明五日二宮へ御遠乗被為入候^ニ付二階町御門^ハ蔵合前夫^ハ本町通
大番所^ハ藺田前長法寺へ被為入候旨稲垣茂士^ハ通用後刻二宮^ニ之
御出御延引申来ル

十五日 晴 十六日 雨

一橋元町作人権兵衛借屋の、ち屋徳三郎厄介之は、先月徳三郎出奔
之上及渴命候故久米北条郡うたの村文左衛門と申者右祖母尊^ニ付
引連うつり候^ハ申相渡候由届

一境屋伊右衛門切手大坂鳥飼屋惣右衛門薬種売当時不参右代り大坂
南本町三町目紙屋藤兵衛おろし売昨日入

一安岡町神目屋勘右衛門佐々木六左衛門内光岡九兵衛娘さつ十九才
倅和吉妻に貰

一「」町備前屋定七備前大黒町古鉄屋善六五十五才同人倅善次郎十
八才引請

一元魚町米屋喜助姉しけ三十四才此度久米北条郡錦織村妻に遣シ
一町会所甚右衛門方此度修覆伺出候得共御取上無之候

十七日 晴

一日光御門主御用之由山科御所御内岡本宮内太輔上下七人通行致^ニ
付右宿割之由加川丈七と申者参かしの屋案内^ニ而郡代所参候儀通
用有之町方問屋場手宛も付置候得共一向其儀無之勝山又坪井或ハ
勝間田^ハも右之者^ニ付聞合申参候由

一直屋市郎左衛門足痛備中倉敷油屋丈助方へ往来十五日計滞留^ニ而
江木大領と医者^ハ療治頼明十八日罷立候旨願

一森对馬守殿支配所大庭郡久世村塚谷屋左助大夫妹くみ十九才吹屋
町ふき屋八左衛門へ養女に引請

一橋元町甚八願借屋甚八娘^も上之町作人喜八養女に遣度

一上紺屋町かた岡屋清兵衛千ヶ寺参来ル三月三日立往来百廿日

十八日 雨

一^{札岡廿八日^ニ出}長法寺開帳^ニ付南京操勸進元被頼候旨元魚町山手屋次兵衛濟
一御蔵米四拾六匁四拾式匁

十九日 不正

一中山市左衛門用事^ニ付乃井野^ハ行届往来五日

一去ル十一日之書記おけ屋町おけ屋善六養母并右善六呼出し存寄申
聞せ^{目付}藤森権六六年寄蔵合孫左衛門立合

廿日 晴

一おけ屋町桶屋善右衛門呼出し存寄申聞せ^{目付}藤森権六六年寄孫左衛門
立合

廿一日 晴

一東新町橋元屋茂次右衛門所持屋敷南側表口拾壹間半裏行拾七間壹

軒七分五厘役東隣ハ田原屋太郎市西隣水口屋茂兵衛右之内西之方
表口五間半裏行十七間七分五厘役銀札七百目同町本屋吉兵衛取次
質物ニ入此度請返シ

一 宮村助八姉はる六拾才甥勤次郎三拾才請小性町倉敷屋九右衛門
後家げん

一 橋元町よしの屋勤六借屋作人甚八娘もと上之町喜八養女ニ

一 乃井野預り所不知ヶ原百姓善藏三拾才同人母さん六拾八才同人弟
和助式拾式才此度引請安岡町十右衛門願同月廿三日済

一 鍛冶町神場屋善七夫婦千ヶ寺三月三日立往來百廿日

一 同町鉄具屋喜七粉新七四国遍路來ル廿二日立百日計逗留

一 西今町福寅屋庄兵衛備前赤坂郡広戸村彦五郎倅長兵衛世一才此度
養子引請

一 中之町住屋喜七所持之家屋敷北側表口四間裏行十七間半役西福晋
屋清介東隣川口屋与市代四拾匁ニ町内平岡屋右衛門へ売

廿二日 晴

一 勝間田町苅田屋次七郎へ掛り中之町大塚屋十次郎訴状之趣去辰倉
敷大和屋猶右衛門の三貫目酒六本質物ニ入借受候処相滞其後屢入
元利之内六百目不足致し去巳四月ニ三百目十月に三百目請取可申
之旨尤林田町鍵屋勤吉加判六百目之証文ニ而相濟候処此儀先達而
届一聞届置候然ル処一向不及貧着ニ逆旧冬願書差出候仍之大年
寄共彼是下尋相致し候処中之町豊屋文左衛門懸り合之儀有之次七
郎右文左衛門申趣なづミ六百目之証文相認筋立不申候間急度返濟
之儀申付候様十次へ願出候夫ニ付今日大塚屋十次豊屋文左衛門苅

田屋次七郎呼出し段々主意申聞せ候十次郎と文左衛門対談も有之
旨ニ相聞候得共何分六百目と申証文書候事ニ候得者次七郎為相濟
儀と申聞せ一通ニ而指返し申候

廿三日 晴

一 町大工棟梁権八役儀差免跡役材木町源七へ申付

一 小性町平七家根棟梁申付有之候所勝手ニ付差免跡役無之

一 玉置忠兵衛足痛之上物覚薄く難相勤旨此間願差出し候処願之趣無
拠儀ニ付願之通御差免家柄格別ニ付名字帯刀是迄之通右之趣今日
申渡候名代孫右衛門孫左衛門同道尤御扶持ハ不被下候旨是又申渡
候

(振り紙)

一 金蔵品平両入共是迄宿賄之処甚不勝手ニ付牢賄相願御聞届被成今
日刑法方へ可引渡旨市郷奉行中へ被申聞郷左衛門ニも刑法奉行中
へ其段被申聞候勿論彼少吟味之筋当役所之致かけを請持候ニ而者
無之新に両人入牢之立ニ付是迄之吟味書ハ不相廻盗もの紛失物之
書付計遣し候

一 江戸表へ相廻り候虚無僧之義公儀へ被仰出之儀御留守居之書付
今日市郷奉行へも相渡写し候而郡代所ニ本書早廻し候其文段单子
ニ入置候故略之

一 堺屋伊右衛門切手防州岩国多田村衣屋藤兵衛衣地木綿ちゝみ帷子
卸売昨日入是ハ株入代り之由

一 西今町草屋伊助弟茂八先達而黒田轉江出入奉公罷出候処暇出町内
人別ニ入

廿四日 晴

半切
一三奉行中の廻状

来ル廿九日泰源院様七回御忌ニ付於妙法寺御茶湯被仰付候此段為
相知候様被仰付候此御触石名平太兵衛并組中三軒屋江も相触候町

江者不相触候

一 同断

近々井口村長法寺見せ物場所江參問敷之旨例之文段ニ而廻状出

夫々触出候

半切
一 同断

式朱判通用之儀ニ付段々之御文段有之候留帳ニ有之候ニ付爰ニ略
候

一金藏品平入牢手形今日詮議方平井郷左衛門江遣シ請取手形来ル

廿五日 晴

一 中山勘左衛門昨夜乃井のの帰宅致候由届

廿六日 晴

一 山本屋与三七大坂松屋甚兵衛江用事ニ付来ル廿九日立往来四十五

日計

一 乃井野預り所塚角村和右衛門悴忠六二十八才安岡町網屋嘉兵衛養
子ニ願

一 大坂久太郎町壕筋まつ屋甚兵衛手代平兵衛例年之通小間もの下し

売昨日入西川屋切手

一 西川屋切手岡山下市町中島屋久六例年之通元結売昨日入

一 江戸表本多出兵衛大沢長大夫の大年寄共献上御披露相済候書状到

来大年寄共江相渡ス

廿八日 晴

一 長法寺開帳ニ付彼者建札之事申達し相済

一 去ル廿二日之夕投書有之非人を半之 (張り紙)郡代江者町奉行宛 町奉行所江

郡代市郷奉行中ニも同断投書有之引合申候

一 錢通用八拾巻文

一 船頭町船本屋権右衛門所持之旅人宿屋株去ル丑歳去已迄勝間田町

吉田屋与三兵衛預置候所此度取戻し

一 中之町正木屋伊右衛門切手播州網千余陸屋宗七同手代二人例年之

通八百屋もの昨日入

一 同五ツ時御仏參被成候旨稲垣茂士の通用

一 今日御政事奉行中の廻状

此間相触候南鏡銀之儀拾匁ニ付通用銀式拾式匁替ニ相触候処書

違ニ而候右通用銀式拾式匁替ニ而候間左様可被相心得候

二月廿八日

御政事奉行

右之通可被得其意以上

三奉行

二月廿八日

右支配方例之通触出し

一 今日寺社取次後藤守助相見へ宗永寺長屋宇兵衛と申者一昨廿七日

自滅致し檢し彼是甥直屋市郎左衛門へ奉公致し居申候ニ付寺の市

郎左衛門方江呼に遣し一応參候得共療治等之相談一向不致貧着且

惣社いとこ勤左と申ものは又右甥利八と申者連可參と出候已後二

度歸り不申京町ニ後家親居申候由旁是逆も曾而貧着不致請人ハふ

く渡町源八住寺を勤を長屋もの請人ニ而入込候得共右利八罷越不申候義難心得宗永寺の差出し候書付被見せ候ニ付則今日直屋市郎左衛門并家来利八呼出し主従之所存尋尚又書付を申付何分早速利八儀ハ宗永寺へ遣し候様ニ申渡ス京町豊屋伊兵衛借屋伊助後家利八母ニ付宗永寺へ利助参り事を差留候由を察度之書付を取一卷に有之候

一中之町荒物屋伝右衛門山本伝右衛門と改上原彦蔵へ出入奉公聞届一島屋与三兵衛切手大坂北久ほうし町岸辺屋茂兵衛同手代甚八清八例年之通小問物下し

一同切手播州豊島郡池田村月野木町植木屋平兵衛例年之通植木売昨日入

晦日 不正

一虚無僧一条去ル廿三日書面之通ニ付今日触出ス趣町分一同外ニ東新町貫拔安岡町貫拔船頭町今津屋前元魚町貫拔右四ヶ所ニハ八寸ニ老尺四五寸計之板を為打是に公儀御触を書付町々年寄之宅ニも書付張置問屋場ニ茂張付置候様申渡ス

近年村々へ虚無僧修行之躰ニ而参り百姓共互ねたりか間敷儀申懸或者旅宿を申付候様村役人杯互申候故宿取遣候得共鹿宅ニ而止宿難成由申あはれ其場に居合候もの共を尺八ニ而打擲いたし疵付候儀有之段相聞不届之至ニ候虚無僧修行いたし候ハ志次第之施物を請夜ニ入候ハ、相对ニ而一宿可致筋候間以来虚無僧共聊^茂不法之筋有之者其村方ニ而差押御料ハ御代官并御預り役所私領者領主地頭役所互早々召連出へし若於相背者其村方可為

越度者也

右之趣御料私領寺社領等不洩様相触村々ニ而写取村々之入口高札場或者村役人宅前杯互為張置可申候

正月

右之通可被相触候

件之趣ハ大御目付中御廻状ニ而松平右近将監殿御渡候御書付写老通相達候順廻後留止木志摩守方互可被相通候以上

正月廿二日

大目付

一宗永寺長屋宇兵衛一件ニ付利八母呼出し宗永寺互利八罷越候儀ハ母差押故不及其儀と申儀難心得尋申付尚又得与存寄為申聞候処中々我意を立候事ニ而無之於そろしく何角無覚束存遣し不申由不調法之段誤入候旨右書付出し主人市郎左衛門并家来利八儀も不調法心得違之儀誤り入候旨書付候間いつれ間柄之者ニ付養生之義立合介抱之為ニ参候儀役所急度申付差遣候上万事事済候趣寺社取次後藤守助互も及通用候

一右之儀ニ付直屋市郎左衛門へハ役儀をも動候儀甚心付薄き事呵已後氣を付可相勤旨大年寄於宅心得申聞せ候

一ふくも屋夫助大坂島之内万屋善次郎手代宇兵衛例年通皮足袋売

一小性町肥地屋兵藏南京操役者共セ、仕度旨乍日申出聞届ケ

一上横野菅沢御林此間野火ニ而余程焼候註進里村々放火与存候様郡代所触有之町分も薪こり入込候様ニも相聞候間たり之為触流し可申旨永井甚大夫申来り一同之触出し候

一東新町因幡屋新七切手撰州大坂松坂屋忠右衛門同扮式人唐弓□売

此の触之掛り候書面計書付候

入

一上こん屋町坪井町桔梗屋庄右衛門家屋敷表口八間裏行拾七間之
四年已前五百目質入対馬屋三右衛門取次此度請返し

一西新町并筒屋善助他国酒株借安岡町坪屋所持当年の甲年迄

一橋元屋茂次右衛門山本茂次右衛門与改号佐々木弥大夫へ出入奉公

願人別離

一中之町住屋幸吉本証文出る

本証文三月一日出

一鍛冶町山かた屋与次兵衛鍛冶町北側東向家屋敷表口式間半裏行三
間西之方ニ而ハ裏行五間半老步老リン役西隣ハから屋喜平次北隣

ハきせ屋左七銀札老貫目ニ町内から屋庄助へ売渡し

一西新町久米屋忠助借屋菊田屋武助不勝手ニ付久世領野田村市郎右
衛門方へ辰之歳去已之歳迄出職渡世致候処此度罷歸り私借屋江

引請申度願聞届

三月朔日 晴

一山岡与左衛門ニ乍夕投書^{質物高利ニ}而上包ニ郡代所脇ニ御政事奉行と

有之是ニより山岡の御政事奉行へ相廻し候処中ニハ郡代所町奉行

所有之一通り三ヶ所懸合御政事奉行中へ戻し候

○小須賀一学殿掃着

二日 晴

○長法寺江罷越候役者共今日不残揃候由肥治屋の相届ル

一三軒屋中村幸助病身ニ付甥中村清治を番代ニ仕度旨願出候

御城番所之事ニ付永井甚大夫へ一通り及沙汰候承知之旨被申聞

候

三日 晴

一おけ屋町おけ屋善右衛門去月十一日之書記同職甥おけ屋善六出入

ニ及候処何角相考候へハ甥之儀ニ候へハ申分ハ無之御座候何卒出

入願書下シ遣し候様尤以後は少も申分無御座候旨書付を以申出其

分ニ聞届候

一上紺屋町南側ニ而坪井町桔梗屋庄右衛門家屋敷表口三間半裏行拾

七間老軒ハリン五毛役西隣ハ中津屋伊右衛門東隣自分屋敷此度坪

井町今屋佐七取次式百目質入本証文同月四日出ル天明六^丙午年十

月廿日相済

一同所南側家屋敷表口四間半裏行十七間老間^{カマ}役東隣今屋伝助西隣ハ

自分家屋敷此度三丁目若本屋勘兵衛取次ニ而四百匆来丁十一月切

質入同

一上紺屋町灰屋善右衛門借屋罷在候教円坊此度吉村十四郎屋敷へ引

越其身四十三妻四十六才

一長法寺見せ物中山伝内香山多蔵

一去月六日手錠町預申付置候小大工庄助元日用頭利右衛門差免他参

急度差留

四日 晴

一昨日差免候利右衛門庄助事届申達ス

一錢八拾文

一藤森権六三舟孫八見せ物江参候

一円乘院七日立四日之滞留金毘羅。二階町一乘坊同断

五日 雨

一長法寺見せもの中山市左衛門福田甚蔵

一小林山城金毘羅七日立。元魚町とうふ屋茂兵衛同坪井町福江屋伊兵衛同。坪井町福惠屋伊兵衛參宮来ル七日立三十日計往来

一宗永寺長屋宇兵衛相果候旨利八市郎左衛門五為知候ニ付申出候 寺社取次種村弥大夫五通用有之

一近々出羽守様御通行ニ付道見分藤森権六目付左五兵衛名氏大年寄蔵合孫左衛門兩人相務候

六日 不正

一中村清次儀今日対面持参例之通番代申渡孟事藤森権六中山市左衛門出会

一勝間田若狭金毘羅七日立

一長法寺無出役候

一元魚町大笹屋伊左衛門金毘羅。か屋町利兵衛宇右衛門幸助長右衛門同。安岡町藤介字八久助十三郎源三源八久之丞七兵衛弁六為兵衛 文吉三大夫儀介和助

一西新町ゆた屋源兵衛四国七日立七十日計。東新町大地屋源七四国

七日立八十日計。東新町菊屋与七郎同町肥後屋清右衛門同断

一戸屋若右衛門二階町東側ニ而家屋敷表口五間裏行十七間堀切巻軒 役北隣山手屋弥右衛門家やしき南隣鉄炮屋惣右衛門代銀六百五拾

目同町疊屋六之助へ売渡

一西新町安ち屋四郎兵衛四国七日立七十日。熱田市正市之丞召連金

毘羅

一宗永寺宇兵衛今晚取置相濟候旨寺五申来市郎左衛門五申出利八宿

元へ引取申度其通ニ可致由申来承知候及返答候由宗永寺も役所五 挨拶ニ相見候

七日 晴

一錢八十式文

一長法寺見せ物建札東西共ニ昨夜墨を塗たる趣廻り室井作右衛門香

山多蔵五申出則寺社取次種村紋大夫五通用晚方相見へ今夕ニも長 法寺呼候而明日ハ紙ニ而も張夜中ハ忍ビニても付候様ニ可申付旨

当役五ハ勸進元ニ申付夜中ハ人を付品ニ五召捕訴出候様可申渡旨 申合セ候

一美濃職人町松屋伊兵衛悴虎蔵四国八日立百日計

一中山伝内石名左助見せ物行

八日 晴

一香山多蔵三舟孫八見せもの出役

一河原町五願かち場土橋之儀川向畑小間物仕付時分指懸候へハさく 子供引渡ニ而も甚難儀致し候間例年之通当春取上迄指置くれ候様願

聞届市郷奉行へ達し郡代所御勘定所五も通用之上申渡ス

一不動院願真島郡一色村経納山妙法寺本山方修験寺妻帯ニ而も当住弟

「」友士と申もの十六才今般修験道入學之望来ル未之歳迄滞留引 合聞届

一今朝本多左門殿長屋中間部屋五出火候処町方ニても御城内之儀何 となく入込候儀あやふみ候て火消とも之儀いかゞ可致哉大年寄伺

候ニ付早速為入込可申旨及差図候追々組之者共かけ付例之通纏差

向出馬致候処御城代大熊勘触由殿御年寄小須賀一学殿御用番伊達
与兵衛殿大目付海老原極人も被出町火消在火消も追々相集り御作
事ハ最初ハ參中沢曾右衛門宅之初ハ段々取崩西ハ門之く、里際迄
焼留り本宅類焼無之外無難に鎮り申候郡代山岡与左衛門不快ニ付
出馬無之拙者諸事引受取計小須賀殿横ニ而町火消為引取候且又上
総殿ニハ登城有之由相聞^レ候御城内之變儀故前後例格ニ不相成候
町ニ而も金打候得共存分ニも鳴し不申由寺々之鐘もいか、致候哉
不相聞候様^レ引取夫々相届候尤御屋敷へ御機嫌伺ニ罷出候

一「伊平次大坂過書町松屋甚兵衛方へ罷越十日立廿日之逗留

九日 晴

一昨日之御用場御延引今日御出席

一藤森権六福田甚蔵見せ物出役

一林田土手西新町高松屋平兵衛裏之壁ヲ切盜賊這入候様子ニ相聞^レ
候紛失ものハ決而無之由申出候仍之小屋之者加廻り式組計申付候

十日 雨

一雲州ハ御家老中ハ当方御家老大熊勘解由殿へ來書有之候へ共人馬
之員數之儀ハ役人ハ懸合可有之候間例之通無間違様に御願之趣申
來候由奉候得者人馬先触無之内ハ員數難決ニ付去歳之通五疋寄馬
郡代中江申合候様永井甚大夫ハ申來候仍之山岡与左衛門^レ引合候
而問屋江五疋之寄馬去歳世話致し在中懸り合之引合取計候へと申
渡^レ候其旨下代迄も被申付候様申越せ引合候

一西今町新屋勘右衛門願雲州能義郡安木村文七弟次兵衛儀三拾才此
度養子引請申度雲州年寄善右衛門ハ放手形來ル

一三町目浜野屋清吉断備前岡山瀬能屋征五郎妻常私姉ニ而此度罷越
十日余り逗留為仕度聞届

一西新町末屋ます川辺村長蔵式拾六才同人妻かね娘せう三才右三人
借屋^レ引請

一「町西屋治三郎播州森对馬守殿預り所下山村五左衛門悴新七三
拾式才同人妻紋二十七才悴龍吉拾才此度引請

一入牢金藏品平昨日詮議方ニ而糺明後金藏ハ品平ニ無実申掛候様
及白状候由

十一日 晴

一雲州ハ人馬先触到來四拾六疋人足百七拾人但津山明^レ四拾五疋
と付紙有之候永井甚大夫并郡代山岡与左衛門^レ及通用候且又雲州
馬計イ稼部両四郎と申者先夜致一宿問屋共参会之席今般御先触之
馬何程御入用候共御当宿式拾五疋之外ハ爰元御勝手ニ候て式駄分
之駄賃ニ而勝問田迄為通可申由夫ハ爰元ニ而直ニ相調候ハ、可
差出候也尤式駄分と申ハ老疋ニ付式百六拾八文之由左候得者此元
ニ而郷中へ被仰付候而も左様下直ニハ調申間敷哉と申候へ共何分
上^レ口へも相守其上ニ而有無久セ迄以書面可申遣旨及返答候由大年
寄共内々申出候ニ付粗ハ永井甚大夫江も内沙汰申置問屋共場合ニ
而相對之上指支間違無之様右員數之馬可差出旨申渡候いつれニも
出銀ハ郷中取立ニ相極メ置候

十二日 晴

一見せものへ中山伝内香山多蔵

十三日 晴

一今日山岡与左衛門被為召候兼而御役免願出候処御差留被成候同役清水多橋同様

一来ル十七日出羽守様院庄御休ニ付与左衛門可罷出之所不快ニ付断有之清水多橋郡代仮役ニ而役御使者相兼可相務旨被仰渡候ニ付例格之通用事申談候

一見せ物候藤森権六三舟孫八

一竜吐水此間之火事ニ而吸上之金具之櫻栢繩損候直シほう木屋相渡候代三匁申達し小勤者所ニ而受取大年寄へ遣ス

一福渡り町盲人之城甫去ル十二日於成道寺法会ニ被頼平家を語り候よし盼金蔵當時入牢被仰付候半盲人なから上を不憚不届尤永井甚大夫も噂有之候儀難捨置大年寄ニ為相叱候

一人別改御届之儀又候相延八九月迄ニ可差出之旨江戸表へ申来候由乍然例之通申渡置候得者帳面仕立ハ例之通致し可然旨甚大夫被申聞候

十四日 不正昨夜少雨

一いセ屋長右衛門盼文治大坂松屋甚兵衛方へ明十五日立三十日計滯留

十五日 晴

一元魚町あわ屋新十郎大坂撞木町玉屋九兵衛方へ明十五日立廿日計滯留昨日申出ル

一見せ物室井作右衛門神田権兵衛

一錢八拾三文

一蒨田屋治七郎豊屋文左衛門右大塚屋十次郎懸り合之儀ニ付大年寄

斎藤孫右衛門於宅目付藤森権六立相申渡(マ)

去歳濟口申付三貫目之元を払六百目之証文四月ニ三百匁十月ニ

三百匁可払ニ極候処去歳不及其儀段治七郎不埒併証文ハ豊屋文左衛門へ囁ニ而押而為認候而か様ニ致置候へハ十次郎申分ハ無

之候万一何角申候ハ、文左衛門相濟之旨次七郎挨拶之書付致し候之上ハ次七郎方ニハ六百目証文之通り証文と心得取置候趣ニ

申張り候十次郎ハ右証文ヲ以断出候何ニモ文左衛門兼而之請合ニ候得者十次郎ニ応対之上急度筋立可申旨ニ申渡させ候

右之懸り合ハ去歳已来之儀書記有之候間文略致し候

十六日 不正

一長法寺へ石名左助中山伝内

見せ物
諸通行も

一出羽守様御通行ニ付明日長法寺見せ物無之寺社方郡代所「勸進元」も申渡候

一一学殿江戸表江帰旅

一東新町米屋道休所持家屋敷南側表口四間半裏行拾七間三步八厘四毛役東隣五木屋源助西隣中元屋文吉町内五木屋源助口次ニ而卯十

一月銀老貫匁質ニ置候処此度請戻し

一表口式間半裏行十七間式步老リン三毛役東隣ハ五木屋源助西隣

ハ自分宅六百式拾五匁ニ町内五木屋源助へ売渡

一西今町紺屋太郎兵衛下横町南角ニ而所持之家屋敷表口四間裏行町並七間半式步五リン右家屋敷之内表口式間裏行七間半式步五リン

五毛役北隣小畑屋長兵衛南隣ハ自分持代銀札百五拾目小畑屋長兵

衛売渡

十七日 昨夕の雨後晴

諸通行

一 出羽守様今度御參勤昨夕久世村御泊ニ而今日九ツ半時御城下御通被成町奉行拙者出没直屋市郎左衛門所立宿ニ申付妙法寺角例之場所ニ而御目見申上金式百疋被下之大番所前ハ去歳之通御家老中其外出場無之ニ付註進入不申候得共不時之備ニ同両人召連候老人ハ若輩老人ハ臨時尤註進二宮江と鑓持老人草履取手人騎馬合羽籠挾箱持同心組出人帳記ス

一 馬駅問屋場江中山市左衛門室井作右衛門銀四匁。御先払三舟孫八香山多藏式百文ツ、小頭代り

一 部屋目付藤森権六式百文。院庄川惣船へ鳥目老貫文。御蔵元彦兵衛舟年寄善左衛門へ鳥目六百文。船廻下裁許人へ百文。金田川惣船へ老貫文。御蔵元伝兵衛舟年寄次郎右衛門鳥目六百文。船廻下裁許人へ鳥目百文

一 御使者宿齋藤孫右衛門御使者樋口儀左衛門御取次西江源左衛門
一 町医師例之通在宿申付候

一 院庄御休江郡代として御勘定奉行清水多橋罷出候使兼

十八日 晴

一 長法寺江藤森権六福田甚藏

一 西今町新屋勘右衛門方へ雲州能義郡安木村文七弟次兵衛三拾歳此度養子ニ引請願聞届

一 明十九日九半時二宮御遠乗二階御門(マ)合前本町通

十九日 晴

一 長法寺江中山市左衛門神田権兵衛

廿日 晴

一 長法寺江室井作右衛門石名左助

一 齋宮殿合使去歳限りニ申付候祈禱者吉田左右下方願出候ハ、聞届くれ候様申来り拙者使に对面去歳之日記を以一通りニ而難申付主意相当之御返答申遣ス

一 中之町正木屋伊右衛門切手播州網干塩屋仁兵衛弟助三郎式人例年之通荒物塩もの昨日入

一 西今町横町紺屋太郎兵衛家本証文出

家置本証文尙月三日出候

一 東新町はし本屋甚左衛門後家所持之家屋舖南側表口拾三間裏行十七間老軒七步五リン役東隣黒田良朴西隣ハ水口屋茂兵衛右屋敷之内西方表口五間半裏行十七間七步五厘土蔵式ヶ所三町目若本屋勘兵衛方へ質物ニ書入銀札三貫目借用当十月切

廿一日 晴

一 品平儀詮義方平井郷左衛門合請取書付取遣り役所ニ而追払申渡ス旧冬盗人金蔵ニ悪事之致約諾吟味掛り合ニ付詮議方へ渡シ入牢糺明候所其方へ遺恨有之無実申かけ候旨金蔵及白状悪名を逃候乍去無宿兼而祖母母親江不致隨身召捕られ婦及母親右町内江不時之難儀ヲ掛牢中之食日々親に運はせ辛勞ヲ掛ケ重々不届ニ候急度可申付事ニ候へ共重名をまぬかれ候儀且祖母并母親に免し今日出牢しかしなから日頃不行作無宿之儀其分ニ難差置御領内追払申付候以後立帰於有徘徊急度曲事可申付候
右立言石名平太兵衛目付中山市右衛門追払出番室井作右衛門神田権兵衛境目証文取帰

おけ屋町親共差扣申渡す品平ふとん明日牢屋ニ而請取可申旨年寄
江申渡ス其上ニ而親江遣ス

一長法寺江中山伝内香山多藏。平井郷左衛門の手錠返却有之受取
一齋宮殿の申来候吉田左右事永井甚大夫江申達置

廿二日 晴

一長方寺江藤森権六三舟孫八引弘見届甚大夫江相届遣ス

一中之町小屋屋与三右衛門切手播州網干河本屋常七例年之通荒物鑑
おろし昨日入

同州余陸屋武兵衛例年之通八百屋もの鏝ふし同州平松屋惣九郎同
手代太郎右衛門式人例年之通小間物并さらし蠟昨日入

廿三日 不正

一長法寺開帳濟右小屋を借加日五日之願勸進元の申出尤郡代所寺社
方引合之上及御沙汰候今日不快ニ付郷左衛門を頼不參御届申達ス
然ル処長法寺開帳日数之内押並日和十日ニ候得者加日も籠り候尤
外格別之申立も無之儀ニ付願御聞届不被成候ニ不其旨申渡ス

一里よ儀當年之人別改ニ付此者孰之町何方之借屋者共不決役介ニハ
得相加へ不申候ニ付指図致くれ候様ニ伺出候ニ付兩人名前ニ別紙
ニ認のた屋掛り合ニ付御預と片書ニ認里よと書付出し候様申渡す
一去ル十五日御蔵元共申出候者薪川下立石才兵衛切手ニ御郡代所御

裏判ニ而塚角孫右衛門舟下切手致くれ候様ニ申来候へ共薪御本切
手川下之儀例も無之儀如何可仕哉之旨伺出候ニ付承置郡代中へ承
り合候処向之方ニ而ハ薪川下之儀ハ相濟押切扣も有之由ニ粗承之
候然ル処件之趣ヲ御蔵元の小桁御番所へ書面を以申遣何荷物舟積

之儀銘々共印形無之而者通船不被仰付候様有御座度旨申越仍之紋
吾兵衛不承知ニ而裏判之郡代所御番所役筋江対し緩急之至リ其段
番処不申已前町奉行所江届候仕方不届と立服之上段々兩人口訖之
上御勘定奉行清水多橋江申出候由乍然此上も相誤候得者了簡も致
し可遣之由申之旨今日多橋の被申聞役所存寄も有之候得共一応ハ
詫言ニても致し可然候て勝手次第可致旨申聞候下切手と申儀ハ一
体船登下りノリ之事之由此段利段之儀返而評儀も可有儀と心得置
候

一夜前廻り同心の三室屋方の薪かけ木押測藤七船八出平左衛門船兩人
江両度ニ壳船積為致候由手代の申之候段達候ニ付宇左衛門へ大年
寄孫右衛門宅ニ而尋候所無相違併薪御留もの之儀旨而不奉存候旨
申之候由

一小山屋与三右衛門切手播州網干のた屋平蔵例年之通小間物晒蠟壳
昨日入

廿四日 晴

一小桁御番所薪之趣ニ付蔵元共麓略を相侘候由紋吾承知之旨相濟
永井甚大夫の手紙吉田左右事ニ付左之通申来候旨
近年吉田左右と申者当所江罷越齋宮殿病氣ニ付祈禱同人へ被相
与三兵衛殿手紙

類候由左右逗留之儀下方の申出候ハ承置候様御取計可被成下
候

右ニ付先刻罷越兼而之意味合委細申達候之処何分三四年も入込候
儀殊齋宮殿病氣祈禱被相頼事無抛趣候間思慮之上去歳之日数ほと
ハ聞届濟候様取計有度由申来候

一 盗人久米右衛門先頃ハ牢内ニ而相煩吉武弁壽療治相掛候処昨晩病死致候由牢番ハ孫右衛門所ニ通用致候由郷左衛門ニ引合候処弁壽ハ医按病体修割書付出し候様与申渡尤見分之趣弁壽立合ハ不入候由承置

一品平母差扣今日免し申付候

廿五日 晴

一 吹屋町作人忠介願中村之勘介姉ふゆ四十七歳此度妻ニ貫聞届

一身職人町元永屋徳三郎悴音次連西国明廿六日立百十日計滞留

一 東新町かち屋六右衛門願中尾清次役介幸助夫婦此度自分借屋へ引請申度清次ハも同様届出る

一 安岡町かち屋次郎左衛門北側ニ而自分家屋敷表口四間裏行九間ハ軒役東隣かち屋長兵衛西は御別札拵覆境ニ候右家やしき之内東方ニ而表口老間裏行九間式歩五厘役代銀百式拾匁かち屋長兵衛ニ売

一 おけ屋町作人喜八後家桶屋町横町南側自分家屋舗表口老間半裏行七間半式歩五厘役東隣作人長八西隣おけ屋与「九拾目ニ作人長ハニ売渡し

一 坪井町年寄中津屋伴右衛門足痛ニ而歩行難儀御用向為名代悴常助を為勤度聞届

一 先達而里よ懸り合野田屋伊兵衛ハ書付里よ取驗相統難成趣ニ付追々書付等出し其後朋友共を以親孫三郎ニ申談里よニ了簡致くれ候様申候而も不致納得養父方へ引入候儀も無承知里よニも毎々手を

尽し申聞候得共承知不仕孫三郎存寄ニハ弥不相叶今度私儀離縁仕候様相成右離縁ニ逢候儀ハ里よ一条ニ付候而之事ニ候得者甚私歎

ケ敷奉存是非儀ニ御座候右ニ付実家ニ帰候而も渡世之手段も無之此上ハ関東筋ニも罷越身上相様申度は又旧年ハ上奉懸御苦勞候得者此段も恐入御願等も難申出誠差詰りハ方を天身命唯立様存候旨歎書差出候ニ付去歳以来入組候儀ニ付甚大夫迄及噂申候

一 長法寺勸進元新魚町山手屋次兵衛大坂役者と掛り合出来先銀過分遣し候ニ付此度指引之上戻り銀老貫七百匁計も有之候処元ハ可

返と役者共申也半荷物可被押へ存候哉替候を見付肥地屋兵藏方封し預候然るに役共ハ大坂ニ而荷物押ましきと申証文有之候間荷

物相渡候様申付呉候様大年寄宛訴訟申出候得共直訴ニ付不取上候乍去賄を勸進元ハ留候ニ付役所ハ賄之儀ハ勸進元ニ申付候様申渡

候尤勸進元ハ役者共懸り合出来ニ付逗留為仕度旨届書出候ニ付早速永井甚大夫ニ申達ス

廿六日 晴

一 小桁と御藏元一条詫言致し相済旨清水多橋ハ手紙

一 中之町小山屋与三右衛門切手播州網干丸瓦屋六三郎例年之通荒物塩もの昨日入

廿七日 晴

一 今日里よ呼出し伊右衛門ハ出候書付読聞せ段々存寄申聞一通りニ而差帰候申渡之大意一卷ニ有之候略之

一 此間之一条ニ付斎宮殿ニ御挨拶ニ罷越候尤未町方ハ願不出候段も申置候

一 役者共右之通ニ取計置候処今昼引払候旨届出候ニ付尚又申達ス一茂と市右衛門孫徳一郎を召連来ル廿九日往来四十日計伊勢參

一中之町甲屋和助船本屋権右衛門旅人宿屋株当午の卯歳迄借受

廿八日 晴

一伏見町田邑屋堺繪御堀五足代

一來月三日御用席二日ニ相成候四日御法事故

一関小十郎殿來ル五月十二日津山玉置忠兵衛宅泊勝間田八休先触原

田要人今村谷右衛門日高弥左衛門三人の宿々へ廻文申達ス

一西川屋善助切手尾州島崎神職吉田左右と申者上下式人永見齋宮殿方例年之通祈禱被頼要用之儀候間十五日計逗留致候旨宿之事相頼候ニ付頼書出聞届

一佐和屋願養子才助廿九歳出生英田郡倉敷佐伯屋惠兵衛粹候処先方相統無之ニ付指遣候

一西新町年寄共の火場階子先々の八挺出來然ルニ所ニより式間ニ而ハ難用立候間此度三間式挺相調申度左候得者持使打増候ニ付三間階子式挺式間階子四挺以上六挺相願候旨聞届ル

廿九日 晴

一三奉行の廻狀來月四日隆照院様十三回御忌ニ付於泰安寺御法事被仰付候且又同十六日真璋院様三十三回御忌ニ付而同所御茶湯被仰付候此段為相知候様被仰候

三月廿九日

右御触書之趣例之通認夫々相廻候真璋院様ハ町分へハ不相廻候

一甲屋和助切手播州網千余子浜村菊屋弥七例年之通小問物卸売昨日入同人切手同州新在家伊部屋清六例年之通塩もの并鯉卸売昨日入

一川島桃庵願妻娘粹三松四月一日出立參宮六十日計

一大年寄孫右衛門妻四月一日出立參宮五十日計

晦日 晴明方少雨

一おけ屋町喜八後家本証文出ス。安岡町鍛冶売券出ス

四月朔日 晴 二日 晴

一今日河辺江御遠乘四ツ半時被成御出京口の本町通り稻垣の通用

一里よ呼出し去月廿五日申聞候返答承り候一卷之内有之候

一配当城正の御布施頂戴仕度旨申出ル

一來ル六日初屋忠介備中屋甚七平井郷左衛門宅ニ而追払申渡可有之

一兩人妻子共ハ当役所ニ而呼出し追払跡ハ欠所ニ可取計旨甚七養母

ハ相残し母之道具ハ取分遣し候様可取計旨甚大夫被申聞候

一福茂屋茂助切手備州妹尾村木綿屋太兵衛手代岩次例年之通畳表元

結木綿売昨日入

三日 晴

一方村庄屋次右衛門儀此度後藤英程訴訟方今町湯田屋伝兵衛ヲ相

手元今町口重屋後家当町英程妻ニ相成是ニ頼候由右後家名面之田

地一方村ニ有之候を英程養子佐右衛門ニ名面付替貫度旨次右衛門

ニ申談候処湯田屋伝兵衛の其田地之儀ハ次右衛門ニ申込有之英程

主意ニ不參候ニ付出入に取結び候儀ニ付右田地之訳承度郡代所ニ

談し置今日対面

一齋藤孫右衛門実母先達而の逗留之処病中之上今日落命之届則申達ス

一御法事ニ付今屋の同心兩人今町へ相詰ル町並自身番申付ル物頭中

風廻りも有之候由

一か茂屋和六切手奈良今町墨屋伊兵衛手代源助例年之通墨売昨日入

四日 晴七過より雨

一作右衛門権兵衛詰御修行済引取

一今日玉林平七と申者郡代所立談し今日之指紙ニ付対面此儀元魚町
かうじ屋伊助林田東新町茶屋五郎右衛門へ掛り綿商之事此平七も
茶屋中間之由双方之書物ニ有之候ニ付郡代所立吟味中懸合も可致
候得共可相成ハ役所切ニ致度今日彼レ主意承り候

一今日御領分他他領座頭警女共立御布施被下候ニ付配当場^{部屋目付}藤森
権六小頭代りニ而罷出部屋目付中山市左衛門罷出候

。在名老入拾式匁。晴衆分式人拾式匁五分。衆分百八人五百四
拾目。打懸拾五人三拾七匁五分。初心四十人五拾目。寿名式
拾四人三拾六匁。小替女老入老匁式分五厘。配当場役料書役
筆墨紙三拾目ノ七百拾九匁式分五厘也

五日 雨

一安岡町福島屋富次雲州大社參明六日立十五日往来同断久米屋勘八

六日 晴

一備中屋甚七詮議方平井郷左衛門宅ニ而追払申渡有之通用於此方而
も備中屋甚七妻ぬい娘^{三十八}くり^{二十九}初屋忠助妻里^{二十七}わ^{十三}悴馬吉右四人之もの共
追払跡欠所申付候部屋目付藤森権六ニ三舟^一「差添初屋方へ改ニ
遣ス部屋目付中山市左衛門ニ香山多藏差添備中や方へ遣ス右厄介
共追払ニ出番中山伝内福田甚藏古城御境目例之通書付取帰夫々相
届候。備中屋儀ハ伏見町有元宗の後家之引請ニ而候得共右後家之

家ニ罷有名代ハ後家ニて候間尤甚七養母と出候間是ハ其儘差置候

訊ハ詮議方ニ有之候

一元魚町糶屋伊助訴訟方ニ而相手方ハ東新町茶屋六郎右衛門へ掛り
去十一月岡山中関町伏見屋又次郎と申者へ茶屋六郎右衛門預置候
百三拾本を勝間田町紙屋左助と申者口入ニ而伊助ニ売相銀三貫目^{実額}

余六郎右衛門立渡し玉井平七と申者ハ先達而六郎右衛門と右之
実綿中間ニ候而其砌伊助へ渡り合扱元魚町笹屋友次与今申者ハ伊
介名代ニ而平七と同道ニ而岡山右綿問屋立参り候処折節六郎右衛
門も参り合由売買互ニかけ合候由然ル所伊助ハ限月ニ至り六郎右

衛門へわたうけ取申度申遣候処岡山伏見屋又次郎欠落致候由綿之

員數^一「候由申来候旨六郎右衛門返答ニ付左様ニ候得者右相銀返
脚可有之旨伊介ハ申かけ候処最早売買相済候由六郎右衛門申之無
拠伊助ハ訴状差出候ニ付双方下吟味大年寄之場ニ而難相済今日伊
助初六郎右衛門其外紙屋左助笹屋友次郎以上呼出し段々存寄申聞

せ双方共同様之儀笹屋友次郎ハ伊助代りニ参候而調候様不見届候
仕方不埒六郎右衛門并玉井平七ハ友次郎に為改不申不直有之候以
来右程之不埒成儀不致候様申渡し呵切ニて差帰し委細一袋ニ入置

文略ス石名平太兵衛^{部屋目付}藤森権六相詰

七日 晴

一安岡町明石屋源六去ル十一月身上仕廻銀札壹貫七百目銀札場借有
一件一袋ニ入写候
之候処同十二月諸道具等売払壹貫貳百匁ハ相納残ハ家屋敷ヲ払相
納^一「当正月切ニ断外銀主義借も候由町内兩人^一」も式貫三百匁
直入致候得共故有之望相止候船頭町紙屋太兵衛と申者式貫百目ニ

直入致候処源六組合ひし屋太助〇川屋太郎市難波屋平蔵不致承知外ニ而も右直段ニ貫候者も無之甚及難儀尤紙屋太兵衛ニ限り申ニ而ハ無之候得共銀札場延引并銀主義拜借且当日之渡世難波致候ニ付願差出候。組合共返答ニハ右太兵衛と申もの人柄も不宜哉元来元魚町出生ニ有之候得共町内ニ而家貫申度存候ヘ共相濟不申候其上借屋等も無之故船頭町ヘ參居候由存風聞兎角取沙汰悪敷仁などニハ家売候儀決而可止と申たる事無謂て候右を留候趣殊更一統ニ付売買之故障ニも相成候儀故今日源六も呼出し組合三人之者とも一々存寄を以相阿婦し候勿論紙屋儀風聞悪敷と計申候てハ難濟候間秀細申上候様申渡候尤石名平太兵衛中山市左衛門蔵合孫左衛門〇罷出候同月九日組合共ハ相歸し年寄共双方ハ相置右英程公事人殊に町医ニも差別有之勘弁之作配致し候処違背過言申之候ニ付吟味延引致候段組合共ハ可申間旨得与申含メ差歸し候扱英程儀平太兵衛并孫左衛門ハ段々役所之主意計ヒを申聞せいつれニも「」事有之候ハ、退キ候而拙者か孫左衛門ヘ成とも可申間候処扱も不敬之段役所ヘ対し不埒之由申候処何分御役所之被仰ニ候ヘハ心外ながら白砂〇廻り可申由言語同断之趣も相聞申候所詮時刻移しニ而者難相濟直ニ永井甚大夫罷越委細申達し今期六右衛門を以独例白砂之差別門江も及内談永井甚大夫ハ參相極メ候其分ニも難差置旨申述候処何分其程ニ而者阿り追込禁足と申儀ニも不被存候手錠ニ而ハ如何被存候哉と被申聞全相當之儀と相決指急石名平太兵衛〇も通用之上申渡し書面認候。其方儀此度西今町湯田屋伝兵衛相手取妻相頼候由ニ而訴状を以申出候儀ニ付今日改方呼出し可遂吟味其方座並場席之儀思慮勘弁之上

八日 晴

一 近来所々盗人入候由申候ニ付非人廻り申付御家中屋敷〇も為廻候ニ付其段申達候町方自分廻り之儀も申付候

一 明九日四ツ時川部〇へ御遠乗被為入京橋御門夫〇本町通稲垣〇申来九日 晴

一去ル三日之日記ニ有之候新職人町後藤英程〇今町湯田屋伝兵衛〇掛り出入之儀今日呼出し双方相揃扱英程儀ハ医術之者ニ候ヘハ一応玄関ニ扣ヘ為置対面之上右掛り合之儀も及挨拶且町医之中ニも御目見医も有之候追付吟味「」者白砂〇被廻候様申述候処甚違却之様子私共義も白砂〇御廻し被成候哉此段前例有之儀ニ候やと申候ニ付前例有之逆其有無可申哉役所之計違配等不敬之至今朝ハ市郷奉行中へも申達し取計候儀ニ候処何分今日之吟味相止候段申之即時双方組合共ハ相歸し年寄共双方ハ相置右英程公事人殊に町医ニも差別有之勘弁之作配致し候処違背過言申之候ニ付吟味延引致候段組合共ハ可申間旨得与申含メ差歸し候扱英程儀平太兵衛并孫左衛門ハ段々役所之主意計ヒを申聞せいつれニも「」事有之候ハ、退キ候而拙者か孫左衛門ヘ成とも可申間候処扱も不敬之段役所ヘ対し不埒之由申候処何分御役所之被仰ニ候ヘハ心外ながら白砂〇廻り可申由言語同断之趣も相聞申候所詮時刻移しニ而者難相濟直ニ永井甚大夫罷越委細申達し今期六右衛門を以独例白砂之差別門江も及内談永井甚大夫ハ參相極メ候其分ニも難差置旨申述候処何分其程ニ而者阿り追込禁足と申儀ニも不被存候手錠ニ而ハ如何被存候哉と被申聞全相當之儀と相決指急石名平太兵衛〇も通用之上申渡し書面認候。其方儀此度西今町湯田屋伝兵衛相手取妻相頼候由ニ而訴状を以申出候儀ニ付今日改方呼出し可遂吟味其方座並場席之儀思慮勘弁之上

演達および候之処此儀先例も有之哉と役所申聞候を不口不敬法外申之候儀不届之至候依之手錠申付候相慎可罷有候此趣蔵合孫左衛門宅ニおいて藤森権六立合出番中山伝内三舟孫八兩人取計濟英程宅へ召連扱組合五預夫々取計候趣甚大夫五届遣ス

一 田邑村六右衛門妹さた中之町元屋甚助助藤十郎妻

十日 晴

一 西川屋善助切手江州神崎郡新豊村島屋新平例年之通きせる売昨日入

十一日 晴 十二日 晴

一 安岡町明石屋組合三人去ル七日之書面ニ付呵之上何角以来候儀心得申渡候大年寄孫左衛門宅藤森権六立合一件之袋ニ入

十三日 晴

一 来ル十月万人講之事十五日之日取ニ御聞届添突之儀申出候得共不相濟

一 上之町悪水拔近來殊之外埋り例年此節ニ至り大雨之砌越水町筋へ流レ落所々内屋五入込致難儀仍之右之場所所在分六溝浚致候様願書

今日郡代所へかけ合

此分ハ八札抽出し候ニ付員数之内を以相渡し候様ニ御申出候

一 川口屋与市六願去日四月町内初屋忠助頼ニ而去方ニ而銀札百匁取

次家屋敷質物之書入同十月切致約束候右忠助難渋ニ付相延居申候
「忠助追払被仰付候ニ付右取引相滞銀主方へ返済難仕当惑致候

旨申出

此儀ハ十七年已前之事故無取上し取替候儀無相違ニ付一通り書付ハ見置候

一 三室屋宇左衛門六も忠助裏長屋式拾匁書入質取置福田屋吉右衛門

ニかし置申候其後初屋忠助へ売渡し申候忠助ハ右吉右衛門甥故裏

長屋に置候其後不相濟吉右衛門相果忠助引請ニ相成居申候忠助追払故申出候

一 「殺害せられ候古城村長九郎諸道具一端触出し候得共今日又々相触可申旨触出し候尤長九郎と名ハ触不申候

一 大塚屋掛り合蒔田屋次七郎豊屋文左衛門今日呼出し右六百匁筋計今以等閑之致方を呵り次七郎六六百匁之証文表之通相払文左衛門六も返り手形致置候得者六百匁書面之通可濟右員数双方調達難致候ハ三百匁ツ六出し可申旨急度申渡候上ニ而孫右衛門存寄ニ而

林田町兼帯橋本町年寄山本屋与三七門屋又七兩人へ申合中之町年寄ニ相懸ケ合候様ニ申合メ候由石名平太兵衛中山市左衛門立合

一 二階町組屋勘十郎綿実油商売致度玉置ニ而も前六仕候得共当所ニ

而出来候綿実忠兵衛方ニ而潰申候外川下も余分御座候夫ヲ買取車

一 羽立着実弘庭候ハ宮尾猶村六積下候を買寄潰候様仕度御連上之儀ハ御定是迄外方六川積仕候通ニ上納可仕町方川積是迄之通何之故障も無之候旨願書

出願之内宮尾村猶村六積下候

を買寄セ潰候様仕度と申候儀

先年寅ノ八月公儀御触紋り

油之儀有之候且又玉置方より

外ニテハ綿実油御停止ニ有之旨

被仰聞候儀も有之旁以御取上

不被成此段大年寄へ申渡候

(張り紙)

十四日 晴

(二十一(ハママ) 式十四才 二才)

一西新町次恵屋ますへ川部村長蔵同人妻金同娘せう此度借屋へ引請
一入牢うたのや理八病氣ニ付福田嘉三今申聞候間高畑友賢遣候

十五日 晴 十六日 晴 十七日 雨

一此間追払備中屋甚七欠所之品入札申付候所ふし屋甚助ひの屋久兵衛
衛神代屋和七右三人落札三匁八分見届中山市左衛門初屋忠助欠所
物入札申付候処はりま屋七左衛門天川屋助十郎右兩人落札五匁五分
五厘見届藤森権六

一尾州島崎神職吉田左右昨日罷帰候よし申出候

十八日 晴

一追払備中屋娘くり儀兼而福渡町沢田屋伊助へ娘分ニ遣シ候約束先
達而甚七噂申候組合之者私共迄能存居申候処其段も不申私共不念
今般右沢田屋の願書差出し候儀少も相違無御座候何とそ伊助願之
通申付呉候様伏見町年寄組合口上書差出シ。福渡町沢田屋伊助の
書面甚七妻子共追払被仰付然娘くり口達而私手前へ貰うけ居申
候所其節甚七御咎メ被仰付候故是迄願も不差出候何とそ御慈悲之
上引取申度旨申出る仍之此間内及御沙汰候処今日御聞届ニ付其段
大年寄共へ申渡尤伏見町年寄ハ先達而其儀不申出不念之段呵置候
一大坂久太郎町丸屋藤兵衛手代清兵衛例年之通大工道具えひ屋長右
衛門切手同京都烏丸通二文字屋九兵衛手代金七新兵衛甚六善八吉
三ノ五人例年之通呉ふく物昨日入
一竹子之触且又一宮市町例之通触書差出ス
去ル十二日書記之家也
一安岡町明石屋源六家屋敷南側ニ而表口三間半裏行拾三間半七歩五

厘役東隣には屋平蔵西隣明石屋源六所持家也右之家屋敷式貫目
相極此度中之町大坂屋茂兵衛へ売渡同月廿四日本証文出る

一魚町野田屋伊兵衛里よ一件ニ付呼出存寄を申渡し候立合中山市左
衛門蔵合孫左衛門一件ニ有之故書略ス

一堺町ふし屋孫市借屋七兵衛午六十八歳独身之上近来病身ニ成歩行
不相叶及渴命候ニ付是迄ハ組合之者家主ハ不及申心安キもの共少
々宛喰もの等差統候得共一向関縁之者も無之趣ニ相聞へ何卒勘弁
被下候様相歎候ニ付及御沙汰候所今日御聞届御救助被下候則御勘
定所へ引合申候尤下方江申渡させ候右者組合願書也

一元魚町靴屋伊助大坂かち木町玉木屋九三方へ明十九日立往来廿五
日計之逗留

一西新町米屋彦太郎家屋敷中之町の見付之場所及大破候所彼困窮ニ
而普請難成依之式間計之処併ニ致度旨願出候併右場所ハ南側之角
家候西新町の見付之仕立同様之事ニ候間容易ニ聞届かたく去ル九
日目付藤森権六ニ大年寄孫左衛門相添見分ニ遣候処北角ニ罷在候
山伏室寿院併之並ニ致候得者乍当分見通し見苦敷事も無之由尤覆
之儀者杉皮ニ而申付年寄共も其々事を添遣候様申含メ罷帰候

十九日 晴

一中之町鼈甲屋浅右衛門儀元来林田上之町勘七粉之由近来風聞有之
其勘七儀ハ儀者十一年以前申之年土手之市郎右衛門と申合高倉村
百姓之娘欠落勘七方へ居候を隠し行衛を尋可遣と偽り銀札をゆす
り取候儀相頭兩人共ニ追払申付候儀ニ付今日大年寄孫右衛門方ニ
而藤森権六立合及吟味候処元私祖父之甥河原町喜代助ニ被貰居申

候由ニ覺勤七追払之砌斷難相立由ニ而無是非一所ニ追払ニ相成候
八十四才之時直に大坂へ罷越居候を度々喜代助望罷帰候様ニ申越
候ニ付廿才之頃河原町へ罷帰作人善助借屋ヲ喜代助借呉讀人ハ橋本町
八橋本町
九七郎其冬橋本町さとや伊右衛門借屋へ移り喜代助と借屋
讀人に立申候夫の

安永元三月中之町新屋甚兵衛家屋敷買候而引越申候今更御町法被
仰聞申分なき仕合ニ候旨恐入御慈悲を願候由相答候

一三浦志摩守殿大坂御加番被仰付候ニ付此節在所立寄御暇被相願願
之通被仰出候者来月九日江戸表発足之旨宿々人馬触且泊付者宿々

本陣宛ニ而先月廿五日出家老九津見吉太夫宿觸先觸今日一所ニ
到来当月廿四日佐用同廿五日津山泊ニ相成候本陣玉置忠兵衛ニ而

今晚申出請印可仕哉伺出候ニ付甚大夫ニ申達候所宿可致儀と有之
候ニ付則刻申渡候尚又孫右衛門ニも止宿之先格を以諸事取計候様
申渡ス

一町医五島英程今日手錠咎メ差免蔵合孫左衛門宅ニ而部屋目付藤森
権六立合出番石名佐助三舟孫八尤孫左衛門へ申渡之心得書面遣湯
田屋伝兵衛掛り合吟味之儀不日ニ差図に可及旨申渡させ候相届ル

廿日 晴

一英程儀年寄召連差免之為礼相見へ候

一去ル十三日上ノ町惡水拔溝浚之儀郡代所下方へ申渡し右之場所
下代共下見分之上ニ而上之町庄屋共其町々へ及通用町分人足
を差出し可申事ニ付尤奉公人屋敷へハ庄屋及案内候也

廿一日 晴

一一宮市町ニ付輕業九人連吹屋ゆのかう屋七兵衛願及沙汰候

一三町目平野屋助左衛門願備中新見家中上田浪江と申者内縁付昨晚
罷越候八日計逗留為仕度旨聞届

廿二日 晴

一里よ儀今日蔵合孫左衛門於宅藤森権六立合魚町年寄桶屋町年寄立
合せ大坂屋治十郎樫野屋茂一郎右女召連出候而申渡野田屋一件去
歳之まきに入置候畢竟無宿もの故其儘ニ難差置御領内を立退
候様ニ申付立帰候ハ、急度可申付旨之取計ニ而目明十右衛門を添
境目迄遣し候同心ハ不遣候

廿三日 晴

一堺町ふし屋藤屋孫市借屋七兵衛孤独ふち内借証文ヲ以去ル十八日
之分相受取候

一去ル十九日之書記鼈甲屋一条ニ付林田村喜代助儀郡代所において
吟味有之書付相廻る甚大夫迄及噂置

一今四時御供揃ニ而川下辺ニ御川狩被為人右御道筋京橋御門川戸御
蔵下之御乗船被成候儀稲垣茂士之通用也

一市町ニ付参り懸り小人四人連見せ物安岡町井手屋茂市同輕業七人
連河原町山形屋新太郎各聞置

一尾上庄八姉養女ニ仕悴斧助へ娶申度奉願今日平井郷左衛門を以願
書差出御用番御うけ置被成候尤尾上方之も同義ニ付願書差出し候

。今日御迎船場大文字桃灯老張差□甚大夫

。御紋之挑灯ハ御船に付候哉又ハ外差別も候哉之旨存付之儀
申達置候

一今日三奉行中之廻状

「三浦志摩守殿関小十郎殿当町止宿ニ付其節旅宿前御家中下々迄往来有之間敷候尤兼而被仰出候通火之元堅可被申付候旨即
日石名平太兵衛へ為知同心組并三軒屋番ニも相触候

一宮市町今日夕初り三舟孫八香山多藏罷出候

廿四日 晴

一山岡与左衛門昨日司馬五郎様御川狩被為入候処郷中江御出触間違候付差扣相申度昨夕ノ拙者江申聞候得共下方之様子御間にも合候哉承候上可申出之旨永井甚大夫存寄之事ニ付見合候処下方ニ而も御出先御間も合セ候趣申出候併不調法之段恐入候ニ付伺呉候様申来り今朝甚大夫江其段申達候処追付伺に不及旨御用番中ノ申来候旨手紙申来則時山岡江通用致候

一勝山家中河野宇右衛門と申者ノ久世ノ西宮宮迄之間屋へ廻状志摩守殿当月九日江戸可被致発足筈之処故障之儀有之当十三日発足之旨申来ル問屋ノ申出候段孫左衛門申出則甚大夫江申達し候尚又夫々為相知候仍之来ル廿九日止宿ニ相延候

一宮藤森権六福田甚蔵

廿五日 晴

一宮中山市左衛門神田権兵衛

廿六日 晴

一宮石名佐助室井作右衛門

一御奏者黒田彦四郎ノ廻文 江戸表ノ飛脚到来殿様益御機嫌克被成御座去ル十五日為上使渡部喜右衛門殿御越御暇被仰出縮緬十巻御拝領従大納言様小出主税殿を以同五巻御拝領被成候旨申来恐悦

之御事ニ候依之為御悦御帳付候間明後廿八日辰中刻ノ巳中刻迄之内登城可有之候

右ニ付例之通夫々触出し候

廿七日 晴

一去ル十三日書記友賢療治二廻り申出候得共又候療治申付候

一宮中山伝内香山多蔵

一与兵衛殿ノ奉書到来明廿八日被為召候御請書遣シ候上御請ニ罷越夫ノ甚大夫江即挨拶罷越候

廿八日 晴

一御悦之御帳付廻勤

一今日於御用所同道御政事奉行永井甚大夫大目付赤見類助立会ニ而御用番与兵衛殿其方尾上庄八姉ヲを貫兼梓兼斧助ヲと娶申度旨願之通被仰付候旨被仰渡候御礼廻勤致候尾上庄八儀者今日御城江呼出しニ而願之通被仰出候

一安岡町岡屋佐助ノ願御領分二宮村百姓忠七甥ニ而「不勝手ニ付此度引請相成之渡世為仕度忠七式十四歳同人妻」式拾式歳町住宅之儀申出候ニ付郡代所江懸合申置及噂候処彼父儀者三年以前

二宮構ノ弘之者忠七儀ハ元松治与申候此もの儀ハ居所を退去候様ニ被仰付是迄居村慎申候内々以前之家に帰度之主意有之候得共其儀不相叶無拠町江入候事ニ相聞候町へ入候而ハ構ノ弘之親後々同居

も無覚束候一通り甚大夫江及内分候処郡代所引合無故障可致様ニ取計候へとの事故申談し以後構ノ弘之者ニ候間梓ト不致候得者其分○同居

之事尤町弘之者郷中ニ入候とハ違郷中「弘之者御城下へ住居候

儀者甚相成ましき旨甚大夫とも批判之上何分此度願ハ聞届遣し候

一此度隆照院様御法事ニ付當時入牢者先達而追払又ハ徘徊相濟候者

ハ帰住宅等之儀其届共之且那寺院方御願申上候ニ付役所ニ而御

免赦之当書ヲ考申上候様被仰付候ニ付一応主意ハ申上候得共何分

御用捨ハ御用所ニ而可被決付紙ニ而も致可然旨甚大夫被申聞尤候

住宅之分ハ役所ニも願差出させ可申旨ニ付其段大年寄ヘ申渡す

廿九日 晴

一志摩守殿今夕御止宿ニ付万一出火之儀有之候ハ、東火事ニハ本源

寺西火事ニハ大信寺退場ニ被仰付尤当役御見舞ニ龍越候様先例之

通

一志摩守殿御旅宿玉置忠兵衛宅ニ着後參上暮前ニ住取次馬場宇内ヘ

対面相心之挨拶申達ス可申聞よしニ而押付罷出可掛御目之処髪月

代刺致懸り候而不及其儀段々被入念御馳走被仰付忝仕合奉存候旨

及御会釈直に退出致「立宿蔵合孫左衛門也永井甚大夫届手紙遣

ス

馬脇同心老人馬省略ニ而口式人鑓狭箱合羽籠割場草履取手人箱挑灯

割場老人是ハ式人ニ候得共二三年以來御儉約ニ付省略也

一同心組式人

先払式人藤森權六挑灯二帳馬統場上之高人明朝出立中山市左衛門

一志摩守殿使者奈良条右衛門此方様田中次左衛門也

一使者宿齋藤孫右衛門出役御取次松島十学元魚町

一御先手定宿美濃屋省し候村上清太夫出立之節ハ笹木兵左衛門之由

一在宿町医箕作丈庵細寿碩山手屋弥太郎立宿

一宮中山市左衛門福田甚蔵

五月朔日 晴

一志摩守殿今朝六半比御出立御先払并大年寄共届則刻永井甚大夫

江申達ス(マ)

一志摩守殿今朝院庄渡川ニ付左之通被下候由

金百疋 御召船 同百疋 惣船ヘ 同百疋 御藤元伝兵衛 鳥目

式百文 舟廻老人 今年河辺ハ橋有之故役人不出候之由

一去月六日追払初屋忠助家人札今日開キ三百廿五匁落札中之町大さ、屋

一中之町籠甲屋吟味差詰候ニ付預申付候郡代所ニおいて掛り合喜代

助吟味有之候処不埒ニ決是又村預ニ被申付候由

一石屋伝次入用御用達共江中間として取替候様大年寄江申含メ候

一撰州今市綿屋嘉市郎盼宗重郎同手代忠七武兵衛例年之通呉服物昨

日入堺屋伊右衛門

一志摩守殿御止宿ニ付馬廿九疋人足式拾式人。人足三拾七人内式拾

三人払ニノ十四人増問屋共合書付出す

一宮室井作右衛門神田權兵衛

二日 晴昼後合雨

一宮中山伝内石名左助

一三丁目小くら屋茂兵衛大坂かしま屋今兵衛へ去月廿九日立三十日

逗留

一戸川町重屋源忠願東側ニ而表口九間裏行三間半空地共四坪四步五

厘役南隣玉屋伝兵衛北ハ三町目堺質物書入町内高尾屋岩介取次当

十一月切銀札百五十拾目借用

一 福渡町六兵衛願悴市郎右衛門去十一月大坂柞木町玉子屋九兵衛へ奉公ニ參候家屋敷元來私ニ譲り置候借銀も有之候ニ付売払くれ候様大坂へ申越候由則聞届ル

三日 雨

一 一宮三舟孫八香山多藏

一 大熊勘解由殿立帰今日出府

一 中之町のたじ屋徳三郎当正月十四日書記欠落ニ而日数立人別離申出御聞届済

當時ハ又兵衛と改候

一 今暮前山野一江相見へ鍛冶町かち屋新右衛門小荷駄ニ乘海老原嘉四郎と佐藤彦三郎屋敷之辺ニ而乗打致候ニ付難見遁シ其方かち之新右衛門ニてハ無之哉と申かけ候而も兎角之答も不致下り候体も無之ニ付推參千万其分ニ而不免と申候得者下り候而手を者突腹痛仕候故と申ニ付左候ハ、何故に最初ニ其儀ハ不断と咎メ渚に打殺し可申とも存候得共其段勘弁致し差詰り置候何分御届申候間可然計くれ候様」
「相応之及挨拶マツ則時大年寄齋藤孫右衛門へ申遣し組合預ニ申付置候而永井甚大夫へ右之次第相届何分明日ハ御日柄引続キ節句ニも候へハ思召も被得尚又主意をも付可申儀も可有御座候と申□返り申候

四日 不正

一 笋生出候ニ付柳之土手御戴昼夜之廻り去歳之通非人共可申付旨□取計候

一 明五日九ツ半時二宮ニ御遠乗京橋へ本町通へ被為入候稻垣へ通用

一 三室屋宇左衛門断岡山上之町赤穂屋和七妻願十五日計逗留

一 一宮市町今日切ニ而済同心藤森権六福田甚蔵例之通見計引取届ハ不申達候

一 牢屋療治高畑友賢明日ニ而三廻断承之福田嘉兵衛へ達ス

一 部屋目付藤森権六養子伊三太不縁之届同役中山市左衛門へ承届候

五日 晴 六日 晴

一 戸川町重屋源忠本証文出ル

一 中之町籠甲屋浅右衛門今日御領分追払申渡ス 追払出役 室井作右衛門 廿三歳 石名佐助

其方親勘七儀土手之市右衛門与申合せ悪事有之候ニ付兩人共妻子に至迄御領分追払申付以後其方儀河原町喜代助と申もの帰り候へと申ニ付四五年已前立帰り御城下ニ店借其上当時致住居候中之町ニ而家屋舖買求候始末追々令露頭候追払之身として無其恕喜代助助与申合上を掠あなし候儀不届之至ニ候今更相頭候上ハ其分ニ難差置候付相改以憐愍追払申付此上立帰り於致徊徘徊者 都屋目付 大年寄急度曲事可申付候以上立会石名平太兵衛藤森権六齋藤孫右衛門
一 右ニ付河原町ニ而請人檜物屋左助禁足申付橋元町罷在候者也
一 鍛冶町鍛冶屋又兵衛去ル三日書記之通一江届ニ付入牢申付候出番
福田甚蔵香山多蔵關所へ中山市左衛門神田権兵衛罷出候

其方義去ル三日御家中屋敷前小荷駄ニ乘罷通り候事法外之至其途において山野一江へ対シ乗打いたし断ニ可及変儀ニも鬱憤之処元來見知之者ニ付言葉詰も有之否恐入へきの処曾而無其儀刺不埒申之其分ニ通シかたく旨差詰り即時之届有之候兼而御条目

上猶又御家中へ対し無礼仕間敷之段毎事申渡候且亦町家ニ而馬仕廻之義先達而申渡置之一条忘却者致間敷其方共迎も相極場所之外馬乗之事停止申付置候然ル所余人をかたらい町並往来ニおいて馬乗致候趣も相聞候町人之分際右申渡不相守畢竟々々上を不重無慎処より右体之不敬諸士へ対シ慮外致候義言語同断不届之至ニ候依之入牢申付候

一右又兵衛家内ハ組合預に申付候両様濟御届申達ス

七日 晴夕雨甚

一 大坂金田町全屋半兵衛手代六兵衛老人例年之通大工道具売昨日

」

八日 雨

婦住宅願四通

一 戸川町野本屋藤左衛門ハ私七右衛門七ヶ年以前町内私被仰付候而當時下こん屋町へ住宅致候母義近来病身ニ付介抱為致度婦住宅之願。同町玉津屋勤左衛門ハ野本屋七右衛門対私不届之義有之七年以前町内私被仰付於私も存所相立難有奉存候然ル処七左衛門ハ段々挨拶仕候ニ付得心仕以後少も申分無御座候藤右衛門ハ願之通被仰付被下候様断申出候。東新町源蔵母ハ私世悴源蔵儀拾四年以前万人講場ニおいて存違之儀ニ付町私被仰付候仍之在中親類共方ニ役介罷成居申候然私殊之外老衰仕貧窮ニつまり居申候ニ付御慈悲を以源蔵義婦参介抱仕らせ度奉存候旨願。三町目若元屋勤兵衛ハ私世悴茂次郎不調法御座候付六年以前町私被仰付大田村ニ居住仕居申候其後町徘徊之儀被仰付候然ル処私共兩人年罷寄殊妻病身ニ罷成難儀仕候右ニ付婦住宅被仰付被下候様之願

但此四通之儀ハ此度隆照院様御法事ニ付寺院ハ願出候ニ付町方ハも夫々婦住願可申出ニ付大年寄共ハ移り申聞せ差出今日御聞届相濟申渡候

一 宮ニ参候名鳥安楽院ニおいて見せ物願候処御聞届不被成候

一 玉置忠兵衛御城通り札今日返納

一 関小十郎殿来ル十二日玉置方止宿之一条此間志摩守殿之趣を以取計可申旨申達候尤右ニ付惣町ニ触書大年寄申渡候

一 牢屋ニ而病人友賢代り中村籍ハを差出候

一 十ヶ年以前御領内追払之土手市郎右衛門徘徊寺院之願御聞届被成候由甚大夫被申聞候ニ付同心組大年寄ニも為知達候

一 籠甲屋浅右衛門追払鍛冶町新右衛門入牢申付候事右ニ付以後之町方心得之事文段ニ認め惣町へ相触候

一 九日 晴 十日 晴

一 中之町甲屋和助宿屋商買渡世致候処只今迄参り来り式人計ニ而何とも渡世無覚束難儀致候ニ付此度備中妹尾表屋甚四郎豊表并合葉卸売播州姫路白銀町大村屋平吉墨筆并せともの類販売兩人を客増願聞届遣ス

一 去ル朔日書記之通初屋入札家北側ニ而表口式間半裏行十七間三步

役也東隣ハ千とせ屋源六西隣ハ福茂屋武助右家屋敷入札を以私申

付居町大笹屋平兵衛落札三百式拾五匁并前銀拾六匁式分五厘ノ三

百四拾老匁式分五厘今日相納候ニ付受取内銀札百匁同町川口屋与

市ハ初屋ニ取替置候ニ付其旨断申出候間承り届相渡候而手形取置

候同中之町保頭源吾取替是ハ番賃分諸役之入用之趣ニ付聞届七匁

六分七厘相渡手形取置候

一中之町乃、字屋徳三郎人別除聞届之上残り道具家賃之価に仕度旨
家主わら屋兵藏申出候ニ付聞届遣候

一東新町刃屋惣兵衛願備前国道郡金岡村平蔵娘とわ二十才此度弟
金右衛門妻ニ貫引取申度放手形来ル

一東北条郡加茂小淵村源助と申者之倅徳次郎二十一歳与申者今日林田刃ニ而
酒に酔狂候而東大番所前御堀江飛込欠所櫓之北下水道と相見江

候戸前を押倒候と相聞江内江這入候由材木町年寄共申出引統中之
町三室屋のいつ方之者とも不知私方江参雜言杯申見合候者に喧嘩

ニても仕かけ候様子之处与風帯を解驅出し行衛知不申跡に島の財
布皮之きせる右同様有之候由届ケ出可申達被存候処へ甚大夫の

急談可致之趣候由申来早速参候処件之者紺指小泉孫兵衛倅捕居候
旨同心差向為請取二階町御門從此案内
可通候由断通り一応見届刑法方へ引渡

可申旨被申聞則刻平井へ参
渡請之儀かけ合候追付うけ取役所江引出又藤森権八
神田権兵衛吟味及

候処乱心候趣ニ決而無之酒狂故ニ而誠平氣ニ相成殊之外後悔忍入
たる体御安審としなから酒狂之儀ニ候得者先年蔵合太郎兵衛迎も

御堀江落其外堅義ハ每度之由自他之差別ハ無之儀与風存付即時甚
大夫江参話遂候所先宿預ケ可然ニ相成東新町薬屋与七方へ預申付

候与七他出ニ付
俵茂吉此者方牛も繁丰有之

十一日 不正

一去月十七日書記粉屋へ町内川口屋与市百匁之取次有之粉屋家やし
き落札高之内ニ而証文表之通相渡ス。居町保頭源吾へも取替え分
相渡ス

一京町かも屋和六切手例歳通松井屋源兵衛手代嘉七上下式人反魂丹
売昨日入

一昨日御堀へ這入夫の水口の内へ入込候小淵村徳二郎儀ニ付親源助
并甥藤助両人の宿薬屋与七俵茂吉へ段々之託書付を以何とそ御赦

免之儀歎呉候様ニ申ニ付茂吉も歎書并右親書面を以口混申之ニ
付則日甚大夫へ及披見候処承り届候様被申候書付式通りニ候

十二日 不正

一東新町備中屋九十郎儀鼈甲屋掛り不埒ニ付追込申付候

一小淵村徳二郎儀ニ付孫右衛門方へ町内年寄を寄歎聞届候由を申渡
させ引統同心三舟孫八
香山多藏差向手錠施し相帰候申達ス

一関小十郎殿今夕玉置方泊之処途中馬支等有之道割少々宛相後レ伏
見ニ至り先々休泊り相極置候通難成旨原田要人と申仁の宿々之本

陣問屋へ廻文来る勝間田泊津山休久世泊
一今日大盤若御執行例之通登城無滞相濟候

一小十郎殿今昼休之儀申達候処又々同人の泊休差替之義昨日伏見之
駅へ申進候処御承知可被成と存候然ル処今九日池田川武庫川出水

ニ付渡川難成昼後迄宿滞留見合今昼川口明被致渡川候仍之休泊最
初之之通一日後れ旅行ニ候其旨心得宜世話くれ候様申来る其旨申
達し夫々相触候

十三日 晴

一小十郎殿今七半過之比着之上暮前燈灯(マ)ニ而本源寺江参詣有之拙者
儀ハ七前比の孫左衛門宅に罷在候処ニ本陣広四郎を以忍之参詣ニ
候故兼而御案内も無之何分先弘等之義被及御断候由相通候ニ付同

心藤森権六福田甚蔵兩人共ニ相開候様通用申候得者則広四郎江申聞候故孫左衛門門前ニ而引広四郎計致案内候由しかしなから見物夥敷混乱無算束候故跡に為扣參帰宿之時ハ供方如何様申候共最早夜陰ニ及候ニ付是非御先仕候様以申付候旨差図無之而者引取かたきよし断候へと申含遣し候暫ニ而溪花院江も被御遊直に本陣江帰られ候最初ハ御徒目付下目付共ニ先相動候体無之帰ニハ双方共に先相動申候

一 帰宿追付本陣宅江參上村井勝馬と申取次対面相当之挨拶申述退出之上則時致帰宅甚大夫江御届申達候

一 蔵合孫左衛門儀ハ格別之由緒も候儀ニ付千鱈三枚ニ而表玄関方相廻候様目見被請候由二百疋頂戴致候由

一 「」先払兩人半夜ニ而更中山市右衛門神田権兵衛明日之先払を勤候

一 馬駅へ藤森権六三船孫八自分共ハ中山伝内罷出候室井作右衛門是ハ用意是又香山多蔵共ニ差添暮比ハ作左衛門江更ル本陣へ參候時ハ右伝内と多蔵召連候

一 御使者宿斎藤孫右衛門御取次栗田唯次向方御使者村井勝馬

一 此方様ノ千本繁治御使者相動候御返答別人之由

一 今夕四半比ニも候哉向方御使者有之候旨大年寄孫右衛門申出候何分いつ方も引取候上之儀急に取計間も申問敷と存栗田唯次へ直に為相知尤本陣詰之者へも其旨心得為置時刻相延し置候永井甚大夫江も俄に御使者參候ニ付直通用ニ及候旨手紙達し置候

十四日 晚白雨

一 今朝六半比小十郎殿出立無滞相済候此日時使者蜂屋光之進取次栗

田唯治罷出通行止宿ニ付所々役人被差出御馳走之旨御礼之趣且又火之番佐々木兵左衛門拙者右役致候ニ付昨日ニも目録可被下之処甚御取込最早引取之趣ニ付同人江御使者ノ挨拶之上式百疋ツ、相受取今日相廻り兵左衛門江も拙者ノ相廻ス

十五日 晴

一 京町菊屋切手富山板屋利兵衛役介人嘉三長次郎兩人当十月迄請人取私手前江召抱置売棄為仕度昨日入

一 安岡町打穴屋庄右衛門願南側ニ而家屋敷表口五間裏行十四間半也但半役東隣ハ米屋十右衛門西隣ハ扇屋兵助安岡町岡崎屋善蔵当午

五月ノ来未三月切質ニ書入銀札壹貫目借用仕度聞届

一 福渡町桶屋多七断去ル已十一月尋者籠屋源八道具家主へ預置候然所右源ハ道具戸川町山屋伝六取次質物ニ取置候証文所持ニ付多七より引渡申度旨申出承届候同月十六日証文出

一 去ル二日之書記ニ有之候福渡町作人六兵衛ノ願南側家屋敷表口式間裏行十七間但半役東隣ハ作人左助西隣ハ作人次兵衛代銀札七拾右匁町内佐助ニ売渡申度聞届同月十六日ニ本証文出

一 細工之町指物屋長左衛門借屋忠右衛門と申者六十八歳此度回國遍路来ル十六日出立往来八九日之逗留聞届也

十六日 晴

一 桔梗屋庄右衛門切手京都四条通大和屋五兵衛手代善兵衛例年之通当地へ掛銀取に昨日入

一 東新町因幡屋も市当正月願苦田郡福本村小三郎弟八十八後見ニ罷越居申候処家風に合不申候ニ付此度福元村差帰し聞届ケ

十七日 晴

一 当正月廿八日之書記に有之坪井鍵屋小田中村掛り完米三拾俵之処
十五俵卷斗余入残米不埒之儀ニ候願出大庄屋大年寄かけ合ニ而内
濟八俵可出噺ニ成候由以來之ノリ致候へと申含メ置候

十八日 大雨

一 坪井町鍵屋吉兵衛願去歲九州ニ罷越蘭苗相求罷帰植付候処今年之
苗生立不宜候ニ付今年も又候買求豊後国迄罷越申度尤蘭苗取置様
も委習受罷帰申度往来大概四五十日之逗留申上聞届
一 昨十六日二宮御遠乗ニ付四半時之御供揃ニ而京橋夫々本町通被
為入候旨稲垣茂次ハ通達有之候

一 永井甚大夫ハ御仕置帳先達而之と見合候様ニと被相渡候調候而返
達可致候事同廿三日ニ返上

一 先達而狂奔之福渡町源八口尋申付置候所日数相立候ニ付定法人別
離口御伺申上候処尋口儀ハ是迄之通人離之儀候相濟別

一 今夕五半之比宮川洪水ニ而材木町橋元町ハ註進申出候ニ付大目付
中市郷奉行中ニも為知拙者儀ハ見分ニ同心召連罷出候追々水減候
ニ付引取候鍛冶場土橋船掛り流失感元ハ尋候所他所
磯多舟之由其外流木或ハ塵芥も掛り候
故と相聞候乍席及見罷帰候

十九日 晴

一 昨日洪水之趣申達ス

一 今九ツ時御供揃ニ而加茂川築場ニ被為入京橋ハ町分ニ御出被成候
旨稲垣茂士ハ通用之処御延引ニ而二宮へ被為入田町御門ハ大番所

前今町へ

一 岡山中之町真島屋太平次手代源兵衛老人例年之通万紙類売昨日入

西川屋切手

廿日 晴昼後ハ夜中雨

一 今朝ハ鍛冶場渡船相初メ届申達ス

一 尾張浪人之由年比五十計成男備後国上豊松村と申所ハ病氣步行難
成村順送り来候院庄村ハ送り出候由郡代所ハ通用

一 町分右送り者之儀申出候

一 明廿一日五半時泰安寺へ御仏參稲垣ハ通用申渡ス

廿一日 不正

一 か冶場舟留申達ス

廿二日 晴

一 か冶場川明申達ス

一 下紺屋町作人左太郎家屋敷表口四間裏行拾七間九歩三厘東隣原田
屋右馬七西隣作人幸七ニ而右之家屋敷代銀四百目美濃職人町若木
屋与平次ハ売渡し同月廿七日日本証文出ス

一 境屋忠七来ル廿三日立世日計逗留岡山鳥屋文右衛門方へ

一 東新町米屋道休雲州大原郡大東町成蓮寺へ母引越右寺ハ弟之由知
観与申候

廿三日 雨

一 宗旨奉行中ハ町方宗旨改帳廻り相渡ス

廿四日 白雨

一 籠甲屋闕所家落札町内大塚屋半次郎百九拾匁

一 佐々木兵左衛門ニ相務候光岡九兵衛同人妻よし同人悴友吉安岡町

神目屋勘右衛門方引請尤兵左衛門へ引合承届候
一 籠甲屋諸道具拾三匁五分落札相請取

廿五日 晴

一 西今町ふく島屋庄兵衛備前国赤板郡広戸村彦五郎倅七兵衛先達而
養子ニ貫候処家内不合ニ付離縁之断

一 戸川町年寄高雄屋藤助近来足痛ニ付指掛り急御用之時倅岩助名代
ニ差出申度願聞届

一 西新町江見屋伝七倅和吉と出入訴状一通り及見候

廿六日 不晴

一 水増か治場往来留ル

一 去ル廿日尾張浪人之由播州筋西へ送り戻し候由郡代所へ通用町分
同様

廿七日 晴

一 水于落往来初届申達ス

一 今九半時御供揃二宮辺ニ御遠乗被為人二階町御門へ蔵合前本町通
り被成御出候旨稻垣へ通用

一 因州法美郡百谷村きくと女四国詣之処久米南条郡高尾村へ狂気ニ
而送り戻し皿村へ古城村へ送り註進申出候ニ付御領分送出し候様

申付候旨郡代所へ通用追付西今町へ申出候間一通り狂気ものゝ事
容易に難取計甚大夫ニ伺遣し候上保頭を見届させ候処静成様子

ニ付是迄も無滞送り来候ニ付町分も送り為出候

一 新魚町魚屋源右衛門北側ニ而家屋敷表口四間裏行拾式間但本役東

隣ハ魚住屋太郎右衛門西隣ハ魚善四郎此度銀札三百目相極同町魚
住屋岩次郎へ売渡し同世日証文出候

一 中之町正木屋伊右衛門所持之旅人宿屋株此度同町高尾屋勘七へ
相讓申度願

六月廿三日引合済

一 西今町久保田屋理右衛門願西北条郡小田中村四六父又六当年六拾
八歳罷成候私縁類之者ニ而勝手ニ付此度私手前ニ引受役介仕度町
内人別聞届郡代所ニ同様願差出候由

廿八日 晴

一 船頭町大工庄助小姓町理右衛門他参留伺之上差免ス盗人金蔵一件ニ付
那代所ニ相届ス
一 子之藏人別辻七千五百拾老人当午歳七千式百七拾人指引式百四拾
老人
男二千五百廿五人
女三千二百四十五人
僧三人山伏九人尼五人
社男五人禪子三人
鹿頭五人醫師廿八人

一 井手屋源吉去ル十六日来候由申出候処今日出立

廿九日 晴

一 かも屋和六切手奈良今井町岡島忠兵衛老人例年之通墨筆完昨日入
一 小性町ひち屋兵藏切手尾州知多郡島崎之内寺見村陰陽師高橋伊豆
上下式人例年之通御家中町方且那廻リニ昨日入是ハ御出入登城も
致候者ニ付申達ス

卅日 晴

一 小性町一石屋伝次入用銀是迄札元共々取替候得共再応申付候儀も
如何ニ付此度ハ御用達し共ニ仲間申合せ取替銀差出候様申付候

六月朔日 小雨終日 二日 不正終日雨少し

一 紺屋町四乘院金毘羅七日立四五日滞留

一 桶屋町作人伝七の差出口上二昨廿九日悴伝三郎八才岩見前材木之間

ニて鼻紙入を拾ひ其外供達子共八才計寄合候伝三郎能物をひろい候

と申所江魚町松屋佐右衛門悴勤吉十七歳參夫を奪ヒ内を攪銀札を卷

勿つ又ハ式合つても合遣し紙入ハ伝三郎へわたり此内ニ金入ふくさ

之候伝三郎者卷勿と葉巻服遣し候を親伝七召連參松屋江渡し候由

。松屋佐右衛門口上ニハ紙入卷ッ内ニ銀札五匁四分銀八文小いんらう一つ小たば

昨日右場所ニ而桶屋町子供見出し其場に悴居あわせ五人寄合わけ

取右之内を銀札卷勿黒丸子巻服小いんらう三つ悴取帰候由残り

ハおけ屋町小共取帰候由

右之趣口所吹屋町八左衛門家来吉兵衛与申者件之紙入落候よし相

聞候委細書付申付候処差出ス私儀去月廿八日之夕紙入一内ニ葉包

一に印籠一銀札五六匁錢少々註文等も有之鉄砲町土手ふき屋町

土手道之間ニ而落申候ニ付御届申候旨右等之趣双方相束候而甚大

夫迄及噂候

一元魚町西側ニ而豆腐屋治右衛門家屋敷表口三間裏行十七間但御役

巷間北隣者山根屋伝兵衛南隣紙屋平七右代銀札三百目一町目縫屋

惣兵衛へ売渡し同月五日証文出ス

三日 終日小雨

一 不動院安楽院燈籠灯御聞届済

一 今日八ツ時百間藪辺へ被為入京町口本町通小島宇内通用

一 勝部蓮池之入札来ル廿日迄相触候
御目見

一 町医之悴以来牢屋へ療治ニ罷出候様為申渡候

一 東新町ひこ屋長助四国遍路日延同町葉屋茂吉親与七日延同町大地
(マ)
屋辰三郎親源七四国偏路日延

一 香山多蔵又六屋敷江引越申候相談相濟尤此家ハ元来又六亡妻之親

四日 晴

一 吹屋町北村屋孫七是迄旅籠頭ニ申付置候処不勝手ニ而断出候故橋

元町浅元屋源蔵へ申付候

五日 晴

一 上之町大溝提之儀先年之例を以場所之儀ハ庄屋源八引請奉公人屋

敷案内等致し人足ハ大半町分を指出し相濟候由勿論先達而郡代所

江引合願書ハ甚大夫江及噂候

一 土岐領英田郡福元村小三郎弟八十八三十七才此度養子聿ニ仕度西

新町奈良屋源兵衛願先村を送り来ル

一 宮脇町柏屋義兵衛三丁目井筒屋所持之他國請酒株申之年迄三年之

間借受

一 去ル二日之書記ニ有之候新魚町松屋佐右衛門悴勤之丞不埒ニ付阿

之上足留申付候書付を以大年寄孫左衛門へ申含メ為取計候桶屋町

伝七悴伝三郎ハ一通り之申渡し阿なし吹屋町八左衛門家来吉兵衛

江も取計之趣申聞せ定法拾もの請渡致させ候

六日 晴白雨

一 三奉行中廻文松平陸奥守殿御息女様今般井伊豊吉様御縁談御取

組御縁家ニ被為成候ニ付陸奥守殿御儀向後様付御多敬可致旨被仰

出候 一 從江戸表飛脚到来四月十八日御暇御礼被仰出候様前日御
老中御連名之御奉書到来之處其節少々御風邪ニ付御断被仰達其後

追々御快方被成候ニ付同廿八日御出勤被遊五月朔日御登城被成御
暇之御礼首尾能御被仰上被蒙上意御馬御拜領被遊候段来着悦之御事
ニ候且又浅草火御番御代り上杉彈正大弼殿江四月廿八日江戸御発
駕御積り之処右御風邪ニ付御日限被指延候之段申来此段為相知候
様被仰出候六月六日也

一 鍛冶町かち屋又兵衛去月六日入牢申付候所今日呼出し再庇書付を
以其節無礼之儀差別申聞候上出牢之上如元帰住宅申渡候立会石名
平太兵衛 藤森権六 蔵合孫左衛門 福田甚蔵香山多蔵右一件一
袋に入

一 川留メ申達ス

一 播州佐用郡長春と申座頭同人妻同人娘三人伯州さの郡足村の送り
出し院庄迄宮尾村の送り来夫の例之通ニて新田村の安岡町迄參候
所最初の書面も無之旨相聞送り出し難成郡代所江かけ合候処院庄
之庄屋ハ自分之人付出し候得共其人二宮村ニ而其詔を不致通用候
而自然と送り受候様相成候由其趣ニ而座頭儀老人ニ而右役介引連
播州へ可帰旨申之ニ付其分ニ致し送りハ不申付候乍去荷物多もち
候由盲人之事内々ニ而能様ニ取計候由相聞候委細申達ス

一 かち又兵衛出牢ニ付差添多蔵甚蔵下駄ニ而參候処途中ニ而村上清
大夫へ行違候を急度咎メ之趣ニハ無之候得共大勢見物も有之勿論
囚人差添之儀会釈可有事ニハ無之其段ハ相心得候併下駄はき体あ
しくかつ制外実難濟夫共囚人警衛ニてハ高下之差別無之左様ニ致
候へハ宜訳も無之長臣之衆へ者無会釈候而も下駄はき不申而者如
何之旨同人ニ尋申ニ付即刻彼是所存調候処甚当感致し全其儀是迄

心付薄く評議も不仕候間可然以来之差図致しくれ候様小頭左五兵
衛申出候ニ付向後ハ晴天ニハ草履雨天ニハわらじニ而宜候旨申渡
し即時清大夫へ参及挨拶内分ニ而事済し候

八日 晴

一 先達而追払申渡候粉屋忠助役介高吉儀元来か治町かち屋庄右衛門
悴ニ候処六才之時母に離れ忠助ハ相果候庄右衛門妻之弟ニ而高吉
為に叔父ニ候間引取養育致候故追払之節忠助悴之由ニ而入牢之比
の書付ニものせ候ものニ付一所に追払申付候処以来甚及難儀勿論
忠助も致離縁候ニ付庄右衛門の何とそ引戻し養育致し遣度歎書
出し候ニ付今日伺申候処間もなく殊更其砌相届不申手抜ニ候旁取
上候も不可有旨ニ付差下候

一 当午人別辻例之通郡代所ニ而清書相調今日印形致候

一 柳土手筈最早生出不申候ニ付非人共番引候様ニ可申付旨申渡候

九日 晴

一 境屋伊右衛門切手備中倉敷東町大橋栄次与申者温湯散并宝龍丸与
申薬売昨日參候由

一 京町戸屋右衛門の断大坂過書町鍵屋伊兵衛与申者由緒有之者ニ
而当地用事ニ付昨日参当月中逗留仕セ度申出候

一 同人断先達而相願大坂今橋二丁目島池新七方江罷越居候親佐右衛
門病氣ニ付為保養昨日入九月迄逗留

。九ツ半時之御供揃今日二宮江御遠乗被為人御道筋二階御門の蔵合
前夫の本町通稲垣茂土の通用

十日 晴 十一日 晴

。かち町かち屋喜七ハ新七先達ニ而四国遍路

十二日 晴 十三日 晴

一 宗永寺へ寄進ニ付町方講中間ハ道筋念仏ニ而参候旨右寺ハも申聞
尤町分ハ断出聞届置候

一 此間当役所ニ投書同様之物平井郷左衛門宅ニも有之候由通用承置
候

一 来ル十五日暑氣為窺御機嫌御帳付候間登城可有之旨御奏者番黒田
彦四郎ハ廻状到来

一 下紺屋町水ふる屋理八今日呼出し此間投書之趣ニ付吟味申付候
十四日 晴

一 理八儀預申付候処組合共ハ手錠申付くれ候様願ニ付則中山伝香山
多蔵申付手錠申付ル御届申達ス

十五日 晴
一 今日御機嫌窺御帳付

一 勝間田金谷伴六ハ郡代所当役所連名ニ而暑氣見舞状
一 明十六日五半時ハも川へ被為入北御門宮川夫ハ袋町本町通

一 理八今日呼出し味吟相決ス投書文段全偽之旨及白状候
十六日 小雨

一 玉置広四郎妻備中早島油屋儀兵衛方へ病中ニ而罷越候処右ニ付同
人四五日之逗留ニ而参度断申出候

一 理八投書偽ニ而候旨書付出候ニ付悪名被付候者とも預ケ差免申付
候
十七日 夕雨 十八日 晴

一 御堀掃除料式百式拾九匁分四厘御作事ニ相納候

一 大年寄共旧冬年頭兩様町惣代金子杵校正銀七匁分相納候

一 理八儀町分追払被仰付可然哉甚大夫ハ伺候処其趣ニ取計可申旨被
申聞候

一 三奉行中ハ廻状来ル
江戸表ハ飛脚到来

殿様益御機嫌能被成御座当月九日江戸御発駕被遊候尤御道御滞無
之候ハ、来廿四日佐用駅御泊リニ而廿五日御城着御積り之旨申来

り。火之用心之儀兼而被仰出候得共御城着前後別而入念可被申付
候尤万端相慎可被申候。御城着之節御城内可為人込候間銘々供之
者御城内差置申間敷猶又喧嘩別而慎候様可申付候

一例之通掃除見分差出ス

一 明十九日八半時二宮御遠乗被為入田町御門夫ハ例之通稲垣茂士ハ
通用有之候
十九日 晴

一片原紺屋町水風呂屋理八呼出し町分追払申付候。細工町長兵衛儀
是又呼出し預差免申渡ス始末一卷ニ有之略ス

一 後藤英程願下聞届則今町湯田屋伝兵衛ハも其旨申渡候処畏入候由
役所ニ請ニ罷出る一卷別に記之故文略

○京町めし屋甚八御堀へ足代申達候
廿日 雨

○橋元町三笠屋兵衛等十兵衛去二月久世嶺新原村小内方へ去已以桑申儀奉公相勤候処年罷寄此度引揚
券状同月出候
一 坪井町嘉島屋吉三郎家屋敷表口四間裏行拾七間老軒役也西隣ハ小
島屋平兵衛東隣ハ浜屋源右衛門也八百目小塩屋茂右衛門ハ江壳

一 右家宝曆申之年二月町内長門屋宗兵衛取次ニ而六百目質ニ入此度
請返し吉三郎家守文右衛門

一 橋元町三笠屋十蔵願北村屋孫七持来旅籠株不勝手ニ付此此度私へ
讓候ニ付商売仕度旨

一 堺町佐伯屋藤兵衛居町山北屋伊兵衛家屋敷北側表口七間半裏行拾
間老尺三步老厘八毛役十七年以前寅歳右伊兵衛名前ニ而買請候処
此度私名前ニ付替申度願聞届

一 水増候ニ付かち場往来留届申達ス

廿一日 不正あけ方白雨

一 川明キ届申達ス

一 先触来ル繼人足五十人江戸伏見迄。繼人足廿五人伏見津山。

札外之人馬少々有之候ハ、馬指出可給候駒井茂右衛門

廿二日 晴 廿三日 雨

一 今日御用席有之登城諸役所例之通

一 黒田彦四郎廻文 伏見之駅飛脚到来殿様益御機嫌克御旅行被
成来廿五日被遊御城城候間部屋住ニ至迄午上刻登城可有之候尤前
格之場所江各可被相詰候家督番代之御礼無之面々者出仕有之間敷
候

一 水増候ニ付かち場往来留

一 甲屋和助切手備中妹尾表屋甚四郎疊表合葉卸売昨日入

廿四日 夜中雨

一 一夜前養女引取娶申候旨御届申達ス

廿五日 晴

一 川明御届申達ス

一 今日御城着之処播州路川支ニ而今夕佐用之駅御泊ニ相成候由大年
寄共之佐用迄飛脚遣し候処帰路ニ明廿六日御帰城被遊候趣承之川
刃庄屋之書付取帰候段申出候ニ付其旨永井甚大夫江及通用候然処
追付甚大夫より今日御城着相延明日ニ相成候間出役引取可申旨書
面被指越候ニ付夫々為相知候尤今日出役ハ不致見合罷出候儀也

廿六日 不正

一 今日殿様倍御機嫌能七ツ半時比御城着被遊当役拙者出役古林田升
形之外土橋際北ニ而御目見申上則時引取登城之上御用席へ例烈申
合罷出御緒同申上候尤今日立宿東新町大島屋江申付。御貸人鍵挟

箱合羽籠出ル馬無之同心老人召連候。注進孫八甚蔵。御先伝弘伊兵
衛内左助。頭左五兵衛。人留市左衛門。見分樞作右衛門各外ニも相記
ス。御先手物頭宿等其外例之通申付ル

一 今日殿様被為入候御道先林田町山本屋前ニ而おけ屋町市郎右衛門
と申者と風御駕籠先へ出候を御徒目付中島伴内突倒候を御目ニも
掛り其儀ニ付当番之御徒目付富沢金左衛門御先山本屋与三七江段々
言葉詰も有之候由御通り過早速大年寄迄申出候旨相聞候ニ付おけ
屋町へ預申付候

廿七日 晴

一 昨晚夜に入候ニ付今朝御悦之廻勤致候
一 昨日御帰り先之一条永井甚大夫へ申達候上大目付中へ御徒目烈届
も候哉聞合被致候処無其儀ニ付其分ニ而差免可申旨同人被申聞候

ニ付差免取計候

一 明廿八日五半時御供揃地蔵院泰安寺妙法寺本源寺右四ヶ寺御參詣被遊候ニ付太田官平中奥官付被申聞夫々申渡ス

一 右四ヶ寺御社參御仏詣五半時以後去歲申達候通之旨大目付赤見類助の演説有之候詮議方郡代中勘定奉行中江も演説致候

廿八日 雨終日

一 御參詣御延引被仰出候

一 坪井役所吉田勝右衛門の御城着之祝書到来

一 明日例刻右御社參御仏詣之儀大目付中江被申聞演説ス

一 御奏者黒田彦四郎の廻状来ル朔日御目見被仰付候ニ付辰之中刻登城可有之旨尤嫡子之分同日御目見被仰付候可被得其意候と申趣也

一 司馬五郎様明五半時御仏詣被成候旨稻垣茂土通用

一 明日御參詣御延引被成候旨大目付中手紙中奥目付中江為知

一 尾張屋權兵衛上下七人御用ニ付昨日入宿マの届

一 美職人町こん屋伊兵衛粹虎蔵当三月四国日数立百日計日延

一 茅町とき屋半平の掛り同町大工六郎右衛門堺公事書付出る

廿九日 雨

一 類族之者無事之趣京町江相届ル

一 雲州楯縫郡万田村百姓文右衛門粹和平三十八才五月廿四日江野洲郡江頭町ニ而足痛歩行不相成地頭江届送り出候由申達次江送り出候郡代所江も通用

一 徳守宮江市左衛門權兵衛罷出候

七月朔日 晴

一 今日諸士登城五半時御目見被為請当役例之通表ニ而御目見江申上候

一 播州網干塩屋伊兵衛同弟助三郎式人例年之通荒物塩物売昨日入中之町高尾屋勘七切手

一 宗門奉行中江例歳之通自分証文之案詞当月中旬迄に最寄之方江可指出旨廻文

一 勘解由殿江戸表の帰宅有之候

二日 小雨

一 明日三日五半時之御供揃ニ而地蔵院泰安寺妙法寺本源寺へ御社參御仏詣被仰出候旨大目付赤見類助被申聞候

一 明日御社參御仏詣御供揃西尾多内被申聞候

一 今八ツ時司馬五郎様百間藪辺江被為人林田町通り之由稻垣茂土江の通用

一 錢八十四文

一 堺屋伊右衛門切手大久太郎町堺筋松屋甚兵衛手代加兵衛上下例年之通小間物昨日入

一 福も屋武助切手播州姫路竜野町泉屋孫兵衛例年之通小間物売昨日入

一 撰州大坂南本町三丁目小法師利兵衛例年之通墨筆売昨日入

一 〇〇〇〇〇非人共之内喜八菊之丞万吉去ル廿三日洪水ニ而水流木拾に出候而栗丸太松木丸太類三本ひろい候所昨今見申候得者広瀬橋木与相見へ候ニ付注進申出牧十郎治へ為知候

三日 晴

一 小性町一石屋伝備中御代官所^次被引候以来掛り合之趣表ハ所々掛り合之もの且又札元共被替候銀札員数書付ス甚大夫預り被置候

一 蓮池入札拾壹匁三分五厘証屋忠助落札之由

一 明四日五半時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣

一 御蔵米四拾七匁四拾三匁

一 中之町高尾屋勤七播州網干余陸屋宗七手代彦右衛門ノ式人例年之通八百物卸売昨日入。鳥屋与三兵衛備中妹尾表茂中例年之通豊表

昨日入

一 明四日五半時御供揃ニ而御仏詣被仰出候此以後御前格之通月々御参詣被遊候間度々ニ不通用候右為相知候由大目付赤見類助被申聞候

一部屋目付藤森権六養子伊三太離縁之届小頭申出承置

四日 不正

一 東新町鍋屋八郎兵衛断借ニ罷在候平蔵と申者家内四人此度勝手付林田村瀬助借屋江引越町内人別除ケ聞届

一 馬持共式十五人江大豆式俵ツ、拝借之儀去歳之趣ニ而ハ甚難儀仕候ニ付式俵ツ、御渡被下候様申出申達候委細御沙汰ニ被存候得共御手操相成候と申場ニても無之去々歳より之通りニ此度も俵俵ツ、御借被成候旨被申聞則申渡ス

一 大年寄共兩人来七夕御目見被仰付候旨御奏者黒田彦四郎被申聞獻上賜ニ于連小勤者吉田文左衛門へ申談承知

一 御駕籠之者御抱被成候ニ付来ル十五日迄ニ触出し申渡ス

一 司馬五郎様御仏参被成候

五日 不正

一 司馬五郎様今八時百間藪辺被為入北御門袋町林田町通り

一 刑法奉行中御勝手奉行中市郷奉行中三人去ル廿七日夕泊り初り候由

一 三浦志摩守殿為大坂御加番代来ル廿五日在所発御馬ニ而当夕勝間田泊ニ而御城下通行之旨田中仁左衛門と申者夕泊駅江廻文到来之由申出則今日及御沙汰候

一 司馬五郎様御出御延引

一 河原町岡野屋伝右衛門借屋善吉与申者七十才妻七六十計夫婦渡世致候処去六月廿四日明方夕不凶罷出行方相知ス早速親類之者共借屋請人方々ニ相尋候得共居所不相知候ニ付断書差出承置

一 今町新屋勤右衛門養子雲州能木郡安木村文七弟次兵衛と申もの家風に相叶不申此度離縁之断

一 西今町福場屋源兵衛茅町伝十郎へ掛り屋敷塚公事出来右かや町岩佐屋源六持家之処十六年以前知十一月類焼ニ合其以後為身過他所を廻り渡世致候由是迄断無之勿論源兵衛儀ハ源六弟故町役諸色源

六に代り致世話候由申出候得共か様ニ公事掛り候上ハ源六呼戻し候様申渡候此上ニ而相手伝十郎江返答書可申付事ニ談置候

六日 不正屋後雨 錢 八十五文

一 此一件別ニ記之 一 えみ屋伝七去る五月廿五日之日記表悴和吉と出入有之候処何分親

子公事之儀和吉ハ養子參養家之娘と夫婦ニ成兩人之娘も出生尤外

公事 出入

ニ而借屋住居江見屋と屋号も出し候を不凶心底に不叶老人娘を添妻を致離縁候処親伝七ハ和吉買元其外取次もの老實計も算用残り有之是を返し候ハ、娘を可請取由此段ハ伝七不埒和吉ハ家相統之為養子ニ被貫右之娘と夫婦ニ成出生之二人も候処其身ハ其家ニ罷在養家之娘を去り実家之困窮恙ハ養家之難儀も難見捨杯と様々ニ事を寄其家に身を可立と申まきらわしき致方ニ付今日呼出し残し置娘并家財等年寄組合立合急度養父伝七へ返し候上居町を引去り候様尤実家へ可引取義ハ乍存実家困窮等之儀返答書に申上候故是又不及裁許候旨和吉へ書付を以申渡ス伝七江者 和吉を取計候儀申聞せ候

七日 不晴

一明日五半時御供揃ニ而泰安寺御仏詣被遊候夫々申渡ス

一明日取計江見屋和吉居町を引退候趣届書出ル

一錢八十六文

一今日諸士登城御目見申上ル当役例之通於御居間御目見申上候

一大年寄献上錫三拾枚斎藤孫右衛門例之場所ニ而御目見無滞濟藏合

孫左衛門儀ハ当病

八日 晴

一今日御仏参

一明日九日六半時御供揃北御門夫の御対面所近辺山北辺小田中新田夫の筋違橋土手広瀬橋へ長法寺御弁当夫の井口横山辺百間土手御婦林田上之町北御門被為人候旨西尾多内通用夫々取計候御先払無之候

一司馬五郎様明九ツ半時御供揃ニ而かも川辺江被為人北御門より袋町林田町通り稲垣茂士の

一大目付赤見類助の来ル十二日去歳之通休日相立候旨

九日 晴 十日 昼後雨

一御蔵米四拾九匁五分町米四拾五匁五分

一川筋水増加治場往来留り申達候

十一日 晴

一きせる屋伝兵衛の入牢乙次ヲ歎虎蔵留蔵佐介歎及噂置候

一下紺屋町大工権八同町豆腐屋善兵衛方の大工権八方江負銀三百目

相渡替為ニ致候願聞届ケ尤権八屋敷ハ表口四間裏行拾七間善兵衛

屋敷ハ表口式間小間中裏行拾七間也

一大峰参かち町たはこ屋甚兵衛三國屋吉右衛門かち屋藤三郎徳佐衛

門右四人書付出ル

一船頭町渡し守給米先達而之証文を以明日相渡し可申旨御勘定奉行

清水多吉対談ニ而相濟甚大夫江も及噂

一明日五ツ半時之御供揃泰安寺御仏詣太田通用

一元魚町松屋伝助後家今二階町山手屋家守作人乙兵衛借屋ニ居申早

助江掛り売かけ之残書付尤早助返答書請取置候

十二日 晴

一今日御仏詣無御滞然ル処元魚町貫木西今町貫木人込合候由又今町横町へ御掛り被遊候と否鮎売声を立候由其上御跡大目付中之跡江人余以候押続候由中奥目付浜田平大夫噂有之ニ付即日大年寄ヲ以下方及吟味候処例歳と違此間之川支ニ而俄に遠近之在る人ふへ入

込尤町内(1)も年寄共組合召連製(2)し候而家迄入候得共両町木戸外之儀追々参り掛り是又随分相防候由元魚町ハ還而貫木之内人込候由相聞畢竟御城下へ他(3)の買物に集り候儀大様ニ承り置候帖売之儀ハ魚町ハ吟味申付候処拾式三歳之悴之由是ハ以来を申聞せ今町にても以来右底之儀ニハ心を付候様申含メさせ候

十三日 晴

一 明十四日五ツ半時地藏院泰安寺御仏詣浜田通用大目付赤見類助(4)ハ廻文例之通為知御用席御出仕候儀

一 司馬五郎様四時泰安寺妙法寺御仏詣稲垣(5)の通用

十四日 晴

一 大峰材木町証屋忠助西新町ふし屋新八(6)かち町文六西新町久米屋忠助かち町かち屋伝助美職人町作屋市右衛門新魚町油屋徳右衛門おけ屋町おけ屋善六

一 今日御仏詣ニ付登城例之場相詰外御用無之退出

一 今日七ツ後(7)町廻り相済申達ス

一 御城着ニ付寄馬問屋ニ而取計雇馬拾疋(8)但土居(9)の津山迄此増敷百六拾五疋此定ニ付拾六疋五分右騎入用也

一 分川崎村瀬助(10)も書付相廻候由書付役所江出ス御当日小荷駄惣員

一 数之儀者問屋方ニ而可相知ニ付略之

一 おけ屋町作人伊兵衛おけ屋町横町南側ニ而表口式間裏行十間半(11)同月十八日証文出

一 役東隣座頭古部西隣作人長八(12)尤東隣古部裏南詰ニ而東西式間南北

一 三間半老步役合六步右屋敷百五拾疋ニ極町内作人平助へ売

一 勝間田町吉田屋与三兵衛家屋敷北側表口四間裏行拾老間役七步五(13)同月廿六日証文出

厘東隣相田屋吉兵衛西隣古手屋孫市後家也百三百五拾目ニ極橋本町なし屋半兵衛江売渡し一通又一通ニ右之屋鋪七年以前子五月中之町ふし屋安右衛門へ式百目之質ニ入置候所此度受返し候旨

十五日 晴

一 御中間頭山田喜七(14)の大年寄斎藤孫右衛門江手紙到来支配之中間一昨日馬場熊次(15)夫々参り宿元(16)の受取候肩衣途中ニ而落し其儀ニ付片原紺町二階町辺通り京町二階町片原屋町風呂敷拾候者無之哉申付吟味相頼候由申来候由此等之儀ハ町奉行所江達候而取計候趣申遣候旨伺出候しかし落しもの之儀ニ候処何町と限り候而者難取計事候旨喜七江一応談候様申含候

十六日 晴

一 明十七日五半時御供揃ニ而地藏院へ御社参浜田平大夫(17)の通用

一 落しもの之儀孫右衛門(18)の山田喜七へ対談之上役所之存寄尤ニ承り候由

十七日 晴

一 撰印南郡魚崎村庄八と申者四国辺路罷出候処久米南条郡高尾村ニ而病氣ニ而歩行難相成依之右高尾村(19)の送り来候間通用致候由那代所(20)の申来勿論町分(21)も申出候ニ付為送候

一 先達而相触候御駕籠之者相望候由今町ニ而左助美濃職人町ニ而真吉と申右兩人御中間頭(22)の中奥目付中江名面書出候ニ付両町相尋候所決而不申出候由

一 去ル五日之書記ニ付茅町ぬし屋半平大工六郎右衛門堺改石名左五(23)是ハ八日之書記なり

兵衛目付藤森権六大年寄齋藤孫右衛門町大工棟梁材木町源七彦右衛門双方の大工老入ツ、申付入違へ繩為引候勿論右之町法ニ而表の建家三間を限り東と南之間ニ折候様子則辰之方ニ当り年寄五人組も存罷在候度石〇〇如此申合セ居へ候儀中央へ繩を為引候処出入を申候兩人年寄組合も少し申分無之ニ付棟梁則絵図を相調差出ス右一件之部別ニ有之

一明日四時御供揃ニ而院庄御遠乗田町御門の大番所本町通被為入候旨浜田平大夫の通用同断大目付中御出仕無之旨為知有之候

一福渡町百万扁致候旨届申達ス

一福田嘉兵衛入牢之利助利八相煩候ニ付医師申吳候様与申聞候

十八日 晴

一殿様院庄御出被成候司馬五郎様九半時同所へ被成御出尤御遠乗田

町御門の元魚町本町通ニ稻垣茂士の

一茅町塚論所へ見分昨日之書面ニ有之候

一伏見町帶屋孫七の断悴伝次郎江戸表面西国松平築後守殿へ相勤候儀

先達而届又々当七月の末之三月迄相勤させ候趣

一錢八十五文

一下こん屋町大工権八同町豆腐屋善兵衛家替合証文出る

十九日 晴

一中之町天川屋理兵衛四国廻り来廿三日出立往来百日計願

一上紺屋町今出屋庄助英田郡倉敷村百姓与右衛門悴新助拾七才養子

賞七

廿日 晴

一入牢利助理八療治片山周庵へ十八日ニ申付容体書詮議方へ相廻ス
一遊行聞合可遣旨甚大夫の被申聞岡山和田屋ニ大年寄兩人の書面遣候様申付ル尤備中倉敷へ直屋市郎左衛門弟へも同人の書状遣候

廿一日 晴

一細工町伏見町百まん偏届承置

廿二日 晴

〔鳥獸〕

一川向の鹿三疋川を越ニ疋ハ行方不知疋ハ柳之土手御藪へ這入候処犬追出し禪門堀ニ而とり合候処小屋之文蔵と申者組留候上殺放有無難決三蔵新蔵の大年寄迄伺出候旨申出候間役所ニ而も難決甚

大夫へ達候処御小納戸中へ聞合有之候上御覽も可被成ニ付大年寄迄ハ小納^屋之者共四足を括り担出し夫の町人足ニ而役所江持込せ同

心老人指添御城ニ上中奥目へ通用被請取人足召連同心引取申候

一今夕炮術御覽ニ而司馬五郎様七ツ時御供揃ニ而川井円左衛門前横

町江京町御門の御出被成追廻し端ニ被為入稻垣茂士の

廿三日 晴

一小屋之者鹿生取文蔵と申者へ銀札八匁被下之候并之通ニ而水引い

かけのし付也町奉行のと申て即日大年寄の為相渡候

廿四日 晴小雨降

一甚大夫不快ニ付弥三兵衛ニ組屋勤十郎綿実車願書差出し候「」今

日ニ限り候儀ニても無之候間難取計旨被申候

一御駕籠之者御抱ニ付来月六日迄ニ取計候様中奥目付太田官平ニ

例之通之通用ニ而今日大年寄共へ申渡候

一御蔵元伝兵衛不快之処志摩守殿通行之節ハ悴を川場ニ差出申度申

出承届候

一元魚町松屋伝助後家出方ニ而二階町早助ニ掛り指引事有之伝助死
後帳面を以て後家ニ書付廻候処早助ハ存命之内伝助へ直に済したる
と申儀ニ付今日双方呼出し存寄申聞候後家ハ不快ニて断

廿五日 昼後ハ白雨

一志摩守殿今日御城下通行無滞玉置江駕籠（建之）口候由御先（三船孫八）松屋
場（室井作右衛門）御徒目付下目付宿申付る
（神田權兵衛）

一右ニ付此方様江口惠助御使者相動ル途中ニ直達即答有之候由向
之方ニ使者三輪弥三次と申仁齋藤方ニ而御取次細江源左衛門相動
。院庄川場百疋御船同供船同（御蔵元）鳥目式百文下裁許へ。川辺百
疋御船同供船同（御蔵元）式百文裁許人へ
（年寄善右衛門）

廿六日 不正

一志摩守殿昨日通行出役之面々へ到来之金子銀子玉置広四郎ハ差出
候得共（金字式百疋式百疋）魚同百疋老包籠（二面同式高ツ）
尤大坂御加番之事ニ候間其
方心ニ而聞合ニ遣し候様ニ申渡し候然ル所田中次郎右衛門と申者
ハ書付到来之趣町奉行中御使者御徒目付下目付御先（江宛）申
申越候併拙者当日出役不致候旁猶又問合ニ遣候様ニ申含メ候勿論
甚大夫へ申達候上其取計可然旨被申聞候（十月十二日田中 郎左衛門ハ出役
無之方へハ不相聞候旨申来候ニ付
忠兵衛方ハ相聞候）
一万人講宮川橋之建札昨夜失セ候由猶又建候様講元へ申付ル勿論夜
分気を付悪もの捕候様申含メ非人を為忍候由

廿七日 小雨夜中ハ雨

一明廿八日五ツ時御供揃ニ而加茂川へ御出被仰出京橋（江川）井田左衛
門前鍛冶場（御船御帰同所之由）太田官平（申来候大目付）海老原極

人（ハ）も御出仕なき旨為知御奏者黒田彦四郎（ハ）明日御礼不被請候為
知

一今日茅町磨屋半平大工六郎右衛門呼出し存寄為申聞候

一西川屋善助切手備前岡山下片上町大和屋清右衛門例之通醬油売昨
日入

一東新町道休借屋江林田村忠兵衛借屋ニ居候文左衛門絶人（男三人）引越
引（一）

一西今町屋市郎左衛門来廿七日立備中油屋丈助方へ廿日計逗留断
一此間見分有之候久米村左助と申御駕籠之者西今町新屋勘左衛門役
介之様申候得共親ハ伊兵衛与申断申吳候様申来候ニ付御駕籠長七
江達候処相済不申何分左助（一）不存町内人別ニ而ハ無御座候旨書
付差出候承置候万一御抱相成請ニ立候共在所江引合後難無之様可
致旨申含候

廿八日 晴

一御帰御船場江御紋之てうちんニ張出ス
一馬持七蔵馬落し候由屈跡馬相調候様申付候

廿九日 晴

一明五半時御供揃妙法寺御仏詣被遊候中奥目付中（申来ル）
一勝辺村元藤左衛門後家坪井町鍵屋吉兵衛方へ引越之願引合済
一一方村ニ而玉置車場へ参候働之者共之儀右村内家々立入候由其上
自然と不埒之儀も聞候間双方左様之趣無之様致度旨郡代山岡与左
衛門（ハ）被申聞則日大年寄江申含置候

当日本証文出。

一二丁目福永屋兵次南側家屋敷表口六間半裏行十七間本役東隣八三平

西隣八町内堀ニ而三貫目町内五音ふく永屋藤助役介新助へ壳渡し願

聞届遣候。福永屋兵治戸川町東横町東側ニ而表口五間裏行九間半

八歩役南隣ハ新石衛門おけ屋北八二町内堀四百目二丁目ふく永屋藤助役介

新助へ壳渡聞届

一明日四時司馬五郎様妙法寺御仏詣被仰出稻垣ハ通用

廿日 晴

一鍛冶町桂屋久兵衛家やしきかち町南側表口四間裏行拾三間半役也

西隣ハ新屋喜兵衛東ハ金具屋喜七三丁目平野屋利助取次ニ而壹貫

式百目賃入

一堺屋伊右衛門切手大坂金田町金屋半兵衛手代六兵衛例年之通大工

道具売昨日入

一御用番山田衛守殿ハ御奉書到来例之通御請罷越候

八月朔日 晴

一今日諸士登城御目見被為請候

一拙者儀於御用所市郷奉行同道大目付赤見類助出会衛守殿

其方儀数年無怠惰相動候ニ付御紋御上下下拝領被仰付候旨被仰渡候

尤一統御礼無之内ニ付御居間之御目見今日ハ不申上候

一被為召被仰渡之方々左之通

千石本知 大熊勘解由殿。黒田彦四郎御奏者寺社奉行兼役。海老

原極人大番頭。平井郷左衛門大目付。永井甚大夫御加増五十石。

山岡与次右衛門物頭格。西尾多内大番組頭寺社取次兼役。大村庄

助詮議方。小島右内中奥目付。細江源左衛門御紋御上下下拝領。柴

山本左衛門番外金井伝七大番格畢而輕役御面謁濟式日並之通相延

ル

二日 晴

一今夕茅町百まん偏

一明日御覽掛り之外ハ出仕ニ不及候旨赤見類助ハ演説

三日 晴

一明日五半時泰安寺御仏詣被仰出候旨浜田平大夫ハ被申聞候

一類族とよ一昨日病死之届有之諸事前格之通計「宗旨奉行松島十

学類族改無別条妙願塔頭念寺ニ而右葬教力

一茅町剛屋半平大工六郎右衛門境目出入ニ付取捌申渡濟小頭石名左

五兵衛中山市左衛門大年寄藏合孫左衛門棟梁大工源七差向境繩相

定メ今晚兩人共ニ追込「年寄共ハ禁足福山

一藤助牢内ニ而病氣ニ付医師申付候周安江申付候

四日 晴白雨

一御仏參被遊候

一戸川町百まん偏且今日甚大夫江内達致候ハ白蟻口申易者岡山ニ而

徘徊間もなく御当地へも可參人情強あく逗留も致し候内無益之失

却も可有之甚御心得も可有御座段申達候所被及御沙汰候而右之者

參候共決而願聞届申間敷惣ノ新規ニ他所者出入之儀ハ町格ニ而取

上不申旨及御樽置候旨被申聞候

一二階町安樂院主石松院出奔致候由寺社取次種村紋大夫ハ樽被申聞

候

一 播州筋東郡□□村左助と申穰多金子式拾三兩二丁目小倉屋茂兵衛方へ持来銀子ニ替預申度由預手形受取出候所亀之甲辺ニ而落し直に小倉屋ニ帰り万一手形持參候者有之共被渡下間敷段届出候跡江宮尾村為三郎と申者手形持金相請取申度旨申候へ共穰多届候ニ付為三郎江断歸し候以後宮尾村へ人をかけ色々頼候得共承引不致候ニ付何とそ当国□□村同類之者式三人証人ニ仕右手形出候ハ、反古可為旨書付ニ而茂兵衛江申込候得共是又不致承引候ニ付大年寄へ願候得共御支配下とハ違落しものも手形拾ひ候ものも他所ものニ候得者筋付候得者相渡し候旨ニ而先々扣居候様ニ評議を居へ置候有増永井甚大夫へ相達ス

五日 晴

一 今日劔術御覽被遊候。明日六半時加茂川御出御延引被遊候

六日 晴

一 三奉行中々廻状。兼々被仰出候武芸（ウツ）文修行之儀ハ別之常ニ候得者何も一統可心懸儀就中年若之面々者別而出精可有之事ニ候然ル処中年ニも至候得者芸術相止候類も有之趣相聞甚心得違之事ニ候尤老年ニも及候面々ハ武芸段練之相成間敷儀ニ候得共中年以下之面々（ウツ）勳ニも相成候間稽古場江も□節罷出可致稽古候且又学文心掛候面々之内講尺も相成候類并若年之面々（ウツ）等も追而ハ可被為聴候間致指面候面々名面より名面可申出候將又他所養子ニ罷越候者於生国芸術伝授ニ而相濟候類ハ其訳委細可申出候其外未熟之類流義違ニ付相手無之逆其儘捨置候儀ハ心得違之事ニ候間右之類

ハ於当所いづれ成とも入門芸術出精可有之候右之趣被仰出候「」

一 御勘定奉行出候廻状左之通。大小役人之儀若年々算專一ニ心掛他方初御勝手御用向相励可申儀勿論之事ニ候然ル処何となく諸士同様武芸專一ニ出精請前筆算之心掛甚薄キ族有之様為聞心得違之事ニ候以後請前職業之本末を相考芸術修業前後浅深可有覚悟事ニ候尤支配頭并親類ニ而兼而此旨相心得若年之者共へ時々心を添間違無之様可致世話候 八月六日

七日 晴雨

一 明日例之刻泰安寺へ御仏參被成候旨太田官平申来ル

八日 雨

一 今日御仏參被成候

〔例〕

一 書役野村喜兵衛事去暮已来病氣ニ而 出役不致候処内々存寄之儀も申出候由彼是意味相も有之是迄於役所書役無之候を見合せ居申候所明日右喜兵衛儀相廻し候旨通用清水多吉被申聞候

一

九日 晴

一 御年貢米町において切手替或ハ銀外払兼而停止ニ候弥被令停止候之間此旨急度可相守候且又町分ニ而切手替外払等之取次致候者於有之者下略今日市郷奉行被相渡候例年之通為替少々差出候儀ハ不苦候旨例之通相触候

一 二丁目年寄三谷屋太郎左衛門役免申付悴平蔵へ跡役申付ル

一 新職人町ぬし屋孫三郎役免跡役ぬし喜平次江申付ル

一 茅町出入兩人追込今日差免

十日 晴

一此間問屋共願筋御登り米浜出し人足去歳ハ入札ニ付日用頭理右衛門吉田屋半兵衛ニ被申付候得共人馬之儀何ニ不寄引受場ニ候間当年ハ人足指出候儀問屋江被仰付候様入用も是迄之通ニ可致之旨申出御勘定所江もかけ合御聞届済昨日申渡候

一元魚町油屋与一郎籠籬細工人雇但馬江来十二日ニ罷立往来廿日計逗留聞届

十一日 晴

一明日泰安寺例刻御仏詣被仰出小島右内ハ被申越候

一先達而も御書付出候出生之子を養育致しかね候而殺し候族兼々御苦勞思召候夫ニ付二三日中ニ其儀相止候様下方へ示し候主意付候而申聞候様甚大夫被申聞候相考可申上旨申達候

一先達而番代差出候川端文六其砌之一条記憶も可有之候其儀申聞度候旨甚大夫被申聞候

一中之町三室屋林助所持他請酒株当月々来ル十月迄借受商買仕度

十二日 晴 十三日 晴

一茅町掛り合場見分差出ス

十四日 晴 十五日 昨夜ハ雨

一今日諸士登城御目見被為請役筋例之通ニ御目見申上る

一京都ハ罷出候由白蟻と申易師若逗留之儀願出候ハ、聞届可申哉先ハ巫祝之類諸人淫安キ無益之者ニ候之間親規之他所者不聞届役筋之建之段申達し市郷奉行永井甚大夫も御用所へ被申達候所其趣

ニ聞届申間敷候旨御沙汰御座候其意相心得候様被申聞大年寄へ
申合メ候

一入牢鳥屋佐助悴徳藏病氣之処及大切候而歎之余り兄豊蔵虎蔵直訴ニ出候得共重キ入牢者ニ付呵り帰し候

十六日 晴

一明日地藏院御社參被遊候旨太田官平ハ申来候

一鳥屋徳蔵相果候旨取納聞届候

十七日 晴

一御社參被遊候

一東新町松屋喜助母林田村兄次兵衛方へ引越引合済

一明日二宮六半時御出被成御道筋田中通り安岡町小島右内ハ通用

一三奉行中ハ廻状

御城於松之間一月三齋四々之日屋後論語会読相務申候様大村庄助江被仰付候御家段中二男三男ニ致迄望之者ハ勝手次第可被罷出候此段可及演達旨御用所御申ニ付申達候同役属役——追而来ル廿四日ハ相始候間初而計肩衣着用可有之候以上

一土岐美濃守殿領分勝北郡大町村百姓四郎兵衛と申者五十一才妻四十歳悴与吉十七戸川こん屋吉兵衛引請

一西今町直屋借屋ぬし屋喜助妻七先達而千ヶ寺に罷出候処途中ニ而足痛今式百日願延

一材木町大工源九郎後家北側表口式間半裏行十四間半役此度聲こん屋町疊屋勘六へ讓願

一西今町玉屋吉右衛門里公文醫師本郷文庵梓伝吉〔二十〕此度養子ニ仕度尤大久保五郎左衛門殿願分也〔廿二〕証文

一茂渡庄右衛門借屋家守身職人町河内屋平三郎願庄右衛門借屋笠屋伊助茂渡藤右衛門出見セ三町目組屋ニ勸候処去月廿五日夜罷出帰不申候ニ付断書差出承置

一坪井町高砂屋兵助願家屋敷表口五間裏行拾七間但シ本役西ハ小鳥屋次郎右衛門東隣ハ浜屋源右衛門右家やしき座舖立具等檜もの屋久兵衛取次ニ而三貫目質入未之八月切〔証文同月廿三日〕

十八日 晴

一三軒屋例年之通草苺届

十九日 晴

一先達而山田幸伯と申目医者〔夫之苗隱々伏見町旅籠屋ニ罷在候儀不埒ニ付内々追立させ候処 已来宗永寺長屋居候由〕右幸伯妻之由馬場縫殿右衛門所へ欠込候を困たる儀幸伯手之内へ御差出し被下候様人を以申之又ハ直ニも参候由喜内方ニハ請人拵差置可遣積り候得共相立候もの無之何方へか出候旨幸伯ハ全被困候儀を存候而混申込候由然れ共風来体之者故町方ニ而止宿も難成昨夕ハ蔵合へ参宿之儀相願候ニ付はたこ屋へ申付遣し候然るに今夕永井甚大夫より手紙到来東大番所御制札前ニ医者体之者罷在候ニ付番人共立去候様申候得共不致承知由申出候間同心差向為立去様子承り候様可申付旨申来り即刻同心中山市左衛門福田甚蔵差向段々承之罷帰候一卷別に有之

廿日 雨

一昨日辻訴朝城幸伯事市郷奉行中へ申達候所詮議方大村庄助江被仰付候幸伯ハ役所〔サエキ〕旅籠屋預ケに取計候

一馬場喜内〔五〕も幸伯一条御問合も有之候由

一幸伯儀明廿一日町会所〔五〕召連出可申旨やと屋〔五〕申渡ス

一材木町作人平八後家願南側所持之屋敷表口三間裏行十七間但裁切六歩也東隣ハ伏見屋七右衛門西隣ハ大工七兵衛代銀三百目京町三輪屋平左衛門借屋元屋長八へ売〔本証文同月廿四日〕

廿一日 晴

一船頭町はたこ屋山北屋伊兵衛幸伯を召連年寄老人組合老人会所へ差出ス

一西川屋善助切手備前岡山下市町中島屋久六老人例年之通元結売昨日入

一堺屋伊右衛門大坂南本町三丁目紙屋藤兵衛手代次兵衛例年之通葉種売昨日入

〔編〕今夕井上弥三兵衛〔五〕大村庄介福田嘉兵衛同道ニ而罷越幸伯詮議之趣ニ付掛合候ハ右之女昨晚与風目明十右衛門所〔五〕相見候ニ付幸伯方より可相受と申以後兩役所ハ不及申喜内〔五〕対し候而も申分無御座旨書付旅籠屋へ出しはたこ屋伊兵衛〔五〕其段敷候様ニ取計其上ニ而幸伯ハ御領分追払ニ而相済段談し合一所ニ罷帰候

廿二日 晴

一大沢長大夫今日着

廿三日 晴

一 幸伯詮議方ニ而追払申渡等別ニ有之

廿四日 雨

一 今日御城会読初ル

一 昨日読場相受記植月喜三次石名左五兵衛立合

一 中之町平岡屋忠右衛門妻指病ニ付備前稲蔭村高原玄格当月廿四日
廿日迄引請聞届ケ

廿五日 晴 廿六日 晴

一 七拾六文

一 式丁目福永屋兵次封印銀札八百六拾目兩度之分近來不如意相成借
物増長手拔難成先月家中都売払代札を以銀主へ引渡筋立申候然ル
所當時渡世難成ニ付開封之願差出し候ニ付組合共無相違為申候哉
書付出し候様申付ル

一 二丁目尾高屋宇兵衛願備中松山浪人長谷川多門と申者今夕より
來月十六日迄軍書為読申度旨申出候此もの妙願寺へ先日以來引受
之願有之ものニ候由然を異様町方ニ而軍書杯と申はやし万一群集
可致^改難計此儀粗寺社方問合之上不^改宜筋ニ付不取上候
一 七十四文

一 播州河内屋甚右衛門手代弥次兵衛例年之通木綿類売。播州姫路電
野町いづみ屋孫兵衛同手代も兵衛重郎兵衛三人祿茂屋

一 京六条通上ル高瀬川升屋勘六例年之通小間物きせる堺屋

一 西川屋善助勢州安芸郡白子村形屋仁左衛門手代庄右衛門例年之通
形売こふくもの類

廿八日 晴

(振紙)

一 御居間御目見被仰付候諸士登城例之通前格如何伺候処御小納戸中
ニも帳面々調候上ニ而弥御目見申上候儀ニ決シ罷出候。七拾六文

廿九日 晴

一 七拾八文

一 司馬五郎様七ツ時安岡町後土手打上御覽被遊田町御門此母横前
大番所本町通り被成御出候福屋

九月朔日 雨昨夕夕

一 今日諸士登城御役御目見へ例之通御居間ニ而申上候
一 八十文錢相場也

一 東新町因幡屋新七撰州大坂上木綿町松坂屋忠右衛門例年之通唐弓
驛売昨日入

一 錢五拾老箇川下書印銀札場奉行中中申來ル
一 加治場渡し舟相留り候

二日 不正昨夜中中風甚シ今朝隱曇ニ成候
一 例月之御社參御仏詣以後四ツ時ニ相成候旨大目付中中御沙汰

一 昨夜風ニ而玉置方壁御堀江落候ニ付足代ニ不及取上申度聞届
三日 晴

一 明四日御仏詣御刻限御道筋例之通小島右内右内

一 去ル廿七日之夕妙法寺納所丈右衛門与申者此者先達而坪井町を
東江參候処跡子供兩人なぶり候由宅人今町おけ屋善助梓安次郎憤り安次
郎が手ヲねち或ハ打擲とも聞ゆ虎吉逃候由然ル処安次郎兄多七坪

井町分横町ニ而おけ屋致し居候故安次郎被痛なき候声を聞罷出右
丈右衛門を咎メ現に事ニも可及之処今町西田屋多助方宿ニ候間あ
れヘ可參旨丈右衛門申之ニ付聞届一所に彼方指而罷越候其趣聞か
け付寄候面々も有之たる由其後おけ屋町安次郎親幸助并悴辰次郎

安次郎
か兄也父子三人丈右衛門を目かけ西田屋多助方ヘ參り打擲之無哉否
難知同町上総屋和助□人ニも入候由彼是掛り合之者共双方相有ノ
丈右衛門ハ安次郎親おけ屋幸助ヘ詫り証文認メ相渡し事済候由

一 川明申達ス

一 京町豊屋和助足代下し

一 西今町おけ屋幸助并悴辰次郎安次郎同町西田屋多助上総屋和助坪

井町おけ屋多七今町おけ屋
幸助碎他參指留ル

四日 晴

一 今七ツ半時大石半次鉦術御覽ニ付司馬五郎様被為入京橋ハ川井円

左衛門前ハ追廻シ稲垣ハ通用

一 西今町妙法寺懸り合詮議方大村庄助ヘ被仰付候

一 四拾八匁町米四拾四匁

一 明五ツ時御供揃杉山江御遠乗京橋ハ例之通浜田ハ通用司馬五郎様

ニも御同道被成候稲垣ハ

一 明五日御出ニ付御出席無之大目付中ハ為知申来ル

五日 晴

一 境町ミくり屋与三兵衛家屋敷表口四間半裏行十六間大溝切半役東

隣北屋喜八西隣藤屋孫平右家屋敷之内裏大溝端屋敷北之方ニ而東

西四間半南北式間役ハ八厘三毛代拾五匁同町小山屋清兵衛西之方

東西四間半南北式間半役ハ八厘三毛代銀拾五匁大蔵屋勘右衛門ヘ
売

一 京都烏丸通ニ文字屋九兵衛手代金十郎新兵衛善八吉三右四人例年
之通呉ふくもの売昨日入えひ屋長右衛門切手

一 播州加古川ハねちわく細工手伝九郎兵衛長二郎呼越当十二月迄辨町
同町紙屋虎吉

一 妙法寺懸り合おけ屋幸助并悴辰次郎安次郎坪井町おけ屋多七詮議
方ヘ呼出し明日ニ付下方ヘ申渡ス尤一通り於役所及見候旨申含メ
候

一 右懸り合ニ付同町ぬし屋喜助預ケ申付候

六日 晴

一 堺町小林主水と申社男之弟長大夫三十五才内縁ニ付久米南条郡金

谷村孫右衛門同村源七兩人引請候ニ付差遣居住為仕度□人別離之

願出候引合之上聞届

一 京町ニ文字屋善兵衛方ヘ人參買ニ參候者かんとウ人參を□々相調

翌日罷越御種人じん十兩計可売旨申之昨日買人參代物之受取大坂

高麗橋扇屋三郎右衛門と宛ニ而受取可「」存分ニ可売手段ゆすり

事と存昨日之人參ハ妻不存候て御頼と存せ候由尤驗残り所持致た

るニて候間受取ハ得不致と申右之人參ハ取戻し右売候人參を壹兩

半計調置代□不渡□ニ内々石名左五兵衛ヘ通し候由同人申出候ニ

付可然取計候様申含メ候

一 今日懸り合之者共及見先役所江遣ス

七日 晴

一 今日紙屋虎吉おけ屋千助悴安二郎右組合おけ屋幸助右悴辰次郎坪

井町おけ屋多七詮議方へ差出ス

一七拾八文遣申出る

一明日御仏參例之通浜田平大夫の通用

一今朝差出し候者共之内幸助辰次郎多七手鎖町内預之取計通用有之候

一桶屋町林田屋七蔵同町横町南側家屋敷表口三間裏行拾老間但半役

也西隣ハ座頭こいち東隣ハ作人市郎兵衛代百式拾目新職人町佐和屋借屋仁助へ売渡し同月十日証文出る

八日 晴

一二階町組屋勘十郎兼而相願候綿実油ノ商買仕度水車老羽願之通被

仰付候大年寄於宅年寄組合立合之申渡尤是迄玉置忠兵衛方同様商買致候ニ付致和順相互ニ覆藏なく申合商買可致之旨「様考合せ

可申渡候様永井甚大夫被申聞候ニ付「書面ニ認め申渡ス孫右衛門手前に有之候玉置忠兵衛儀」孫右衛門毛江呼寄双方無覆藏申

合せ帰着「申合メ候此願甚御評議入御念候由故ハ去々歳油ノ商買之儀ハ外ニ停止玉置方計ニ被仰付候旨役所」其段申

上候処大沢長大夫ニも懸り合候儀ニ付江戸表の致「迄役所預リニ相成候処同人着之上ニ候哉今日相済候

九日 晴

一遊行上人順路且又來着先之取計万端為聞合堺町大室屋藤兵衛と申者申合メ明日ニ出立尤備後福山備中松山大年寄宛連名ニ而此方

大年寄兩人書状遣し候

一明日四時泰安寺御仏詣小島右内の通用

一今日諸士登城御役御目見例之通且今日被為召候方

御御用人大沢長太夫 御小姓頭鈴木此右衛門 兼役

一明日幾野御代官平岡彦兵衛殿御城下通行先触右ニ付先私井町分掃

除先格之通申付候 以來安岡町ニ而御使者有之候ハ立宿可申付ニ相儀候

仙波門大御使者被相勤候

十日 晴 十一日 曇

一今日詮議方へ今町坪屋藤十郎原屋茂八福見屋吉兵衛呼出し仍之同役直屋市郎左衛門を差出し候

一明日例刻泰安寺江御仏參太田官平の通用

一七十九文

一市郷奉行中の遊行上人用懸り之町人共一兩日中申付候様可取計旨切紙到來致候

一播州網干余陸屋武兵衛八百屋物鯉節売昨日入。同州「丸尾屋六三郎例年之通荒ものしほもの。同州同所洲本屋常七例年之通あら

もの鯉ふし。同所奉書屋「郎手代忠右衛門式人例年之通小間もの晒蠟売各中之町小山屋与三」

十二日 晴

一大盤若御祈禱無滞濟例之通恐悦申上ル御札「山岡与三衛門宛ニ參候を当役所へ相廻候

一生野御代官所の当十月十五日の同晦日迄上來大豆相場之儀調置候ハ、十一月二日比自是飛脚可遣之旨申來ル追啓ニ当御代官所吉野

郡江之原村御番拾分一運上銭口直相場之儀津山町老ヶ年平場相場相用候ニ付役人印形書付是迄之通申付來正月上旬之内飛脚可遣由申來ル

一 かつ町宗道宮へ明後日神子社男神楽上候段断

一 市郷奉行中の疏状二通被相渡二三日中考付紙可仕旨被申聞候

十三日 昼雨

一 今町西田屋多助町預ニ申付置候所妻之親大切ニ相煩候ニ付妻計介抱ニ参度申出候ニ付詮議方へ引合之上聞届遣候妻之親同町ニ而西田屋勘右衛門と申候也

十四日 雨

一 堺町小山屋次兵衛倅次郎吉大坂油懸町塩屋基三郎五年切願出

一 遊行逗留之間出火之節御位牌御退被成候儀存付申達候間宗賢寺ニ御長持ヲ置御靈屋口の地藏院へ御退被成候趣別書ニ有之惣而出火之手当一卷に有之候

一 疏状二通之内高屋佐助入生ニ入代り候様ニ相願候趣是ハ上之御裁許ニ而判法口受取方ニても評議難成もの之段内應口候ニ付付紙之儀ハ御断申上候
一 菅通新右衛門事
一 又兵衛口足に路頭ニも立不申候得者其儘至候儀此上懺感ニも相叶可申と被取候旨不及御吟味と付紙いたし差出候

一 出火之時遊行退場手配相済一件ニ有之

十五日 晴

一 大室屋藤兵衛松山の今夕掃宅致候由

一 明十六日杉山江御遠乗被為入京町の川井田左衛門前夫の川戸向へ被為入候司馬五郎様ニも御同道被成候小島右内并稲垣茂次の茂通用也

一 七十八文遣

十六日 曇

一 米相場五拾目五分町米四拾六匁五分

一 今町掛り合おけ屋幸助并倅辰次郎同坪井町おけ屋多七入牢申付妻子共ハ組合預被申付候由通用然ル処多七妻十七歳ニ罷成候由老人もの故組合共番ニ参候儀及迷惑候旨伺出候間甚大夫江及噂候処刑法方かけ合之上当人之外厄介共ハ役所ニて引請候儀可然ニ付双方共ニ預之儀町奉行の申付候大村庄助も同事申達候へハ厄介共老若又ハ男女ニも不寄預と申儀ハ御用向ニ候得者一己ニ迷惑ニ及候儀無之段存寄申候へ共何分此度ハ取計候様ニとの儀ニ付致承知候

十七日 晴 十八日 晴

一 御政事奉行中の廻状 徳川大藏卿様御病氣之処御養生不被為叶去ル八日御逝去被成候段申来候仍之今日の来ル廿四日迄七日之内鳴物高声御停止之事ニ候普請ハ来ル廿日迄三日之内可為無用候

一 市郷奉行 中の廻状 近年鴈鴨渡候節鉄砲打候故御用之鳥難取候ニ付此節の来ル十月中鉄砲打候儀御停止之事候此段申達候様御用所御申可付申達候

右兩様一所に廻り鳴物触ハ町方組中一統に鉄砲之触ハ町分省候

十九日 晴

一 遊行先触到来市郷奉行中并寺社取次中江通用

廿日 雨

一 米屋道休所持造酒一株之内一株内緒有之ニ付此度譲り請造酒商買

仕度式丁目福寿屋新助願讓主米屋道休

一 鳴物御停止ニ付諸方祭礼延引

一 七十五文遣

廿一日 晴

一 鍛冶場往来止り

一 六十七文遣り。七拾文

廿二日 晴

一 遊行先使僧今日溪花院へ着伴僧式人下来^(マ)老人一卷ニ記ス

一 川明キ申達ス。七拾式文遣り

一 塚屋伊右衛門切手播州今市綿屋嘉市郎手代忠七例年之通具服売昨

日入

一 京町えび屋長右衛門切手大坂久太郎町丸屋藤兵衛手代清兵衛例年

之通大工道具売

一 遊行先触御朱印伝馬挾箱後藤守助^五相渡ス送り之写一卷ニ記之去

ル十九日夕町奉行所ニ定番有之ニ付致世話候様永井甚大夫被申聞

候間今日迄預り置申候片荷挾箱菊之紋付桐油上ニ添木組紺之衿ゆ

たんかけ棒ニ絵荷を指上ニ菊紋遊行上人と有之持夫ニ才領相添来

り候由相請問屋^六差出ス

廿三日 晴

一 元魚町油屋与一郎へ津川御林ニ而炭扮請負被仰付候ニ付右請文郡

代所被申付加判人町内年寄藤野屋喜左衛門ニ申付候由向方ニ而ハ

難申付候間其心得為知置くれ候様山岡与左衛門被申聞大年寄迄及

樽置候与一郎方^七得其意候様孫右衛門^八申聞せ候

一

廿四日 晴

一 鉄砲町矢場之南ニ而波戸場郡代所^九取計被仰付候感元^五も談し勿

論郡代所^六申来候ハ、水越差図を受候様ニとの儀其段申含メ候

一 三奉行中^七廻状 井伊掃部頭様御長女美代君様去ル二日於京都御

卒去被成候旨申来候依之今廿三日^八来ル廿五日迄三日之内鳴物

高声御停止之事ニ候尤普請ハ不苦候

右御触書之趣夫、相触候

廿五日 晴

一 遊行逗留中町医四人申付候本道川島桃庵同外科相兼井上一粹針医

後藤英程三谷一箕召連候者ハ別帳ニ出之

一 七拾三文遣

一 大坂塚筋久宝寺町岸部屋茂十郎同手代清八基中三人例年之通小間

もの下し売鳥屋与三兵衛切手

一 塚町小とり屋次郎右衛門家やしき坪井町北側ニ而表口六間裏行拾

七間役ハ老軒半也東隣ハ高砂屋兵助西隣ハ福会屋伊兵衛家屋敷此

度銀札八百目坪井町文七へ売渡し^九売券同月廿九日出ス

一 宮脇町福松屋和七去ル巳年^六来ル未年迄摂州大坂粟屋和泉屋又右

衛門方へ奉公願候処病氣ニ相成此度罷帰申度旨徳守宮地子居ニ付

寺社方引合宮方^七追願之沙汰無之由然れとも已来之^八ノりを可申付

候間町分^九ハいか様と可聞届旨ニ付承り届遣し候

一 遊行上人今夕坪井止宿明日六半時之支度五ツ時発駕之旨聞合之飛

脚罷帰候寺社取次後藤守介^五も通用永井甚大夫へ申達ス

廿六日 晴

一遊行上人今九ツ時本坊へ着即刻御城役所永井甚大夫江同心遣ス順座ニ付拙者村上清大夫栗田只次後藤守助吉田文左衛門堂下へ出向也駕籠台へ被持候砌直に上に上り縁ニ而上人も踞ひ居下れ候而出役之方御大儀之旨会尺夫の仏前ニ而勤行畢而居間へ被入夫の出役五人一所に對面之上十念并守り受之是等別帳ニ記ス

一今日茂渡市右衛門川口藤十郎兩人江切紙ヲ以呼出し申渡

其方鐵御内用之儀出精何角はたり取
計候取御勝手方申出候仍而為御褒美金
式百疋被下置候以來愈出精可相勤候旨申渡ス

茂渡市右衛門

川口藤十郎

其方共札元補關
出精相勤候段御勝手方申出候仍之
為御褒美金式百疋被下置候以來愈
出精可相勤候

一今日左之面々大年寄同道於宅申渡ス

三室屋宇左衛門 沢屋孫四郎

塩屋八郎右衛門 高松屋平兵衛

大島屋平右衛門

廿七日 晴

一昨日申渡候五人之者共名字付差出ス玉置宇左衛門浅尾平兵衛三船

八郎右衛門植月孫四郎山本平右衛門及御沙汰候

一遊行札配り同心差出ス逗留中朝昼夕札配有之

一勝山戸村源吾の來書十月地米平均相場之儀申來追而可遣旨返書遣

ス

廿八日 晴

一今日遊行見廻ニ參候今般ハ諸事御省略ニ而一統御貸馬不致合羽籠

も無之着之当日ハ出候尤ハ今日御先手物頭村上清大夫拙者一所に申合罷越對面致し寛々咄有之候明日ハ宝物為見可申九ツ時に可參之由一同申合帰候

一七十四遣

廿九日 晴

一今日宝物見ニ出役申合罷出候宝物場群集ニ付当番之警固其外供之内の副屋申付候幕番所ハ元も風廻り組も同様ニ札配場副之候

一坪井吉田勝右衛門用向相濟滝口忠藏入替り來秋迄相勤候案内勝右衛門ハ是迄之礼詞相兼連書來ル

一石名平太兵衛遊行上人荷物舟場迄付候儀ニ付役僧臥竜軒と申出家江對面諸事申談有度後藤守助も存付且又役僧ニも請方之衆中江相談し度旨申候由ニ而拙者迄同人相談有之則平太兵衛江申かけ候処不快ニ付左五兵衛替りニ罷出町奉行附役と号草履取ニ而泰安寺江罷越させ右役僧江も對面其上申合致候舟奉行中ハ舟方積請役と致し坂井七郎治罷出候

卅日 晴

一今朝永井氏江於御城申談遊行出立之当日若雨天ニ候へハ荷物付下し差支可申仍而飯小屋舟場建可然旨勿論後藤守助吉田文左衛門の相談ニ付申立差掛り候儀ニ付安岡町久米屋勤八^{泰安寺ニ而ニ申含メ下方為請負申付候御作事江も掛ケ合候}

一遊行出立之節舟場江山北村の足拾五人出候荷物手伝も可入之節大庄屋相心得置及指図候様致度旨郡代中江ノし合せ置候

十月一日

一 今日諸士登城役筋於御居間御目見例之通相濟

一 遊行明日出立ニ付荷物積請候場參詣人込たるへきニ付成道寺角と心中場角ニ繩を引東西ニ同心式人ツゝ相押へさせ諸士百姓町人候ても繩内通路差留候様申渡ス勿論守助と申合せ遊行諸事之事外ニ記ス

二日 晴

一 遊行上人今日出立ニ付六半時泰安寺へ出役町奉行大沢三平御先手物頭村上清大夫御使番栗田只次寺社取次後藤守助小勤者吉田文左衛門出立之次第外ニ記ス各申合堂屋へ出乗物留り候迄ニ而此方乍立暇乞致し候早速御届申達候大年寄共ハ光嚴寺表門際ニ而会釈ニ及候先私室井作右衛門石名左助川下先私ハ福田甚藏香山多藏小桁村ニ而賄兼而郡代所江頼相濟候

一 玉置忠兵衛方断書油仕事仕播州あほし清八小八郎淺右衛門伊八彦次郎徳三郎惣八久次郎文七徳松宗七ノ拾巻人之者此度召抱当十ヶ月未四月迄差置候由右ニ付一方村ニおいて万端不作法無之様兼而郡代所も彼等少々村方ニ而批判も有之由兼而心得置罷候様山岡与左衛門も噂有之ニ付忠兵衛江申含メ候所ノり書面を以申渡候由

三日 晴

一 明四日御仏參被仰出候旨小島右内方通用
一 小山屋与三右衛門切手はん州網干のた屋平蔵例年之通小まもの御

売昨日

一 越中富山向河原町松井屋佐兵衛老人例年之通反魂丹昨日入

四日 晴

一 捨夫持六拾四匁九分老厘式毛証文ヲ以受取申候

一 江戸表方相廻候大目付廻状 鑄錢定座并伏見鑄錢とも吹方年数ニも相成尤去巳年吹高減少も有之候へ共今以錢相場格別下直ニ而諸色直段ハ引上来殻ハ下直に相成世上難儀之趣も相聞候ニ付此度当表并伏見共鑄錢吹高不残引上可申ニ付諸色直段錢相場ニ釣合候様引下ケ高直之趣相聞候ハ、吟味之上急度可申付者也右之通町々相觸候間其旨可被心得候九月

右之趣可被相觸候松平右近將監殿御渡候御書付写巻通相達候「」從番正木志摩守方へ可被返候以上此書付永井甚大夫被相渡候ニ付町方江相觸候様申渡候

一 御用之儀有之候間明五日四時登城可有之旨市郷奉行中廻状

一 徳守宮祭祀先月鳴物御停止ニ付相延明五日六日ニ至祭祀之儀御聞届上紺屋町西之方燈灯伏見町同断断申出る

一 中之町平岡屋忠右衛門大坂梶木町玉子屋九兵衛往来日数三十日明日立

一 遊行上人舟中差添參候蔵元今日帰宿致し候

一 玉置忠兵衛方仕事致候者去ル二日日記之通文段此度罷越候ニ付一方村江差遣候右之者共於彼地要用之外徘徊不致尤諸勝負者不及申万端不行跡無之急度為慎候様申付候口段申上度御断書差上申候玉置印斎藤加印十月三日

五日 晴

一加治場橋出来往来始候由牧十郎治例之通案内

一今日諸士登城頭分御用所ニ而御前被為入勘解由殿発言文書を以被

仰渡候也引統御政事奉行永井甚大夫御書付読之被渡候様々写ス御

触留ニ有之候

御小姓頭 赤見類助

御奉者
大目付
寺社奉行

海老原極人

二百足
ツツ被下
勤御免

部屋住方

御小姓頭兼役 鈴木此右衛門

大目付
御政事

井上弥三兵衛

御免御上下
札座目付

福田嘉兵衛

御勝手惣奉行市郷 永井甚大夫

御免

井上忠次

下御俵約二付
上三ツ年御免
総議方御免

大村庄助

平沼職右衛門

大目付 平井郷左衛門

外並
添役

山田喜七

御中問頭

役
維も

一 刑法方暫闕役ニ付以前之通牢中其外之義役所ニ戻り候間大村庄助

福田嘉兵衛相請取候様永井甚大夫被申候へ共郡代所寺社用之

掛り合も御座候間夫々ニ相渡候様被成度旨申之銘々兩人相請取

候牢中諸事ハ福田引渡「申達ス」

一 御用日二七ニ被仰出候

一 惣ノ親子勤之者ハ各部屋住ニ御返し被成坊主ハ還俗被仰付候

一 明後七日亥猪之御祝被下置候間申中刻登城可有之旨大目付中廻

状

一 去月晦日之書記遊行舟場仮家作料七拾式匁七分六リン御作事引請

ニて可受取ニ相究メ候

一 此度御建方改り御新制相止候ニ付今日諸事以前通ニて役筋其外

御用所ニ罷出願訴訟及御沙汰候様甚大夫申聞候尤大目付中へ達し

候事も以前之通之心得

六日 晴

一 林田土手勝間田町分ニ行倒者卒中と相見言舌も通兼候由元来原土

居之者孫兵衛と申由何分氣を付遣し尤年寄共右村ニ書状遣し候

様ニ申付永井甚大夫ニ達ス

七日 晴

一 恒例之通今夕申之中刻諸士登城亥猪御祝義頂戴無滞相済

一 明日御仏参例之通浜田平大夫

一 岩佐考碩木屋太兵衛ぬし勘平御扶持半減被仰付候

一 妙法寺丈右衛門並今町掛り合おけ屋父子其外吟味書寺社取次西尾

多内且又当役所ニ大村庄助被相廻候

一 鍛冶次兵衛先達而勝山領垂水村出職百姓重助方去巳十月迄頼候処

次兵衛当八月下旬病死跡役介式人千之助世話差置申度来申之歳迄

鍛冶甚兵衛願書

八日 晴

一 七拾五文

九日 晴

一 今日今町紙屋虎吉おけ屋安次郎西田屋太助吟味

一 甲屋和助切手播州網千米千浜村菊屋弥一郎例年之通小間もの売備

中妹尾表屋善四郎同表売合葉播州姫路大村屋平吉同弟も平次式人

同墨筆並太もの売同断

一 勝間田役所金谷伴六山岡与左衛門拙者連名書状出雲守殿今般閑

宿城地拝領當領分上地被成御代官野村彦右衛門殿万年七郎右衛門殿引渡相濟只今迄隣端之領知何角心添に預忝存候旨届旁來書中村与左衛門和田安兵衛も同様到來即答道ス

一下こん屋町年寄山形屋太郎右衛門役免跡役同町福すみ屋吉左衛門申付ル

一錢拾六箇積下印調遣ス天野郡太六

十日 晴

一遊行役僧修領軒ハ飛脚御家老中寺社奉行取次勤者立合目付兼役中島喜大夫町医不殘大年寄共ニ至迄逗留中之礼狀到來文段扣に記ス

十一日 晴

一明十二日四時御仏參太田官平ハ

一御藏ハ明後十三日御給米役料渡候旨廻狀到來

十二日 時雨

一万人講ニ付來十四日ハ太鼓打候事申達ス

一去ル九月廿二日夜小免村勘六宅江盜賊入贓物書付郡代所かけ合町方觸書出ス

一明十三日四時御証月ニ付泰安寺御仏參

十三日 晴

一明日御仏參浜田平大夫ハ

一志摩守殿ハ被相贈候目録江口惠助武百疋御徒目付百疋下目付銀三兩基大夫江相渡ス

一去ル五日被仰渡候趣別ニ可記旨認候得共觸出し候義ニ無之候ニ付

左に相調置候

何茂兼而承知候通數年御勝手向御難波ニ付追々御俟約被仰出右ニ

付而者御家中引方等被仰出付何茂可被為難儀候処可也取統相動御

満足思召候然ル処去々年之御類焼打続去歳之御火用彼是御入用差

添ひ下地御大借之上無拗御新借出來其上江戶表北御長屋未致出來

近辺諸御大名方追々御普請出來當時ニ而板囲有之ハ此方樣計之樣

相成公儀御察度茂難計且又高田御住居ニ而者何角御不ノ無益之御

物入等も多く旁以御上屋敷飯御屋形并北表長屋至而鹿末之御普請

たり共是非來春迄に不被仰付候而者難相濟儀ニ候処下地御難波之

御勝手向増而右等之御入用一向手段無之剩上方筋御借物之儀近年

ニ而者公儀被仰出茂有之ニ付決而御不佇難相成儀此上御新借者難

相調誠術計尽果候趣御勝手方諸御役人精々相談之上申出勿論於御

用処茂遂評議候得共來九月迄御取統之手段曾而不相見甚当惑右ニ

付是非此上御家中二三ヶ年之間人別ニ而扶持相渡足輕中間等ニ至

迄御擬作減少之外致方無之儀と評決之上其段達御聽候然年來難

波之御家中并足輕中間此上右体被仰付候段至而御氣毒思召誠不被

安御寝食候依之何とそ此上勘弁之上御台所向并御役介様方御暮方

等之儀ハ如何様ニも御艱難被成且又愆而御建方ヲ被替役筋人數或

役米等猶又相減し候共御家中物成足輕中間渡方等ハ只今迄之通可

取計旨呉々被仰出候ニ付再忝御評議之上別紙之通今般被仰出候此

段及演達候午十月五日

覚

一諸士月並御礼不及登城年始八朔五節句御具足亥猪計可有登城事

一貳百石以上役料付人不被下事

一百九拾石以下役筋ニ寄相応役料可被下候

一部屋住勤之面々御擬作御引上勤向被指免候事

一御在國中御用日六斎

一作事方御儉約中成丈御普請不被仰付候事

一大役人已下石取勘定奉行支配

一足輕中間屋夫持相止

十四日 晴

十月

一入牢郡代所參候古城村医師元益今日出牢ニ付出牢手形当役所

遣シ立合藤森權六罷出ル

一今町西田屋太助虎吉安次郎呼出し再吟味取計候

十五日 晴ハツ後ハ時雨甚し

一万人講ニ付郡代山岡与左衛門大沢三平出役御貸し馬其外やり挾箱

例之通同心加人尾崎磯八加藤登八御貸人同心代り須々田定治稲田

善助無滞濟御用番一学殿へ直に御届申達候永井甚夫(マ)者連名手紙

遣ス

一寄札高九千三百三拾七枚此他札(マ)四拾六貫六百八拾五匁内拾四貫五

匁五分三步引ニノ三拾貳貫六百七拾九匁五分五十番ニ割。壹番壹

貫八百六拾七匁四分。十番壹貫六百五十匁六分六厘。廿番同。三

十番五貫六百貳匁五分。四十番壹貫六百八十匁六分六厘。五十番

三貫七百三拾四匁八分間々三百七拾三匁四分貳厘

一こん屋町淀五郎二宮村江引越之願双方江出候処村方少々相滞候処

事濟候ニ付引合相濟聞届申渡ス

一今日造酒之助殿江戸表ハ帰着

十六日 晴

一乃井野森達五郎殿家中河端代八ハ此方様御役人中口宛書状到来其

趣当御預所作州久米南条郡大戸下村源六塚角村祐八ハ其御許様中

川筋御積下米積請願之儀ニ付罷出度段申出候間則差出申候願之趣

御聞札被下宜御取計被遣可被下候旨添翰ニ而訴状之表津山御領分

御登米御川下之内三步通長岡舟持共御請負申上積受申度奉存候何

とそ御慈悲之上願之通被仰付可被下候右兩人印津山役所宛藏元

取次大年寄江差出し候ニ付永井甚大夫へ申達候尤一学殿江も於御

席及御沙汰尚又下方ニ而故障之儀ニも以來有之間敷哉相尋候処甚

舟方ノり御為ニも相成可申旨書付出し候且又田原船長岡船当所船

売荷之儀ニ付候而も以後唯番立候得者外河岸ニ而勝手づく荷を積

候事も難成舟廻りも自然と宜可御座儀も相聞候旁願聞届可申旨申

達候

一去ル六日勝間田町行倒孫兵衛と申者今朝相果候旨申出候ニ付藤森

權六差出し見分いたし候処何之不審も無之無宿之者ニ付双方申達

之上小屋江申付相埋候様ニと大年寄江申渡候

一明十七日地藏院御社參被遊候旨浜田平大夫ハ

十七日 時雨

一牢番之中間刑方法ニ而是迄支配ニ候処此度以前江戻し御仲間頭支

配ニ致し及御噂今日御中間頭山田喜七へ引渡ス

一備前上道郡西大寺村源五郎粹源太郎当午十四才此度西新町玉屋猪

右衛門借屋宗十郎甥ニ而引受申度願聞届

一堺町作人市左衛門願右町西側ニ而家屋敷表口式間半裏行拾壹間役

同月廿四日証文出ル

ハ半南隣ハ小林主水北隣ハ大工利右衛門右家屋敷式百八拾匁同町
天の屋宗兵衛へ売渡

同月十八日三紙文出ス

一坪井町高砂屋安右衛門願上紺屋町南側ニ而家屋敷表口三間裏行拾
七間但本役東隣ハ中津屋伊右衛門西隣ハ自分借屋右家屋敷百五拾
目町内作人多助江売渡シ

十八日 晴

一かち町平七疏状又候差出し永井甚大夫被差越候去月十四日之書
記ニも有之候

一甲屋和助切手播州網干新在家伊部屋清六例之通塩もの并鯉節売

十九日 晴朝時雨

一丈右衛門出牢寺社取次西尾多内へ相渡ス三舟孫八差遣ス先方御
使組老人被差出候即日追込。当役所ニ而おけ屋幸助父子三人共に
出牢之上追込取計上総屋和助ハ取押候ニ付称美其外ぬし屋喜助預
ケ免し。福見屋吉兵衛原屋茂八兩人ハ禁足。安次郎虎吉ハ呵。年
寄兩人呵右相濟双方江御届申達ス

廿日 晴時雨

甲戸屋敷
一十郎切手紀州海士郡日方浦池谷町善次郎手代十蔵文蔵例
年之通腕折敷売。筑前遠賀郡柏原浦小平次手代藤九郎弥三次例年
之通茶碗類売昨日入。材木町うかい屋宇助紀州高や山宝蓮院使僧
順良房上下式人例年之通且那廻り昨日入

廿一日 曇

一大神楽岡田忠大夫昨日参候届

廿二日 今夕夜中雪

一今日御用日ニ付例之通出仕罷在候処御次呼に参「」宇源次被罷
出被為召候間左様相心得候様被申聞間もなく御居間ニおいて御武
学被遊候間可申上之旨御直之御意ニ而奉畏三八之当日出仕可仕旨
蒙仰退座仕候則大目付所江一通及御沙汰置候

一毎月朔日十五日御目見被為請候旨永井甚大夫被申聞候

廿三日 晴今夕雪有

一去ル十六日之書記ニ付今日御登り米方河瀬官兵衛江対面右舟肝煎
源六秋八兩人聞届候間対部候而証文等被申付尚又栗子村小瀬村舟
頭共も同様相望候由添翰書礼ニ付為後日此方不念不相成候様各方
迄書付御取可然旨申談置候此旨永井甚大夫江も及噂御勘定所江も
かけ合置候

一今日上紺屋町灰屋善右衛門借屋平七呼出し疏状口候趣意相尋候上
加治町かち又兵衛并福渡町やね屋善三郎へ平七所存為尋候所是ハ
不通尤親不知子不知ニ而相分レ候由書付出ス又兵衛儀も借屋賃を
遣シ是迄段々志を建候儀ニ付此上いか様ニ相成候迎も不及是非候
旨書付出ス仍之両町年寄共申談候様ニ申付候所全仕方無御座候由
申出る

廿四日 晴

一横山村盜賊番四郎兵衛林田村ニ而伊兵衛と申盜賊召捕候由申出今
日入牢手形山岡与左衛門を来り此方手形室并作右衛門に相渡山岡与左衛門
同心御差向之方へ兩人足輕出候
候様申来

廿五日 晴

一 当八月以来掛り合候茅町伊十郎之掛り今町福場□源兵衛塚公事之儀取捌致し候ニ付棟梁呼出し尤掛り合之者共両町年寄并安岡町年寄久米屋勘右衛門儀も為立合申渡し取計候畢而岩佐屋源六ハ茅町町内弘元魚町ニ而相扨年寄油屋与市ハ書付取帰石名左助 香山多藏福葉屋追込伝十郎同断甚七禁足申付御両所江御届申達ス

一 山岡与左衛門ハ同前村盜賊番与作藤吉と申盜賊を召捕候明朝入牢申付候間五半時同心老人貸呉候様申来

一 鳥屋与三兵衛切手播州池田村月野木町植木屋平兵衛同茂平例年之通うヘ木売昨日入。桔梗屋庄右衛門切手高野山万生院使僧知翁上
下式人例年之通且那廻り昨日入

廿六日 晴

一 盗人藤吉入牢手形遣ス三舟孫ハ差向方ハ足輕兩人出る

一 今町おけ屋幸助同悴辰次郎坪井町おけ屋多七追込免し申達ス

一 堺屋伊右衛門切手備前岡山瓦屋甚八例年之通元結卸売昨日入

一 茅町年寄右一条之咎メ禁足申付候

一 元魚町漆屋喜七断商用ニ付大坂松屋甚兵衛へ参明日立往来廿日

一 郡代所ハ生野御代官所御廻米明日樋河岸積出し有之候由申出丸洲中楊番人之儀例年之通申付呉候様申来則申渡ス

廿七日 晴

一 西田屋追込申付及御沙汰取計御両所江申達ス

一 林田上之町河野林平家横手に昨日小櫃老ツ終日有之瓦屋伝十郎見付林平と立合見届申出候ニ付盜ものも難計及御沙汰かけ合町分ヘ

触取計可然旨郡代山岡与左衛門ハ被申聞則触出し引渡候

一 桶屋町おけ屋治右衛門家屋敷西側北角ニ而表口巷間半裏行拾老間半但半役南隣ハ桶屋仁左衛門北ハ大溝也右之家屋敷代銀貳百目同町桶屋太郎右衛門江売渡し

一 去ル廿三日書記乃井野ハ添輪長岡舟肝煎願之趣聞届今日返輪蔵元へ相渡ス

一 かも屋和六切手奈良今町墨屋伊兵衛手代源助老人例年之通墨売昨日入

廿八日 晴 廿九日 晴

一 茅町年寄差扣免申付

一 乃井野飛脚到来相場書例年之通差越候様同伝勤左衛門福居清大夫石川専左衛門連名ニ而書状勿論河端代ハハ可遣之処故障ニ付申越候由

一 備中倉敷御代官所手代若林久米右衛門中村弥右衛門ハ来書万年七郎右衛門殿野村彦右衛門殿村々預り書石代ニ致候ニ付津山町上中

下平均相場書取ニ参

十一月朔日 晴

一 今日御吉事日ニ付恒例之通御普代中大書院ニおいて御目見有之候其以前御居間御目見例之通拙者義も罷出候表御目見相済引続御赤

飯頂戴

二日 晴

一 衛守殿於御次平井郷左衛門出合郡代山岡与左衛門拙者兩人江此度

在中江式千俵町江式拾貫□懸り銀被仰附日切之儀者追而可申達候旨被仰渡

一右同所ニ而又々出合同人玉置広四郎大年寄役可申付被仰渡勿論御扶持方並之通被下候旨「」奉書を以於宅申渡ス孫左衛門同道立合石名平太兵衛同佐五兵衛

一於同所出合同人去々冬半舍被仰付候青次理介佐介出牢親類江御預ケ稠敷禁足致罷在候様申附尤一体ノり取計候様被仰渡即日於宅三人江申渡シ親類并組合一列ニ呼出書付を以預ケ申付受一札取之引続町方一統触書差出之申渡之帳面ニ文段出之

三日 晴

一広嶺英住藏人来着花屋忠八届出ル

一明四日例刻御仏詣太田官平申来ル

一小性町肥地屋兵助切手大社多久十大夫上下式人昨日入

一作人伝十郎福葉屋源兵衛去ル廿五日追込今日差免ス御届申達ス

四日 晴

一西田屋多助去ル廿七日追込今日免届申達ス

一坪井へ上米平均書付例之通相廻ス

一加茂屋和六切手奈羅合井町岡島忠兵衛墨売昨日来ル

一材木町三家屋幸三郎同町中村意藉家役之儀ニ付拙者存寄書面を以大年寄齋藤孫右衛門江申含メ取計候一条書面右町年寄ニ相渡ス孫右衛門「」扣有之

五日 晴

一幾野御代官所手代大井田与五良中里忠助上中下并大豆相場書昨日

申来リ今日返書遣ス

六日 晴 七日 晴

一昨日郡代山岡与左衛門ノ盗人清助同紛仁三郎入牢手形来リ同心神田権兵衛貸呉候様申来役所手形を以入牢取計候

一美濃職人町杉屋伊兵衛世倅虎蔵当二月四国ニ出候処伊予国猪九郎町ニ而煩七月十五日相果候由中之町天河屋善七立合村役人応対之上帰候由届出ル

一明日例之刻御仏詣小島右内申聞

一紺屋町善右衛門借屋平七三度目之疏状被成御渡候

一勝山へ相場書遣候ニ付飛脚之儀大目附中江申達ス今夕飛脚之者江相渡ス御使組村上平次

八日 晴

一元魚町玉島屋方江西川へ遣候相場書遣置候

九日 晴 十日 晴

一明十一日御証月ニ而御仏詣被遊候旨小島右内

十一日 晴

一明十二日御仏詣被仰出浜田平大夫来ル

一衛守殿ノ明十二日四時御用之儀有之候間出仕可仕之旨切紙奉書到来御請手紙遣ス

十二日 晴

一今日被為召大目付平井郷左衛門同道於御列座御家老永見造酒之助殿御用番小須賀一学殿被仰渡

御意被成候遊行上人逗留中出役致出精太儀ニ被思召候此旨被仰

出候

右之外遊行懸り寺社奉行大御目付中御使番寺社取次中小勘者御作
事方迄同様御称美之御意有之各御礼廻務

一遊行ニ付出火之節駆付高張ニ大文字箱燈灯持用意人足其備中へ聞
合ニ遣候大室屋藤兵衛小遣都合百五拾四匁七厘是ハ問屋の取計候
間可相渡分御勘定所へ書付廻ス御金蔵引請ニ而候出立之両日船場
仮小屋ニ付諸人用も此内ニ籠り候

一長安寺の寺社方へ願林田永福庵ニ不動安置西新町忠助と申者講頭
ニ而候由此方尋候処無相違之旨申出候

一來ル十一月五日万人講興行仕度旨講元伺出候御聞届相濟候

一組屋勘十郎先達而綿実車一羽相願候処初年之儀ニ付先片羽立商買
仕度水場所之儀新田村分御墓所之下もニ而郡代所聞届落候由届書
差出及御沙汰候玄關司ニ入置候

一御触書大目付中の 井伊掃部頭様御末女於静様御病氣之処御養生
不被成御叶去月十九日御卒去被成候仍之今日より來ル十四日迄鳴
物高声御停止之事ニ候尤普請不苦候

右御触書組中牢屋三軒家町中迄相触候

一幾野御代官所手代大井田与五郎中里忠助の郡代所へ來書御城米粉
共積下有之候所渴水ニ付御領内船暫之内津山宮尾樋田殿河岸ニ相
廻し差支無之様致度以上申來り尤宮尾御廻米御用ニ付其役之者の
小桁御番所へハ売物船差留候様申來り領内売落物ハ相心得候得共
外私領方之儀其儀取計難成之旨申遣候由何れニも船方取計之儀ハ
当役所取計ニ付宜申遣旨一学殿被仰渡郡代所へ來候書状何角大

目付所の被相渡候尤郡代山岡与左衛門ニも懸合致し今日蔵元ニ申
合向方之様子乍承宮尾蔵元方へ姫し屋彦兵衛を遣候

一七拾八文

十三日 晴

一明十四日御仏參被遊候旨小島右内申來ル

十四日 今晚時雨 十五日 晴

一錢七拾七文

十六日 晴

川船

一幾野へ之返答蔵元彦兵衛持參致候処出役之者相受取候由尤御城米
之儀ニ候間何分船方之者共の手配致し追相廻し候様ニ申遣ス勿論
当方も渴水ニ而甚川下ケ差添及当惑殊ニ船員數も限り有之事ニ付
其段も申遣シ何艘と申員數ハ不申遣候文段來返共に書翰扣有之候
宮尾村へ船四艘地米遣ス昨日登今日五拾五俵積下ル由

一遊行上人ニ付町医者其外本坊下宿用達し并問屋共迄出精相動候儀
賞詞於宅申渡致候勿論大年寄共儀ハ格別ニ申渡候大保頭又は中買
頭の玄関ニ而称詞申渡ス尤遊行上人一条ニ付別帳ニ有之間略之候
且又御作事方之類ニ付町大工棟梁とも大年寄於宅遊行來着之砌昼
夜甚致出精候儀賞詞為致候

一明日地藏院御社參夫の泰安寺御仏參被遊候旨小島右内申來ル

一肥地屋兵藏切手勢州浅熊岳明王院役僧誠可坊悦忠坊宝蔵坊上下六

人例年之通且那廻り昨日入

一上紺屋町疏状差出し候灰屋借屋平七呼出し吟味申付候所鍛冶又兵
衛ニ当住可預介抱ニてもなく手足不叶ニも相成候時ハ餓死ニ不及

候様致呉候様之主意ニ決候故書もの取之候

十七日 晴

一 こん矢町平七口上之趣又兵衛主意書付御用番一学殿ニ及御沙汰候而疏状ハ差上候追付取捌に相伺御聞届被成候ニ付今日鍛冶又兵衛呼出し上紺屋町年寄平七大家并組合之老人も呼出し為立合申渡候大意又兵衛儀右平七をハ内々世話無残所いづれニも平七疏状之大意餓死ニ不及様ニと申ニ付手足之立候内ハ所々無心を申口業致し候積ニ候手足も立不申候得者餓死之道理ニ候間右ニ及候跡ハ兩町年寄申合大年寄ニ記せ可致候其期ニ及候ハ、申付候趣有之旨申渡候是ハ其節ハ急度為難候扱右畢而大年寄共ハ兩町年寄へ申合せ候ハ兩町年寄へ又兵衛ハたとえハ五日ニ五分か又三分ツ、ニても請取置候定ニ而平七ニ一時ニ不渡不快ニ而他行得不改又ハ折ヲ見合五分老奴ツ、ニて遣候様取計候様ニ申渡候是ニ而又兵衛ハ此所より乍蔭養育致遣候趣ニ相成候表向ニ而難申付候ニ付右申付候

一 豆腐大豆下直に相成候ニ付拾三文ニ商買致候旨申出及御沙汰候

十八日 晴

一 今日万人講ニ付山岡与左衛門拙者兩人出役致候小川半治石名平太兵衛例之通罷出候寄札高老万百九拾四枚此銀札五拾貫九百七匁内拾五貫貳百九拾老匁三步引六拾番割老番老貫五百貳拾五匁。拾番老貫拾九匁四分。貳十番同。三拾番六貫百拾六匁中。四十番老貫拾九匁中。五拾はん同。六拾番貳貫三百四拾四匁六分貳厘。間々四百七匁七分六厘右無滞相濟御用番一学殿へ兩人共罷越相届平并郷左衛門ハ手紙ヲ以申達ス

一 平岡屋忠藏借屋家守榎屋丈右衛門願万年七郎右衛門殿御代官所勝南郡新田村太兵衛悴幾右衛門当午廿三才此度引請養子ニ致度

一 東新町山本平右衛門願妹まん当午拾八才此度備中等岡野村彦右衛門殿御代官所東北条郡小中原村要右衛門養女ニ指遣度願

一 十九日 夜中ハ雨 廿日 晴 廿一日 晴

一 勝山家中田中仁左衛門へ先達而志摩守殿ハ出役之者ニ被贈候礼書遣し候処今日右返書来ル同日廿二日証文出ル

一 東新町坂本屋藤七願持屋敷南側ニ而表口三間裏行拾七間五步役西ハ延屋ハ右衛門東ハ因幡屋茂市也町内松屋吉兵衛取次ニ而三百目質入

廿二日 晴

一 西新町伊木屋源右衛門願備前西大寺村吉次郎悴幾之助と申者式拾老才養子致度聞届

一 林田余塩屋文右衛門願上之町長助借屋利右衛門当午六拾三才手前へ引請

廿三日 晴 廿四日 晴

一 小川町勘七後家独柄之者ニ候処今日病死之届申達ス

一 元魚町作人喜右衛門家屋敷西側ニ而表口四間半裏行十七間本役也北隣ハ自分家南隣ハ同借屋ニ而銀札八百目八百屋四郎左衛門へ売

一直屋市郎左衛門ハ他受酒株中之町三室屋并助へ差戻し
一 生野御代官所手代大井田与五郎中里忠助ハ去ル十二日之書記之趣御代官被仰大慶候而挨拶之趣申来ル同日廿七及御尋置候

一船頭町今岡屋浅右衛門切手阿州板野郡川端村常本屋清兵衛藍玉例年之通。同州同郡成瀬村曾右衛門同断

廿五日 晴 廿六日 晴

一今日九時御供揃院庄江御遠乗被為入田町御門今町夫今二宮江御懸り被成候小島右内今

一鍛冶町かち与助北側表口式間裏行十七間但半役東隣八かち嘉七西隣八横野屋徳右衛門代銀札八百目右徳右衛門江売同月廿八日証文出

一川津川村豊田多吉倅二男吉之丞廿才此度二階町ぬし勤平養子引請願

一材木町万屋与三兵衛借屋作人平十郎家内式人林田上之町定吉借屋へ引越

廿七日 小雨

一桶屋町土橋損し届出申達ス

一桔梗屋庄右衛門切手京四条通富小路大和屋五兵衛手代伝兵衛例年之通小間もの掛ケ取參候。出雲大社西村神大夫上下四人例年之通且那廻り昨日入

一備中小坂辺水野屋但馬殿内鈴木甚大夫江相場書江戸岡村要助大場伊平次へ例年通頼遣ス

廿八日 晴

一今日公儀今之御触書出る浪人者其外替女座頭之類無体之義共申懸ケ候儀ニ付御文段別に記ス則組中町方へ触出ス有僧近年浪人杯と申百姓家江合力を与少分之合力銭ハ悪口し宿を与品々難題を申ねたり候右体之者ハ召捕させ勿論いか様ニ申候共決而止宿不為致苗

字帶刀致候者候ハ、一銭之合力も致間敷候 一旅僧修驗替女座頭之類物質之者共志次第報謝を請相對ニ而やとを借可申処押而宿を取ねたり申懸候以来右体不法之者前ケ条同様為召捕召連可出候若

相背者其村方越度たるへきもの也大概如此則先達之虚無僧御触之通に板に記入口に打可置旨大年寄江申付候

一愛宕山長床坊使僧常意坊上下三人ひち屋兵蔵切手

一伏見町松本屋平助北側ニ而表口式間裏行御堀石垣切但半役西隣作人重助東隣田野村屋喜七町内筑後屋取次ニ而百目質物ニ入

一元魚町あは屋新十郎御領分和田村治兵衛五十八歳自分借屋へ引請

廿九日 晴

一今日牢屋江見分ニ罷出る平太兵衛石名左五兵衛同道尤伝内供に召連候中間義八家損し見分

一伏見町柙屋与四兵衛借屋作人源七去ル十月廿六日与風罷出彼是見合候内罷帰不申方々尋候得共今行方不知候ニ付届承置候

一中間勘右衛門後家願勘右衛門相果候後為勤候者無之是迄私株所持致候処今般二階町大和屋富次郎由緒有之候ニ付中間株相讓申度旨

聞届候

同月廿八日証文出
一福渡町作人五兵衛北側ニ而家屋敷表口四間裏行拾七間但巷間役東

隣ハ品屋勘吉西隣ハ作人弥源次代銀四百目同町作人藤吉江売渡

卅日 晴

十二月朔日 晴

一御居間ニおいて例之通御目見申上候

一魚住藏人御目見被仰付候

一今日被為召候面々

御使番

兒玉新助

御小姓

兒玉丈蔵

御小納戸

石田新次

御小姓

吉田喜介

一今日大坂広瀬義平土居官次方来書中之町大塚屋十次郎へ懸り大坂

高津新地大和屋忠次郎方借銀滞訴状差出候ニ付十月廿六日町御奉

行室賀山城守殿へ御呼出ニ付義平罷罷出候処右訴状津山へ届御申

渡日六拾日限りニ銀子払可申旨申渡候様遠国役与力を以被仰渡

尤幾野御代官所錦織村大黒屋佐助同様承ニ付義平方江参此借銀金

大塚屋借ものにて無之何とそ内済仕度左相成候へ者幸候事何とそ

相済候嘍致可申之旨義平方申聞候ニ付嘍候得共難相済候ニ付同人

書付も訴訟写ニ一所に大目付中へ相廻候旨申来候仍之即刻大年寄

江申合メ十次郎儀ハ組合預に申付候公儀公事之掛り候者故右書面之内十次郎病

氣之断も申候にて来正月十日迄ニ大坂へ相

連候様申来り候先段御申渡之日六拾日限りと存之候儀不審

一玉置広四郎大年寄役申付候而初而月番相勤候

一阿州名東郡芝原村栄次郎。同州名西郡高原村直兵衛手代平左衛門

式人。同州板野郡高房村新兵衛右之四人例年之通藍玉壳昨日入各

河内屋藤三郎切手

一坪井町釧屋市郎左衛門後家自国請酒株大津屋七郎左衛門江譲り申

度聞届

一船頭町儀兵衛と申者去ル比町内舟大工助八与口論助八親子に打擲

に逢候而断出候ニ付双方共預ケニ申付置返答書助八江申付追々可

及吟味之処町内瓜生原屋仁左衛門山家屋甚助嘍之内済之断申出候

ニ付此後助八江決而申分無之旨済口書付差出候ニ付聞届遣し候

二日 晴

一大坂の大御目付所江相廻候訴状写并大黒屋佐助方義平江出候書付

御用番山田衛守殿方御渡被成候拙者江参候書面是又及御噂今日十

次郎役所江呼出し訴状之趣申渡シ返答書申付候

一来正月十八日万人講被仰付被下候様願出尤講元主意ハ右三步銀を

以惣町方ニ季之大割少々之助力にも相成候様致度存候得者講元共

惣町方江之働も相成難有奉存候旨此儀を以表ニ出候得者名目付

候而在又ハ寺院社方江之引例も可相成ニ付別紙を以申上候処則

日御聞届候而則講元共江申渡させ候

三日 晴

一明日例之刻御仏詣被仰出太田官平方申来候

一錢百箇裏印遣ス

四日 晴

一今津屋孫十郎方備中御代官野村彦右衛門殿万年七郎右衛門殿御代

官所手代松田忠助大熊喜四郎兩人状相届当分預り所江戸廻り米川

下ケニ付蔵元を孫十郎ニ申付候由出火之節駆付人足申付呉候様頼

来り兩人印鑑老枚小桁番所へ是ハ山岡与左衛門江頼遣ス来返扣ニ

有之候

一吹屋町木屋理右衛門土手側ニ而家屋敷表口六間半裏行五間但半役

西隣東隣共に木屋伝七ニ而式百五拾目同町山城屋善左衛門へ売渡

し同月十二日証文出る

五日 晴後雨

一 万人講ニ付郡代山岡与左衛門当役拙者出役致し候無滞相濟衛守殿
江御届ニ參大目付中江も手紙ニ而遣ス寄高式千七百四十八枚此銀
札拾三貫七百四拾匁内三步引ニノ九貫六百拾八匁六十番割。一番
四百拾式匁式分。拾番式百七拾四匁八分。二十番同三拾番壹貫六
百四拾八匁八分。四拾番式百七拾四匁八分。五拾番同。六拾番六
百三拾式匁四厘間々百九匁九分式厘

一 大坂広瀬義平土井官士江去ル朔日書記之一件之内町奉行所ニ而御
申渡之日ハ六拾日与申儀ニ候哉又ハ拙者大塚江申渡候日ハ六拾日
与申儀ニ候哉両様承度今日御飛脚仕舞ニ付書状差遣候

六日 晴

一 送り者駿州間有郡中里邑長命寺弟子覚元四十才計備中釜村ハ送り
昨五日郡代所引合及御沙汰

七日 晴

一 明八日例之通御仏參被仰出小島右内ハ

一 御勘定奉行清水多吉ハ大坂山本治兵衛御当所ニ而大坂廻り木綿仕
入主法書付大年寄共江申聞せ下方ニ而得胃可致哉考候様子ニ寄木
綿元入ハ老端ニ付銀札三匁ほとハ相渡木綿ニ仕立相廻候得者老端
代遣し候其為銀手間代ニ而廻人を救右ニ付五六万両も御当所ハ銀
高入候と申工面及御沙汰候由ニ而被相廻則日大目付所江も及噲置
大年寄共ハ申聞せ書面為寫候

一 馬持共頭四人ハ大豆拝借例之通御聞届濟五年賦老貫五百匁寅之年
ハ当年分迄相濟又々相願候処勘定所ニ而滞不相濟

一 妙法寺来三月鐘樓供養并諸法両橋建札伺相濟種村弥大夫ハ通用

一 銀札場錢七拾箇川下印形遣候

一 安岡町ニ而南側かや町打穴屋庄右衛門家屋敷岡崎屋善吉ハ請返候
一元魚町西側作人喜右衛門家屋敷表口式間式歩五厘裏行拾七間但半
役北隣ハ福津屋与三兵衛南隣ハ八百屋四郎左衛門新魚町作人次兵
衛ハ式百目取次来未ハ子迄三則六年納崩願

八日 雪

一 阿州板野郡中富村兵助手代平兵衛同州名西郡桑島村武右衛門手代
与一兵衛吉兵衛式人同州名西郡桑島村平次兵衛手代七右衛門老入
各藍玉壳昨日入京町今出屋切手

九日 晴

一 西新町岸屋茂助俵左五兵衛当十九才此度大道具御奉公相勤申度書
付出し候引合相濟候ニ付聞届

一 安岡町南側ニ而茅町うたの屋庄右衛門一昨日書記ニ有之東ハ米屋
十右衛門西隣ハ扇屋兵助右家老貫三百目ニ而岡崎屋善吉江壳渡し

十日 晴

一 大坂北浜大川町錢屋七郎右衛門上下式人例年之通小間物掛銀取肥
地屋切手

一 今夕非人共一宮辺ニ而野伏五六人連綿申出る吟味小屋切為取計候

十一日 晴

一 明日例之通泰安寺御供詣被仰出太田官平ハ

十二日 晴

一 玉置広四郎組屋勘十郎右両人ハ大坂京橋五丁目野屋庄左衛門手

代參繰油之仕方尋候処公儀御触之通相守他之繰り巻ヲ以テ候儀ハ
曾而致不申由組屋ハ手作手繰と申之致置方御領分内々実買たし申
候て拙者連も同様御他領之美ハ繰り不申旨答之候由

一伊勢内宮藤波神主手代北村善右衛門老入例年之通且那廻り昨日入
堺屋伊右衛門切手

一大年寄三人歳暮御祝儀献上之伺申達候上申渡ス

一二宮へ出作致候久米屋兵八又候来未タ亥迄出作追願

一二階町塗師勘平方へ津川山番豊田多吉悴吉之丞養子ニ取組引合相
濟

一遊行来着之砌町医へ被下物并菓飯取代今日相受則大年寄へ渡ス遊
行一件ニ記ス

十三日 晴

亮券同月廿日出ス

一安岡町南側米屋市之丞家屋敷表口式間半裏行拾三間但半役也東隣
ハ井手屋武助西隣榎屋勘左衛門代銀二百目同町岡崎屋弥吉江壳渡
シ

一明十四日御仏參例之通小島右内

一盗人雲州大原郡大戸村出生之由与三郎と申者山北村分古屋主馬屋
敷之後に居候喜八と申者之所に昨夜居候を目明*

□銀札通用ニ付正金銀錢取やり停止之処何と噂候不埒之儀ニ候由
近藤次左衛門通用ニ付ノリ之触書出ス

(挿入)

※源八右与三郎無宿ものと見込且此間物惣ニ付彼等屋夜心懸候所

存入候儀ニ付非人四人計召連參喜八に談シ同用ニ雇候哉と尋候所
唯參居候様申ニ付相尋候御用之趣候間可被渡と申候処致承知則門

先ニ而非人に纏をうたせ小屋江連掃致吟味候処やと喜八脇指盜去
ル八日比ニも候哉白神宮拜殿之下に埋有之神主も立合候由其外北
村瓦屋ニ而紙入を取八百屋町先達八兵衛と申者ニ預有之候旁年来
無宿ニ而在町致徘徊候者之由難捨置衛守殿并大目付海老原極人江
も申達今夕明日御日柄ニ付牢番預ケニ取計候

一中之町福谷屋清兵衛家中之町北側表口三間裏行十七間但三歩三厘
東隣平岡屋忠右衛門西隣有元宗鴻娘里う去ル丑之年同町藤屋安右
衛門江質物に入式百目借候処此度請返し申度願

一堺町桶屋市右衛門願悴辰次郎坂手辰次郎与改小沢諸冷江家来ニ而
抱奉公相勤させ申度願

一中之町平岡屋忠右衛門借屋榎屋丈右衛門願新田村太兵衛悴幾右衛
門先達而相願養子ニ致候処此度幾右衛門儀親太兵衛方へ相戻し願

十四日 晴 十五日 晴

一今日於御座之間御目見申上候

一魚住藏人明十六日出立ニ付暇迄罷越候

一大坂広瀬義平土井官次去ル五日遣候大塚屋一件之返状到来大塚
屋十次郎へ当方ニおいて申渡候日六拾日と申日積之由仍之十一
月四日十次郎へ申渡候趣ニいたし然る処同人儀胸痛ニ付登坂致か
たく快氣次第罷登り可申旨日延願仕度段申出候其段追々申達候
一中之町高尾屋勘七切手あほし塩屋伊兵衛同弟介三郎式人品物塩も
の

一同人切手同州余陸屋惣七同手代彦右衛門式人例年之通八百屋もの
昨日入

一 東新町桃屋甚右衛門借屋ニ居候菊松屋茂右衛門後家此度林田上之町喜八借屋へ引越

一 豊野屋忠左衛門備中笠岡御代官所小中原村忠五郎妹類拾六才此度妻に引受

十六日 晴 十七日 晴

一 明日四時御供揃ニ而川向江御遠乗に被為入小島此母前夫の細工町竹之馬場今町蘭田之前鉄砲町前へ入候御帰ハ川戸前夫の円右衛門前京橋江被為入候太田官平の

一 先日郡代所入牢致し候盜賊伊兵衛同藤吉同仁三郎同清八出牢之上追払取計可申旨於御次衛守殿被仰渡候尤郡代へ懸合可申旨被仰聞立合大目付海老原極人

十八日 晴

一 今日牢舍人昨日書記之者追払取計候

一十八 二十一 十五
伊兵衛藤吉仁三郎へ申渡

其方共当領所ニおいて致盜候ニ付死罪難遁者候得共今般以御慈悲御領分追払申付候此以後立帰致徘徊おいて可為曲事候

五十四
清八

悴仁三郎儀於当領致盜候儀乍存相包罷有候段不届事候元来其方義盜賊之由ハ及白状候得共当領ニ而惡事無之候ニ付御領分追払

申付候此以後立帰致徘徊おいてハ可為曲事候

右之盜賊神戸御境目ニ而追払候出番帳ニ有之候

一 備中小坂辺水野谷殿内中島丈右衛門近藤武左衛門の來書例歳米平

平均書江戸表へ相廻し為挨拶産物之紙一束到來廿日ニ返書遣ス

十九日 晴

一 郡代所の通用去ル六日之書記送り者撰州西之宮の送り戻し候ニ付其段申付候由

一 大塚屋十次郎の大坂江飛脚明後日差立候由申出る

廿日 晴

一 昨日之書記町分送り新田村江相渡し候旨届候ニ付御所へ申達ス
一 ひめし腕屋藤兵衛例年之通腕からもの売切手ふくも屋
一 撰州大坂小ほうし理兵衛例年之通墨筆切手同断

一 二町目小倉屋茂兵衛当八月四日之書記一件此度大坂遠国方ニ而取捌宮尾村為三郎急度被呵候由茂兵衛手形ハ取上被成播州之穢多左助江被渡候を去ル十六日之比ニ二丁目茂兵衛方江持參預置候銀子受取帰り候口尤取捌之次第書付茂兵衛ニ相渡し候由其趣別ニ有之

廿一日 晴

一 大塚屋登坂之儀病氣ニ付延断書今日大坂江飛脚差立候

一 備中倉敷笠岡両御代官所御廻米川下今日ニ而積切郡代所の通用

廿二日 晴

一 追廻し御廻米出役人今日引払候由蔵元の届出ル

一 西川永松太惣左衛門酒井良藏の通文候紙千枚到来則及返答候

廿三日 晴

一 安岡町角屋藤十郎北側家屋敷表口式間半裏行拾四間半但半役東隣ハ鶴屋長兵衛西隣ハ割屋嘉助代銀式百五拾匁同町杉田屋三助へ売

廿四日 晴

一 今日不時御用御出席有之昨夕大目付中の為知書面來ル

一 船持共壹貫貳拾目拜借去歳迄納願候所當暮又々拜借申出候已之歳迄五年賦ニ候へ者去歳可相願之処不審ニ及候処去歳ハ船働も能作事も宜候併当年ハ干水其上船仕事不宜候ニ付御願申候旨相聞候然処今日御用所ハ一学殿船持共拜借之事此義ニ付勘定方ニ而手当等も有之候由来歳ハ格別当年ハ御聞届無之旨被仰願願御下ケ被成候則日大年寄共へ申渡候

一 石名平太兵衛五式百疋出候由例年礼廻不及候由

一 橋元町浜七儀先達而徘徊ハ御差免被成候此度帰住宅被仰付候旨於御次之間一学殿被仰渡大目付海老原極人立合則日玉置広四郎於宅申渡石名左五兵衛立合

廿五日 晴

一 山田彦大夫悴織之進不叶存寄離縁致同人妻儀ハ勘当仕度昨日書付差出候処則日御聞届被成今晚出立引弘せ申候右ニ付格別之間柄ニ付差扣山岡与左衛門を以相窺候

一 去ル十二日之書記大坂日野屋手代へ玉置并組屋実車之儀繰方主法心得及返答候得共彼等存寄と役所之取計之趣聞達候而ハ公儀ハ以来御察度有之上御不念被成候儀も難計仍之昨日同役孫右衛門へ申含メ玉置并組屋へ申渡計せ候大意左之通

実干商賈ニ付其主法并取計等之儀以来從公儀御糺御察度之儀も有之候ハ先達而如此願之趣ヲ以申付候尤度々被仰出之趣急度相守候様申渡候旨可及返答候兼而其旨間違無之様心得可罷有候

一 西新町大笹屋平吉北側表口式間半裏行拾七間大溝切但半役東隣ハ岡本屋伊右衛門西隣ハ疊屋利助大塚屋字兵衛取次ニ而式百匁来十

月迄質入

廿六日 晴

一 今日御用席有之候由一昨日大御目付所ハ為知有之候

一 司馬五郎様九半時御供揃二宮御遠乗田町御門ハ大番所夫ハ西今町安岡町稻垣茂士ハ

一 京町戸屋若右衛門親佐右衛門先達而願大坂今橋島池新七方へ罷候処病氣ニ付為保養昨日參着来春迄逗留

一 明廿七日四時登城可仕之旨一学殿ハ切紙到来御城ニ罷在候ニ付御請書坊主ハ相渡候

一 三丁目浜野屋十郎兵衛去歳大借難相渡家財売払分散致し以来ハ家口他之売物等取次商ひいたし候得共甚難儀ニ及候然ル処封印銀札壹貫百目計有之候開封之儀願出候ニ付勘定所ハ引合勿論組合所持も為尋候処各見届候上同様書付差出候重郎兵衛弁書も有之何時ニても御用之節「共御封印受不申旨も有之及御沙汰候処一学殿御受取被成候

一 今夕ハ後林田大隅前丁出火拾壹式竈も焼失致候即刻出役郡代山岡与左衛門も同断明七ツ後引取候而衛守殿へ御届大目付海老原極人ハ申達尤同心口上ニ而遣ス

廿七日 晴夕ニ及小雨

一 今早朝大目付海老原極人ハ切紙被仰渡有之候間今五半時小須賀一学宅へ可被罷越候此段可申達旨ニ付心得御座候以上及即答追付罷越候処大目付平井郷左衛門出会ニ而一学殿被仰渡候者

山田彦大夫方家内取納不宜候ニ付仍之蟄居被仰付候併以御憐愍

家石御立被下候相応之者相願可申旨

一司馬五郎様歳暮御祝儀申上畢而御家老中御年寄中大目付月番迄同断廻勤致候

右御請仕退キ郷左衛門へ伺候ハ此儀差掛り取計候儀ニ候哉又者有予仕候哉否申候処相請向も可有事外並も可有之様挨拶被致候次に拙者差扣之儀も申候処可被仰付否上に可有儀何分一通りならさる儀ニ付伺可然旨ニ候間追付清水多橋ヲ以伺候処即晚伺之通被仰出候旨同人ノ申来候引統郡代山岡与左衛門ノ指扣中役筋仮役被仰付候旨永井甚大夫ノ被申聞候由通用

一与左衛門ノ通用之趣被取計ケ条左之通

一大年寄共歳暮指上物例之通済平井郷左衛門面謁之由

一浜野屋十郎兵衛願之通封印銀札開封被仰付

一元魚町油屋与一郎数代実体ニ荘屋役相勤候付門松御指免被仰出候

一札元補闕五人御用向出精相勤候ニ付已後三人扶持被下候

右之もの共来年頭御礼被仰付松之間御縁側ニ而被仰付候旨甚大

夫ノ演達有之候由

右四ヶ条則今日与左衛門取計

廿八日 晴終日小雨

一今ヒル比一学殿ノ折懸奉書到来差至帰候

其方指扣御免被成候間今晩ノ出勤可有之候

右御請書裏内ニ而当番に為持遣引続キ御請御礼御用席不殘廻勤大

目付平井郷左衛門へも罷越候山岡与左衛門江も右相為知手紙遣ス

廿九日 晴

同月今日証文出ス

一小性町東側ニ而伊予屋又兵衛表口四間裏行拾五間但七步役也北ハ横町南隣ハ作人喜八銀札七百目町内作人長兵衛へ売渡

(表紙)

安永五 ^丙 年正月 ^の 二月迄
御用日記
廿九 大沢三平

(中表紙)

安永丙 ^申 年
町奉行御用日記
正月 ^の 十一月 ^二 至 大沢三平

正月元日 晴

安永五申

一 辰上刻諸士登城於桜之間御帳付於御縁側御名代御家老永見造酒之助殿御受礼有之以前此処御勘定奉行中等役所又ハ郡代所本格ニ付御礼前に可能出と申連候所平井郷左衛門大目付月番ニ而別前格尤ニ在候得共いづれニも表ニ而年頭之謁候得者右前に出候候候も如何ニ候由被申候ニ付押而可能出候ニも不及候ニ付申合御礼後に罷出候 当役大沢三平御勘定奉行清水多橋郡代山岡与左衛門御勘定奉行栗田只次近藤伊左衛門各例之通御祝儀申上候

二日 晴

一 御用初ニ付日参之面々出仕御用席へ当役大沢三平御勘定奉行清水多吉郡代山岡与左衛門御勘定奉行栗田只次被有之不参近藤伊左衛門御藏奉行岸権六平井伝七御金奉行天野郡太川口小弥太各罷出御祝儀申述之候畢而七間廊下ニおゐて御吸物御流頂戴之大目付所ニ而御礼相述る

一七ツ時頃之例之通大年寄并札元同補欠迄盃事

一 明三日五半時御仏詣被成候旨稲垣茂士之通用

一 去歳之書記ニ有之候大坂油かけ町塩屋甚三郎之当所坪井町魚屋嘉右衛門へ掛り式百九匁九分八厘酒代滞り内滞致候由申出候及御沙汰。御蔵米五拾四匁五分町米五拾匁五分

三日 晴

一 町方礼廻り。勝山筑間源右衛門渡部唐兵衛之年頭書

四日 雨

一 戸川町坂江土佐屋重藏借屋作人忠助溝之上ニ竹切差置候所男着毛織綿入表ツ表紺茶水色之立横島裏油ケ茶垢付もの、由右之品去ル朔日之朝見出隣家相尋候所主不相知候ニ付断申出則彼から先に書付出し置候様申付ル尤及御沙汰候四月六日右之品当人に遣候

一 幾野御代官所中里忠介大井田与五郎之年頭書且又吉野郡江之原村口留番所十歩一御運上去已一年分錢相場書申来奥書印遣。元魚町出離御堀立死犬届出申達ス

五日 晴

一 今日三日之残町分廻勤。乃井野河端代八之年頭祝書別ニ錢相場之儀申来奥書印遣ス

六日 晴

一 坪井中野貞右衛門之年頭書到来。米五拾匁五拾匁

一 茅町備前屋茂右衛門と申者之此者米屋上右衛門云候引請。安岡町神場屋善藏へ

掛り訴状之趣当五日用事有之近所江罷出候跡ニ而妻用事候而裏へ出候所右善藏と申者裏之垣を破り忍び入候而妻を理不尽後之とらえ外へ出候ニ付妻声ヲあけ近所之人ヲ呼申内ニ川土手江落行右善

藏申ハ存寄有之礼參候方_ニ尋常ニ參り無左ハ爰ニ而差殺候と申所
_ニ隣茂兵衛同町伊介兩人走り付引分連帰り右善藏ハ隣茂兵衛方ニ
相置候所_ニ私罷帰り右之趣承其分ニ而藏差置存候ニ付組合へ相届
立合相談之上善藏ハ神場屋弟和助方へ渡置申候狼藉者之儀ニ候得
者此まゝニて差置以後いか様之義出来仕ほと難計候ニ付宜申付吳
候様申出候右ニ付大年寄孫右衛門_ハ申出候一応ハ安岡町様子年寄
共_ニ為尋候得共何角内済之趣無之遲滞之内變義有之候而者役所手
拔ニも成候先例も承り罷在候ニ付即日同心差向善藏ニ手錠申付候
而組合ニ預候。訴訟方茂右衛門夫婦是又組合預ニ申付候
一西川役所坂井良藏永松太惣左衛門_ハ年頭状到来及返書候

七日 晴

一今夕八前時田中瓦屋権七とか申者之宅自火不残焼失町火消東西駆
集り相働拙者儀も場所_ニ罷出候引取一学殿_ニ直に御届申達ス平井
郷左衛門へ口上申遣ス
一安岡町かや町組合其外掛り合之者共口書取之候別ニ有之
一明方川向へ百姓家出火町分余ほと騒敷相聞候例ニ任不申達
八日 雨夜中_ハ
一茅町備前屋一件於御次御用番一学殿へ一通り申上候大目付所同断
一來ル十六日大年寄札元町医師御用達御蔵元共登城之儀及御沙汰候
大目付所同断通行之儀中奥目付中へ名前相廻ス
一來ル十八日淡路守様御城下御通行候旨御先触到来問屋_ハ差出大目
付平井郷左衛門_ニ及沙汰御下屋敷_ニも通用ニ及候所今日猶又町方
取計等之儀郷左衛門_ニ相達候所前格之通相計可然旨被申聞候

一旧冬御聞届相濟候札元_ニ相渡候五貫目今日御勘定奉行清水多橋_ハ
手形可相廻由被申聞左之通相認裏判取之

請取申銀子之事

。右銀五貫目也右者備中倉敷於御代官所当所小性町元つし屋伝次
一件ニ付諸入用銀之内被下置候ニ付受取相渡申所仍而如件天野郡
太殿川口小弥太殿大沢三平

右大年寄孫右衛門へ相渡し同人より銀札場ニて受取茂渡市右衛門
川口藤十郎兩人に補欠一人相加へ渡之候趣ニ申含メ候

一桶屋町袴屋甚介借屋作人伝兵衛独身ものゝ由失火致しおひき床下
焼余ほと近町も騒ぎ候所隣町_ハもかけ付消留申候御届御両所

九日 晴

一安岡町神場屋善藏儀昨日御伺済今日呼出し其方儀茅町備前屋茂右
衛門訴状同人妻へ狼藉理不尽之趣ニ付吟味相掛候ニ付入牢申付候
旨申渡ス立合石名左五兵衛大年寄齋藤孫右衛門部屋目付藤森権六
出番福田甚藏室井作右衛門取計之上御両方へ御届申達ス
一桶屋町追込申付伝兵衛儀御届申達ス御両所_ニも同月十日免し申達ス
一淡路守様御通行ニ付例之通石名左五兵衛大年寄ニて蔵合孫左衛門
御道見分申差出候所々大破無之候
十日晴
一広瀬_ハ人馬御先触来平井郷左衛門山岡与左衛門_ニも通達
一右之本馬式拾足軽尻老足人足五拾老外人ニ駕籠人足式人米子_ハ勝
間田迄向方御役人中村七十郎_ハ問屋宛也
一茅町一件ニ付茂右衛門訴状引合之為墨引申付同心見分ニ遣ス

十一日 晴

一淡路守様御通行ニ付馬見分ニ石名左五兵衛藤森権六罷出ル

一昨日札元共江御流被下候由札ニ出る玉置方ニ而取計

十二日 晴

一例之通大盤若御修行海老原極人鈴木此右衛門永井御案者ニ而 大目付 同 甚大夫平井郷左

衛門当役大沢三平松島十学太田仙助後藤守助小島右内相詰御家老

造酒之助殿勘解由殿御年寄御使番 同替り合 寺社取次 当大目付学殿其外詰之面々拜畢而退座引続大目付中ハ御用所御祈禱相濟恐悦当役同断

十三日 昨夜小雪

一明十四日五半時御仏参来ル廿一日御仏参之儀稻塩茂士御案者ニ而 大目付の通用ニ付相触

一先達而稻荷宮山内捨子加茂八代村五助と申百姓養育致度旨願出御

聞届被成候間其旨相心得候様御用番一学殿於御用処被仰渡即時郡代所へかけ合候所願文段致一見候追付手紙ニ而来十五日組合兩人

銘々村役人相添願主五助差遣可申旨通用有之猶又大年寄孫右衛門

江中之町ニ而預ケ与候久蔵妻へも為知候様申遣ス

一昨十二日茅町茂右衛門夫婦呼出し其外同町茂兵衛伊助ハ是ハ普藏と女 兵衛 与引分連備者

三吾龜吉是ハ茂 伊助ヲ 兵衛 右之者共再必尋申付候茂右 及び立候候面々

衛門妻放埒見聞候儀無御座旨各相答候

一新魚町藁屋吉九と申者去ル十一日之夕横町戸脇を被切銀札七百匁

銀式挺銀三拾匁被盜候由目明十右衛門届出ル

十四日 晴 十五日 雨

一先達而境町豊屋喜左衛門へ林田町山本屋与惣七の借物之儀相応之
嘸ニ而内洛已後何ら申分無之旨与惣七の願落シ書付承届候

一大坂油掛町塩屋甚三郎の六ヶ年已前酒売代残り銀二百九匁九分八

厘相滞坪井町藤屋嘉右衛門へ懸り御番所へ訴候処右之銀相濟候歟

左なくハ六拾日限り可能登之旨去歳呼出申渡候処此度同町かと屋

庄助一せ屋与市郎御挨拶双方無申分濟候書付指出ス此書大坂土井

官左衛門へ差遣シ可申也

一備中懸り合一石屋伝次諸人用札元并補闕共の取替候銀方七貫目余

返済可致処旧冬五貫目被下置此間大年寄孫右衛門の相渡候処受取

書右之者共の差出ス

十六日 晴

一諸士登城御具足御祝儀御例格之通芥子之間御連座隨而宇治橋之間

海老原極人鈴木此右衛門永井甚大夫平井郷左衛門大沢三平頂戴相

濟畢而御祝儀被下難有旨御札申上ル

一引続御用番一学殿大書院出座其外例之連座御祝儀例之通相濟引続

当役御勘定奉行郡代御用所へ罷出御祝儀相濟恐悦申上ル

一引続町医其外御面謁場所相調月番大目付中へ申達ス尤御郡代申合

岩佐孝碩

川島桃庵

箕作丈庵

北山周斎

中島仙庵

阿部周益

松ノ間御縁側通り并居御家老御年寄松ノ間へ御出大目付平井
郷左衛門下段東之方町奉行下段西ノ方名披露無之何茂年頭御

祝詞申上候旨取合せ述べ之

中ノ口北を頭に鍵ノ手ニ并居
段橋之下大庄屋頭者少間隔
候程ニ罷有御家老御年寄銀
鷲之間へ御出大目附同人閑
際上段ニ着座町奉行北ノ方
下段ニ着名披露年頭御祝詞
何も申上候旨述べ之引統南ノ
方ニ大庄屋并居郡代披露之
畢而屏風内へ御家老御年寄
入座此間各退かせ左之面々
并居させ

札元
茂渡市右衛門

大牛寄
蔵合孫左衛門

同
齊藤孫右衛門

同
玉置広四郎

札元
山本三右衛門

同
川口藤十郎

同
茂渡藤右衛門

同
竹田七郎兵衛

札元補脚
玉置宇左衛門

同
妹尾平兵衛

同
三舟八郎右衛門

同
植月孫四郎

同
山本平右衛門

御用達
浜ノ屋善十郎

同
福永屋藤助

同
姫路屋彦兵衛

同
熊野屋伝兵衛

中ノ口北を頭に并居御家老御年寄御出座

大目附前に旧町奉行名披露同段直に御退出

一今日先例之通組中盃事致ス

一淡路守様御通行ニ付御徒目付下目付立宿安岡町ニて大坂屋茂兵衛

へ申付候旨富沢金右衛門へ相達ス此儀者大目付中江可相達儀也無
左候而ハ下目付立宿之儀不相知候由

十七日

一明十八日五過時院庄江御出被成候ニ付同町御門合元魚町二町目三
丁目本町通りへ御通被成候旨稲垣茂次通用

十八日 暮前頃合夜中へ至雨

一今日御通行ニ付五ツ時出役尤司馬五郎様五ツ過御供揃ニ而候間今
町ニ而御出向も可申上儀ニ付同心共江も其外右心得申渡ス追付直
屋市郎左衛門立宿ニ而前ニ出御目見申上ル

一御通行暮に及び六ツ過頃無御滞相濟候御道筋あんど出し候様触出
ニて燈灯或ハとうる思ひくに出し候大年寄合も同様伺出相触候様
申渡ス

一番之注進天わり端ニ番町分御懸被成節文言

淡路守様天わり端江御懸被成候右御届仕候月日名大御目付中様勿
論郡代山岡与左衛門院庄江出役ニ而院庄へ御着と御立と両度通用
手紙来り心得置

一司馬五郎様ニも引統キ御帰被成候尤直屋方貫之木外へ出候目見申
上候

一東大番所江大熊勘解由殿大目付平井郷左衛門中奥目付小島右内

一向方合御使者樋野庄右衛門此方様御取次松島十学又御屋敷之御使
者有之御取次ニハ種村紋大夫罷出斎藤孫右衛門方江使宿申付候

一同心御先小頭石名左五兵衛室井作右衛門福田基蔵立宿安岡町吉田屋
多四郎申付候右取計置候所左五兵衛儀不快ニ付藤森権六代りニ申

付候ニ而無滞相濟

右之通ニ而御通行万端相濟林田町分御出離レ被成候注進來候
上立宿引弘一学殿へ直に御届ニ罷越司馬五郎様へも御歎御機
嫌伺に上り大御目付平井郷左衛門江ハ手紙ニ而届申達ス

御貸人馬例之通若党兩人騎馬両口鎗挾箱合羽籠草履取外同心
老人注進受方ニ召連候

十九日 晴 今日御用場有之候

一三原金大夫の大年寄共歳暮献上もの披露遂候旨返書到来則孫右衛
門江相渡ス

一魚住伊予守様今年頭伏来ル

一龍起水しゆる巻之所損し直シ代五匁五分美濃屋人町田中屋文助(マ)の
受取書出ス。大目付所江及囑勤者中江申談ス

廿日 晴

一備前岡山下片上町大和屋清右衛門例年之通醬油売昨日入

一伏見町正屋与四郎借屋市右衛門船頭町房屋繁蔵ニ売物代纒之儀ニ

ハ候得共久敷相煩渡世難儀ニ付尤候所繁蔵以外之哉立腹昨十九日

山家屋源吉方ニ而申今ニ成同人別ニ而繁蔵市右衛門投踏候而痛絶

往来に掛居候者訓染之者ニ付山家屋江引入看病いたし候尤繁蔵儀

ハ今津屋孫十郎弟ニて候由兼々家業も明雜伐ニあはれ不行作者之

由ニ候件之趣ヲ以伏見町市右衛門妻の訴候由家主与四郎の訴状差

出候ニ付夫々尋申付繁蔵へ手錠組合預ニ取計権六多蔵差向候尤今

夕市左衛門権兵衛遣シ山家屋ニて市右衛門容体為尋候

廿一日 晴

一去ル九日吟味中入牢申付候善蔵去十九日よび出シ右狼藉之仕かた難
し詰候処一言之申開無之誤入候得共又々牢屋江帰し先非を悔候て
牢番役人江可申旨申渡し候処栄蔵ヲ以歎出書付爪判一札差出し候

廿二日 雨昨夜

一市右衛門容体書渡部貞斎の取候旨年寄孫十郎の出す

一勝間田町通善屋善四郎後家家屋敷質物ニ書入銀札百目中之町三室

屋重右衛門ニ借用書付差出ス

廿三日 晴

一番之文段
一伏見町正屋与四郎船頭町掛り合之儀今日及御沙汰吟味中入牢伺之
儀内孫八出役入牢取計候御届申達ス

一繁蔵吟味中入牢申付様御届大目付平井郷左衛門江も達置

一船頭町舟元屋佐助南側表口三間三尺七寸裏行五間五尺本役也東隣

八川崎屋又十郎西者土手江之通道銀札壹貫六百三十匁ニ同町高瀬

屋勘右衛門江売 同月廿六日証文出ス

一淡路守様御通行ニ付人足馬式百九拾八人内六拾三人札払同八拾六

人分払同式拾式人馬人足ニノ百式拾七人増 此分留入用

廿四日 雨

一境町大室藤藤兵衛断京町吉田屋喜八所持御用宿屋株去ル戌年未

之歳迄拾年之間借用相勤申候所去歳迄年限明相濟候ニ付此度右喜

八方へ相戻し

一西今町坪屋藤十郎直屋市左郎衛門願私共年寄役被仰付難有町内之

儀者先々同役三人ニ而相勤申候所近年相応之者無御座無抛兩人

ニ而相勤申候直屋孫兵衛儀先年足痛仕御役免願之通被仰付然ル所

孫兵衛当年快氣仕候間帰役被仰付候様申出候

一吹屋町金屋茂太郎願御領内小原村百姓藤七郎兵藏甥世歳此度引請申度旨

一伏見町市右衛門少々痛も薄く成候ニ付駕籠ニ而引取候様ニ伺出申候ニ付医師尋之上引取へき旨承り置候

廿五日 雨 廿六日 雨

一かや町茂右衛門夫婦其外掛り合之面々呼出し申渡安岡町神場屋善藏出牢之上御領内追払一國住所構申渡し室井作右衛門福田甚藏兩人古城境迄召連例之通手形取帰る御届ケ申達ス一部袋に入置候右ニ付善藏弟同町神場屋和助并目明十右衛門兩人右一条ニ付相当之阿大年寄宅ニ而申渡させ候

一中之町平岡屋忠藏大坂行四十日逗留明廿七日立

一境屋伊右衛門切手愛宕山大善院使僧光円院上下式人例年通且那廻り昨日入

一大坂土井官左衛門御用状当所坪井町ふく屋嘉右衛門懸り合内済之儀相手方塩屋甚三郎旧臘申出候弥右之通候ハ、早々申越候様通用有之候ヘハ御番所江も御届申訴状返納致候由申来ル

一石松院願書拙院本堂居宅近年殊之外及大破候処貧僧之儀候ヘハ修覆に手段無之甚難波ニ付此度南京操一座日和十日興行被仰付可被下於御許容横山村構之内覗河原借受此場所ニ而興行仕度旨

廿七日 晴

一堺町西河屋善助切手勢州安芸郡白子村仁左衛門手代喜次郎例年之通こん屋形売昨日入

一宮脇町大工半右衛門願大久保賀々守殿領分久米北条郡通谷村源三郎弟源藏と申者世八才養子仕度旨

一林田町富屋吉兵衛所持分之家作人次郎吉と申者由緒有之候ニ付相讓申度旨願書差出北側ニ而表口六間裏行拾五間五尺但溝切本役也東八横町西隣ハ箕打屋源六也此一件先達而町内年寄山本屋与三七門屋又七と甚出入ニ成候処無故相濟候袋に入置候

廿八日 晴

一坪井町藤屋加右衛門へ掛り大坂油懸町塩屋甚三郎酒代銀滯候御番処へ及訴先達而土井官左衛門御用及御沙汰之処今般弁済無滯相濟候旨申出官左衛門江其旨及書通候扣ニ有之候

一高倉村山伏石松院追廻し河原ニ而南京操之願郡代所寺社役所江差出し候処当役所江も同様申出難心得ニ付及察度候処又候安樂院方之堂并居宅修覆之為ニ右願候由ニ而同院願出候処是又間違全在分之儀右両役所と引合之上勤弁之上願書当役所ハ差下ケ遣シ候

一龍器水損し櫻栢繩代五匁五分申達し勘定所受取相渡ス

一孤独ふち被下候境町七兵衛今朝相果候旨届申達ス

一伏見町柩屋与四郎借屋市右衛門警藏ニ被痛家内之者領渴及難儀候旨申出何となく今津屋孫十郎の氣を付候様と申付候

一町方之者他所他領へ行かさつ法外無之相慎候様触出候儀大目付中へ及噂置

廿九日 晴後雨

一堺屋伊右衛門切手備前邑久郡山田牛窓大工半兵衛市兵衛四郎左衛

門喜左衛門善助小作六人例年之通細工ニ昨日入。同人切手大坂久太郎町堺筋松屋甚兵衛手代平兵衛例年之通小間もの売昨日入

晦日 不晴

一御蔵米五拾六匁町米五拾貳匁林田町富屋の家讓証文勝間田町売家証文出ル

二月朔日 晴

一大目付中へ廻状御用之儀候間明後三日四ツ時登城可有之旨

一九ツ時御供揃二ノ宮へ御遠乗田町元魚町二丁目三丁目被成御通候

二日 晴

一房屋繁蔵懸り合之者共今日呼出察度申付候

此兼大目付中へ及懸之

一誕生寺人來会式之砌道場ニ而諸商人入不申寺法之処御城下へ法外之者押而入込無体之儀申之寺中役人共及迷惑候由何卒右体之儀無之様致勘弁呉候様内々被相頼承知之旨相応致挨拶置懷紙三束土産

同月三日止懷紙使遣ス

一播州今市綿屋嘉市手代忠七例年之通呉服売境屋切手

三日 夜前大雨

一茅町藤原屋喜兵衛願孫そな十九横山村源蔵方へ被賣

一吹屋町南側ニ而北村屋表口六間半裏行八間西へ小路切東へ北村屋

弥七元禄十五年美濃職人町小道具や六兵衛へ買請売券状差出右之内少々売家に致度年番へ達候処間数帳面ニ七間口と有之ニ付六間

ニ而者難計と申之思慮難付旨致裁許呉候様訴状差出ス

一宮脇町年寄金十郎役免差出ス押而相勸候様申渡ス

一当三月万人講之儀内願之儀於御次衛守殿へ及御沙汰候先当春ハ延

引致し而可然段永井甚大夫へも引合置候

一今日御用番一学殿七間廊下ニおいて大目付海老原極人出合当年御

厄

一今年ニ付御札差上ケ候義御満足ニ思召候旨申達有之候尤御礼廻勤本郷村清念と申同心者折々御城下徘徊鐘打草庵取立申度旨兼而相

心得置呉候様郡代山岡与左衛門嚙承置候

一下紺屋なは屋藤右衛門四国遍路明日出立百日計

四日 晴

一伏見町近江屋孫三郎和助例年之通呉服もの商因伯当月六日出立十

二月迄逗留

一林田町島屋八十次いせ參宮来六日立四拾五日計逗留

一六間口之内寺間之処門之如くニしてやねを切候処式間ほとにて土

間致し雨天ニても傘乍指參詣之者入込候様致度願差出寺社方江も向方ニてハ家居之儀ハ無貧着役所ニてハ町家之儀塀又ハ門構之体

ニ為致候事容易難聞届主意大目付中迄申達置候河原町熱田市正堀

構是ハ井上弥三兵衛役中ニ聞届候得共是等之儀又市正方之儀ハ片遠所殊に社人之事故聞届と有之候いつれニ付候

而も万性院願筋不容易候ニ付及批判候

五日 雨

一新魚町魚屋長助此度南河原追廻ニおいて高倉村石松院南京操願濟

右世話焼之儀私江被相願彼地へ罷越世話仕度旨

一經師屋勘平大坂直屋甚兵衛方へ用事ニ付罷越度来ル八日立廿五日

計逗留之願

六日 不正

一 伏見町正屋与四郎借屋稻荷山嘉吉妻之祝之由久兵衛と申者今朝瓜生原江参候迎出候処横山村分追廻仲河原流死罷在候処右与四郎の届出候ニ付郡代所の代木村勘八役所の藤森権六口分ニ出し例之通書付取罷帰り追而与四郎の書面出ス尤嘉吉悴源吉の書面也

一 坪屋藤七郎義伊勢参宮来十一日立世日逗留

一 野田屋兵吉借屋幸右衛門妻去暮以来物氣之由近年ニ而八午頭天王之乗移りと唱之近在の追々不思儀ヲヤ難病平愈之教致し昼夜七八十人も入来り候由書付差出候ニ付及御沙汰町内年寄并家主兵吉の主意書西之貫木に張置候様申付候左之通

神教などの頼町内幸右衛門と申者之妻旧冬より物氣ニ候哉。之通怪敷唱え候儀ニ者事由候。頼之上病難なおり候得者甚珍重之事ニ御座候得共

因壳平人正体なき女の申言ニ候へ者町役之私共右之者江御応対御引合之儀ハ遠慮も存候仍之御断如比御座候新魚町年

寄誰家主候

七日 晴

一 昨日流死之儀衛守殿江委細申達

一 御蔵米五拾八匁五拾四匁町米

一 元魚町湯浅屋定次郎大坂行明八日立三拾日計逗留

一 富屋吉兵衛西新町所持之家屋敷南側表口式間八間土手切式歩半役

東隣ハ山田屋彦六西隣ハ藤屋新八代銀札百式拾目相極同町余塩屋

文右衛門へ壳 同日証文出る

一同人当申八拾一才老衰渡世難儀此度大久保加賀守殿領分宮辺村

丹後与申者内縁ニ付引越申度人別寄願聞届

八日 晴

一 西今町七兵衛後家悴甚八出奔之上去冬以来百日尋申付候処今以相知不申町内人別除書付聞届尤及御沙汰

一 京町平野屋次兵衛去未十一月借屋を出奔致候処百日尋申付上一向相知不申町内人別除書付出し聞届尤及御沙汰候

一 播州加古川のちわく細工手伝九郎兵衛長次郎例年之通呼越当三月中頃迄差置候届二階町島屋藤吉

一 船頭町積渡し舟損し御繕之儀渡守市兵衛の申出候

九日 晴 十日 晴 十一日 晴

一 吹屋為左衛門願備中倉敷平野屋左為衛門夫婦来逗留

一 伏見町とた屋大三郎妻子四国遍路

一 新魚町魚屋長助覗芝居世話焼一札差出ス

一 茂渡市右衛門悴庄右衛門病氣故相統難致孫熊市郎を嫡子ニ相立申度庄助と改号庄右衛門儀真平ニ相改させ候旨願出勘定所江も及通用御沙汰仕候処御聞届被成申渡ス

十三日 晴

一 今日山岡与左衛門一名ニ而被召寺社取次兼役被仰付候

一 西尾多内連名奉書被為召郡代添役寺社取次是迄之通

一 後藤守助種村紋大夫寺社取次役御免被仰付候

此願十日に出る
一 豊屋喜兵衛儀京都近江屋七三郎方へ来廿一日立往来世日計

十四日 晴

一吉田屋喜八足代下し。組屋勘十郎同断同月十八日申達候

一芝居ニ罷越候儀御停止触

一北裏下通り鉄御門之処石垣孕出候ニ付御修覆被成候積ニ付通行相止来ル十五日ノ表御門ノ通行始候旨廻状到来

一此度上方ノ御調被成桑苗被成御植候望之者有之候ハ、屋敷之内御植被成候旨是又廻文到来

一中国四国九州ノ参勤旅行之面々以前之通伏見ノ淀筋大坂へ出尼か崎西宮筋ニ通行有之へき旨公儀ノ被仰出候触書廻状到来右之扣有之候

一覗河原見せ物役者顔付及御沙汰今日申渡ス

十五日 昼後小雨雷有之

一岡山下市町中島屋久六元結売昨日入西川屋善助切手

一伏見町証屋与四郎借屋市右衛門繁藏ニ被痛候掛り合追々快氣之旨断

十六日 晴

一三原金大夫ノ惣町并大年寄共ノ年頭御祝儀差上候ニ付遂披露候旨正月十六日之状到来

十七日 晴 十八日 晴

一見せ物ニ付太鼓為打候事及御沙汰候

一太田村源助方ニ而紛失物訴出候由山岡与左衛門ノ被為達通用有之今日相触候。木綿布子表飛鳥裏水いろ紋だき菊。同拾表あい見るちやうらとくさ紋同しく例之文段ニ而触差出ス

一御蔵米五拾九匁五分町米五拾五匁五分

一肥地屋兵藏役者宿仕度旨承り届

一今津屋孫十郎方綾刃村大庄屋多胡左市掛り合洛引受事洛日上村分地所庄屋立合請取候処其後地方役ノ端地改有之段右之場所ニ八出又ハ川崎有之候故日上村分計可相渡之旨左市ノかけ合被成迷惑仕候段訴状差出し候

一今日彼者来ル

十九日 晴 廿日 晴

一中山市左衛門神田権兵衛芝い出役

廿一日 晴晚三更ノ雨

一中之町榎屋丈右衛門出奔百日ニ相成届人別離 同月廿三日御届申達ス

一高雄屋藤助悴岩二郎大坂行届。芝居へ福田多蔵室井作右衛門

一新職人町紺屋源六四国遍路

同月廿三日粗大目付中へ及内沙汰候

一伏見町証屋与四郎親理左衛門五十八京都榎木町烏丸通菅田善左衛門与申者理左衛門弟ニ而今般引請役介ニ致度由人別離

廿二日 晴 廿三日 晴

一藤森権六香山多蔵出役

一同心共杖十人分老匁五分ツ、早繩十人分式拾老匁かけめ六百目今日相受取候

取候

一堺屋伊右衛門切手勢州安芸郡白子村形屋忠右衛門例年之通形屋昨

日入

一同断備前岡山小畑町嵐屋甚八老人例年之通元結売昨日入

一中買共今日呼出し近来彼等勤方請状之趣ニ違イ神文之上ニも不相叶殊に浜元屋喜助体之不埒を仕出し以来右体之儀有之候而ハ「」

ニ付不ノリニ付向後者価之儀請人ハ不及申仲間之者共へ相懸候旨
段々利害を解申渡し請書印形申付候上於仲買共ハ大年寄宅ニ而ノ
り同様申渡し為取計候

廿四日 晴雨 廿五日 不正

一 盜賊新兵衛と申者八子ニ而召捕へ候由西尾多内ハ被申聞昨日入牢
可申付由此盜賊ニ付船頭町善六同町紙屋多兵衛方へ盜物取次致候
儀ニ付善六預ケ申付候太兵衛ハ他參差留置候

廿六日 晴

一 中山伝内不快ニ付三舟孫八出役

一 昨日被捕候新兵衛入牢ニ付西尾多内ハ手形參り例之通取計藤森権
六頼ニ付多内宅江も遣し候

一 京町かも屋和六倅十兵衛姫路木わた屋源次郎方へ明廿七日立往来
十日

廿七日 晴

一 おけ屋町勘兵衛娘せう林田村かち屋三右衛門へ遣置候所同人相果
候儀渡世難成候ニ付今度家内へ引取并倅与吉三才一所ニ引取申度
候

一 新魚町魚住屋岩次郎願不勝手ニ付造酒売相止申度旨勅定所江引合
一加治甚兵衛願去ル已十二月願勝山領垂水村百姓文之助方へ出職か
ち次口病起私方へ引取可申之所居懸に此方へくれ候様ニ申ニ付遣
し申度人別離之儀

一 今日於芝居狂覽ニ成芸中ニ燃火出し候程見請世話焼長助を呼仕廻
セ可申哉と向棧敷へ申遣候処從是差図に不及と返答承り候ニ付如

何ニ存罷帰届之上申聞候ニ付左様ニ有之候而者難相濟ニ付右勸進
元ヲ呼承り糺尚又可申聞由權六多藏江申之候相調へ候処中々同心
中へ対し申たるニ非ず長助江下代木村勘八ハ心得ニ而差図可致と
申たる由相聞候其分に濟

一 東新町橋本屋甚左衛門後家二宮村武左衛門倅茂市去已閏三月願私
方後見家内人引越申候処年数相立此度二宮へ帰候趣

一 西新町細屋源兵衛夫婦計四国廿八日立九十日滞留

一 四乘院小林主水金毘羅一乘坊同断中ノ町松田屋利助妻倅

廿八日 昨夜中ハ雨

一 姫路屋彦兵衛勝手向難波之処外商売手なれ不申大坂岡山親切之者
ハ酒升切致候ハ、相続可遣旨申者有之何とそ御許容被下候様勿論
御運上余並有之候へ共御憐愍を以御勘弁被下候ハ、難有奉存候旨
相歎候へ共是迄之外に株相増候儀ハ株持来之故障も可有之同人ニ
おいて格別に由緒も有之候ハ、可承由申聞候所由緒書相添申候上
相勘尤先年苑屋忠八酒取次商売致候例も引合大目付中江及御噂候
処追々御評義も有之候上今日願之通御聞届被成候旨御用番一学殿
被仰渡御運上之儀ハ並之通可指出旨又候大目付所ニ而姫路屋儀株
ニ相成候儀ニ者無之商売貸借ハ決而不相成候旨被申聞候即日大年
寄玉置広四郎江申渡ス

一 安岡町久米屋清兵衛雲州大社參明廿九日立十五日計

廿九日 晴

一 明一日四時御供揃ニ而二宮江御遠乗被為入御道筋京橋御門本町筋
被為入候稻垣茂士通用

三月朔日 晴

一 中山市左衛門三舟孫八出役

一 先達而出奔之今町茂八綿織村寺院ニ居候由手段ニ而捕へ来昨夜中

小屋ニ差置今日入牢申付候仍之駒平さがし出し可申旨申付候処倉敷寺院方ニ罷在候而是又目明共手段ニ而召捕来り是又入牢申付候

勿論去暮吟味之時茂八に被頼候と申たる儀ハ悉く偽ニて全彼へ広次頼候故質ニ置壹刃式刃ほと遺果候趣申之候出番香山多藏神田権兵衛

二日 小雨

一 二階町堺屋伊右衛門切手大坂南本町三丁目紙屋藤兵衛手代次兵衛

例年之通葉種風売昨日入

三日 晴

一 節句廻勤今日八ツ半頃於河原町牧野源藏を林田町分袋町小右衛門

と申もの京町吉田屋喜ハ借屋狼藉致し凶事有之河原町も註進玉置広四郎

相届即時ニ当番香山多藏駆向候処源藏ハいつれ五退キ候哉小右衛門ハ追廻に裸身ニ血もまみれ乱髪ニて伏居候処多藏声をかけ候へ

ハ河原江逃出候を差留追々権六作右衛門佐助甚藏などかけ集り其内林田町年寄組合罷越夫の役所江呼寄一応尋候上組合預に申付尤手錠ニ而相渡し候大御目付鈴木此右衛門江申達置候

四日 晴

一 今日小右衛門儀入牢御伺申候処一学殿御聞届被成候ニ付呼出し再尋申付七ツ半頃御日柄ニ付牢番預ニ取計翌御届申達ス

右立合藤森権六玉置広四郎出番中山伝内三舟孫八

五日 晴

一 明六日五半時杉山辺御殺生京橋御門の川井内左衛門横町御道筋稲垣合

七日立七日

一 ふし口屋多吉安岡町材木屋甚右衛門四国西新町岡屋治助妻倅二人

七日立十日

一 四国安岡町木屋伊助茅町木屋六右衛門鉄山助右衛門尽助庄九郎

七日立九日

一 勝間田町英田屋吉兵衛妻四国中之町千年屋源倅平兵衛金

七日立八日

一 町持福院金毘羅金屋文左衛門金毘羅

本証文同月十六日出ル

一 安岡町大坂屋茂兵衛久米南条郡神目村市左衛門娘ひとと申もの廿四才内縁ニ付倅利吉妻ニ呼越申度尤野井乃支配所也

一 安岡町表屋長兵衛持来自国請酒株去己三月断当申三月迄東新町八

木屋善七へ預置候処此度取戻し

一 一証屋与四兵衛親理左衛門妻ゆり五十七理左衛門同様ニ町人別に暫之内役介致置追而京都へ為引取申度旨願

一 一かち屋半七七才多七式十三才此度備前国津郡円証村六三郎方江か

ち奉公ニ罷越度申合成迄

一 安岡町真島屋勘七私弟三右衛門廿九才此度西川領中北村百姓長右衛門養子ニ貫候ニ付人別離

一 一かち町川口屋喜七母四国遍路七日立百日

同七月三十日追願

一 一今夕大御目付鈴木此右衛門の御用手紙到来只今一学殿御宅ニ可参之旨罷越候処一学殿被仰渡鈴木此右衛門立合

去ル三日於河原町牧野源藏へ林田町小右衛門狼藉凶事ニ及不

届ニ付斬罪被仰付候間其旨取計候様被仰渡候

右奉畏引取前格を以夫々取計候尤小右衛門妻儀ハ御領内追
払被仰付候

六日 晴

一今朝六半時於牢屋例之通

林田町 小右衛門 年三十二

其方儀去ル三日於河原町对御家中致狼藉不屈之至ニ候仍之令斬
罪者也

其節ハ研師源藏方へ牢番仲間ニ為持遣也今朝牢屋口致持參候

右立合河村市兵衛目付組藤森権六石名左助香山多藏

一牧野源藏御追放被仰付候由同心中山市左衛門神田権兵衛大目付鈴

木此右衛門宅へ可差越由ニ付遣又神戸渡り向小橋際ニ而引

一小右衛門妻義二十九役所五呼出し申渡

其方夫小右衛門去ル三日於河原町对御家中狼藉致候ニ付死罪

申付候仍之其儀御領分追払申付候立歸於徘徊者曲事可申付候

右立合藤森権六出番室并作右衛門三舟孫八古城ニ而例之通勿論

大年寄玉置広四郎罷出読渡シ書役無之付

今朝取計相濟一学殿へ御届罷越大御目付中江者手紙ニ而遣又
七日立七日計

一熱田市正金毘羅

一京町平野屋次兵衛南側ニ而私家屋舖表口五間裏行拾七間但半役東

隣者今出屋半兵衛西隣ハみそ屋清六右之家屋敷三貫目ニ相極町内

北山周齋へ売渡候 本証文同月九日ニ出ル

七日 晴

一西尾多内の手紙芝居加日五日相願候処御聞届相濟候旨通用

一安岡町古川屋太兵衛二町目井田屋庄右衛門へ掛り貸渡し銀札壹貫

目外ニ貳貫目之処相滞尤庄右衛門方借物増長所々ニ返弁難成一同

ニ喫入候吹屋治左衛門千鳥屋次郎右衛門板屋八十八三人申合及

挨拶候処太兵衛心得と相違ニて庄右衛門ハ外方喫之割合拾弍余も

過分ニ候割合ハ壹貫目ニて六七拾弍之由此六七拾目ニ式割増と申

之候板屋存候も古川屋心得候 壹貫目ニ式割之積リニして貳百四

拾目ニ了箇致候様ニ覺双方相考候所喫人之計者不束ニ相聞候ニ付

喫人三人ノ宜取計旨大年寄へ申含メ候

一勸進元魚屋長助五加日五日之儀申渡させ候。中山市左衛門神田権

兵衛出役

八日 晴

一室井作右衛門福田甚藏出役

一学殿於御用所被仰渡去ル三日於河原町林田町小右衛門狼藉變事

致候義ニ付林田町年寄并五人組家主共咎メ可申付町方一同ニ以後

ノリ為同様之取計致旨被仰候此旨大御目付永井甚大夫へ相達置

九日 晴

一今日例歳之通御条目読渡齋藤孫右衛門宅并去ル三日於河原町之變

事ニ付町中年寄共五書付を以申渡し取計せ此分ニハ小頭代り藤森

権六立合畢而新職人町京町河原町三町之年寄へ牧野源藏へ小右衛

門手向及狼藉其砌掛り合候兵八弍兵衛伝助仕方ニ付察度書付為申

聞候尤今日取計書付有之候

一今日孫右衛門於宅林田町年寄三人去ル三日一件ニ付呵追込町内元

小右衛門組同事ニ付呵追込小右衛門家主京町し田屋喜八呵追込

立合藤森権六玉置広四郎御両所江御届申達候

一 中山伝内三船孫八出役

一 今日大年寄孫右衛門宅ニ而御条目読渡シ畢而去三日之牧野一件ニ付惣町年寄共以來之心得申渡し右一条之部ニ有之隨而京町河原町新職人町へハ別段出合之趣察度申付候林田町三人之年寄とも五人組又ハ小右衛門家主京町吉田屋喜八各一同に呵追込文段一袋に有之

十日 晴今夕雷雨

□ 藤森権六香山多蔵芝居出役。中之町甲屋和助播州ひめし大村屋平吉例年之通筆墨并太物売昨日入

一 小川町勘七死後喪主ニ付入札触申付候

一 甲屋和助播州網干新在家伊辺屋清六塩物鯉例年之通。同切手同処

米子浜村茶屋弥一郎小間物売同断

一 今津屋孫十郎ハ綾部村多胡左市へ懸り訴状之趣旧冬左市ハ質流込

ニ成候日上村開所不残絵図迄添同上庄屋立合受取渡相渡る「」其儘ニ而横山村へ質物ニ入候所其後地方役人見分候所右開処八出村川崎村日上村

三ヶ処に相別レ候ニ付日上分ハ相渡八出村川崎村両所之分ハ不相

渡旨左市方ハ申来候仍之及迷惑無抛申出候由

當時人別ニ入一 おけ屋町樽屋甚助借屋伝兵衛口上書出ル是ハ以前広瀬義平長屋に

罷有候勘助と申者妻子に離レ便方無之ニ付右甚助方へ内々裏屋に

差置候処老衰渡世難成去ル頃義平方へ参難義及噂元ハ右町ニ而も

人別ニも不入是江之憐愍ニて差置候者殊更御家中ニ孫娘も居候由

内縁無之もの其外に承置かたく為尋候処口上書差出候趣悴妻平同

妻同三才之娘御座候処右妻平江戸へ参候其後離縁申越候ニ付早速

孫を召連離縁仕夫ハ孫左衛門中間之由方へ再縁仕罷在候右之訳故只今

に到り世話に致しくれ□ニも難申遣旨ニ候同月十三日大目付所ニ而及噂候得共兎角無之ニ付先其分に致置候

大年寄

一 孫左衛門岡山へ用事ニ付罷越度由断書同月十三日及御沙汰

十一日 晴

一 昨日役者共芸中ニ而不束之事申たる由相聞勸進元為忝之候昨今出役申遣ス

同月十八日願之通被仰付大目付給本此右衛門尤海老原極人立合先達而三原同断之趣ニ相聞候ハ、差扣一山岡与左衛門勝手向難儀ニ付御夫持御取替被下候様願尤家内人別書并願之趣申達くれ候様手紙到来則日大目付永井甚大夫御内意申

置候

一 新魚町野田屋兵吉借屋ハ去十二月出奔致候広治尋申付候処百日余

ニも成未以行衛不相知候ニ付人別離届申出候同十三日及御沙汰

一 二階町塩屋伊右衛門断京都六条通高瀬川升屋勘六此度五条通森下

町へ所替近江屋勘兵衛与相改候旨断

一 中之町西屋治右衛門家守伊右衛門四拾四才妻蝶廿九才娘と十三才いも

と留替才弟豊蔵ニ才太田村清三郎引受罷越申候ニ付人離別

十二日 晴朝小雨

一 今日伏見町衞屋与四兵衛借屋市右衛門先達而繁蔵ニ被痛候後追々

平愈之旨申出候ニ付呼出所存之体尋候処此上決遣恨申分無御座候

段々御蔭を以心外之晴難有以來痛所いか様之病苦及死命候共右様

所々申儀決而申上間敷旨書付差出ス同月十三日及御沙汰候

一 新魚町角屋源三郎ハ元魚町油屋与一郎江掛り訴訟之儀一部別ニ有

与一郎江急度濟口今月中日切ニ申付候

一中之町平岡屋忠右衛門娘召連西国来十四日立百日滞留

十三日 晴

一林田町年寄三人五人組并京町吉田屋追込差免伺此口ハ上の被仰付候儀ニ付永井甚大夫迄相伺候

一網良碩願娘岩御屋敷徳山郡右衛門方へ役介指出度旨去未五月相願

候処御許容被仰付右岩今般引越候ニ付私夫婦之者召連罷越往来八

十日計逗留申候て罷帰申度旨今日及御沙汰此儀娘いわ儀ハ江戸表の願書御助定奉行の取計当役所より良碩分計

申上候趣也良碩妻ハ岩下女に成候様京都ニ而御手判受取候儀ニ付来十八日出立之儀也役所無伺

一伏見町市右衛門快氣ニ付一札出し候今日及御沙汰置候

一新魚町のた屋借屋広次出奔後百日余人別離書付出ス申上候

一藏合孫左衛門岡山親類共江用事ニ付罷越度及御沙汰候

十四日 不正

一靚河原芝居今日切引弘石名左助香山多藏例之通右届大目付永井申

達候

一一学殿今御手紙被下林田町追込之者七日にて可然明日差免候様被

仰下候

一伊勢屋文次大坂松屋甚兵衛江来ル十六日立十五日計逗留断

十五日 不正

一林田町年寄五人組京町吉田屋追込差免す尤今度之儀ハ格別儀殊に令仰付候ニ付於宅申渡ス

一目明十右衛門存寄有之候ニ付役儀差免し跡役之儀ハ福渡町源八但小頭左五兵衛宅部屋目付平組も立合働向り申渡させ候儀而町分爲知候

一屋町文太兩人江仮役申付候

一明十六日四時御供揃かも川御川狩京橋御門伏見町林田町通り稲垣

の通用

一かち場橋引候旨牧重郎治の通用右ニ付渡船之儀年寄へ可申付事

十六日 晴

一かち場橋引舟渡し之儀而御方へ申達ス

一今日牢屋江郡代所の下代被差越盗人新兵衛吟味有之候ニ付山岡与

左衛門の昨日申来り福田甚蔵三舟孫八差向右新兵衛此方ニも尋筋

候ニ付掛ケ合逐吟味候一部袋に入置

一元魚町豊屋嘉七親喜兵衛京都来廿七日頃迄之日延断

一新魚町福本屋庄助身職人町丸山屋九兵衛持来り古道具取売之儀同

人不勝手ニ付右之跡譲り申度由申ニ付願

一今日牢内尋申付候処吟味掛り合ニ付小性町伝吉西新町きし屋茂助

組合預

一玉置広四郎足代おろし同月十八日及御さた候

十七日 不正

一去ル九日宮脇町土佐屋十藏借屋次右衛門与申者坪井町ニ而小脇差

抜野伏を追廻候由此者元来登り症ニ候処不慮に病氣差発り併自身

ニさやニ納メたれ相手とも無之早速右借屋之者共罷越連帰り請人

共并親類一方村次右衛門甥治助と申者之由呼寄談し候上ニ而請人手前江介抱ニ引越候

由内々ハ一方村治助方江当分連帰候由此儀仮初ニも屋中帰中ニ而候事内分に難成ニ付普取之郡代所江及噂候

一今日茂助伝吉大年寄孫右衛門宅ニ而吟味藤森権六立合一袋に入

一舟頭町善六盗人新兵衛懸り合ニ付預申付候所相有ノ他参留に申付

置候

一追廻し役者引払候由勸進元長助の届出ル承置

十八日 晴

一 去ル十日書記に有之候今津屋多胡日上村開所之出入此間山岡与左衛門五もかけ合勿論永井甚大夫五も及噂今日又々鈴木此右衛門へ及噂置於御次一学殿五及御沙汰候処無抛思召後刻可差出旨被仰聞候ニ付右訴状証文写し地所之絵図等一学殿御受取被成候

一 房屋繁蔵儀明日出牢市右衛門懸り合之儀ハ形付畢而今津屋孫十郎五為引取親類共預に可申旨御伺申上候処即御聞届被成候

一 紺屋町山伏万性院先達而家作之儀願出候処寺社方五も申出大目付処ニ而も暫評儀も有之趣何れとも願之様子入口を門構ニ致し大家ねを切雨天ニハ「」足踏ニても入仏拜も成候様致度寺社方ニてハ家作ハ町分之事故不及貧着候旨右様ニ不致候而ハ施主御座候得共護摩修行難成由仍之河原町社家塀構之儀引合見申候処井上弥兵衛存寄片遠所殊に社家ハ不苦候と聞届又鈴木喜右衛門ハ中之町宝尋院門構ニ是等之儀以後者不聞届儀と大年寄思召書に有之古今是非難分ニ付今日万性院へ為申渡候右旨家作之儀時節を見合可申為致候而宜候ハ、寺社方引合可申聞候先當時に者役所取計かたき訳有之可得其意旨大年寄孫右衛門五申渡候

十九日 不正晩六雨

一 房屋繁蔵出牢申付市右衛門懸り合相済申渡別ニ有之畢而同人儀兼而不行跡之処六右体之理不尽出入に相成候儀御下一統に世評悪敷ものニ付懲ノ之為繁蔵兄孫十郎并親類組合共五預ケ申付孫十郎ハ禁足申付候申渡し書付一部に入置候

廿日 雨

一 目明十右衛門并西新町茂助盜賊新兵衛盜物懸り合ニ付藤森権六小

頭替りニ而斎藤孫右衛門宅へ差越吟味一卷ニ有之

廿一日 晴

一 明廿二日九ツ時御供揃ニ而二ノ宮へ御遠乗二階町御門六蔵合前守助稲垣茂士六通用

廿二日 晴

一 今津屋孫十郎繁蔵一件ニ付禁足申付候処今日免
一 今夕船頭町御船蔵西南之屋根一間四方上へ一間半計燃揚り候処蔵元其外而三人懸付早速消留ル四ツ時頃也船方御役人佐美和助へ伝「」相届ケ見受有之候由右ニ付船頭町六夜廻り申付ル他町火消共入込不申町内切ニ而消留候旨注進

廿三日 晴

一 林田町和田屋清六山手屋弥太郎他国請酒之株当申六子ノ歳迄借
一 豊屋喜左衛門借屋之ば、紛失もの着類等七辺計り訴出則一統触出候
一 中ノ町組合預ケ申付候茂助他參指留組合預ケ指免ス

一 御船蔵失火ニ付及御沙汰候処右町内へ万端氣を付させ候様御用番中六被仰渡候旨大目付鈴木此右衛門被申聞候

一 茂渡市右衛門老年其上病身ニ付去歳役免之儀相願候得共致保養相勤候様御指留被成候今般悴庄右衛門義札場見習被仰付候市右衛門病氣故障之節ハ名代被出候様市右衛門儀尚又保養致相勤候様於御次一学殿被仰渡鈴木此右衛門立合即日茂渡市右衛門呼出申渡直手紙遣ス

一去ル十七日日記戸川町次郎右衛門変症一件ニ付双方掛合せ落居為付可然旨郡代山岡与左衛門五及通用置候而其旨大年寄孫右衛門五申合メ候

廿四日 晴

一香山多蔵不快ニ付引込

一東新町因幡屋新七大坂松坂屋忠右衛門唐弓弦売昨日入尤例年之通

廿六日 晴

一牢番人大谷栄蔵病氣ニ付御役組助番申達具候様同役松岡左助五申出候ニ付其旨承置他組五出候儀ニ付一応ハ栄蔵容体も見請候様部

屋目付中山市左衛門ニ遣し候処甚不軽趣ニ付大目付平井郷左衛門

今日鈴木此右衛門五身職人町他行故其段申達置候先年例有之候

一三町目くさつ屋も市借家栗屋左七地受酒株東新町わけ屋太兵衛へ借置候処此度差戻し

一播州あほし塩屋伊兵衛同弟助三郎二人例年之通荒物塩もの高尾屋勘七切手

一境町丸龜屋借屋惣七後家断書去未八月小性町ニ居候砌身職人町団屋ニ逗留九月八日之夕帰り西隣勘七方へ罷越候無珍帰候処差物類紛失致し候得共指扣御届も不申候処此度紛失もの御吟味御座候由乍延引相届候由盗人新兵衛先達而入牢此もの懸りなく右届之品々町方へ触差出候

廿七日 雨

一雲州大原郡勇鹿村作次娘参宮帰道相煩播州作用郡早瀬村より宿送り今日河辺村五送り候旨山岡与左衛門五通用尤町分五同断例之通

新田村へ送り渡し翌廿八日御届申達ス

一中ノ町久屋又兵衛乃井野預り所久米南条下山手村宇助へ是迄三年切奉公罷出候処当申五成迄追願

一京都明暗寺番僧宰情と申者宗門ノリ之為参取計鶴計五申出候由

一船頭町作人太兵衛娘召連身延山并一千ヶ寺来ル四月廿五日立式百

日計

一桶屋町勘七家人札触出候処新職人町元右衛門式拾刃落

一同町樽屋甚助借屋ニ罷在候伝五兵衛独身者九拾才近来病身步行等不相叶難儀致し渴命之趣是迄組合家主其外心当者共喰物遣候得共此上行届不申殊親類等も無之何とそ御憐愍之上御勘弁被成下様組合共一同願出候ニ付一通り大目付所迄及御噂置候此願四月三日及御沙汰御聞届相濟

廿八日 雨

一去十一月幾野御代官所手代大井田与五郎中野忠助五山岡与左衛門へ来書紛失もの郡代所五かけ合町方へ触出し之儀衛守殿被仰渡当三月十五日迄ニ有無申出候様大年寄へ申付候処大年寄共手懸り無御座候旨連印ニて差出候ニ付同人五申談尚又大目付中五も其旨申達し与左衛門五引請幾野之役所五取計飛脚差立候由

一中之町小山屋与三右衛門播州あほし丸尾屋六三郎例年之通荒物塩もの昨日入

一同願同州同所平松屋惣九郎同手代ノ式人例年之通小間物さらし蠟売昨日入

廿九日 不晴

一三軒屋中村清次癩疹ニ而引込豊治老人ニ付暫廻り役ニ不出候事届
一大谷栄蔵病氣ニ付御使組轡面ニ御使組
各面記之有今日罷出候旨松岡佐助届玄関

晦日 晴

一 下紺屋町原田屋左七御使組谷村勇左衛門役介福岡遊甫と申針医当
申四拾八才同人妻さよ三拾八才娘しか六才此度私借家借請申度由
ニ付用立申候此儀外ニ例有聞届

一 今夕五時安岡町鍛冶次郎左衛門方焼少々棟立も上り候得共町内切
ニ而消留申候旨届出ル

四月朔日 晴

一 茂渡庄右衛門儀札座見習被仰付候得共此間不快ニ付不及面謁候処
快氣致し市右衛門同道对面致ス
四月三日追込免ス

一 昨夜失火ニ付鍛冶次郎左衛門追込申付候申達ス

一 魚町とり屋与三兵衛大坂塚筋久宝寺町岸辺屋茂十郎同手代利八例
年之通小間物売昨日入

□京町かも屋和六悴十兵衛明二日立十式三日逗留備中松山成羽屋平
兵衛方立參候断

一 西今町はま屋藤蔵明二日立廿四五日滞留大岑參
一 坪井町御座屋伝六明二日立廿五六日同断

一 鍛冶町たはこ屋治助同所同断
二日 晴夜に雨

一 明暗寺伴僧鶴計方立罷帰候由届
一 先達而伏見町のせ屋源助京町境屋新七家賃掛り合去未十一月落口

申付候通請取渡し相済候由届書出ル 四百四拾八匁五分ニ而済口

一 おけ屋町大坂屋次十郎湯郷立入帰来候三日立式廻り
五月廿八日本証文出ル

一 西今町作人八十八乃井野預り所久米南条南畑村忠之悴次兵衛廿四
才同人弟ニて候由此度引請申度旨聞届

一 重屋次右衛門去ル午之年勝山へ出職手習子共取候処病身ニ成帰り

一 一かち町理右衛門去未十一月引請并河敬庵当二月病死妻子此度親里
久米南条金堀村安八郎方帰り

一 西今町直屋孫四郎北側ニ而居宅表口拾八間裏行町並十五間但式軒
式歩

役東隣ハ黄金屋和右衛門西隣かつ屋常右衛門右屋敷土蔵五ヶ所質
物に書入船頭町板屋八十八取次来西三月切銀札拾壹貫目借用寛政
十二申二月廿七日受返し断書出之

一 安岡町井戸屋茂市久米南条郡押淵村丈助私甥不勝手ニ付此度私方
引請相成之渡世為致度旨 此文助儀ハ去歲本多右衛門殿立申出押淵ニ居候由

一 前目明米屋十右衛門盗人新兵衛懸り合ニ付禁足申付組合預ハ免ス
三日 不正

一 おけ屋町樽屋甚助借屋伝兵衛御救ふち願之通御聞届ニ成則申渡ス
一 境町作人幸吉北側ニ而家屋敷表口式間半裏行十式間半壹歩六分役

也東隣作人喜八西隣作人甚六銀札百五拾匁河原町作人「」へ売渡
し

一 書役野村喜兵衛事永井甚大夫へ申談候処動不出精ニ候得共役所憐
愍ニ付是迄在宿病氣申立候趣然者売買之理無之扶持等相増可遺儀

難成と存候旨何分御勘定奉行へ引替之儀相談可然旨被申聞則□藤

伊左衛門へかけ合置

四日 晴

一 小性町伝吉組合預ゆるし他参差留候

一 西新町惠美須屋文右衛門所持家屋敷南側表口式間裏行九間但土手

切式歩半役西隣大田屋重助東隣大黒屋忠蔵式百又同町野村屋重助

へ売渡□

一 かつ間田町苅田屋次七郎備前行明五日立五日之逗留当主粹源太郎

相勤させ候由兼而掛り合候得共聞届ル

五日 雨

一 山本三右衛門用事ニ付伯州日野郡徳岡三郎兵衛方へ来ル八日立十

二日計往来

六日 雨

一 東大番所塵あくたの建札損し相見候旨橋元町へ申出則相達ス

一 桶屋町勤七家屋敷表口三間裏行四間半四歩役西隣ハ作人新助南隣

作人長右衛門右之家屋敷入札に払申渡落札式拾目新職人町元右衛

門

七日 晴

一 芽町大工政兵衛備中新見五持ニ参百日計

一 坪井福元小左衛門の大年寄共立日光御社参ニ付当方廻り其外町方

諸ノり聞合可申書状来ル 大目付中へも及同月十一日廻状当十三日同廿一日迄之取
計廻状之上手当之廻坪井福元小左衛門返書遣

八日 不正

一 万人講十月十五日願差出及御沙汰候処則御聞届被成候

一 今津屋孫十郎へ多胡佐市へ返答書郡代所へ御用所立差出候処今日

御用番衛守殿へ尚又吟味致候様御渡被成候則大年寄孫右衛門へ渡
ス

一 中之町小山屋与三右衛門播州網干余陸屋武兵衛老人例年之通八百

屋物鯉昨日入同州網干野た屋平蔵例年之通小間もの売昨日入

一角屋油屋一条ニ付魚住屋弥吉他参留

九日 晴

十二日
一 三軒屋番中村豊治今日へ下草苅候旨申出ル

一 藤森権六中山伝内牢舎人盗人新兵衛吟味ニ遣ス郡代所へ木村勤八

罷出会吟味

一

十日 晴

一 東新町たる屋清八西今町久米屋勤七自国請酒株已合借受候処当申

合亥之年迄借商致度旨

一 中買共立先達而申渡候近來何となく不埒之者も有之ニ付今般存寄

を以中間内若不埒之ものも有之候ハ、受人ハ不及申惣中間之者合

急度弁済可致旨申渡候処今度右請書差出ス

一 牢番大谷栄蔵不快ニ付此間引込候処明日出勤之届

十一日 晴

一 栄蔵引込之間御使組野田甚助福田定助中村善治奥山平助梶島義蔵

木村市兵衛飯島吉左衛門牢番兩人へ書付出ス

一 大目付中へ廻状出候ニ付大年寄共立申渡組中其外例之通触出ス

公方様当年日光御社参被遊候趣先達而被仰出候当月十三日御成

同廿一日還御之御先例ニ候用意火之元別而入念□付諸事相慎候

様被仰出候右之趣同役并支配方江も可被相達候

一 永井甚大夫手紙到来罷越候処右御社参ニ付来十七日町廻り被仰付前後ニ小頭と大年寄廻り尤自身番可申付其外相考取計可申旨被申聽候仍之即日大年寄孫左衛門呼出し其旨申渡シ町々年寄共ハ扨度夜度町内を廻り木戸口夜ニ入建切小木戸口往来為致町内立番申付小屋之もの二組加廻り目明共ハ小頭口申付昼夜共諸事氣を付候様申渡ス

一 御家中ハ御徒口火之廻り御先手物頭廻り三度被仰付候由

一 東新町作人善吉利八父淳蔵兼而積氣強く突登申候得者氣も取乱し候処去ル七日朝飯後髮剃ニ而脇下疵付渡部貞齋療治致候処追々疵も平愈致候処昨十日七ツ半頃積氣差起り病死致候ニ付悴兩人口届出候

十二日 不正

一 東新町源蔵病死ニハ候得共自身疵付候趣届出候ニ付今日為見分中山市左衛門差向寺社取次西尾多内江通用致シ口御用番中大目付中江も御届申達ス寺江之通用例格之趣ニ致し候由

十三日 不正

一 御社参ニ付此間申渡候通今日口自身番加廻非人共江申付夜中大小戸閉小木戸口往来非常所々立番年寄共ハ町内屋夜両度見廻り申付尤羽織袴也同心常之廻りニ而一町一町ニ而年寄にノ慎申付目明申合廻り

一 ぬし屋勘平足代之儀申達ス

一 雲州口飛脚参候処宿ニ而癩疹致候得共郷宿ニ而可然取計之由状箱

勘定所へ届候由

本証文ニ形致候中本証文ニ形致候中

一 川口小弥太奉行今日於役所被申聞候ハ魚住屋次郎左衛門銀札場ニ

おいて銀札五百目正錢五百目は迄内証文ニ而借居候処此度本証文ニ致度蔵合孫左衛門江及対談候得共難相成旨申之由仍之何とそ札元口候様致度旨被申聞候ニ付從是返答可及旨相答置孫左衛門江其訳談口置候

一 永井甚大夫被申聞候者来ル十七日町廻り此度ハ格別ニ付馬御貸被成候由尤此間迄ハ七月廻り之通と被仰付候上御先手廻りも被仰付候当御役筋ニても廻り被仰付候得者場相ニ而候間御ノり一同之儀ニ付御評義も被下度旨粗意内相延置候義も有之候

一 大御目付所口廻文日光御社参ニ付諸事相慎候様此間被仰出候間鉄砲登山火つき之事ニ候間跡々相慎事口若心得違之内ニも有之候而ハいかゞニ付此段及演達候組中へハ廻文出ス

一 書役野村喜兵衛病氣ニ付右代り妹尾安治組御使申達シ御勘定所口面談ニ而濟候上今日口出勤難成同月十八日口

一 中之町菓屋兵蔵願私借屋又市四国遍路来十五立百日記

一 式歩中買役免わら屋三郎兵衛金川屋茂兵衛かた木屋清七丸山屋九蔵聞届

十四日 不正

一 京町野村屋忠助先達而河原町伝吉を芝居ニ而十右衛門ニ引合盗人新兵衛懸り合ニ付他参留候処今日免ス

十五日 雨

一 御社参ニ付藤森権六小頭大年寄蔵合孫左衛門今日町見廻り并目明

共申合せ□廻り候

十六日 晴

一水増候ニ付加治場船渡往来留り御所江申達候則今日明キ届ル
一万人講建札いつも一宮市町ニ付此節建候得共廿二日迄ハ見合候様申渡候

十七日 晴

一今日拙者町廻り順路七月之通中山伝内室井作右衛門兩人供馬槍狹箱合羽籠例之通
一端相慎候様火元別而可入念旨年寄へ言葉御届直に申達ス大目付
中手紙

十八日 晴夜中雨

一出羽守様御泊休御先触来り五月十三日十四日十九日廿一日掛日去
ル十六日ニ来候由山岡与左衛門ハ通用
一西今町西田屋太助御使組下山文右衛門役介藤兵衛式拾七歳右藤兵衛
「ハ」
十九日 晴

廿日 晴

一(マ)牢舍盗人新兵衛可尋訳有之中山伝内石名左介
一(マ)中市左衛門小頭代りニ而玉置広四郎同道町廻り
「ハ」ハもんし屋荷物之由相聞江候間人先触之儀ハ先達而相渡馬子共式分□候由
一土井官左衛門ハ先触参候処所々先触差支ニ付馬五疋勝間田駅江迎
馬差越呉候様本陣下山多吉ハ三人大年寄へ来書伺出候ニ付是迄無
之儀馬子共賃銀払之儀相對ニ仕候「ハ」

廿一日 不正

一船頭町紙屋太兵衛同町善六小性町伝吉安岡町米屋十右衛門此者共
儀盗もの質ニ取又ハ取次致し候不埒ニ付追込申付候一袋ニ一卷入

一西新町岸屋茂助儀禁足申付ル是又盗もの懸り合ニ付不束有之
一戸川町打穴屋質ニ取候品送りニ而山岡与左衛門江相廻し受取有之
一さかな町塩田屋「ハ」市町ニ付軽業等せわ炙之類願差出し今日衛
守殿江申達ス永井甚大夫同断一札取之

廿二日 雨

一明廿二日九ツ時御供揃ニて二宮江御遠乗被為入二階町御門より蔵
台前通被為入候旨稻垣ハ通用
一市中例歳之触書出ス
一一学殿江戸表江出立見立ル
一京町海老屋長右衛門切手京都二文字屋九兵衛手代金十郎喜右衛門
多助善八吉三右五人例年之通呉服もの売昨日入
一今日牢舍新兵衛へ尋に遣ス藤森権六石名佐助
一竹子触申渡ス
廿三日 不正

一去ル廿一日追込申付候者共差免昨日取計候段御届申達ス大目付永
井甚大夫江も同断

廿四日 同 廿五日 晴

一今日九ツ時二宮江御遠乗為被遊候処御延引
一白銀屋平助家屋敷新職人町南側表三間裏行拾四間半本役東隣山本
屋弥兵衛西隣作人多助銀札式百五拾目之質に書入元魚町紙屋茂右
衛門取次ニ而十月切五月十二日本証文出天明七未十一月請返し候旨断書出ス

一二階町大和屋市右衛門借屋長四郎乃井野預り所勝南郡位田村庄次郎儀甥之由此度引受住居之願

一堺町小鳥屋次郎右衛門此度用事ニ付雲州猪野屋次右衛門方へ明廿四日出立六十日計逗留願差出候得共林田屋庄右衛門掛り合有之及察度候処吹屋町ふき屋次左衛門へ申談置候由申ニ付今日承り届遣候廿二日之書面也

証文五月八日出

一戸川町作屋庄兵衛願西今町北側作人伊之助名代土井屋「」所持家屋敷表口式間半裏行町並拾五間役式歩五厘西隣直屋「」左衛門持東隣ハ勝屋常右衛門右土井屋左七久々相煩内縁御座候而戸川町作屋庄兵衛へ引越養生不相叶去十二月相果申候然る所右「」相統人無御座候ニ付五人組相談之上右之作屋ハ相談度旨聞届

廿六日 不正雨

一三船孫八香山多藏一宮へ出る

廿七日 不正

御証引帖

一明廿八日四半時加茂川江御殺生北御門ハ袋町林田本町通稲垣茂土

通用

一蔵合孫左衛門申出勝間田之駅ハ当廿二日年寄富右衛門庄屋庄七〇參申候者御当所様御用御家中棟勝間田之宿馬御指支之節者何卒御当所ハ通用可仕候間御当所宿馬御越被下候様奉願候併増賃錢御指被下候得者いか様共可仕候雲州様初其外之御大名様も三四駄分程被下候故其賃錢を以箇々工面仕寄馬仕來候へ共御当所様ハ其御儀無御座候ニ付甚指支迷惑仕候此義何も御役所様申し願出候義之

御事無覺束奉存候得共先御町方御役所ハ奉願上筋違義可致候て御道具御役人様へ奉願候何れニ仕候而も御上ハ奉願上候勝間田之駅先前江戸表ハ被仰渡之趣も御座候宝永六丑歲寄人馬御停止之御触御座候而寄人馬入用之節者旅人ハ賃錢を以雇可申候御用之節者此方ハ可及差図候由文段之前後者空ニ覺不申候得共大意ハ右之通御座候■願之筋御許容不被下候得者御代官所ハ申出奉願度奉存候右者、兩人申候是等之趣■而御座候何卒宿馬御指越之儀奉願度罷越候ニ付追而■是可及返答旨申候

廿八日 雨

一京町かも屋和六切手奈良今井町墨屋伊兵衛手代源助老人例年之通墨売參

一虚無僧取計鶴計ハ左之通銀札八拾壹匁三分三厘是ヲニツニ割四拾目六分七厘ツ、在と町へ割付三月廿六日ハ四月朔日迄番僧六日止宿一日壹匁五分ツ、ニて九匁也。式拾七匁「」式人世話焼老人ノ三人。式拾五匁九分逗留中諸人用。拾九匁四分三厘諸儀所々飛脚賃人足賃共右者京都明暗寺龍宗用番僧罷下り逗留私同役式人世話焼老人ノ三人共相詰諸人用書付差上候由之書面鶴計印ニて差出ス

廿九日 晴

一藤森権六半舍人新兵衛再吟味之儀ニ付下代木村勘八申合罷越候
一一宮ハ中市左衛門室井作右衛門

一 朔日かも川へ四半時御供揃ニ而北御門の伏見町林田町通り被為入趣

五月朔日 晴

□ 塚屋伊右衛門切手播州今日綿屋嘉市郎手代忠七守助式人例年之通

「」物昨日入

一 一宮江三舟孫八福田甚藏

一 勝間田江返答大意永井甚大夫江も粗及噂認させ候処左之通

二日 晴

一 山岡与左衛門の申聞院庄村文吉吟味中人牢手形参り役所手形室并

作右衛門為持遣ス

一 香山多藏石名佐助一宮へ出役

三日 雨

一 一宮へ藤森権六中山伝内

四日 晴

一 尾州島崎神職吉田左右弟子家来上下三人永見造酒之助殿祈禱被頼

例年之通要用之儀ニ付三十日計逗留致度旨宿之儀被頼候ニ付宿切

手差出ス衛守殿并永井甚大夫江も大意ヲ噂之上十五日聞届西川屋

善助

一 御藏米六拾壹匁五分五拾七匁五分

一 勝間田の申出候儀衛守殿江及御沙汰候

一 中山市左衛門神田権兵衛一宮江出役例年之通市小屋引払見届引取

候旨届出ル而御方共不申達候尤其例也

五日 晴 六日 晴 七日 晴

一 尾州知多郡島崎之内寺本村陰明師高橋伊豆上下式人例年之通御家

中并町方旦那廻り昨日入ひち屋兵藏切手

一 細工町年寄新六先達而相果跡役今日同町(空白)へ申不候

□ 西今町塗師屋喜介願先達而断出候役介一ヶヶ寺参詣河口の書状来

足痛ニ付今二百日計之逗留

八日 晴

一 当国真島郡田原村上之山百姓仁助参宮大津の足痛追々継送り例之

通

一 南新座馬場有之辺藪之内ニざる籠并ざる棒添むきも少し入有之候

由筭取候仲間見付之下目付組も出合候而割場江筭入持帰候ニ付役

所江受取候而吟味之心得致可申旨平井郷左衛門被申聞候

一 綾部村大庄屋多胡左市へ今津屋孫十郎の返答書一通今日御用番衛

守殿江差出ス大目付所江も及噂同月十三日郡代所江御下ケニ成此

分ニ而御捌可被成歎思等心付可申旨被仰渡候由

一 粉鉄場船頭町ニ而札建候由御勘定奉行清水多橋噂有之候ニ付大

年寄江同様ニ為知置候

十日 晴

一 昨日相記候ざる籠之儀立合目付相招委細相尋候今日右之籠を為持

役所江可参候処中間計ニ為持こし候儀不束之旨聞之明日可相受取

段申聞候

一 広瀬橋杭ニ鐘木有之候処昨晚流候を小屋之伊助と申非人取上候旨

申出候ニ付大年寄の相届候広瀬橋之儀ハ役所掛り合ハ無之候得共

非人共申出候儀ハ承置ニも難成牧十郎次普請方故以使為知遣候

十一日 雨

一南新座御敷之内ニ有之候ざる籠手掛之儀も工面致候様目明源八文太へ申合メ候尤目明共江籠も預候様ニ申渡ス

一二階町年寄塚屋忠七因州鳥取へ売用ニ付明日出立往来十五日計之

「」聞届

十二日 雨

一恒例之通大盤若御祈禱無滞相濟御家老勘解由殿計地藏院当住初而

導師海老原極人鈴木此右衛門永井甚大夫平井郷左衛門当役大沢三

平御使番松島十学寺社取次西尾多内中奥目付小島右内相詰転読畢

而勘解由殿初其余詰之面々拜礼例之通大目付中於御用所例言恐悦

被演当役同右

一水増候ニ付鍛冶場船渡往来止御用所大目付所へ申達ス

一今津屋孫十郎撰州中筋村森田武右衛門去冬銀子之儀御蔵屋敷へ

訴出候ニ付其旨相尋候処先達而孫十郎名代之もの相登可申旨書付

差出す其段大目付中へ及噂置候大坂御屋敷廻り候儀ニ付此書清

水多橋へ廻ス

一越州富山板屋理兵衛役介善次郎嘉兵衛式人例年之通当月迄請人

取手前に差置売棄為仕度京町茶屋願

一下紺屋町原田屋左七雲州杵築へ当十二日立往来十五日計

十三日 晴

一御蔵米六拾四匁六拾匁

一御用所御家老中計造酒之助殿御用番御引請被成候由大目付中可申聞候

一水減候ニ付鍛冶場往来明候由御両方江申達ス

一於江戸表長坂御前様御男子御出生被成候由尤当月一日

十四日 晴

一京町加茂屋切手松井屋源兵衛同伴伊三郎同手代嘉七上下三人例年

通反魂丹売

一竹田村勘六勘六鍛冶屋喜兵衛掛り合之趣有之別記大庄屋中島多右衛門と大年寄塚相ニ而かけ候

以候

十五日 晴

一長坂御前様御男子御誕生御悦御家老中御年寄中并大目付中其外格

別ニ御出入之面々麻上下ニ而御悦申上拙者儀も罷出る

一鍛冶町宗道宮ニ而日待祭例年之通届出る

一細工町年寄新六先達而相果候跡役同町大工太左衛門江申付候様申

渡ス

今日及御少汰候

一玉置広四郎親忠兵衛京都ニ而病氣ニ罷有容体見届申度所品ニ召

連罷帰候趣明後十七日出立往来廿日計孫右衛門月番ニ代り

十六日 晴

一今日牢舎人盜賊新兵衛吟味ニ付下代參候ニ付此方中山伝内罷出

ル

一大目付平井郷左衛門大村庄助後御敷際ニ捨もの有之御徒目付差

出候間同心差出可有之旨手紙到来立合左之通

御上目付

河村市兵衛目付組同心石名左助目録八ツ召連捨もの、品ひかへ置候

一 四升入はがま一一 中茶一一 料理鍋一一 一 一 五品左助請取
之最寄ニ付下紺町年寄善左衛門を呼預ケ罷帰候引続キ右年寄
共六件之趣大年寄へ届預り候品書付出入ス尤左助儀も書付取之
役所に置之候

一 藤森権六儀橋元町死刑ニ仰付候小右衛門家財是迄組合預候処今日
道具屋へ入札ニ取計老刃五分ニ落書付取帰る

一 三室屋宇左衛門京都東洞院すみ屋五左衛門方五来ル十八日立往来
世日計断

十七日 晴

一 京町仕立屋多助断私借屋居申候綿屋伊助母とも式人先月廿六日之
夜罷出方々相尋候得共以今行衛相知不申届承り置候

一 二階町ぬし勘平儀悴勘藏儀安藤所司殿五出入奉公人別除之儀申出
候得共勘平儀細工も親に増格別之手際現に何角御用も被仰付職分
ニおいて類も無之御用も勤め御相印門松等も御差免し被成候兼而
御ふち等も被下其家五懇望ニ而養子ニ参候勘藏其家業ハ傍になし
候出入奉公似も不付願筋ニ存候由所存承り候由候処不束成節申之
義有之

十八日 晴白雨甚

一 吉田左右儀逗留十五日と承届候処又候造酒之助殿祈禱相濟不申候
ニ付今十五日相願度伺出候ニ付か様ニ過分之義申出候而者上下道
理ニ叶申間敷ニ付寸志相兼何とそ最初聞届候通十五日限りニ仕度

於御次衛守殿五申達候

一大目付中五廻状晴雲院様七回御忌被持当候此段及演達候之様御用
所御申付申達候之由

一 海老原極人五去ル十五日之夜拙宅ニ而失物御座候処一昨日大村庄
助後ニ捨有之候品々心当リニ御座候右ニ付御存寄致承知候上右之
品委敷書付可差出旨奉存候相違無御座候ハ、受取申度候右可得御
意如此口有之端書ニ御存寄無御座候ハ、明日四時頃書付等貴宅へ
指出可申候御答次第取計可申候へハ此儀ニ付同人五参り存寄も無
之可相渡也尤旧例も考居候間明日相渡可申及約諾勿論今日御同役
中を以御用所御届も有之可相受取之由被仰聞候被申聞候
一 明十九日九ツ時御供揃ニ而二宮へ御遠乗田町御門五大番所夫五例
之通

十九日 不正晴

一 水増し候ニ付鍛冶場往来止り両御方へ申達ス

一 川明注進申達ス

一 海老原極人五去ル十六日記有之候捨もの品五書付無相違尤若党和

田源蔵受取書中間召連来則引替相渡候

御勘定奉行

一 清水多橋五手紙此度鉄砂置場船頭町今津屋出口御制札場石垣下立
札致し差置度旨申出候役所構之場ニて候ハ、承置可申追々取越候
積之由申出候間懸合可申返答申越候様尤構場ニ候ハ、組之者ニて
も差出相渡候ハ、受返之御役人受取候様取計可申よし申来旧例引
合せ彼是可申遣候旨及返答候翌日多橋宅五参役所構ニ無之旨申談置

廿日 晴

一今日清水多橋江罷越右場所役所構ニ而無之旨及返答候
基大夫立も此段及時置候

一衛守殿合此間被申聞候左右日敷之義内々造酒介へも談候処愈今十
(A)

五日逗留不致候而江同人方祈禱不相濟趣ニ候間日延之義聞届可然

御申達被成候由則孫右衛門呼出し其旨申渡候勿論書付「」

一下紺屋町河内屋平三郎家屋敷表口四間裏行拾七間但半役東隣不動

院西隣作人善兵衛代銀札五百五拾匁ニ町内亀屋勘右衛門江売渡し

廿一日 晴

一御藏米六拾三匁五拾九匁

一吉田左右儀ニ付西川屋善助合断造酒助殿御方祈禱要用之儀私宿を

頼れ十五日相済日数明後十九日ニ而相濟然ル所右祈禱未相濟候由

ニ而今十五日計之加日相願宿之儀安々相被頼何卒聞届くれ候様文

但去ル十七日出之書付也しかし不容易儀与存趣意
申渡候ニ付及猶字候処昨日之通ニ付今日聞届遺候

一ぬし屋勘平悴勘藏儀今般畑勘藏与改所司殿へ出入奉公為致申度聞

届町内人別を除く去ル十七日粗記置候津川御林番豊田多吉次男之

処ぬし家職之望ニ而去歳養子ニ參勤平娘と娶候者ニ有之候処家業

を外になし町内人別を離れ武家之行作を見習はせ候儀父子共ニ不

埒ニ存候得共所司殿方事六ヶ敷候由ニ付還而勘弁ヲ加へ聞届候尤

勘平江者御扶持も被下相印門松等も御免被下候ニ付一通りハ大目

付中へ及噲置候

一去ル八日比日記ニ有之候御裁之内ざる籠之儀惣町へ例之触出し候

一紺屋町河内屋平三郎本証文

廿二日 晴

一六拾式匁五拾八匁

廿三日 晴

一町中宗門改帳宗旨奉行松島十字合相請取孫右衛門江相渡ス

一宮東山方助八紛失之品。木綿袷一表空色裏淺黄丸之内ニ丸中子

。木綿袷羽織表あいみる茶裏水色無紋郡代所合申立例之通町分触

出ス

一錢八拾五文

廿四日 晴春雨

一今津屋孫十郎方へ多胡左市合相廻り候日上村沖ヶ原流込之田地絵

図本書取上可差出旨昨日大目付平井郷左衛門合被申聞今日取上相

廻ス

一大目付中合廻状於彦根御前様御祖母寿慶院様御病氣之処御養生不

被成御叶去ル三日御卒去被成候段申来ル依之今日合来ル晦日迄七

日之内鳴物高声御停止之事ニ候尤普請ハ三日之内可為無用候即候

例之通触出ス

一去歳十二月朝鮮人參売弘之儀日記ニ有之候処此度江戸日本橋辻伝

次郎代次兵衛猪右衛門兩人到着境町島屋与三兵衛宿ニ而申出候旨

大年寄孫左衛門申出承り置候

廿五日 不正雨

一辻伝次郎代兩人今日齋藤孫右衛門宅へ参段々売弘之訳者町方之も

の共へ嗜ニ相調候様言葉ヲ添くれ候様尤私とも相廻候も一ツハ人

參売紛れものも有之所々ニ而不埒之ねたり事も申候段々追々相聞

候ニ付右等ノリ之為相廻り候由いわれも当地之儀甚及困窮腕与相

求候ものも有御座間敷候何分御相對ハ兎も角も町奉行所ニ而も拙

者共ニても相調候様申付候義ハ決而難成旨及挨拶候由

廿八日 晴

但右兩人応対之者松田屋孫市平野屋助左衛門油屋与市郎申付

一水減鍛冶場往来明両御方へ申達ス

兩人今頼ニ付町々年寄宅ニ參相對之弘メ致度旨ニ付其旨申出

一今日勘解由殿計御出仕人參壳弘之儀此間日記之趣申達ス尤是へと有之數居際ニ而御用番ニ申達候如く達ス先格之通也

一御堀掃除料百五拾匁孫右衛門ニ納所

一去ル廿五日記有之候通船頭町捨もの之儀大目付平井郷左衛門ニ及

一京町作人權助船頭町かち場河原ニ藁積置候中ニ浅黄古やれふとん

一昨紛失之者ニ無相違候へハ渡し可遣候旨達置候尤今日捨もの見出

表一ツおるん兵茶単物一紋丸之内ぬりに浅黄色之前掛に包有之取

掃り候届

候京町作人權助ニ役所ニ受取候

一船頭町作人市左衛門後家去ル廿一日晚留守之所つきやれ蒲団裏表

一堀掃除料百五拾匁納メ内受取関十治ニ取之

不相見候届

廿九日 雨天

一 下紺屋町大工吉左衛門当月廿一日夕御納戸茶木綿ぐるり裏紋だき

六月三日ニ及御違候
一 例年之通来月七日ニ十四日迄祇園会御戸開申度石動院ニ

菊せんたく候単もの一〇空色前かけ壺ツ右ニ品紛失ニ付届

一同痘瘡守護神燈明灯七日ニ十四日迄安樂院ニ

一京町戸屋正右衛門大坂大屋治三郎へ明廿六日立来ル九月迄滞留

一吹屋町北村屋榎右衛門南側家屋敷表口六間半裏行八間半本役東隣

一河原町年寄平三郎齋三郎と改号

ハ北村屋弥七西ハ小路切ニ而御座候右之家屋敷之内西之方ニ而表

廿六日 不正夜雨

口四間裏行八間半但六歩壺リン五毛四之処式百五拾匁米屋七蔵へ

一人參弘メ次兵衛猪右衛門兩人町々年寄宅ニ可參間左様相心得尤相

晦日 不正

求候儀ハ相對次第ニ可致旨孫右衛門宅へ銘々呼出し申合候

一雲州ニ參候京都禁裏御医師畑法眼柳安御病氣ニ付御招被成谷口武

一水増候ニ付鍛冶場船渡し止り両御方へ申達ス

之丞と申御家来去ル廿日之夜中追付通り候由京都去ル廿八日立来

廿七日 不正

月五日松江ニ着之積先触来り候由通り候町貧着無之

一 こん屋町四乗院六月七日金毘羅參同十六日帰宅之旨

一新職人町年寄喜平次茂兵衛借屋かし候もの有之候処組合内ぬし八

取計 計 京都 明 暗 寺
へ宗縁御用ニ付先達而 出府有之候処去秋相濟

郎右衛門請候処当町右通ニ合候義ニ付印形も不致旨申之甚故障ニ

右見舞として上京致度外ニ宗用之儀有之来月上旬立往来廿二日計

相成申出候旨八郎右衛門ニ大年寄於宅きまり候処畏候由ニ而事濟

逗留仕度雜用諸人用百五拾目ニツ割口町在七拾八ツ、相受取申

候尤八郎右衛門ニ心違之旨之書付取之候由

度旨願書再小日記差出す

六月朔日 雨有

一大目付中ハ廻状於江戸表長坂御前様先月朔日御安産御男子御誕生
尤御出生様御名孝丸様と奉唱候之旨来其旨為相知被仰出候

一 去月十五日為上使寛新五郎殿御出西丸為上使野一色頼母殿御出御
因許立之御暇被仰出從面御丸如例御拜領物被遊候之旨申来恐悦御
事ニ候依之来ル三日為御悦御帳付候例之通取計候様大年寄申遣ス
組中例之通為知候出仕ハ辰之中刻ハ巳之中刻迄也

一 去月廿七日下午紺屋町目明文太飼犬同町犬と喰合候処原田屋理助文
太犬に水を掛候迎聊之爭論に成兼而中惡敷処ハ左ニ及候由いつれ
ニも双方おとなしからず殊に御中陰之内ニ付從双方相糺し理助儀
ハ出牢以来原田屋牛七はりま屋市右衛門原田屋理三郎へ預置候ニ
付三人ハ察度申付候様大年寄へ申渡ス

二日 不正

去月廿七日引合
一 虚無僧是改東仙と申兩人孫右衛門方へ參鶴計ハ御願之趣有之候由
其趣一覽致度申之候得共鶴計儀ハ郷中支配之者ニ付右願ハ荒増増
申聞尚支配方へ可被達旨相応之及挨拶返し候由
六月十一日発券出
一 材木町作人十兵衛南側ニ而所持之家屋敷表口亭間半裏行拾七間但
御敷切式歩半役也西隣ハ福中屋多助東御番所福中屋立百匁に売渡

シ

一 二階町田原屋伊兵衛明後四日立三拾五日計備後福山へ

三日 晴

一 渡部休庵薪森原村掛り合ニ付右之地立出訴添輪相願候旨委細申上

候処御聞届被成候

一大目付中ハ廻状暑中為御機嫌伺明後五日御帳付候間辰之中刻登城
可有之旨此旨例之通追而禁足之面々不及出仕候。從江戸表飛脚到
来殿様先月十五日ハ御熱氣被成御座候ニ付河野仙寿院法印御招被
成御伺之処御癩疹之御様子ニ而到而輕キ御様体御膳御平生体に被
召上御順症被成御座候段申来恐悦之御事候依之為伺御機嫌御帳付
候間明後五日辰之中刻ハ巳之中刻迄之内登城可有之候此旨同列同
役支配方へも可被相達候へハ右海老原極人立聞合候処町ハ為知候
外ハ無之旨尤御城も部屋住大役人迄之由ニ付大年寄迄為知候尤
組中立も為知札元医師其外町年寄ハ不及其儀候

一新職人町高角屋八十吉ハ私弟三甫良甫義当申六十四才罷成申候近
来病身罷成申候而私役介仕罷在候処去ル朔日不計罷出相見不申ニ
付近辺打寄方々と相尋候得者ニ宮村末田池ニ而水死仕い申候仍之
御届仕候旨即刻大目付海老原極人立届置候通例ハ見分以後届候得
共郡代所ニ而ハ見分口出上立も達候趣ニ付此方ハ見分難出ニ付今
夕八十吉呼出年寄立合之上八十吉請取方且ハ水中ニ暫混り全身爛
り取綺も難成候也旁段々役所之存寄も申聞候処迎も取越ニ難成趣
ニ付見分相濟候上ハ其所に取置ヲ歎きニ付伊兵衛明早朝立口見分
死骸受渡之仕方郡代所立及通用候

四日 不正

一 今朝良甫死骸立合見分藤森権六差出郡代所下代植月喜三次新職人町
年寄組合八十吉罷出見分濟此方立死骸受取書面例格之通以後死
骸ハ双方承知之上右場所に取置致候由旦那寺ハ送り引導ニて濟候

尤右八十吉の死骸取納之儀ハ例之通断出承届尤今日衛守殿へ直申
上届申達ス大目付海老原極人江も申達ス

五日 晴

一今日兩様御機嫌伺御用所ニ而も同様一烈に申上ル廻勤不致候

一吉田左右今朝出立之旨宿の届出る

一上紺屋町備前屋長七四国遍路七日立百日計家主原田屋左七の断

六日 晴

一当三月朔日^{半番}入牢申付候茂八儀今日出牢之上追払申付候^{中山市右衛門室井}

作右衛門 申渡扣有之

一熱田若狭金毘羅參へ七日出立往来七日計

一下紺屋町万性院同断十五六日尤七日立

一堺町平田屋伝次同断十日計願

一上紺町渡辺休庵明日備中倉敷ニ訴訟之儀ニ付罷越候ニ付添輪屋敷

へ呼出シ大年寄孫右衛門立合之相渡候文段一部ニ袋ニ入

一茅町伊助戸島村百姓長兵衛と申者兄弟ニ付引請人別人承届

一上こん屋町津しま屋三右衛門の願借屋居申候源四郎当申八拾貳歳

独身病身相成歩行叶不申及渴命候是迄近辺心当もの共少々宛喰
物遣申候得共最早行届不申親類も無之到而難義致御歎申出候

右同八日及御沙汰御届被成候ニ付孤独
ふち被下候

一直屋市郎左衛門方昨夜九ツ半頃表之戸扣又候八七ツ時之比大石を
以大戸二所打抜内に入右狼藉もの一向不相成候得共変儀ニ付相届
候由承り置追々様子可尋

一かち町金ひら參詣拾四人七日立七日計往来

七日 白雨 八日 晴

一今日於御用所衛守殿の先達而今津屋孫十郎の差出候絵図ニ付於郡
代所尋御座候旨返答書差添右役所の差出候間相渡候尚又孫十郎方
の委細之訳吟味致し可申候

一入牢院庄村文吉明五半時下代為致吟味候旨郡代所の申聞^{九日}出

九日 雨 十日 晴

一玉置広四郎昨夜帰着之旨届出ル

十一日 晴

一西今町直屋方石打狼藉之一件近辺之者迄追々吟味申付候

一中之町作人茂助家守坂原屋願御城代組弓之町原文太拝領屋敷居申

候作人嘉兵衛と申者五十才同人妻かつ四拾才此度家内式人引受人

別人

一中之町作人平四郎後家その願私所持之家屋敷中之町北側ニ而表口

式間裏行拾四間但四歩也東隣ハ疊屋文左衛門西隣ハ物布屋伊助内

縁ニ付町内二口屋与七郎相讓申度旨聞届

十二日 晴白雨

一玉置広四郎の親忠兵衛去春上京致候処病氣取鎮同七月私上京病容
見請申候処差重り去歳中ニも罷帰候様仕度候処当春ニ到り不相勝

「去月御断申上京此度は是非召連帰り可申与存候処馬駕籠ニも難

乗甚難治之症ニ相見へ於私恐入奉り然ル処忠兵衛ニハ去歳の当所

ニ罷越候以後難病取鎮永々逗留追々日延之御願申上候段對御上可

申上様も無御座恐入右ニ付何とそ御慈悲其御地人別御差除被為

下候様御歎申上度旨此段御願申上候義到而恐多奉存候へ共混相歎候ニ付乍恐相願候由

件之書面ハ此間自分分忠兵衛永逗留ニ付兼而一般之浮説不得止事斎藤孫右衛門迄存寄書付相渡し何分罷帰不申候て遂一其訳申出候得其上ニ而思慮可致旨申聞候処甚恐入兎角之答なく右願書ヲ出ス仍之今日永井甚大夫江罷越及噂候者其大症之忠兵衛ニ候得者此方□不届を咎人別を除可申ニ候得共引請候もの無御座時ハ迎も広四郎に相懸り候ケ様ニ忠兵衛願ニ候得者役所も可申段合候旨ニ而聞届候得者自他筋能候旨申談置

十三日 晴

今日申渡し広四郎様差向出候間申候御願十四日不及其儘旨申渡ス広四郎へ申渡書面此下ニ人置候一玉置広四郎於御次衛守殿江及御沙汰候所一通り御取被成候上ニ而

又於御次右願御家老中江も被及御沙汰勝手次第取計候様勿論甚大夫存付も候由人別を離徘徊差留可然旨何分考宜取計候様被仰聞候

(申渡書面)

其方親忠兵衛去春用所ニ付上京之以後於に今不亘浮説相聞候当身分無構とハ可存候得共近頃迄役儀相動役免願候砌も悴江内願之趣も有之処当時大年寄役被仰付悴広四郎ハ元より祖父以來家之面目御厚恩難有奉存後見も致し商売向も弥繁昌を可希之処外聞実義前後貧着抑得風聞を得候事不埒之至ニ候仍之申付之存所も有之候所忠兵衛儀於京都難治之病体相断尚又同人京都逗留追々日延之願申之甚恐入候ニ付人別差除之儀忠兵衛ハ混相歎候旨此度広四郎ハ無相願候前書ニも申述候通此義於役所も相合候旁勤弁之上願之通忠兵衛人別余之義

承り届候早々其旨可申遣候尤徘徊差留候

申六月十三日

一 盗人新兵衛御領分追払被仰付候無宿もの儀ニ付役所取計候様尤部代所江掛ケ合可申被仰聞候ニ付山岡与左衛門江通用申合候来十六日可取計

一直屋市郎左衛門□狼藉之趣別席ニおゐて海老原極人江及噂置候

一米中買へ式步中買共掛合之願差出シ文段扣ニ有以前此願下方御願申上御聞届被成候上ニ而永久不仕候得共此度者米中買式步中買ニ候得者常其商売仕殊に神文迄申付候者共勿論掛合候出銀札ハ札元

御用達共江預ノリ能致候由誓相続不仕候迎も御損益に中り申筋ニも無御座候間御申上候旨申達候所今日御聞届被成候而申渡候一大目付中廻状江戸表ハ飛脚到来

殿様御痲疹被成御順快先月廿八日御酒湯御祝義被為濟候旨申来恐悦之御事候因是明後十五日為御悦御帳付候間辰中刻今巳之中刻迄之内登城可有之候此旨同役同列組合并支配方にも可被相達候右夫々例之通廻文取計候

一 石動院前ハ安楽院前追々側筋大溝之内乱雜ニ物を捨候様勿論二階町元魚町分御堀端ニ不淨乱雜ニ相見江候以後銘々詮義ヲ致し右体無之様可致可心付之旨且又会色ニ付花火等取候由誰と申人体ハ難分も可有之□是等之事取計相考候様今日海老原極人ハ手紙ニ而呼「」被申聞候則夫々ノリ申付候

十四日 晴少々白雨

一 備中倉敷ハ渡部休庵一件ニ付返書到来薪森原村役所差越出同人家

来ニ為持来り悴養庵右村ニ持參致候処皆々倉敷へ參源右衛門□申
店屋之悴万次郎印形無之受取書取帰り其段申出候ニ付甚疎略之仕
方ニ付何分右村へ年寄養庵も參り印形取帰らせ可然申含メ今夕右
之もの共村方へ遣候由

一昨十三日おけ屋町作人六兵衛の申出之趣娘せん中投材木之間ニテ
指渡卷尺式寸□銅たらい拾イ罷帰り古ものと相見へくわん卷ッ付
居申候由今日書付出ス

十五日 晴小雨

一今日御癩疹御悅御帳出仕例之通於御用所恐悅申上ル

一備中の休庵一件返書来候趣衛守殿及御沙汰候

一十八日及御沙汰御定所江も引候
□座頭自他国共来ル十八日參込十九日ニ還御之御祝儀仕度旨大目付

海老原極人ニ達置手紙ニ而

一南新座町齋藤八大夫前市場百助屋敷へ相掛り此間大雨ニ水□候

由溝凌之議申立有之候ニ付可申付候旨先年凌被仰付候処下へ參候

様地形高くほり「かたき旨海老原極人達し置則凌之儀孫右衛

門ニ申渡□

一去ル十三日林田中之町水風呂屋庄兵衛西新町ふく島屋伊兵衛兩人

ニ新兵衛被盜候品相渡□遣ス

一森家引渡帳面之箱損候ニ付今日海老原極人ニ箱仕建之儀申立候所

来十八日御作事ニ可申達旨其砌かけ合候様被申聞候

十六日 晴

一盗人新兵衛儀出牢之御領分追払申渡立会藤森権六書役妹尾安次出

番三舟孫八福田甚蔵申渡文段扣に有之河辺村ニ送「」

一六拾卷刃五拾七刃

一銅鑿かねくわいひろい有之候心掛り之もの候ハ、可申出旨触五日限り申触候

一昨夕森原村ニ受取之印形取に參候処伴内と申者遮而印形不致尤

御差越之儀ニ付不念之御察度候得者当方之不調法ニ成各方御不念

ニハ決而不相成候旨申ニ付其分に致し罷帰候由承置候右等之趣備

中へ年寄共の申遣スへき旨ニ相聞え候

一今日八時百間藪辺被為入北御門袋町林田町松原筋へ被為入稲垣の

通用

十七日 晴

十七日 晴 十八日 晴

一今津屋一件ニ付去ル八日之書記又候今津屋返答書其外左市の手紙

証文写共□ル

一京町年寄味噌屋清六病氣ニ付役免願差出候得共其儀町内訳有之儀

ニ付先押而保養相動候様ニ可致右ニ付書面存寄之義大年寄へ渡ス

一細工之町大工多助南側家やしき表口式間裏行拾三間但三步役東隣

大工治助西隣大工茂兵衛銀札百七拾刃大工治助ニ売渡シ

一船頭町作人市右衛門北側ニ而家屋敷表口式間四尺七寸五分裏行七

間但七步五リン東隣今津屋孫十郎西隣ハゆの屋善七町内板八十八

へ七拾目質入

一中之町二月屋与七郎私借屋居申候作人平四郎後家その当申五拾式

才「」満式拾式才西々条郡瀬戸村伝右衛門方へ妻子ニ罷越候願

十九日 晴雨天

一今日八時御供揃ニ而二ノ宮へ御遠乗被為入御道筋田町御門の番

一 所本町通り被為入候旨稲垣ハ通用

一 今日参込候自他国座頭共還御祝儀可遣之処殿様御痲疹無滞被為濟御ニ之上御悦之御帳も付恐悦之御儀候間此度御一所に御祝儀

頂戴仕度旨申上くれとも御口格も無之御痲瘡ハ上使も有之御痲疹ニ決而左様之御会釈も無之被下や否御聞合も可有段申聞せ候処御

大名様方ハ下方ニ為御知せたに有之候得者是非頂戴仕義ニ御座候御聞合之間扣候得者被仰付候而も御請取憚得不仕候旨申之ニ付衛

守殿へ委細御聞被成御聞届被成候旨明日者御日柄ニ付今夕夜分兩様相渡し候藤森権六中山市左衛門罷出候

一 桶屋町大坂屋治十郎五年寄役申付候

廿日 晴

同月三日申上ル

一 昨夕相渡候銀札高老貫六百式拾三匁五分人数高式百六人銀札四拾八匁一「名式人老人ニ付式拾四匁ツ、同拾式匁五分はれ衆分老人

同老貫式百五拾目衆分百式拾五人老人ニ付拾匁ツ、同九拾匁打懸拾八人老人ニ付五匁ツ、同八拾ニ初心三拾四人老人ニ付式匁五分

ツ、同七拾八匁寿名式拾六人老人ニ付三匁ツ、同六拾目配當場役料書役筆墨紙代共ニノ老貫六百式拾三匁五分

右者 組合式百六人

公方様日光御社参還御祝儀

殿様御痲疹御祝儀

御領分他国他領座頭替女共へ被下置候

廿一日 白雨 廿二日 晴

一 去月廿四日書記人参売兩人今日出立致候旨御城下薬店共ニ「調

廿三日 晴

一 上紺屋町独獨源四郎へ今日内借証文ニ而受取尤御聞届之日ハ渡候積同廿五日本文出ル

一 坪井町福得屋政吉願北側ニ而私家屋敷表口四間裏行拾七間但老軒役東隣福得屋又七西隣小浜屋五右衛門代銀札老貫目町内沢野屋伝六江売渡し

一 去月十八日之書記御家中屋敷江盗人徘徊此間迄三四ヶ所へ這入紛失もの露頭於役所も同心共無油断目明へ申含心を配候処今日新職

人町大工伝兵衛方休居候多助と申者海老原申吉長屋もの茶釜を盗質先ニ而相頭候「目明申出則刻役所召連来老通尋候上ニ而

衛守殿江も及御沙汰「月番大目付海老原極人江申達し入牢取計候石名平太兵衛立合出番藤森権六神田権兵衛一件袋に入置

(紙間挿入文書)

〔申六月廿三日 多助召捕入牢〕

一 盗人 無宿 多助へ尋

其方儀御家中屋敷間柄之者有之出入致候由然ル処近来所々紛失もの沙汰專に付其方ニ不審を付候へ共決定見届候儀無之及猶予候処

屋敷方長屋ものへ茶釜を盗質ニ置儀明白ニ相知候上有所さがし候処今日新職人町大工伊兵衛方ニ罷有候儀相聞江候ニ付早速召捕江

候右一こと相知候上ハ紛失もの所々ニ有之ハ必定其方盗取候而質に置感売代なし致たる無違候追々尋候間不包相答可申候

一 其出生ハ何方親共ハ何と申當時居所ハ如何且其方は迄いか様ニ渡

世致候哉

私儀ハ元来身職人町ニ而生候得共夫の上紺屋町灰屋裏店ニ両親ニそひ居申候親父ハ六年以前ニ相果母ハ夫の新職人町大工伊兵衛方へ便り候ニ付私儀も折節出入仕細工も習候へ共埒明不申近來内山下御屋敷様御供ニ而江戸へも罷出其後勝山御城下ニ而口過仕候得共是又埒明不申罷掃り御城下ニてハ町方ニてもうろたへ近ころ田町御やしき様御長屋ニ姉むこ御座候而是江便り居申候此度長屋者之茶釜戸川町長右衛門方ニて品々盜候儀私申訳無御座候

一五月十五日之夜ニ候哉大村屋敷後ニ御敷際ニはがま鍋其外盜候而捨置候事其方老人之しわざニ無之同類有之候有体可申之候

私老人ニて外ニ同類ハ無御座候一度に盜取出し候処おそろしく成候ニ付右之処に捨置申候

一又外屋敷ニて中間之差物其外盜候儀是又同類有之候可申候

同類無之私老人之仕方にて御座候

一又外屋敷ニて差物蚊屋其外鏡三面風呂敷等留守をめかけ這入盜取候儀有之候明白ニ相答可申候

私盜取申候而實に置申候此外盜もの申訳無御座候

申六月廿三日

多助

右之通応尋速に及白状候間尚又追々可遂吟味旨申付入牢申渡候以上

町奉行

廿四日 晴

一中山市左衛門拝領屋敷へ山本与八御使頼部屋目付借り受住居候由権六六届

一かや町坂本屋宇右衛門持牛落候由断取出捨申付ル

廿五日 晴

一椿井屋「願他所參候□もの屋細工品御当地江入込所々□商買仕ひもの仲間細工もの無之及難儀仍之以前も願差□触流御座候処近年猥に相成挨拶并米通等家業ニ仕候処入込難儀致候ニ付停止」
「歎書差出ス」

廿六日 朝雨甚敷

一水増候ニ付鍛冶場往来止御両所江申達ス

一新職人町大工伊兵衛妻私悴多助兼々不所存ニ付異見心を尽シ候□心底相直不申候ニ付此度義絶勘当願差出勿論入牢も致候盗人之多助ニ候処是迄手拔致置於に今か様之願難申上延引致候旨申出候得とも最早罪科決し入牢被仰付候ものニ付役所切ニて不及御沙汰候

廿七日 晴

一あか屋文助願一学殿御出入奉公三木文吾悴善三郎拾八才罷越此度養子願

一水干落往来初候旨申出其旨申達ス

廿八日 晴

一河原町吉原屋長八弟伝兵衛寺元村孫右衛門智被貫遣度願聞届
一鍛冶町かち屋喜兵衛弟嘉七と申者へ六年以前親喜兵衛家やしき相

調

其御別家為致候処兼而竹田村勘七無尽講取結其連中組屋

去ル午年入札落札ニ候を右嘉七ふりかへ呉候様ニ頼之連中承知

嘉七家を引当に証文ヲ入講銀借用致候加判ハ組頭横の屋徳左衛門

致し候得共借主嘉七去春相果右講弁銀計ヒ候もの無之竹田村勘七

儀者喜兵衛方嘉七両人之鍛冶米を講銀滞候ニ付指押之喜兵衛儀ハ

嘉七家ニテハ無之売券致所持候へハ私調候家屋敷と申繼之双方之

訴合大庄屋中島多右衛門と此かた大年寄との間ニテ済度色々思

「尽候得共難相済候其段山岡与左衛門及通用互ニ表向之吟

味に可致旨相極メ今日御用番衛守殿へ及御沙汰候

一馬持共式拾五人巻人ニ付大豆巻表ツ、拝借御聞届

一惣檜物屋共他所檜もの細工入込渡世之故障相成候旨断候先例も

有之ニ付一統触書可出旨大目付中迄及噂其旨大年寄へ申聞候

廿九日 晴雨少し

一郡代所入牢院庄村文吉出牢取計ニ付福田甚蔵出役

一かち町かち屋喜兵衛今日呼出し竹田村か、り合ニ付嘉七家屋敷質

に入候儀存寄申聞候処全嘉七家ニテ無之「売券等致所持候得

者嘉七致方不埒之段絶而申張役所をも不憚無体ニ我意を申候得共

嘉七別家ニ而親喜兵衛存命之内宗門帳人別帳ニ出去年宗門帳

ニも嘉七後家と出候得者家持ニテ候旨色々申聞候得共押而不諾之

趣ニ付先差帰し申候一件別ニ有之

一今夕例之通徳守宮へ同心指出す藤森権六三舟孫八

七月朔日 雨天

一水増川留申達ス

一是改と申虚無僧孫左衛門宅ニ參鶴計儀此度取計不宜候ニ付八月九

月迄ニハ番僧当地ニ罷越宗門吟味改可申候当分香山多蔵

旨申之ニ付孫左衛門ハ他行ニ而書役及応対香山代ハ御役人ニ候左

様之儀も可被勤哉之旨申候処拙僧儀ハ本地ノ伝言を申達候儀ニ候

尤鶴計在中人別のもの、由申候処在中役之人ニも同様達し候由申

之罷帰候由申出候

一おけ屋町座頭古都南側ニ而私家屋敷表口式間裏行七間

役西隣作人平助東隣作人仁助代銀札百五匁ニ町内作人利助へ売渡

売券今日差出

一久世村乃井野預り所紙屋長七娘もと廿五才此度内縁ニ付引取悴勤

助妻に仕度願中之町広戸屋伊右衛門

二日 不正雨折々

一三丁目浜野屋善十郎和氣村秋山嘉吉母私妹ニテ此節病氣ニ付為養

生夜前罷越四十五日計逗留断尤備前和氣郡也

一川明申達ス

一宗門奉行中ノ宗旨御改之廻状廻り候

三日 晴

一宗判取来ル廿一日十八日右之場所ニ而在町宗判取ニ付例之帳西尾

多内ニ相渡

一坪井町松山屋清助娘岩廿才此度林田村作人幾右衛門方へ養女ニ遣

度

一中之町高尾屋勤七願林田嘉七妹世五才借屋ニ居申候新屋勤兵衛内

縁ニて妻ニ「」

一 二階町茂渡^庄右衛門京町南側ニ而私家屋敷表口三間裏行十七間但

五歩□厘也東隣米子屋善右衛門後家西隣小性町へ往来横町代銀札

六百三拾匁町内□屋五郎へ売

一 栗子村善七与申船頭塩船を付中瀬勤兵衛と申ものを頼にまいり候

ニ付運に參候処塩壹俵無之立拔之上善七と言葉論に成候得者同村

藤吉と申もの挨拶ニ而相濟候処又候善七傍輩と咄合□而惡体申之

を堪忍難成善七を呼かけ候へハ中衆長四郎方へ□込候を勤兵衛宇

兵衛參喧嘩之上頭上ニ疵付候由申出候ニ付勤兵衛宇兵衛兩人先手

錠申付候伊右衛門と申中衆も掛り合ニ付預ケ申付候夜に入大目付

鈴木此右衛門江申達置候町内年寄共先村庄屋へ書状遣ス

四日 晴

一 御蔵米五拾九匁五拾五匁。錢八拾五文

一 栗子村善七船頭町中衆共之儀衛守殿江及御沙汰

一 坪井町伊部屋理左衛門乃井野預り所大庭郡下余野村安次郎廿四才

引請願

本証文同六日

一 桶屋町善右衛門東側ニ而私家屋敷表口式間半裏行拾^式間但七步役

南隣虎屋左助北隣新魚町野田屋兵吉土蔵代銀札式百五拾目町内太

郎右衛門借屋ニ居候善藏へ

五日 晴

一 栗子村善七一件双方嘸ニ而内濟同人も今日村江帰候由

一 御蔵米五拾八匁町米五拾四匁

六日 晴

一 栗子村善七□疵付候勤兵衛宇兵衛手錠解孫左衛門宅ニ而藤森権六

仁右衛門預ゆるし

七日 晴

一 節句礼廻勤

大年寄共江書付廻ス

一 江戸表中島彦六先達而申遣候惣町人大年寄献上代拾五匁銚式尺「

」經節七匁五分大年寄三人の七匁五分惣町人献上銚尺都合式

歩

一 勤解由殿江戸立帰被仰付為知手紙申来同月十八日頃出立之積り

八日 晴

一 林田村喜八妻にかや町福山屋平右衛門娘貰候願

一 市村但見長屋妻平夫婦子共兩人直訴ニ出今晚長屋明候様被申付行

方無御座難儀仕候何とそいつ方江も身を寄候様計呉候様願屋敷掛

り合之もの容易之計も難致則刻鈴木此右衛門江申達候処役所へ申

談し手を離候哉否尋手を離候ハ、可然取計候様致へく哉と被申聞

候ニ付当番室井作右衛門ニ而右申遣し候処弥手も離れ請人も無之

由返答ニ付目明文太源□江申含メ差当文太方へ遣し置候今日衛守

殿江及御沙汰候処又候此右衛門妻平儀目明方ニ四五日ハ被置まし

くやと内談有之ニ付夫持方遣候得「」様ニも可相成旨申置則今

日文太江其旨申含メ置候

一 雲州江先達而參候京都医師畑法眼様柳安帰京来十日津山止宿之由

仍之鳥屋与三兵衛方其外ひこ屋小鳥屋やと申付候由

一 馬場縫殿右衛門の野条縫殿助方去月十四五日之夜紛失もの書付持

參ニ付牢舎申付有之多助に尋候処曾而覺無之由市左衛門権兵衛遣
ス

一かち町九兵衛為次郎大岑參明九日立廿五日計逗留。同町三国屋吉
左衛門来十五日出立廿日計之逗留

九日 小雨

一今九半時御供揃ニ而二宮御遠乘田町御門の大番所本町通り稻垣の
御蔵米五拾五匁五分町米^五拾匁五分

一「鍛冶屋喜兵衛呼出し再三存寄申聞候上去月廿九日呼出し候節
存分を申張候而已か役所を不憚無礼難差置ニ付手錠組合預申付候
御面所ニ申達ス立合石名平太兵衛目付藤森権六出口室井作右衛門
福田甚蔵書役妹尾安次大年寄蔵合孫左衛門

十日 白雨

一東新町坂元屋藤七家屋敷同町まつ屋吉兵衛取次七百五拾匁ニ質入
此家去ル午十二月同人取次三百匁借候処元利返済之上別書之通
一当月二日牢番大谷栄蔵小性町いせ屋多兵衛許ニ而不埒之儀有之「
「喜助と申中間右掛り合ニ付追而吟味も可致処栄蔵相手ニ付不慮

ニ立去り候儀も難計されとも御中間頭支配之者ニ付禁ノ置候事も
難成ニ付今晚「廻口ニ付中山伝内石名左助兩人吉田文左衛門
遣し右喜助手先ニおゐて掛り合出来場所に難差置候間内々御預申
候仍而代り中間御越可被下尤大目付中へ御達しニ候ハ、鳥渡御通
用可被下旨遣候処委細承知ニ而明朝代り可遣旨及御沙汰候ハ、
為知くれ候様ニ返答

右一件ニ付小性町いせ屋太兵衛の口上書取之尤栄屋儀不快ニ罷在

同日ニ差出
候由同役左助ニも口上書申付候

一東新町和氣屋太兵衛林田町山本与市所持他国受酒株先達而當六月
迄借候処又々當申七月の成十二月迄借用之趣願

一去ル七日市村長屋もの妻平夫婦小供とも但見ニ御預被成候趣鈴木
此右衛門ニて同人ニ申渡有之役所ニ通用尤此右衛門申「其趣申
聞候而向之方々中間老人差越目明文太儀當番藤森権六召連門前迄
送り遣ス

十一日 晴

一鶴計役免昨日郡代所ニ而被申渡候上追込ニ取計有之候由為知尤大
庄屋太郎右衛門大年寄孫左衛門兩人の京都明暗寺へ通用書状遣ス

十二日 晴 十三日 晴

一明十四日五半時御供揃ニ而妙法寺泰安寺へ御仏詣被成候旨御道筋
例之通稻垣茂士の

十四日 晴 少し小雨

御届「
一今晚方々例之通盆中町廻り致し帰宅之上賄肴酒出ス同心福田甚蔵
三船孫八御貸人鑓挟箱合羽籠挑灯以上四人
一今出屋半兵衛豊太郎伊勢へ明日出立廿日計

十五日 白雨

一明十六日五半口供揃小桁辺御出被成京橋口の川井円左衛門出夫の
御船被為召候旨稻垣茂士の通用

十六日 白雨

一京町かも屋和六願奈良今井町岡島忠兵衛例年之通墨売昨日入

一備中倉敷平井久吉松田源蔵ハ新森原村恵助ハ掛り休庵より訴状之

一件右村ニて庄屋伴内方ニハ休庵ハ遣し候讓書状有之写休庵方ニ

ハ右之田畑地讓遣し候ニハ無之為作廻遣し候と申証拠有之哉と被

糺候所無之旨申ニ付然れとも元来休庵持地ニ無相違処無代々讓請

候儀故鹿略可致筋無之嘍ニ申付有之候所郷宿とも嘍候処恵助儀ハ

得心致し候処休庵ハ同地不取戻候而ハ不相濟旨内濟難成ニ付訴状

も休庵に返され罷帰候ニ付書面有之休庵訴状并相手方返答書并讓

書状写し先方ハ差越候何れ休庵不埒ニ付在宿申付置候休庵足痛ニ

十七日 晴

同十八日及御ニ一休庵今日帰宅之旨届出候得共昨日書面之通為扣候

一今「」小性町ニて百万辺

一喜助儀部屋頭畑新八召連役所ニ参尤中間老人差添来ル此方手前ニ

而之一条故采蔵并いせ屋太兵衛吟味為心得喜助所持又ハ仕方一通

り相尋差返し候

一御中間頭沼本弥五兵衛宅ニ相見ハ喜助儀御勘定奉行中ハ達し候旨

案内拙者儀も鈴木此右衛門ニ粗申達置候

一身之職人町杉屋伊兵衛屋源左衛門四国遍路来十八日立百日計

一元魚町湯原屋伊助四国遍路十八日立百日

十八日 晴

一勘解由殿今日江戸ハ出立

一於御次御用番衛守殿被仰渡今津屋孫十郎綾部村多胡左市出入今日

御取計被成候旨御書付被成御渡大目付鈴木此右衛門立合引統山岡

与左衛門ニハ左市御取計之御書付御渡し被成候孫十郎ハ追込左市

ハ大庄屋役被召放候上追込御文段一部之袋ニ入置候

一細工之町戸川町百万偏

十九日 白雨

一かち場渡留り御届申達ス

一今日今津屋孫十郎御書付之趣申渡ス追込立合石名平太兵衛藤森權

六藏合孫左衛門郡代所ニても左市ハ申渡有之候由御書付双方写取

替候事

一伏見町小田屋伊平次大坂大川町錢屋七郎左衛門ハ明廿日立往来廿

日

一小性町伊せ屋多兵衛於宅吟味白状ニ而一件片付候立合前書之通書

役安次も罷出候

一三浦志摩守殿先触九津見吉大夫ハ在所ニも御暇被仰出当月九日江

戸発駕ニて廿三日姫路廿四日佐用廿五日津山及御沙汰口

一自分証文寺証文并山田彦大夫方之証文拙者引受去歳之趣を以認出

又猶以就御旁教主山田彦大夫并役介邊吟味候処「」

一盗人守助牢内より呼出し妻平方ニ居候内盜致し候此儀ニて妻平夫

婦決而存候儀ニハ無之哉之旨及尋候処夫婦之者存候儀口無御座旨

申之書付に爪印取之

一宮川洪水ニ付注進申出即刻大目付中ハ江も申遣シ拙者不取敢見届

罷越候処以前に無之洪水注進水目当之投天扁迄も水折々打越候□東側石垣も一盃に満候様子漂木も不残押流候ニ付橋之防無之趣ニ見□候ニ付町々半切ヲ申付勿論水之手之町へ水汲之儀申付ル窩□等も申付候半切追々集り候処八拾之余も相見候由モツニ式拾□目と見申積リニて千六百貫ハ釣合之重りかけ申候各精出し候ニ付詞之褒美ニて為引取候宮川水門も式ツ共に水を通し申候尤御作事とかけ合大目付中江伺に参候由簾をはつし候も御作事方ニて計候水減し引取御用番へ申達し大目付中へ者当番を遣ス

廿一日 晴

同廿六日飛脚有り也

一 備中倉敷へ休庵一件答之書面殊に相手方返答書も可返却旁休庵不束之儀共有之後日咎も可申付儀ニ付挨拶ヲ兼今日飛脚差立候

一 明廿二日関備前守殿通行ニ付御徒目付下目付立宿東新町鍛冶屋権兵衛相勤候旨鈴木此右衛門江達置候此方様ハ二橋久三郎御使者東大番所前ニ而相勤候由仍之材木町福中屋多助立宿申付候

□ 堺町西川屋善助備前岡山片上町大和屋清右衛門江人髪油売昨日入一 関殿ハ使者案内東新町西屋次右衛門在宿医師算作丈庵高畑社の一 追触来ル備前守殿来ル廿三日へ相延其旨達ス

廿二日 晴

一 水落候ニ付川明申達ス

廿三日 晴

一 二橋久三郎江立宿之儀為誰らと

一 備中江遣候飛脚帰ル

一 從江戸表飛脚到来ニ付大目付中ハ廻状

一 殿益御機嫌克被成去ル朔日御暇之御礼首尾能被仰上御懇之趣上意御馬御拜領被遊候段申来恐悦之御事ニ候此段為相知候様被仰出一大目付中ハ廻状近々三浦志摩守殿堺町止宿之節御旅宿前下々「」往来有之間敷候尤兼而被仰出候通火之元堅可申付候

一 関備前守殿今日通行無滞濟申達ス向之方ハ小松江□齋藤孫右衛門方ニて太田仙助取次。先弘福田甚蔵香山多蔵

一 独扶持被下候おけ屋町伝兵衛相果候由申出申達ス。馬中山市左衛門室井作右衛門一 牢番大谷栄蔵去ル二日一条ニ付呵番代申渡ス同事ニ付小性町伊勢屋太兵衛追込申付両御方へ申達ス申渡之文段一部ニ有之候

廿四日 晴夜中雨

一 鍛冶町半七願弟多七当三月備前津高郡円城村六三郎方へかち奉公ニ遣候処双方不勝手ニ付此度同国上田村直八ハ申者之方当申ノ歳ハ子ノ歳迄奉公ニ遣度願

一 西今町にち屋善吉大社廿五日立廿五日計

一 備前守殿川辺船渡金百足惣船水主銀式御感元伝兵衛舟年寄次十郎江兩

裁許人江。院庄ニ而金百足惣舟水主江銀式兩御蔵元彦兵衛舟年寄善左衛門へ

一大目付中ハ廻状

一 縦一枚

尾張中将様御病氣之処御養生不被為叶当月十日御逝去被成候段申来候依之今日ハ来廿八日迄五日之内鳴もの高声御停止之事ニ候尤普請ハ今日一日可為無用候日光新宮様御不例之処御養生不被為叶当月十日覺去被成候段申来候依之今日ハ明廿五日迄鳴物高声御停止之事ニ候尤普請ハ不苦候

一 虚無僧取計鶴計儀ニ付京都へ大年寄大庄屋申合書状遣候処返書到

来然ハ虚無僧取計鶴計儀此度不埒之儀有之由御宗縁中ハ被届出候

ニ付遂吟味候処誠に不束之趣相聞候処当領分取計役之義役所ハ取

上ケ被申付候此段御承知可被下候右之趣可得御意如此御座候恐惶

謹言次土井太郎「蔵合孫左衛門明暗寺御役僧中様御中鶴計義追

而宗法御取計被成候儀も御座候ハ其節拙者共ニも御通用被下度

奉存候」

「右返」到来大年寄方ニ写有之候無滞濟

候当月朔□虚無僧「改申来候一条ニ付左之通御用所江申上置候

「本地ハ同心多蔵へ取計申付候義不安心ニ存有之候而且」共

申かたき旨同心仲間共申之候。多蔵儀ハ親所縁ニ候得者本則「

致候得者取計役動候而も臨時昼夜之急變御用向之外同心役之仲間

故障相成候儀決而無之趣者多蔵へ差詰候由。多蔵節も此度本寺役

僧共書面も持届申候本則所持いたし候へ者天蓋□かふり法行又忍

御用等ニハ自在ニ有之候其外一食之他行者不仕候然者動向ニ付故

障ハ無御座候尤取計被仰付候而も故障ニ不相成候乍去何事も当務

ニ而相済申候取計役望候心得にて「御座候本馬役者五も如何様

成共断相成申候仲間之趣意ニハ万端洩不申候右ニ付拙者存寄ニハ

多蔵儀ハ親吟蔵由緒を以可相動候得共是迄年来役所に無之儀を取

組万一多蔵故有之時相統之者無之時ハ甚不束と存且又今ニ申候多

蔵僧形ニて他所他国へ參其身ニ變儀有之候時何者是を捌候哉何角

心中不安ニ存粗及御□置候

廿五日 晴暮前雨夜に大雨

一 牢番栄蔵代り加藤戸八今日ハ出番之旨尤左助方にて書付置候様ニ

申渡ス

志摩守殿今日暮頃広四郎宅へ着有之候先弘藤森権六神田権兵衛屈

出候拙者儀今七ツ半頃孫左衛門宅へ罷越中山伝内石名左助供其外

御貸人鑓持挾箱合羽籠兆灯持彦人御貸馬両口夜に入高張ハ此方ニ

て申付ル本陣江六半頃參上取次奈良条右衛門徒目付石原忠左衛門

一 斎藤方便者宿取次松島十学向之方ハ河野宇右衛門使者罷越候

一 御徒目付立宿二階町島屋藤吉。馬駄藤森権六神田権兵衛

一 御先手中立宿二町目小倉屋茂兵衛

一 此方様ハ御使者村瀬八兵衛立宿山手屋弥太郎

一 志摩守殿川越川刃船渡金子百疋御召船江同百疋御供船御□船江鳥

目式拾疋下裁許人へ金百疋御蔵元彦兵衛舟年寄善左衛門へ

一 今夕雨烈敷院庄川往来留り四ツ時頃ニも候哉拙者ハ鈴木此右衛門

迄本陣ハ参役人へ可応対候哉如何承合遣候処折節那代所ハ川留

「罷越候」不及其旨本陣へ申遣候様申来其段取計申候川

「太田仙助江出役侘美和助ハ往来止り候之旨申来り其手

紙」被相廻是又本陣へ為知候。川明申出御届申達ス

廿六日 晴

大目付中へ届手紙遣ス

一 志摩守殿四ツ時出立尤川明不申来候得共押而川場迄被出

「役人被申聞候ニ付届出承り置候先弘中山伝内室井作右衛門相

届出

一 院庄川ニ而金子百疋御召船へ。同百疋。供船。馬船江。同百疋□

御蔵元伝兵衛舟年寄次十郎江。鳥目式拾疋下裁許人へ

一 川口小弥太ハ三船八郎右衛門山本平右衛門忌中之処明日ハ出勤申

伝呉候様申来り則孫左衛門五申渡候

一 幾野御代官所大井田与五郎中野忠助六作州村々御貯麦払直段吟味
見合ニ相用候間其御城下町当月十五日上中下麦相場書取之役人中

奥書印形致し遣候様致度旨昨日出役者ニ而由來書披見則刻マ申付候
処今晚出来ニ付例之通奥書印形調返書飛脚へ遣ス

一 昨日御貸人鎗持孫右衛門合羽籠助八と申者供先ニ而不束有之候得
共伝内左助兩人場相ニ而以來之慎部屋頭へかけ合相濟候遣候

廿七日 晴 廿八日 晴

一 堺町豊屋喜左衛門明後廿日出立廿日計逗留上京

□ 渡辺休庵備中倉敷へ訴訟之一件役人之計ヒ相当之処我意ニ募り其
上去秋花木伝次郎殿順村薪森原村御用先五推參致候付今般相手方
返答書ニ相知前後不束之趣難捨置今日及御沙汰追込可申付書面掛
御目候処御聞届被成候

一 於御用所当役所郡代一所御呼出御書付御年貢米町在におゐて切手
替或ハ致外払候儀兼而停止候弥以堅令停止候之間此旨急度可相守
候且又町在ニ而切手替外払等之取次致し候ものも有之様相□此以
後右之類於有之ハ当人者不及申五人組之者迄急度越度ニ可申付尤
目付之者差出候之間末々迄猥成儀無之□可申渡候御附家中へ少々
宛為替米差出候儀者「」からず候以上

一 小性町いせ屋多兵衛追込差免候

一 鍛冶町川口屋喜七母当三月四国ニ出候所今廿日迄願「」

廿九日 晴

一 御蔵米五拾四匁町米五拾目

一 休庵儀追込尤大年寄孫左衛門宅藤森権六立合文段一部ニ有「」

一 小倉屋茂兵衛立宿申付候所不束有之呵申渡候扣ニ有之候

廿日 不正

一 大年寄共并惣町六献上代金式步相納受取之置候

一 山岡与左衛門六伯州日野郡普沢村庄屋義仙与申もの□ニ而当国英

田郡平田村六去ル廿九日送候由他領新田村六送り來候由河辺村六
届出候旨通用被申聞候

一 去ル廿四日記残り明暗寺浚水六返書。御領分虚無僧取計申付置候
鶴計儀追々不埒之儀右之趣宗縁共六各様迄相届候付御吟味被成下

候処不束成仕方無相違ニ付取計役之儀御役所六御指留被成候旨被

仰聞入御念候御儀奉行し兼而不都合之趣粗風聞有之候ニ付役僧共
差下吟味可申付罷居候処御役所御苦勞相成恐入奉存候何分宜様御

申達可被下候右御答意如斯御座候恐惶謹言七月十五日明暗寺浚水
判蔵合孫左衛門様土居太郎右衛門様御中追而宗法申付方之儀各様

迄御通達可仕旨致承知候宗縁之者共召寄吟味之上役僧共差下宗法
申渡其上御届ケ可申候兼而此段御承知可被下候是乍御世話此書封

御届させ被下候様奉願上候已上

八月朔日 晴

一 諸士登城永見造酒助殿御名代之御受礼畢而御用所御□詞申達ス

一 今日宗門帳差出ス受取置

二日 晴

一 九ツ時二宮五御遠乘被為入田町御門六大番所今町通「」

三日 雨

郡代
一山岡与左衛門一桑河端長命寺 普北番屋兵衛の差上候由還六と申。京都一宮市町□立致候

者五月五日晩新田茶屋泊り居候内市場村坂次參種々咄致候内一

「新平還六妻ヲ連逃候ニ付追掛取返し可申処平兵衛岩次出合せ劔運体ニ付」 「不」 「役方知不申右三人下地馴染ニも無之市之町分往來見請候而」 「此砌宮尾村惣助と申者方ニ一兩度も居候由妻を尋候間ハ野宿等も致」 「世話致し取返し吳候様申者魚町伊之平長介はも最早存寄無之ニ付」 「はなし候故無抛申出候由右還六申口承届口上覚書還六」 「一宮村庄屋拾助肝煎河原村夫兵衛印奥書大庄屋仲島徳介印ニ而郡代」 「出し候を今日山岡与左衛門申達候ニ付御用番衛守殿一可致吟味旨」 「大年寄魚町兩人へ書付可取旨申渡候

一山岡与左右衛門拙者兩人御用所へ一所に御呼出船頭町孫十郎綾部

「追込可差免之旨御用番衛守殿被仰渡候

一宗門奉行太田仙助松島十学一宗門帳仕集候て十学宅一差出可申旨手紙來

四日 白雨昼後

一今津屋孫十郎追込差免し於役所申渡立合石名平太兵衛藤森権六書

役妹尾安次大年寄玉置広四郎

一蔵合孫左衛門妻明日岡山一參候届承置

一水増かち場川止御届申達ス

五日 雨

三日一同置
一渡部休庵追込差免ス悴養庵名代一於蔵合宅申渡ス

一かち場川明御届申達ス

一元魚町豊屋喜兵衛願塚町ニて丸龜屋文六家屋敷南側ニ而表口拾巻

間裏行拾七間式軒役也東ハ横町西隣ハ国屋宇兵衛右屋敷裏ニ而東西ハ九間式尺南北ハ七間九尺之空地三步役右之家屋敷七年以前寅

□文六名前ニ而私賈受申候然ル処此度私名前ニ付替申度奉願候旨承届ル

六日 曇雨有

一宗門帳目録相添并案詞帳松島十学一為持差越候

一手錠申付置候加治喜兵衛申出先達而家屋敷出入之儀ニ付

「御吟味之砌彼是法外之儀申候ニ付御咎被仰付不調法」 「誤入当人ハ不及申家内之者共迄恐入相慎居申此節歎筋恐入」 「何卒憐愍之上赦免致し吳候様家内之者迄一統相歎候旨并」 「共迄同事歎出候ニ付承置

一船頭町渡守共一近年舟賃取候様相聞廻り同心へ申含メ」 「所此方一乞候而取候儀ハ無御座候得共灘荷なと心付ニ而老荷」 「式三錢吳申候儀御座候と申之趣ニ付先日一鈴木此右衛門一被申聞院庄河辺川ニて右体之趣ニ付呵或ハ追込取計も候由永井甚大夫一及噂候処承置

七日 晴

一水増かち場渡り止り申達ス

八日 晴

一斎藤孫右衛門勝山親類方へ參一通及御沙汰一同日一船候届

一加治屋喜兵衛誤り書付之儀今日及御沙汰置手錠ゆるし取計候玉置

広四郎宅藤森権六立合出番中山市左衛門神田権兵衛

一 船頭町渡し守賃取候儀呵り申渡ヌ明日也

一去ル三日還六一件ニ付伊之平長助吟味書付差上候一件ニ有之

一 江戸表中島彦六へ惣町献上代大年寄献上去暮当春分金式步遣ヌ

一目明文六五妻平預り候内会釈ニ勾遣ヌ事欠所物之内を以

一 川明申達ヌ

一 勢州安芸郡白子村形屋仁左衛門手代庄次郎例年之通形売昨日入西

川屋一

一 勝山九津見吉大夫用人之由来書先達而志摩守殿通行之節段々御一之御

馳走忝被奉存旨出役面々金銀被相送候趣奉受体ニて来ル左之通

大沢三平村瀬八兵衛村上清大夫佐々木兵左衛門式百疋宛御徒目

付富沢金左衛門河村市兵衛六疋ツ下目付二人式両ツ先払同

心四人老両ツへき二枚二挟之上包ニハ目録入と書付有之

右及御沙汰相応之返事遣ヌ飛脚ハ大坂へ参帰り可渡旨ニ而問

屋五遣し置書翰留ニ記之

九日 晴

一 明十日福永屋助右衛門湯原へ入湯十四五日計

一 柴山治部右衛門組前原源吾屋敷平次郎西新町大黒屋藤七方へ引受

一元魚町花屋多助願姪徳式拾六才土井領弓削村平七方へ養子娘ニ貫

れ

十日 曇 十一日 雨

一 林田町鍋屋治兵衛断佐藤左内長屋長兵衛夫婦借屋へ引請

一 西今町京屋伝兵衛先達而申出候西新町仲屋庄助油代四百拾式匁内

濟之断出ル

十二日 晴 永井甚大夫へ贈致ス

一 御種人參弘辻伝次郎手代治兵衛鳥屋与惣次方へ参候由此度ハ郷中

へ弘候旨昨日參逗留不知

十三日 晴

一 糺屋伊助明十四日大坂行卅日計。京町永木屋忠助借屋ニ居候清六

と申者当六月卅日之夜罷出申今行方不知候由断。組屋勘十郎届他

国受酒株去未六月今当申才切元魚町ときわ屋吉兵衛五借置候所此

度組屋五取戻し

一 大目付中今廻状殿様御麻疹後未耽与御調不被遊候ニ付御帰城之儀

暫御延引被成度旨御届書被指出候由江戸表今申来候此段及演達候

様御用番御申付申達候右之趣同役并支配方五も可被相達候右組中

へ為知町中五も為知候八月十二日

十四日 晴 十五日 晴

一 去月八日之書記ニ有之候目明文太へ遣もの今日渡す

十六日 晴 上月廿五日日記ニ有之儀

一 御徒目付河村市兵衛相見新魚町平田屋安右衛門乱心之趣拙宅へ参

正体もなき儀申家内役介共有之甚不安堵ニ付年寄へ申聞番に付腰

繩にて入候様申聞候処今朝外へ出角聞捨難致儀申之永井甚大夫

へ届候得共何分拙者へ申聞候様ニ申候付参候由早速当番中山市左

衛門へ申含メ安右衛門をハいか様ニも取留右市兵衛ハ御目付役之

処万端ニ付町内組合共年寄共親類迄案驗等閑之取計候事不埒を相

呵せ組合共へ安右衛門預申付候親類共五も預申付候追而大年寄広

四郎の件之仕義申出候ニ付「為吞向差帰候

一牢番下役中間喜助代り弥助今日目見を受候昨日の出勤致候旨

十七日 晴

一 大坂屋次十郎祖父夫婦先年倉敷へ参居候処年老ニ及候ニ付此度引取申度旨願扣ニ記ス

一 船頭町新太儀二宮村ニ掛り合有之難捨置尤立石才兵衛へ玉置広四郎掛合候儀ニ付組合預ニ申付候

十八日 晴

一 今日九時御供揃二宮江御遠乗被為入田町御門の大番所前稻垣の通用

一 大目付中の廻状広国院様百年御忌被為当候此段及演達候之様御用所御申付ニ付申達候但事例之通町分江八不及触候永井甚大夫御合之下

一 二階町安楽院此度石松院の不慎を得候ニ付石松院の願書東側御ほ

り端不動堂式間四尺南座敷南北五間東西三間小屋敷南北式間東西三間敷地表九間小半裏行拾七間但本役代々之附金子安楽院家寺申

付置候処右安楽院此度勝手ニ付元魚町藤野屋多吉借屋借変宅致候依之右之跡へ俗人ニても家守付置町諸役相動させ拙僧ハ上高倉村

本願寺古跡と御当ニ付二階町不動堂半月宛兼住仕度旨断石松院五人組是迄之通。安楽院の半切ニて届書文段同様藤野屋多吉借屋へ

変宅。ふしの屋多吉家守元魚町あわ屋新十郎の是迄一階町ニ居申候安楽院此度私借屋借申度旨書付出ス半切今日及御沙汰寺社方引

合承届候

一新魚町平田屋十郎五人組西今町鳥羽屋源次郎同町同源十郎西新町

升屋甚兵衛魚町平田屋平助宮脇町まつ屋伊左衛門船頭町今津屋孫

十郎右之者共願候平田屋安右衛門儀当十四日頃ふと気分平生体ニ無御座「仕候今日之仕義者組合親類之者共へ御預被成奉

恐入候右ニ付組合并親類相談之上困仕入置申度奉願上候尤気分相治り申候者御断書差上可申旨今日及御沙汰聞届遣ス

一 美職人町田部屋文助断只今迄かち場に居申候大谷栄蔵と申者四拾一才母ちよ六十一才妻その式十五才娘市倅徳次郎五人由緒候ニ付

引受申度旨

一 中之町ふくも屋武介備州宇津郡妹尾村木綿屋太兵衛豊表元結木綿売撰州島ノ内万屋善次郎同手代善助二人例年之通革足袋吸袋銅通

し。播州加藤郡三木村片屋与兵衛例年之通紺屋形売

十九日 晴

一 山本与右衛門母忌中ニ候得共秋市出役有之ニ付明廿日ニ而三拾日ニ相成候忌差免候様致度旨大野郡太の申来明後日差免可申候旨玉

置広四郎へ申遣ス両御方へも申達ス

一 御徒目付河村市兵衛平田屋安右衛門変気懸り合之儀町内年寄并今津屋孫十郎よりも書付出ス

廿日 曇

一 身職人町土佐屋助右衛門南側西角ニ而家屋敷表口拾間裏行六間但

壹軒役也南隣河内屋平吉東隣ハ吉田屋平吉代銀壹貫五百目同町臣田屋善助へ売渡し

一 西新町すけ屋三右衛門後家所持之家屋敷西側表口三間裏行拾七間但土手切三步役東隣ハ疊屋甚右衛門西隣ハ高松屋平吉六百目かち

町大工伊助へ売渡し

一勝山家中九津見吉大夫の先便礼状遣候処右返書来ル大熊殿執権西川平兵衛宛ニ勝山家老戸村惣右衛門長臣青山茂次右衛門と申者〆九津見状に添書状鶴巻羽来り問屋〆届則大熊殿へ届遣ス

廿一日 雨

一山下三右衛門忌中之処秋市出役有之天野郡太〆申来廿日ニ而忌差免及御沙汰

一新魚町のた屋兵十郎前昨夕火札落文町内清右衛門と申者へ申分有之八月廿日〆廿九日迄に焼打ニ致し近所用心可有由此主同丁内様と記ス申出候ニ付清右衛門ニ覚ハ無之御尋目立たる様心を付廻り忍び捕候様申付置候

廿二日 晴

一勘解由殿江戸表〆帰着待受ニ罷出る

一十七日之書記新太一件元来二宮小三郎と申者之着類目木村〆届可遣と及約束小三郎ハ落合ニ參候処新太儀右着類ハ質に置三拾「」借候由小三郎及催促候得共不埒致し不相返郡代所ニ願出候へ共大庄屋才兵衛〆大年寄広四郎ニ内分懸合広四郎段々新太ニ計ヒ申付候得共不埒而已申之ニ付難捨置組合預ニ申付廿一日日切申付候へ共不相濟候ニ付大庄屋へ返訴可致旨広四郎申出承置候

一安岡町百万遍

及御きた衛守殿御出置被成於勤次濟即日孫左衛門江申聞候同年十一月八日島石引受ニ願孫左衛門所〆一江戸表広瀬巨役介此度帰住ニ付蔵合孫左衛門引請ニ申来候得共向方手離「」候へハ御家中之人町方へ引受難成はなれ候哉否駈と承

取計申度併遠国之儀通用相成不申追々承合可申候然れとも孫左衛

門方へ当着之儀ニ付右内談相濟候内逗留候様仕度ニ付願出候

一船頭町大工儀兵衛身延參明後廿四日立七拾日計

廿三日 晴

一鍛冶屋喜兵衛伊田村勘七に掛り合郡代所〆も書付不残差出候由仍之役所〆も取揃差出可申旨被仰聞候由永井甚大夫被仰聞候尤御用番中迄

一戸川町作人長兵衛備中阿賀郡宮地村利右衛門方へ勝手向請込来酉三月迄出職願右七兵衛六十巻才

廿四日 晴

一二階町島屋藤十郎籠又細工手伝九郎兵衛長次郎式人例年之通当月迄差置候願

一中〆伴助炮術致候ニ付九半時御供揃ニ而田町御門〆大番所蘭田道鉄砲町右之場所ニ被為入候旨稲垣〆通用

廿五日 晴

一今日牢屋ニ阿波藤助元中間太兵衛為吟味罷越ス

一小性町茂渡庄右衛門借屋作人勘之丞願私姉〆米四拾式才今度林田山根村平田「」方へ引越申度町内人別除

一元魚町米屋喜助家屋敷西側ニ而表〆七間半裏行拾七間但老軒四歩役南隣みの屋彦兵衛北隣作人市太郎右家屋敷并立物之類不残質物書入新職人町ぬし屋喜平次取次式貫目来酉八月切月老歩半ニ而札場へ返納致〆滞候ハ、売買ニ立候積ニて願

廿五日 晴

一牢舎人阿波藤藏無宿太兵衛再吟味之為吟味場へ罷出候目付藤森権

六平組中山伝内石名左五兵衛罷出候

廿四日之書記ニ付
一元魚町米屋喜介家屋敷西側表口七間半裏行拾七間但老一「四歩役

南隣み農屋彦兵衛北隣作人市太郎家屋敷并立物類不殘質物書入新

職人町塗師屋喜平次取次式貫目来酉八月切札場へ返納致度滞候ハ、

売買ニ立候趣承届

廿六日 晴 九月十一日本証文出
廿七日 晴

一西新町菅屋三右衛門後家本証文出る

一安岡町若田屋源七安岡町表堪七兵衛持来自国請酒株当八月ハ戌八

月迄一「商売致旨申出候

一妹尾平兵衛秋市ニ付一之宮出役引取届

一船頭町川口屋喜七母花四国遍路百日之願今世日追願

一茂渡庄右衛門守久右衛門堀覆破損ニ付御堀立足代廿八日申達ス

一おけ屋町南側家屋敷表口式間裏行七間半四歩役西隣作人平助東隣

作人仁助代銀札百五匁作人利助ハ福渡町作人庄兵衛売渡シ
九月五日証文出

廿八日 晴

一かち町かち屋喜兵衛竹田村勘七ハ掛り吟味一部衛守殿ハ差出ス

一山岡与左衛門御勘定奉行兼役暫之内御人少ニ付被仰付候由

一清水多桶御勘定奉行役免被仰付候由

一久保田十平御代官役被仰付候

廿九日 小雨

一御蔵米四拾九匁町米四拾五匁

一今日池部孫大夫役筋不慎ニ付御次祐筆役被召上候大役人格被仰付

候由

一茅町百万編

一京町若松屋善左衛門大坂北浜山本治兵衛方へ罷越候悴金兵衛病身

ニ付為保養酉二月迄逗留願

一戸川町玉屋伝六四拾七才為渡世真島郡美甘村伊兵衛方へ来酉三月

「一」

一身職人町浜田屋善助去ル廿日買求候家屋敷老貫ニ当九月ハ「酉

之八月切老割半之利足ニ而借用文段例之通願

九月朔日 曇

一九時杉山ハ御出被成京橋ハ川戸前へ被為入候旨稲垣ハ通用

一栄蔵番代大谷栄蔵名字ニ而大谷甚兵衛今日目見請例之通小頭代り

部屋目付藤森権六部屋目付中山市左衛門召連持参物有益

一京町海老屋長右衛門京烏丸通り六角二文字屋九兵衛手代金十郎喜

八多介善八四人例年之通呉ハ物売昨日入

二日 晴

一幾野御代官平岡彦一「殿明日御城下通行檢見就御用明朝ハ明七ツ

時播州多可郡清水村出立久米北条郡錦織村迄被相越候由人足十九

人内人足式人長持耆人駕六人分持八人之由問屋ハ申出ル今夕ハ佐

用泊大目付平井郷左衛門ハ申遣ス御使者秋元榎太東大御番所ニ而

相勤候旨材木町山城屋十右衛門立宿申付候尤中之町曲辺迄一「内

申付候郷左衛門ハハ急度立宿之儀ハ不申付候へ共役所心得之取計

三日 小雨

一 牢番栄蔵番代甚兵衛儀四日ハ出番為致候ニ付御使組引取之儀相兼大目付平井郷左衛門へ申達ス右甚兵衛ハ磯野伊兵衛組山下新右衛門引請之旨部屋目付ハ引合相濟候由

一 御用番衛守殿ハ式丁目惣八儀親類預ケ差免可申旨被仰聞即刻大年寄ハ申渡候親類一統ニ呼出し候

一 彦兵衛殿通行中山伝内神田権兵衛先払暮時無滞而御方へ相達ス

四日 晴

一 牢番栄蔵一件ニ付七月廿五日ハ九月ハ日迄御使組受ハ人十九人隔日ニ出番之処甚兵衛今日ハ出番ニ付入代り候書ハ出ス

一 大坂北久太郎町丸屋藤兵衛手代清兵衛例年之通大工道具売

一 幾野手代大井田与五郎中里忠助ハ例歳之通御城下当十月十五日ハ同晦日迄上来大豆相場十一月二日頃自是飛脚差遣可申旨申来ル追

而吉野郡江之原村御留拾分一連上銭銀直シ相場之儀津山町一ヶ年平均ハ相場御用ニ付役人印形令付是迄之通申付吳候様来正月上旬之

内ハ從是飛脚ハ「」

一 平岡彦兵衛殿明五日御城下通行宮尾村ハ勝南郡吉田村へ順村之由勿論問屋ハ宮尾村へ聞合遣候ハ而村人足ニ而相濟候由申来り用意

ニ不及右明日通行之取計申付候

五日 晴

一 今朝平岡彦兵衛通行之儀大目付中へ申遣ス香山多蔵三舟孫八先払差出ス

一 今七ツ時頃平井郷左衛門ハ対談申度儀有之候之間山田衛守殿御宅江越候様申来ハ使ハ之宅之罷越候ハ処土井官左衛門佐々木兵左衛門ハ江御

預被成候右ニ付官左衛門呼出參候途中同心共手配致し差添候様被申聞勿論兵左衛門も其席居り合相応之会釈ニ及候兵左衛門受取候而ハ向之方之警衛ニ而相濟候段互ニ申之途中万一參候道を違候ハ

存分に言葉をかけ道変之体候ハ、為召捕候様ニ可申付旨郷左衛門ハ談候ハ随分之旨相計候様被仰聞置候直に同心共集メ新御殿屋敷西口東口ニ而人ツ、赤見殿小須賀殿小路ニ而人本多殿佐久間殿小路ニも手配り扱官左衛門万一途中ニ而此方を尋候ハ、頭三平へ御用被仰月如此と答違乱有之候ハ、存分に計候様申尚又老人袴ニ而平井へ書面遣シ同心共手配り申含候唯今右場ハ差出し可申哉被仰聞候様申遣し候ハ先刻御対談申候通最早被差出御取計可有返書来則差出し候頃無程及暮候拙者儀ハ、中山市左衛門召連途中造酒之助殿坂下ニ何角為心得忍び市左衛門を出張候面々々為知道候ハ官左衛門ハ家来ニともきだる桃灯為持京町口へ出かゝり候を此口ニ扣候同心共見掛之御扣可被成と申候ハ司馬五郎様御出ニ「」と同人申之候ニ付衛守様へ御用ニ付被為召旨承之候御扣可被成ハ申候へハ彼もハ誰組ニて候哉ときまり候ニ付町奉行大沢三平組ニて候と答候へハ手紙ニても參候哉と申ニ付定而左様と申返候旨申候へハ自分儀宅を唯今罷出候由然ハ道ニて違候哉何分御帰り哉「」申之夫ハ官左衛門ハ門内へ帰候を老人ハ門に扣京橋口扣之而人ハ佐々木兵右衛門へ参り睨々之由達し老人ハ衛守殿へ参り件之趣御徒目付へ達シ乍憚御急ニ被成候様内分申之夫ハ各一所に集り東口ニ扣候ハ尚又拙者儀も其次第承り候ニ付衛守殿へ参郷左衛門ニ対面早、御手配之儀を申達し罷出候ハ追付官左衛門呼出し途中

無滞衛守殿於御宅御取計濟「」衛門請取之駕籠網かけニ而警衛御使番松島十学中奥目付浜田平大夫兵左衛門同道之由同心共ハ兵左衛門門外ニ而御徒目付河村市兵衛へ談シ引取可申哉と伺候奴兵左衛門殿ニ達シ可申と申之追付引取候様ニと申ニ付任其儀無滞相濟候段申出候承置候

六日 曇

一阿波藤藏元中間太兵衛役所ニ呼出し再吟味申付候

一多助盜候品々質屋ニ為持来ル

七日 雨昨夜ニ

一中之町平岡屋忠藏借屋久藏四拾才妻くめ世五才倅太郎治娘まつ五才四人「」国信町御城代組新野新治借屋ニ引越

一西新町油屋庄助西今町京屋伝兵衛油代掛り合内済届之候

八日 晴 九日 晴曇「」即雨

一廻勤例之通。東新町茂渡藤右衛門倅半四郎昨日急症ニ而相果候

十日 雨昨夜ニ

一備中倉敷御代官国木伝次郎殿今日福渡泊明十一日御当所通行之旨先触出来問屋ニ申出両御方ニ申達候人足拾九人内式人長持老棹同老人両掛同老人兼弁当拾人山駕籠五拾老人合羽籠四人分持。馬式足手代吉川仲兵衛結城郷兵衛稲川勇助飛田本蔵平戸久吉ニ先触倉敷庭瀬岡山金川福渡弓削津山寺和田迄外馬足就御用久保田十左衛門手代岩佐専九郎江戸ニ備中美作迄人足式人ニ代ル賃輕尻馬老正右同日去歳此分無之当年ハ触来ル一所順村也

十一日 晴

同月十三日明登
一川水増往来留り及御沙汰候

一大目付廻状来ル十三日之仰渡之儀有之候間四時登城可有之旨

一花木伝次郎殿去歳之通通行先扨同断権六伝内藪田通り本町伊丹屋前三津屋前馬形町夫ニ元魚町田町椿高下高石垣ニ而開御届達「」

一御城山御払ニ成今日ニ切らせ候由。伝次郎殿へ御使者榊原藤太「」

是ハ同月十七日
せ候宮脇町阿「」助三郎

一勝山戸村源吾渡部唐兵衛ニ来書朝鮮御種人參辻伝次郎代治兵衛亮

弘度由申候得共添状も無之ハ其御許ニ而も弘候由不案内ニ付聞合之趣

一中之町小山屋切手はん州あほし余陸屋茂之八百屋もの。同州同所

平松屋更九郎手代太郎右衛門式人小間物晒蠟。同州同所野田屋平蔵小間物下し売。同州丸尾屋六三郎荒物并塩もの下し各例年之通也昨日入

十二日 晴

一大般若転読無滞済恐悦相述候

一中之町高尾屋勘七播州網干塩屋伊兵衛同弟助三郎例年之通荒物塩もの昨日入。はん州同所余陸屋惣七同手代彦右衛門例年之通八百屋ものおろし売昨日入

十三日 晴

一因州法美郡美谷村徳右衛門世ニ遠州ニ煩候ニ付送り出し新田村ニ来り御届達候

一今日惣出仕大書院御縁側ニ而頭分御障子ニ付順座ニ並居御家老「」

列座造酒之助被仰渡御勝手方必至ニ御差支ニ付不被得止事今般格段之御引米被仰出候義銘々随分致難難兩年之内如何様共取統御奉公相勤心得專要ニ候旨委細被仰出之趣別帳ニ記ス同心組其外八同十六日申渡ス

一 司馬五郎様月々御仏參被相止御詳月計御仏詣度々ニ為相知候様稲垣の申聞候

一 御引米被仰付候ニ付大年奇三人札元御用達岩佐孝硯木屋太兵衛ぬし屋甚平御ふち方御断尤式年之間三軒屋番牢番御給米不殘御断今日申渡ス

十四日 晴

一 福渡町作人勘六悴新助去未十月相願致勤当候所當時大坂安土町野た屋宇右衛門方ニ居申候所今程万事後悔致し殊に勘六老衰致し候間介抱為致度勤当ゆるし申度願差出ス

十五日 不正 十六日 晴

一 中之町阿辺周益ぬし屋龜次郎家公事一件双方双方断出存寄申聞せ候

一 石名平太兵衛妻病氣中之処今朝死去

一 書役妹尾安次郎在中ニて姉相果今日ニ而七日出勤申付候

一 中之町甲屋和助切手播州網干新在家伊部屋清六例年之通塩もの并鏗節。同州同処米子浜村茶屋弥一郎小間物完。東新町因幡屋新七撰州大坂玉造口木綿町松坂屋忠右衛門例年之通唐弓弦売昨日入

十七日 小雨

一 玉置広四郎妻病氣養生不相叶今晚相果候旨届

一 吹屋町徒屋宗右衛門の阿州板野郡成野村綿屋左兵衛与申者藍玉売此度初而罷越願書出ス承届新入者ニ付同月廿二日宿切手出ス

一 上紺屋町灰屋善十郎借屋六助当五月七日之夕紛失茶釜并式升口二

「」盗早速可申出之所差扣不申出右之品出候由承候ニ付相渡吳候様断書聞届渡ス

一 勝山の来書渡部唐兵衛戸村源吾の御種人参売聞合之儀

十八日 晴

一 勝山江返書之儀御沙汰仕今日返書認遣ス扣ニ有之

十九日 晴

一 大目付中の廻状啓生院様御一周忌被為当此段及演達候様御用所御申ニ付申達候右之趣同役并支配方へも可被相達候大目付中へ聞合候所御茶湯と申ニても無之候清雲院様之通ニ取計候様申聞町々為知廻也

一 德守宮祭礼ニ付昨夜の警固差出小頭代藤森権六罷出中山伝内三舟

孫八福田甚蔵香山多蔵無滞御届申達ス并当省略ニ而遣ス

廿日 晴

一 明廿一日五半時御供揃ニ而啓生院様御周忌ニ付泰安寺江御仏詣稲垣の通用申来ル

一 二宮村小三郎郡代所へ訴状船頭町新太江掛り大庄屋立石才兵衛吟味書等内濟書御用所江山岡与左衛門差出候付新太可遂吟味由衛守殿の御渡被成候

一 二階町堺屋伊右衛門播州今市綿屋嘉市郎手代忠七例年之通呉服売。京都伏見海道五条上ル町森下町近江屋勤兵衛例年之通小間物き

せる売各昨日入

廿一日 晴

- 一 明廿二日九半時二宮へ御遠乗二階町御門蔵合前本町通御埴鉄砲町土手船頭町木蔵横門左衛門前京橋御門へ被為人候旨稲垣の通用
- 二 階町田原屋伊兵衛鳥取紙屋市右衛門方へ廿三日立往来出日
- 一 司馬五郎様江懸生院様御機嫌伺上ル

廿二日 晴

- 一 河原町伝助材木町証屋忠助并同人借屋藤助へ懸り訴状今日呼出し遂吟味候
- 一 船頭町新太儀今日呼出し及吟味候儀二宮村小三郎訴状ニ依之新太儀手錠組合預申付候

廿三日 晴

- 一 京町戸屋岩右衛門親佐右衛門内用ニ付大坂大蔵次三郎方へ今日出立当十二月迄
- 一 造酒之助殿大坂御用ニ付今朝出駕同事ニ付大目付永井甚大夫勘定奉行近藤伊左衛門同日登坂同役栗田只次ハ去ル十六日出立之由
- 一 三丁目平野屋利助同所草津屋所持造酒株当申の五年之間造酒商買仕度願勘定所江引合聞届候勿論御運上故大目付所江も噂致置候
- 一 太田仙助江多助贓物受取書取之今日相渡ス
- 一 高倉村善六牛東新町紙屋佐七門前ニ而煩落断出引取聞届
- 一 坪井役所来書中里藤蔵中野貞右衛門の今般中里藤蔵致着来秋迄相詰候案内申来り即及返答候扣ニ記置
- 一 大目付中の廻状從江戸表飛脚到来殿様益御機嫌克被成御座候然処

御麻疹儀未疔と不被成御勝候ニ付当冬中迄御滞府被成度御届被成候処御聞届相濟候旨申来候此段為相知候様被仰出候右之趣同役并

支配方江も可被相達候右ニ付組中江為知大年寄共江為知候処先例之趣伺出町々年寄切ニ御滞府之趣被相知候札元或ハ医師御用達江ハ態々不為知候

一 近年植月村観音寺御城下へ参寄依致候旨其外奇怪之沙汰有之永井甚大夫の内噂被申聞候旁左之通町々年寄切ニ為触候

他所寺院参祈禱呪符を請病難平癒ハ改方ニて一味怪しき示しな候□以来者宿等遠慮可有之町之年寄心得可置事ニ候

廿五日 曇夜中雨 廿六日 曇時雨

一 御代官久保田十平の支配組町作御年貢米是迄ハ無抛御給米当ニ延引致置候然ル所当年者地方并急度取立候様被仰出候此段支配組へ申聞置くれ候様手紙来ル則当番伝内へ申聞□

一 錢通用八拾六文

廿七日 晴 廿八日 晴

一 新太吟味書付及御沙汰候御内意も可被成由御受取被成候
一 かち場土橋出来ニ付船渡例之通牧重郎治の届明日の船渡止候様申渡ス尤御蔵元も申出候

一元魚町西心坊と申者光嚴寺往来持四国遍路罷出候処備中の病氣ニ付送り来り古城村迄参候処郡代添役西尾多内被参通用有之ニ付則元魚町年寄申聞候所其者ハ町内に無御座三助と申者ハ去才六月町内を出行方知不申尤届も相濟候由申之ニ付則年寄其外三助家主等

古城村へ遣候処其内ニ西心ハ相果候段又々通用有之候得共為念見
せに遣候処弥三助ニ被相通段申出候此段通用ニ及候

一右往來光嚴寺と有之ニ付寺社役ニ而多内ハ寺へ尋有之候処書印共
ニ寺に覺無之去暮之儀三助ニ者往來遣候由ニ相聞候何分町支配放
候儀ニ付郡代所ハ見分出光嚴寺ハも掛り合ニ成葬り之作法ニ相成
候由右等大目付平井郷左衛門へも及噂御用番中ニも申達ス

廿九日 晴

一元魚町西心坊送り來候得共右之一条町分手放候趣伊達与兵衛殿ニ
達ス

一上紺屋町津島屋三右衛門妻しつと申もの離縁ニ逢候所可行方無之
さまよひ候由尤三右衛門ニ預置候銀百匁と諸道具相渡し不申及難
儀候旨右しつと訴状津島屋組合印形を以申出る勿論下地戸川町松
岡屋善太郎ハ九月十三日脇指紛失之趣訴状并質物取次松岡屋佐助
兄元魚町檜もの屋藤吉脇差之一条書付取之一統紛失物触出し十月
十日切ニ申付候処津島屋三右衛門妻を去候儀不埒ニ付一通及御沙
汰置候

一司馬五郎様御仏參被成候

一播名東郡芝原村栄次郎藍玉売例年之通。阿州板野郡高府村新兵衛
。同州名西郡高原村直兵衛手代平左衛門式人同売もの三通河内屋
藤三郎切手

廿日 晴

一山岡与左衛門ハ太田村御林立木御払木入札被仰付候間望之もの候
ハ、來月十五日迄山方役所ニ入札差出候様取計呉候様手紙入札触

申渡候

一材木町ニ而勝部村孫兵衛牛大番所前木戸之北へ付候柵を損しかた
ニ付牛索共ニ留置勿論上之御普請場故年寄共届出則郡代西尾多内
ニ及通用平井郷左衛門ニ申達し差掛り候儀ニ付棟梁源七ニリ繕
致し候様為取計候右牛も為帰候町内ハ勝部村通用為致候

十月朔日 晴

一大目付中ハ廻状御林之内ニ而薪被下候間山奉行ニ懸合伐取候様先
達而被仰渡候ニ付山方役人共遂吟味候処大木或地所ニより銘々伐
取候様ニハ決而不相成趣申出候用意御林御払ニ取計右代銀ニて相
渡候様被仰付候間其旨可被相心得候右之趣組中ニも為知候

一当申御物成米「」ニ日相渡候相受取候様御蔵ハ廻状

一勘定所ハ廻状於御林薪相渡候様先達而被仰越候処今般代銀渡ニ取
計候様被仰出候ニ付明ニ日本講釈場ニおゐて相渡候間印形持參受
取候様致し「」之儀ハ追廻しわり場ニおゐて來ル十日相渡り候由
申來候

二日 晴

一薪代三匁七分五厘大右半治石丸紋吾相渡し候尤通ヲ以以來受取
「」組之面々ニ者人数書付を以六分ツ、受取牢番三軒屋同断

三日 晴

一大神樂岡田忠大夫昨日到着致し候得共御家中当時節ニ付町分計相
廻候様可申付旨於御次御伺申上候処可然計ヒ候様御聞届被成候
一十一月十八日之万人講及御沙汰候処御聞届被成候

一伏見町作人岡次願拾三才親喜作三拾式才母もと世三才弟龜次郎式才渡世難成英田郡倉敷村なんと屋伝六へ引越人別離及御沙汰

一茅町作人伝助家屋敷表口式間四尺七寸五分裏行十七間但三步役東隣ハ研屋半平西隣大工幸右衛門此度質物百三拾匁借受

一万人講之節風廻り不被仰付候間町々年寄共ハ氣を付候様被申聞候大目付海老原極人江下地年寄共其儀申付置候間二重ニ成候てハ如何ニ付可然可申付段申達ス

一万人講ニ付當時無人ニ付草履取言人御貸し被成候由海老原極人被申聞候

四日 晴

一御蔵米五拾匁五分町米四拾六匁五分

一大目付中ハ廻状御老中借物等之儀先日被仰出候通今般格段之御引米被仰付候ニ付兩年之内及断戌十月ニ至差引可取計候処間々心得違之面々も有之様相聞候先日も格別之思召を以被仰渡候義候間無心得違様可被致候此旨及演説旨御用所御申ニ付申達候

五日 晴

一衛守殿ハ駒平追払同勝手次第取計候様ニと被仰遣候

一中之町一昨夜七ツ時分八九軒盗人徘徊致候由紛失無之候へ共届出候

一元魚町米屋喜助新職人町ぬし屋喜平次取次ニ而式貫目ニ家蔵ヲ質ニ入次に本証文も納候上ニ而變改致し其上喜助不埒之儀共相聞組合預ニ申付候

六日 晴

一駒平今日御領分追払出番孫助左助罷出ル双方御届達候

一雲州江參候京医師帰京ニ付御当所ニ而止宿之儀本陣を望候儀ニ付

大年寄共ハ伺出候得とも役所不及貧着京町茶屋清左衛門ニ泊り候一先達而七月廿日書記之虚無僧取計鶴計義ニ付明暗寺番僧寄情と申

者ハ大年寄へ書面之趣未得御意候得共冷氣之砌御堅固被成御勉珍重之御義御座候態々先達而御頼之筋ニ而御番所鶴計江宗門取リ申付置候所不恐御役所并対宗門不相濟義御座候ニ付此度申付則本則宗具取帰申候右之段得御意度此御座候謹言蔵合孫左衛門様明暗寺番僧寄情十月五日此趣大年寄ハ申出承置候

一貞永寺百姓庄兵衛と申者坪井町高砂屋ニ掛り稲こぎ買候を氣ニ不入返し候を不受互ニ難波之儀直訴ニ及候得共他領者ニ付大年寄ニ任せ濟

一錢八拾七文 惣豆腐屋共八百屋四郎左衛門願去未七月願拾五文ツ、商売致候此間大豆少々下四ニ成候ニ付拾四文ツ、ニ売申度。九分大豆式升、三分薪ノ三匁二分拾十分元ノ。拾四もん売立者匁六分三厘内迄式分元入引ノ四分三厘手間代

八日 晴

一材木町木戸繕料三匁五分申出御作事へ及通用相受取候而則相渡ス
一林田町いき屋幸助昨日之申出昨六日八半頃店先ニ而御蔵通拾申候落主ハ七兵衛と申者之由吉見村平之丞虎次忠四郎仁右衛門忠蔵杯申者鍵屋勘七を頼返具候様申候得共大切之物と存伺出候ニ付今日粗及御沙汰候通ひ表拾表也

一牢舎多助仕着質物を以請させ小頭證文拙者留置ニ而四匁四分八厘也相渡ス

九日 晴

一茅町保頭伝助願南側ニ而表口式間四尺七寸五分裏行拾七間東隣ハ

研屋半平西隣ハ大工幸右衛門鳥屋忠七五三拾匁ニ来西十月切質入

一元魚町豊屋喜兵衛願小性町上横町西側ニ而丸龜屋文六家屋敷表口八間五尺裏行拾七間但老軒役南隣ハ藤の屋藤助北隣ハ私所持之土藏ニテ御座候右之家屋敷四年已前已才右之文六名前ニ而私貫請申候然此度私名前に付替申度奉存候旨先例ニ准し聞届ル

一堺町桶屋勘右衛門悴辰次郎此度小沢諸鈴ハ暇出町内人別入

一新魚町年寄魚住屋太郎右衛門役免願聞届遣ス

十日 晴

一町蔵米五拾式匁町米四拾八匁

一西今町住屋義助妻断夫儀助当月三日不凶罷出欠落之様子相見方々尋候得共得尋出し不申しかる所義助儀及腰之物細工仕候処所々々預ケもの御座候而受取置候処儀助不申居候ニ付様子知不申道具相見參申迷惑仕候旨断書承置願主でんと申女之由
一御蔵ハ廻状当申暮渡り御給米御役料来ル十二日相渡り申候相受可申由

十一日 小雨 十二日 晴 十三日 晴

一明後万人講出役西尾多内拙者罷出候儀衛守殿江申達ス今般之被仰出可為無人ニ付草履取御渡被成候旨

一於御次山岡与左衛門拙者へ此度之講に殘雖為突候儀可然哉兩人申談候様ニ被仰聞候何分申合候上可申上旨御答ニ及候

一船■町新太掛り合ニ付郡代所ニ而吟味有之候趣を以猶又致吟味候様御用番中ハ被仰聞候ニ付海老原極人ハ一部書面被相渡候

十四日 晴

一五拾三匁五分四拾九匁五分
同月八日歸文出

一小性町作人徳次郎家屋敷西横町西側表口十間五尺但老軒六步役但南方表口六間三尺五寸大溝切裏行十式間北方表口四間老尺五寸裏行七間六尺北隣ハ肥地屋兵藏右家屋敷銀札三百七拾目瓜原屋平吉へ売渡

十五日 晴

同十八日ニ及御抄汰
一万人講ニ付役御貸人鐘老人挾箱老人合羽籠老人草履取老人是ハ今御渡無人可為ニ付 御渡被成候旨 郡代添役西尾多内御貸人同断 考竟 此方ニテハ同心加人之内 竹内源藏 若党ニ召連候役掛之方へ高木米八渡部忠助日下源治加人已上五人無滞相洛候衛守殿へ一所御届ニ罷越候尤兩人共ニ御省略ニ付御貸馬無之候寄札高八千四百廿枚此銀札四拾貳貫百目内拾貳貫六百三拾目三歩引ノ廿九貫四百七拾目五十番ニ割。老番老貫六百八十四匁。十番老貫五百拾五匁六分。式十番同。三番五貫百拾式匁。四拾番老貫五百拾五匁六分。五拾番三貫三百六十四匁。間々三百三拾六匁八分

十六日 晴曇

一西川役所酒井良藏永松太惣左衛門ハ例才之通当月米平均直段為相知呉候様書状来ル

一公料米中揚場之儀西尾多内ハ申来柳之土手例之通申渡ス

一七日 晴

一槽原河岸出御廻来今日ハ積出し候由申来西尾多内ハ申来申付候一江戸表中島彦六ハ大年寄并惣町献上代物受取候由返書来ル

一 船頭町新太二宮懸り合ニ付今日呼出し再吟味申付候
一新魚町鳥屋与三兵衛撰州豊島郡池田村日野子町植木屋平兵衛手代
加兵衛例年之通入

十八日 晴

同月廿二日三之助を類へ預身申付候十一月八日又候同町龍右衛門組頭拾ひ候由火を付候趣落文及御沙
一去ル十二日孝町ふき屋藤助かと先ニ而町内作人甚右衛門悴三之助
汰候

通かけ拾ひ候由則藤助立相渡し候旨火札之趣かや町瀧右衛門ニ意
恨有之焼払可申彼もの二之宮辺作物等こやし杯盜候儀を申取近隣
之類焼無心元兼而為知候由去ル十五日年寄共申出今日及御さた
候尤早則ノリ一通り申付候

一 西今町浜屋藤蔵方へ山北村伊助十母さん廿八祖父七十四惠助引越
一大坂御代官稻垣藤左衛門殿今十月十五日今出日迄米平均相場ニ付
十一月指入迄ニ大坂御蔵殿へ差遣候様勘定所立申来り山岡与左衛
門今申聞候則大年寄へ中含メ候大目付所立一通り及樽置候
一 林田町福地屋榎三郎北側ニ而表口五間裏行拾七間但本役東隣ハ宇
田屋和七西隣ハ私居宅右之屋敷代銀札七百目ニ相極同町宇田屋和
七立売渡願同月十九日出證文出ス

十九日 晴

一 去月廿九日書記上紺屋町津島屋三右衛門并同人今離縁致候妻塩呼
出し吟味存寄申聞せ候上大旨取計申渡ス一々別記ス

一 出羽守様来ル廿五日御当所御通行御関札并人馬御先触到来院庄御
昼休之旨継馬三拾七足継人足百七拾人久世今大坂通り伏見迄之内
右
■ 継馬式拾五足継人足百七拾人は迄之通板札一番今三拾七番迄人
足ハ紙切手例之通也右之通ニて左之通此方之仕方三拾七足此分御

先触之表也外ニ式疋御通之用意馬ニノ三拾九疋内廿式疋宿馬引而
ニノ拾七疋内拾式疋疋是ハ問屋共今向方様馬引請之者と申談ニ而志
駄分以上式駄ニ而通し候由ニノ而五疋此分在中寄せ馬郡代所今
方へ申渡し問屋にかけ合候儀也

右之段郡代所立通用申候

廿日 晴

一 出羽守様御通行之儀大目付海老原極人并郡代西尾多内立通達ス
一 御蔵米五拾三匁町米四拾九匁
一 京町茶屋清左衛門悴藤蔵明廿一日出立大坂八百屋次兵衛町へ罷越
三十日計

廿一日 晴

一 堺屋伊右衛門切手江州多賀成就院使僧玄乗坊上下式人例年之通且
那廻り昨日入

一 出羽守様御通行之儀其外人馬触取計之儀衛守殿へ申達ス

廿二日

一 中之町箕打屋吉右衛門借屋ニ居申候幸八と申者五拾三才井田屋町
平四郎借屋立引越させ候願出る
一 中之町甲屋和助播州姫路白銀町大村屋平吉弟も兵衛老人例年之通
墨筆并ふとも売昨日入

廿三日 雨

一 出羽守様御通行ニ付御徒目付下目付立宿安岡町扇屋吉助申達ス
一 同断ニ付出役仕候旨御用番中立申達ス御貸人之儀大目付所申達ス
廿四日 晴不正

一大目付中廻状一御具足御祝義御格別之故諸士登城例之通可有之事一御譜代之面々十一月一日登城可有之事尤年限中被下物無之御用所面調計右之趣――

一錢八拾七文

一中之町小山屋与三次越中富山向河原町松井屋左兵衛一人例年之通反魂丹売昨日入

一山岡与左衛門今頃ハ満水ニ付鍛冶場土橋竹筏流懸候損し候ニ付修覆之内船渡し申付くれ候様申来り即刻其旨大年寄江申遣ス勿論筏士之儀尋候処吹屋町(山城屋)竹之由仍之及尋候追而思慮可付事尤御用番并大目付中江も相届遣候水増候ニ付往来ハ留候

廿五日 小雨不絶

一今日出羽守様御通行被成候ニ付今町例之場ニて御目見江申上無滞相済畢而何役人ニ候哉此処ニて御挨拶いつも有之候得共殊之外御取込被成候ニ付御茶屋守之得御意候旨申聞候ニ付相成之会釈申之候立やと直屋孫兵衛御貸人鍵挾箱合羽籠草り取都合四人伝内権兵衛兩人若党御先払小頭代権六平ニ而甚蔵左助やと安岡町吉田屋多四郎馬駅出役市左衛門多蔵

一今日川明申達ス

廿六日 晴

一材木町河内屋藤三郎年寄役免兼而病身其上無抛身近きもの之方後見も仕遣度役免願無余義ニ付聞届遣ス悴林蔵見習申付置候旨跡役申付候

一東新町鍋屋八郎兵衛家屋敷表口式間半裏行十七間但三步三厘三毛

東隣山本平右衛門家西隣水口屋茂兵衛西新町延屋源左衛門取次ニ而来西十月切三百五拾目質入但同人願此家茶屋六郎右衛門取次式百五拾目請返シ候趣別紙出聞届
十一月十五日證文出ル

一京町あへ川屋源左衛門北側ニ而表口四間三尺五寸裏行拾七間御堀切但六歩役東隣自分持家西隣自分持家四百匁ニ町内田戸屋宗十郎へ売渡
十一月十五日證文出ル

一京町あへ川屋源左衛門北側ニ而表口四間老尺裏行御堀切但三步役東隣自分持家西隣とよ屋和助東方表口式間裏行御堀切但老歩半役百七拾匁町内挽屋治助へ売渡し西之方表口式間一尺裏行御堀限り老歩半役百七拾匁町内豊屋和助売渡シ
同日廿八日大目付中へ進ス問屋出役ハ市左衛門多蔵兩人也

一御通行ニ付問屋共之書付出入ス人足七百七拾八人内式百式拾八人手

札前私 同五拾三人分払ニノ四百九拾七人増。町馬式拾五疋。郷中馬五疋。通シ馬拾式疋但繁州様役人ノ四拾式疋内三拾七疋手札払同

式疋御通行ニ付用意馬ニノ而三疋当宿用意馬件之趣也寄馬ハ五六

日以前郡代中へ通用例之通引受之者問屋方へ入込相務候由

廿七日 晴

一郡代所ハ大坂堂島町三丁目京都屋嘉兵衛悴次兵衛四国遍路弓削村ハ足痛ニ付送り来り町分へ申渡夜に入無滞在分江送り渡ス

廿八日 晴

一昨日送り者之儀今日及御沙汰
一此間加治場土橋江筏懸候山城屋善助木屋嘉助兩人呵禁足申付候御勘定奉行中へ申談

一四五日以前二宮茶渚場向へ其辺ニて破船濡米積候而柳提番人共及

見聞申出候ニ付宮尾河岸の積出し之由西尾多内及通用置候所内分ニ而右河岸に積登し候由相聞候庄屋共場ニテ濟候旨ニ候

一 牢屋捐場所書付大目付所並差出ス

一 船頭町新太郎二宮村小三郎掛り合双方吟味片付候間存寄申上候様海老原極人の被相渡郡代所並も同断拙者儀ハ即答ニ新太不届ニ相決申候併引込とハ可申盜賊之類ニ而も無御座候ニ付件之狼藉者一統令見ニ御座候へハ入牢被仰付相当ニ奉存候段申達候所即刻御聞届被成其旨可取計由吟味書三通 御下被成候

一 八拾六文錢遣

一 小性町ひち屋兵藏京都大谷長床坊使僧常意坊上下三人例年之通旦那廻り昨日入

。雲州杵築多久十大夫上下式人例年之通旦那廻り昨日入

廿九日 晴

一 御藏米五拾式匁町米四拾八匁

一 中之町阿部周益塗師龜次郎一件兩人願下し玉置宇左衛門 妹尾平兵衛兩人嘸ニ而内

着類五ツ餘十郎江預置候申渡ス

一 新太郎今日入牢申付候而御方相届る出番甚藏左助

一 乃井野御預り所久世村の御金荷鳥屋与三次方ニ泊り例之通計ヒ候由孫左衛門届出る

一 去ル十九日申渡候津島屋の過代三拾五匁今日相納候由孫左衛門申出候

晦日 晴

十一月三日及御沙汰
一 京町永木屋忠助借屋清六当六月致家出候処定法日数立候ニ付人別

離断書出ス

十一月朔日 晴

一 例歳之通御祝日ニ付御普代中登城日參之面々罷出ル御赤飯不出尤御用無之ニ付御席へ不罷出候

一 造酒助殿并永井甚大夫大坂の帰着

一 備中倉敷へ上中下米相場大豆相場飛脚へ相渡ス二日遣ス

一 勝山平均相場書取ニ来ル二日遣ス

一 二階町田原屋伊兵衛播州姫路宮見屋平兵衛方へ明日出立五拾日計

二日 小雨

今日遣ス
一 坪井中里藤藏の米相場書取ニ来ル

一 御藏米五拾三匁五分町米四拾九匁五分

一 大坂御代官稻垣藤左衛門殿へ米上中下大豆相場書遣ス勘定所の取計

計

一金式百疋出羽守様の頂戴御茶屋庄兵衛の持參銀式兩宛馬借へ出候市左衛門多藏へ被下候ニ付是又庄兵衛の届ケ御先払へハ追而可參

由庄兵衛預りニ而藤森権六へ同人の引合ニ候

廿九日之分
一 戸川町播磨屋七左衛門家屋敷北側ニ而表口二間裏行十一間但シ半

役東隣者平屋兵助西隣者橋本庄藏代銀札百五拾目田町桶屋和助へ

売本証文向月九日ニ出ス

同月二日に申出ル
一 西尾多内通用大坂堂島京屋嘉兵衛悴次兵衛去ル廿四日送り来候

所播州大畑村の送り戻し候旨今夕町分無滞井口村へ送り届候

三日 晴

一今日津島屋三右衛門へ戸川町を掛り合一件ニ付及御沙汰質物紛失

之過料三拾五匁元魚町年寄戸川町年寄上紺屋町年寄合封印申付託
方戸川町年寄へ脇差出候迄預ケ置候尤以來拵る儘ハ勿論くだ

ニ成候共右脇拵之内ハ身ニても出候ハ、早速届出候様申渡ス出合
平名平太衛門中山市左衛門妹尾安次玉置広四郎

一下紺屋町北島屋鬼子右衛門勝手向難波ニ付大坂安治川篋屋徳右衛
門方へ参成之暮迄勤町内諸役ハ悴豊吉ニ相勤候旨願

一中之町阿部周益断借屋徳助去月廿五日夜家出妻と悴幸吉ハ残り居
候旨承置候

四日 小雨

一平岡彦兵衛殿手代大井田与五郎中里忠助が十月十五日の晦日迄米

上中下大豆相場取に差越山岡与左衛門を相廻り役所取計ニ付此方

の返答致くれ候様申来ル

五日 小雨

一今津屋孫十郎摂州兵庫塩屋六左衛門方へ四日立十日計留主ハ預ケ

もの有之候ニ付林田町しほ屋庄助悴数之助

一茂渡庄右衛門借屋作人勘之丞姉菊^{四十}林田上之町宗屋役介ニ引請小

性町也

同月十一日並文出ス

一西今町住屋弁蔵所持ニ家屋敷南側表口三間裏行拾五間但五歩役西

隣ハ沢田屋六兵衛東隣ハ京屋伝兵衛銀札五百目質物ニ京屋伝兵衛

江書入但弁蔵親儀助家出いたし書置ニ腰之物預り質物ニ置候処先

ニ名面相知候ニ付請返し筋付申居旨口上承置候

一魚住伊予守より当年ハ社用ニ付御国へ不罷越其段届候旨ニ而扇子

到来書状添

一八月廿五日書記之米屋喜介家屋敷ぬし屋喜平次取次ニ而銀札貳貫
目借受願聞届候処九月十一日本証文差出然ル所銀主契約ニ付難相

調同人を願下伺出候得共証文迄出置候儀を今更願戻しと申儀不埒
ニ付不聞届候段広四郎江申渡ス銀札場返納者札元と孫左衛門内談

有之借居ニ相成候由尤米屋喜助一家甚不埒相聞候此節喜助儀組合
外組 願申付置追々可相計

六日 曇天 七日 晴

同月八日御用所へ申上候大目付所同斷トコ
一先達而の御赦ふち被下候独狐河原町八平病中^{九十七才}之処今晚相果葬聞届

一八拾七文

八日 晴

一去ル五日下午紺屋町喜八悴清太郎と申者泰安寺の呼に参家来金平の

質物取次候哉と相尋候処兼而出入致候儀同人を願当九月廿九日^{十一才}か

や一戸川町打穴屋十月中頃かすり島老反坪井町塩屋同月廿二日^{十五才}白

無垢一二丁目安原屋同月廿九日西今町永田屋久左衛門帷子一置替^{八匁五分}

同月同日浅黄無垢一二丁目安原屋右之訳相答候処先婦候様引統親^{貳拾匁}

喜八に預申付年寄福住屋吉左衛門方へも案内候ニ付同人儀泰安寺^{貳十五匁}

江罷越段々趣意を述候処寺社方江も届被届候積り相聞江候ニ付右

清太郎掛り合之様子書付差出ス泰安寺の寺社取次西尾多内へ書

付出候而双方引合申候

一西今町永田屋喜八泰安寺家来金平の紺之かんばん単物ニッ質ニ取

候由溪花院長屋平右衛門六九白無垢一質に取候由十月廿九日下こん

屋町清太郎式十知帷子平助置入かへ三匁之質物ニ相成居申候由金平欠落之跡手札候ニ付申来り旨書付差出ス

一 大川舟道浅く浚之儀郡代所受方ニ付伺相濟候上蔵元共切者成船頭召連浚之場所浅深見計ヒ候様為致度旨西尾多内被申聞大年寄へ申含メ候

右見分庄屋出合同月九日相濟日雇拾人計入候由ニ見受候旨

一来ル十二月五日万人講伺差出及御沙汰候処御聞届被成候

一去ル五日之日記塗師屋喜平次取次質入家願下不聞届候段申渡候処弥喜平次取次之通相濟尤札座返納も濟候旨申出候

一 河原町福本屋伝助妻当八月廿四日出奔致し候一条ニ付材木町桎屋忠助并同人借屋藤助ニ掛り合双方呼出し役所存寄申聞候所双方ニ嚔入内濟ニ相成候旨伝助願下候ニ付聞届一部袋ニ入

一新太郎入牢被仰付候所此上右之者取計ヒ存寄申上候様御用所より被仰渡候旨鈴木此右衛門被申聞候則刻趣意書差出小三郎へ掛り宿元五届可遣と約束を偽久世村へ持行質に置候始末押領狼藉之働不届ニ付入牢被仰付候追払も被仰付候様可申上義ニ候得共一等級御憐愍を町払被仰付候儀乍恐伺申上候

九日 晴

一 泰安寺家来金平欠落之上盗ニ出しこんや町清太郎を願五匁前書之通所々五盗に置此一件ニ付右清太郎并永田屋久左衛門五届出与兵衛殿五及御沙汰候寺社方五ハ泰安寺右ニ付書面此右衛門被差出一

所に及言達候所泰安寺家来不埒ニ候へハ請人も可有之右等ニ付吟味も可有請状可有之儀旁請人ニ為働候儀と思召候得共町質屋とも方まで請人とも申候迎請乞イ申聞敷元五役所へ申出候儀内々ニ而為計候筋と相見へ不申旨申達候得共思慮可有と被仰聞候ニ付一応ハ引取相考候所金平儀欠落仕候処此者無貧着候而者質物取上候儀権柄に難申付旨此右衛門五申上候所追而此右衛門五呼に参欠落致候金平「」被申聴今夕中山伝内福田甚蔵目明文太召連捕候為罷出候位田村寺方ニ忍ひ居候様相聞候

十日 晴

一 蔵合孫左衛門方表之銅算八日之夜盜れ候旨同人五申聞候ニ付一統蝕書出ス

一 中山伝内福田甚蔵兩人目明文太松山屋清助倉敷五罷帰候位田村寺院へ倉敷ニ居候岩次湯之郷ニ居候時八兩人を問に遣し段々申入させ候処何分ニも内分ニ而宜取計くれ候様頼右忍居候金平を得早速住寺五差出候趣申渡候上ニ而岩次時八兩人伴ひ出し候を門外ニ而文太清助待受取困ひ倉敷迄連来夫五兩人申合腰なわニて召連帰候ニ付則於役所有増尋ニ及び入牢可申付事ニ候へ共御証月ニ付鈴木此右衛門五申談候処先今晩ハ役所ニ而可然取計置候様被申聞目明源八方へ前付ニ而預置候彼方ニ而相応之番も付候由与兵衛殿五も金平途中捕ニて連参候由申達ス

十一日 晴

一 ア部周益五断先月廿五日家出致候徳助当申御年貢米式斗四升壹合

四夕内巻斗上納ニノ巻斗四升巻合七夕同人妻いせの諸道具売払上納仕度届断承置家賃拾八匁巻分不足之由此儀ハ不及貧着候

一相場五拾五匁五分五拾五匁五分

一元泰安寺家来金平入牢取計候尤暮時ニ候ヘ共御日柄故御届ハ半番預ト申達ス孫八多蔵出役

十二日 晴宵の雨

一材木町鶴飼屋宇助切手高野山宝蓮院使僧円徳坊上下式人例年之通旦那廻り

一金平口書爪判取之孫八多蔵屋廻りの勤

十三日 晴夜中の小雪

一金平召連參候入用欠所金ニ而可受取処兼而役所ニ預りものも有之
当時外用ニも入込候間差当出銀難成候ニ付其旨此右衛門江申達候
所於勘定所取替ニ相成候ニ付拙者証文ニ而銀札拾七匁六分右者御
用ニ付同心組兩人倉敷ヘ罷越候往来入用受取申候追而返納可致候
以上此旨ニ取計則同心部屋目付中山市左衛門ヘ相渡ス
一河原町伝助材木町証屋忠助掛り合下方ニ而内濟願下候ニ付八通渡
之

十四日 晴

一大目付所の廻状惣而御家中旅御用相勤候節道中人馬先触之義ハ從
当人相頼大勤者役筋の差出候事ニテ尤途中無抛故障等有之節候ハ
差懸り当人の宿々問屋ヘ廻状差出候義も可有之候其付銘々の先触
等差出候義者決而有之間敷事ニ候然ル処近来町在之者杯旅行之節
手寄を以相頼候迎人馬先触等出遣シ或ハ荷印等貸遣候面々も有之
様粗相聞甚心得違不埒之事ニ候勿論決而右等之筋被致間敷候此段

及演達候様御用所御申ニ付申達候同心組并町方江も相触申候

一幾野支配所御廻米積切候由大年寄申出候

十五日 晴

一撰州大坂南濃人町三丁目松屋治兵衛支配之借屋居申候津山屋十兵衛五拾七才倅惣助廿一才同妹まさ十七才右三人内縁ニ付引請役介ニ致度

一おけ屋町三郎兵衛後家願東側ニ而私家屋敷表口三間裏行拾四間但半役也南隣ハ作人吉左衛門北隣ハ虎屋左助銀札九拾匁ニ相極新魚町野田屋兵助借屋木挽平兵衛ヘ売渡シ

一二階町ぬし勘平願大熊勘ケ由殿組山本茂治右衛門弟栄蔵当申廿一才此度私養子賞請申度人別入

一茅町伊助と申瀧右衛門組頭且又組合共の書付出す此訳ハ去月十八日之日記表ニ有之候町内瀧右衛門老人之為無覺居町を若男女火難之儀無覺束可存候此儀組頭共ハ如何心得候哉所存可申出旨申付候所久々町内ニ居候瀧右衛門ニ候得共是迄申分無御座候然共火難之儀ニ付安堵不仕此儀右体之不屈者見付候ハ、可申出由書付差出す

十六日 雨

一船頭町新太郎今日出牢之上呼出し夫婦とも町追払申付候伝内多蔵出番西今町横町成道寺角ニ而追払候而年寄直屋市左衛門見届候手形取帰候両方ヘ御届申達ス船頭町年寄方の小三郎着類五品役所江差出す

十七日 晴

一御蔵米五拾九匁町米五拾五匁

送り通し受取書行

一新太郎質ニ置候小三郎着物五品西尾多内へ引渡作右衛門差添

十八日 小雨昼後晴

一万人講ニ付西尾多内三平出役去月十五日之通御貸人兩人同様多内

党三人下係り
八者
人数召連候 加人塩谷曾内藤登八松尾武八同心方日下岩右衛門日下

伝六拙者供に召連候ノ五人寄高老万千三百四枚此銀札五拾六貫五百式拾匁内拾六貫九百五拾六匁三步ニ引ニ而三拾九貫五百六拾四匁六拾番割。老番老貫六百九拾五匁六分。拾番老貫百三拾匁四分。式拾番同。三拾番六貫七百八拾式匁四分。四拾番老貫百三拾匁四分。五拾番同。六拾番式貫五百九拾九匁九分式厘。間々四百五拾式匁老分老厘宛右無滞相濟御用番へ直届大目付中へ手紙

十九日 晴小雨

一御家老組山本茂次右衛門弟栄蔵ニ階町ぬし勤平養子引受願聞届尤大熊殿立聞合之上承届遣ヌ

一御蔵米六拾式匁町米五拾八匁

廿日 晴

一山岡与左衛門江乃井野河端代ハ書状長岡舟肝煎共今方様御登り米川下積請之儀ニ付願筋ニ付添翰之儀申出候間願之趣聞札之上宜取計可遣之旨申来候此儀者三平取計候儀ニ付其旨及返答書面相廻り此儀ニ付登り米役能理善次応対致度去々年右請負印形之儀も候故引合遂批判候

廿一日 晴

一加茂屋和六奈良今井町墨屋伊兵衛手代源助例年之通昨日入

一京町茂兵衛と申者未進人ニ付手錠申付候組頭に預返し之旨久保田

十平の届承置候(御役筋之願ハ八連候儀ニ付
只一通りニ承置候)

一当申春渡り御給米御役料来ル廿四日相渡候よし蔵の廻文

廿二日 晴

一御登り米積請印形当年ハ申出遅引殊更御米も今少しニ候条不聞届候儀可然旨能理善次相見被申聞併代ハ返答ニ而請負之者願聞届候趣申遣ヌ事可然哉否申談候有無不決

一御蔵米六拾匁町米五拾六匁

一舟頭町今岡屋儀右衛門阿州板の郡川崎村清兵衛例年之通藍玉売昨
日入

一同人切手同州同郡成瀬村曾右衛門老人同断

廿三日 晴

一竹田村勘六鍛冶町新屋喜兵衛出入御裁許御用番与兵衛殿の郡代所
当役所へ御書付御渡被成申渡可取計之旨被仰渡候来ル廿五日取計
候段双方の申上ル

一御米五拾八匁五分町米五拾四匁五分

一新魚町鳥屋与三兵衛方失火纒之儀ニハ候へ共近町迄も騒ぎニ付同
人の書付取之御沙汰今日追込申付候御届申達ヌ

与兵衛殿へ右聞合相濟置候
一同心藤森権六願私不調法者之儀数年結構被召仕難有仕合奉存候然

処年罷寄近来別而足痛仕御奉公難相動候付私智五島理作与申者番
代ニ差出申度奉存候願之通被為仰付被下候得者私方へ引請世話為
仕度奉存候右理作儀伊達与兵衛様ニ相動罷在候尤与兵衛様御手前
御故障も無御座候間何卒中山市左衛門加印当人宛ハ小頭石名左

五兵衛今日指出受取置

一 右権六五拾年同心役相勤候儀与兵衛殿へ御噂申上置候

廿四日 晴

一 廿二日書記之積受可承届哉否登り米役人能理善次申遣し相見申談
当年最早入用ニ無之候得共前例も有之儀ニ付淳に聞届候印形申付
候段乃井野へ返書可遣旨申談ス

廿五日 晴

一 鍛冶町新屋喜兵衛儀呼出し掛り合横野屋徳左衛門も組合之内交ら
せ竹田村勘七掛り合昨日御裁許ニ付申渡追込申付候勿論郡代西尾
多内宅ニ而も相手方勘七江申渡有之候一件袋に入

一 備中小坂部水谷但馬守殿内中島幸助近藤武左衛門中島幸右衛門の
来書例歳之通釜反紙式束到来返書同月廿六日ニ遣ス及御沙汰候

廿六日 晴

同月晦日差免ス
一 味噌屋清六儀町内茂兵衛と申者当御年貢不納入ニて手錠被打此儀
ニ付下代ニ対し彼是趣意を申張候儀就中去才廻状之文段負人ハ年
寄召連可出と有之候を町内ニてハ年寄差添并組頭差添候儀無之旨
申之候儀とも有之昨日不束を咎禁足申付置候処ニ山岡与左衛門の
下代共合出し候廻状御代官久保田十兵衛の被差出候逆考之端も可
成と被差越候ニ付及見候処負人年寄召連可被罷出之文段宅ニ呼出
し役所合立合不出之と両方御届申達ス
一 大目付中々廻状来ル廿三日寒氣為伺御機嫌御帳付候間已之刻出仕
可有之旨

一 乃井野預り所久米南条郡大戸村塚角村小瀬村舟肝煎願之通口米積

請証文印形可致旨御登米方能理善次并蔵元立合其段申度并来酉初

秋請書無間違様相心得可申旨指詰致候由善次も申聞

一 茅町伝助御年貢不埒ニ付手錠組合預申付候由十兵衛の被申聞候

廿七日 晴

一 鳥屋与三次追込免

一 久保田十兵衛の京町茂兵衛町作御年貢皆済致候ニ付手錠免届来

廿八日 晴

一 寒中御機嫌伺御帳付

一 廿六日之書記長岡舟持共御米川下積受書印申付乃井野へ添翰返書
可遣旨及御沙汰返書ハ願人江相渡ス

一 馬持共式表半ツ、大豆拝借之儀申上候御聞届被成候

一 大年寄共年頭歳暮献上之儀伺候処此度ハ無之段大目付鈴木此右衛
門被申聞候

同月晦日差免ス

一 新職人町林田屋七蔵北側ニ而家屋敷表口三間裏行九間但一軒役西

隣ぬし屋孫三郎東者元魚町塚并一間半式間半之な屋蔵一ヶ所右之
家屋敷くら共に銀札三百匁材木町北村屋庄八へ売渡シ

一 京町花屋忠八後家願当国之内公料平岡彦兵衛殿支配所勝南郡西吉

田村善七悴与市式拾三才此度養子ニ貫

一 吹屋町式步中買富貴屋次左衛門茅町岡島屋幸助へ銀札百八拾匁く

り綿式本来九日切相場ニ九匁少おちニて取次尤幸助名代ニてハ難
(内務之編十一百廿日日出る)
相調騰取屋清右衛門名手形ニ而調達致遣し候処返并滞銀先の催促

ニ合無抛右幸助へ懸り訴状差出し追々評議之上可取計

廿九日 晴

一 町作御代官久保田十^平当御年貢米来月二日切急度致皆済候様昨
廿八日被仰出候間此段其御組へ御申聞被成可被下旨手紙来ル

一 今出屋半兵衛切手阿州名西郡桑島村平次兵衛手代長右衛門吉兵衛
式人。同州同郡同村武右衛門手代与一兵衛老人。阿州板野郡中富
村兵助手代平兵衛老人ノ四人藍玉壳

晦日 晴

是去昨日可記

一 東新町板元屋庄七乃井野預り所勝南郡木知ヶ原村仁右衛門悴才右
衛門式拾三才内縁ニ付引請願

一 高角屋八十吉病死致候由古道具屋頭ニ候故跡役申付候様大年寄へ
申渡ス

十二月朔日 晴

一 茅町伝助相納候ニ付手錠免シ

一 吹屋町沢屋惣左衛門切手阿州板野郡永田村十蔵手代太七郎同兵右
衛門式人。同切手同州同郡鶴鳴浦藍屋喜右衛門老人同手代徳兵衛

上下式人藍玉壳

一 銭相場八拾五文

二日 晴

一 大目付中廻状

一 司馬五郎様御病氣之処御養生不被為叶今已上刻御卒去被成候自之
今日来ル廿一日迄鳴物高声御停止之事候普請ハ三日之内可為無
用候右之趣同役并支配方江も可被相達候十二月二日右ニ付町方組

中江触書出ス扣に記す

一 来ル五日万人講之処御不幸ニ付講元へ申付御城下建札初卷通ニ差

出し有之候万人講之札ニ来ル五日万人講相のひ申候日限之儀追而
御知らせ可申候以上津山講元と記張紙出し申候諸事之引例江戸表
懸生院様之通ニ取計候様永井甚大夫被申聞候夫ニ付廿日之間自身
番申付候御葬式ハ誓海院様之例之由魚鳥壳候儀御家中進無用之旨

一 統之触書に認出ス

一 大目付中廻状司馬五郎様御病氣之処御養生不被為叶今已上刻御
卒去被成絶言語候御事ニ候依之為御悔明三日御帳付候間已之刻ハ
午之刻迄裏付上下着用登城可有之候

三日 晴

一 大目付中廻状司馬五郎御卒去ニ付御家中月代之儀御葬送相済候
迄割申聞敷候且又普請之儀三日之内無用之旨昨日相触申候処五日
之内可得無用候十二月三日

一 永井甚大夫伺ニ而指扣被仰付候三日之普請無用と触出
有追触五日と申儀申付之由

右ニ付鈴木此右衛門月番被勤候旨被申聞候

一 京町田戸屋惣十郎切手紀州海士島日方浦池谷町善四郎手代源五郎
文藏例年之通椀折敷売昨日入。筑前遠賀郡柏原浦小平次手代庄兵
衛万助又吉三人例年之通茶碗類売昨日入

同月十三日取文出

一 西新町久米屋忠助所持之家屋敷南側表口式間半裏行八間但土手切
半役東隣山品屋伝七西隣中之町津田屋伝助代銀札百三拾匁ニ中之
町塗師屋辰次郎へ壳渡シ龜次郎弟之由

一 坪井町桔梗屋庄右衛門北側ニ而所持之家屋敷表口六間裏行十七間

但耆軒半役西隣大津屋七郎左衛門東隣福得屋伊兵衛右家屋敷代銀
札八百目町内恵方屋利右衛門五売渡

一 小性町土橋破損届可及御沙汰

同月四日届出ス

一 西新町延屋源右衛門届借屋長助当月廿八日之夜辻番ニ罷出候留主

窓子切取被盜取候品布子羽織一□あわせ一単もの二帯一筋

四日 晴

大目付中迄及

一 物忽与相聞候ニ付非人共三組御家中町共ニ相廻らせ候

一 上之町吉也と申者去月廿七日之夜被盜候品水色縮柄帯京島布子羽

織一格子島単もの一格子島帷子一外一」鍵此三□ハ承届か

たく件之品西尾多内ハ触くれ候様申来り則申渡

一 平井郷左衛門ハ手紙来ル六日未上刻司馬五郎様御出棺泰安寺へ被

為入候間先刻申達候通御取計可有之候

一 明後六日未上刻御出棺被成候旨尤町々年寄共心得ノリ等書面を以

相触候扣に有之

一 成道寺前宗堅寺前繩張今町ハ為引請中山伝内ニ罷出候尤町内

組頭共人留に罷出る年寄ハ東西ニ貫木等打方端ノリ取計せ成道寺

前ハ藤森権六神田権兵衛御先弘ハ繩張ニ扣ノリ取計候是又組頭共

罷出候様ニ申渡候

一 衛守殿ハ手紙被下鍛冶喜兵衛義昨日ハ追込差免候間其段取計可申

旨被仰越候

一 斎藤孫右衛門儀格別之訳も御座候者ニ付御屋敷内外力又ハ御途中

ニても御棺を拜し候様被成度旨茂士迄伺候処郷左衛門五も被及噂

候処尤之由且又更山院様之時者三人大年寄共今町之端五出候由も

達候所近例も無之ニ付孫右衛門ハ格別ニ付御途中□罷出候儀と存
候由依是大番所前南ニ付貫木ニ添扣之事達置

五日 晴

先例也

一 喜兵衛今日役所呼出ニ而追込差免申渡而御所五御届申達候

一 悴斧助儀御屋敷御出入及中絶候へ共每事被為召一形ならざる御厚

恩之儀ニ付御寺五罷出候儀茂士迄伺候処郷左衛門も被聞候上甚大

夫五達し可然段仍之御同人五申達候所御用番中ハ勝手次第たるへ

き旨仍之同段之族仙波門太松岡治部助杯申合御供に随候

六日 晴

一 平井郷左衛門ハ手紙申談度儀有之候間御下屋敷へ出仕可致之旨申

来罷出候処御棺重く候ニ付横樺入候蘭田町虎落ニ故障候而ハ難相

済旨被申聞中奥目付小島右内五もかけ候様申談候処右役場ニても

請持候儀も難成候段役筋ニても同様致方も無之ニ付御大事之儀も

有拙者同心老人召連右場所五罷出今町年寄兩人呼出候尤御作事ハ

御大工并小遣老人つれ添横樺之丈つゑを為持横ニなし虎落をすり

弘ニ為歩候処甚不案ニ存虎落有之候紺屋共之入口石橋を為馳溝ヲ

ハ平地ニ致候様ニ取計せ置其委細ハ略し故障無御座旨郷左衛門五

申達置候

一 御出棺七ツ時御用所芥子之間中御玄関前南北に敷出シ御出入之面

々各御行懸御跡ニ随ひ候当御時節ニ候得者磯野伊兵衛村上清大夫

拙者儀ハ申合者見ニ而罷出御作事御門ハ尾上前ヲ西へ福田前夫ハ大

番所蘭田町通同心御先弘ハ元魚町貫木前ハ片側を抜宮わき町へ出

夫ハ見合動成道寺角ニ而ノリ計せ候

一 泰安寺ニ而御行道之間扣夫の堂之御上り被成引導濟御入定之物見
合各引取余事略之

一 今町年寄組頭共右ニ付出精候之由大年寄共為及挨拶□

七日 晴

一 大目付中の廻状司馬五郎様御法号鳳殿院と奉唱候此段及演達候様
御用番中御申被付申達候

一 又老枚御臆中為伺御機嫌明八日御帳付候間巳ノ刻の午之刻迄之内
平服登城可有之候一通一所ニ廻ル右之趣略之

一 久保田十平の町作当御年貢米去ル二日切不相濟類ハ地所取揚候様
被仰出候ニ付御支配御組之内ニも是迄相濟不申類ハ右之趣取計候
ニ付此段得貴意置度旨申来相応之返答申遣ス

一 伊勢内宮藤波神主手代北村富四郎と申者老人例年之通旦那廻り昨
日入塚屋伊右衛門切手

一 河原町作人十兵衛と申者大年寄孫右衛門宅ニ罷越元来変□酒乱体
之ものニて高声ニ悪言を申町作年貢之儀地所古田新開書記くれ不
申候ニ付年貢払不申旨種々町作庄屋を罵り御仲□之儀色々相有メ
候得共不相止候ニ付右町年寄へ申遣れ為

「其儀も三四度も
参其段申出候ニ付難捨置同心廻り孫ハ多蔵兩人差向腰繩ニ而組
合預ニ取計候様ニ申渡遣し候処保頭之宅自身番建居候内へ入甚悪
口町内も恐れ寄付候者も無之候て依之兩人踏込存分に禁ノ組合共
ニ預ケ罷帰候其帰下目付も廻り掛り之由参込様子承り候ニ付兩人
の相応之及挨拶候由則永井甚大夫ニ当番内を以申遣候此もの儀
毎度少」
「法外ニ人を相手取殊に常々」
「致シ出向」
「もの共ふ

あんニ存候儀も相聞候旁町内□年寄へ委細不届付申付候何分御中
陰之掃故追而可取計

八日 晴

一 河原町十兵衛大旨御用番中へ申達置引続此旨同心心得ニ而本繩
に致候ニ付御伺申手錠取計伝内左助差遣ス

一 橋元町山田屋七之助西側ニ而私家屋敷表口四間裏行拾五間但本役
南隣者山形屋喜八北隣ハ林田町作人文助也林田町若狭屋庄助取次
ニ而来西十月切質物ニ書入銀札四百目借

一 安岡町大和屋与三兵衛家屋敷表口三間小半裏行拾四間半但六歩五
厘役東隣日笠屋甚兵衛西隣ハ久め屋金十郎也同町松田屋徳次郎へ
質物に書入来西十月切銀札式百目借

一 御省略ニ付今来年之間門松大中町人足不入申儀被仰出申渡ス
一 鍛冶場土橋先達而破損之間船渡ニ相成右一日式勿ツ、船頭へ出候
由尤船損しも有之入用是又作目付近藤惣兵衛取計之段山岡与左衛
門の通用被申聞候

九日 晴曇夜半の雨

一 大笹村ニ而和吉と申盜賊二十一日入牢例之通手形取替し左助差出
し候

一 御登り米積切之由御蔵元届出候
一 久世塚吉屋助大夫大脇惣八ニ懸り銀老貫目可請取之「
」甚不埒之
儀共有之乃井野川端代八添輪ニ而訴状差出し候ニ付当町ハ作人惣
八事ニ而可有之相糺し先組合預ニ申付

調達筋ハ親類共ニ申聞せ尤三丁目播磨屋市右衛門も「
」ニ出し

候ニ付尋之上他參等為差留候追々可取計訴訟人助大夫名代藤森屋半助と申者之由宿八元魚町笹屋友次方

十日 雨後曇夜更小雨 十一日

一 鍛冶町来ル十三日煤弘例年之儀ニ付仕度処御中陰ニ「」伺申出る甚大夫江聞合候処「」と申ニ「」と騒敷可有

之間御中陰「」ニ付不聞届

一 茅町伝助家屋敷南側ニ而表口式間四尺七寸五分裏行十七間但三步役西隣ハ大工幸右衛門東隣ハ研屋半平当十月質物ニ入鳥屋忠七ハ銀札百三拾匁借用元利返済請返シ。右家屋敷百五拾匁ニ町内坂元

屋宇右衛門江売渡シ同月廿二日売券出ス

同月廿二日紙文出ス

一 茅町玉屋呉右衛門南側ニ而家屋敷表口三間裏行拾七間但壹歩半役

東隣玉島屋八十七西隣ハ作人仁助質物書入百貳拾目来十月切同町

岡屋忠七ハ借用

一 中之町二月屋与七郎借屋とも屋利右衛門当申五拾七才同人妻沢出九才倅虎蔵七才林田上之町吉屋「」へ引越。室井作右衛門方女子出生

十二日 晴 十三日 晴

一 此度鳳巖院様御布施自他國座頭警女共頂戴仕度今日来明日十四日相渡可申旨及御沙汰候

一去ル九日書記之趣逐一及御沙汰大脇惣ハ添簡ニ御家中と申来候得

共去冬御藏方暇出町方ニ借屋ものニ而罷在候得者一件濟方ハ申付

候得共御家中拘り無之旨可申遣書面認両御方へ申達候所御用所御

聞届被成候ニ付則今夕乍返口書状認名代藤森屋半助へ可渡旨申左

衛門ニ為持孫右衛門方へ遣候扣ニ有之

一 当月五日万人講相延候ニ付来ル廿三日興行之儀講元共ハ伺出候処及御沙汰御聞届濟仍之諸方為知之儀取計候様可取計之旨大年寄江申渡

一 牢内之者共御仕置等御取計之伺書付付ス泰安寺金平儀ニ付趣意申上候様甚大夫被申聞候壹方役「」存寄書付上置候

一 蔵元共問屋共給米御儉約ニ付半減被仰付候旨永井甚大夫被申聞則

大年寄江為知候

十四日 晴

同月廿五日承り届候此儀ニ付戸川町年寄共添書出候ニ付由緒「」候

一 坪井町桔梗屋庄右衛門戸川町北例（今）ニ而家屋敷表口五間裏行拾七間

但本役正徳三年已五月油屋ハ被相頼私祖父孫八名面ニ而買置唯今

迄私名面御座候処私居宅売払申候ニ付右之家屋敷組頭相談之上齋

藤次郎左衛門江名面付替申度奉存候間願通聞届くれ候様願出

一 於配當場御布施自他國座頭共へ渡藤森権六部醫目付中山市左衛門罷

出高八百貳拾五匁七分五厘銀札拾八匁在名老人同拾八匁七分五厘

晴衆分式人同六百五拾貳匁五分衆分八拾七人同三拾目打懸八人同

四拾壹匁分式五厘初心式拾貳人同貳拾匁分式五厘寿名九人同四拾

匁配當場役料書役筆墨紙代右御百ヶ日之分也去歲啓生院様之通諸

事取計候

一 中之町菓屋兵蔵借屋ニ居候又市四國偏路ニ出四月五日より貳百日

ニ及候得共今不帰候ニ付又々断

一新魚町平田屋安右衛門儀八月十六日之日記ニ有組合親類へ預困ニ

入置候由追々気分も正敷相成り此節にてハ平生同事ニ全快致候由
差免」」此後迎も親類共心を付可申旨倅重吉の歎書出河村市兵
衛江申候様ニ致候

一稲垣茂治の磯の村上大村拙者へ連名手紙来明十五日御」

十五日 晴 十六日 晴

一今日元魚町桑屋喜兵衛呼出し船頭町紙屋太兵衛の老貫三百匁質ニ
書入請返し不埒之掛り合何分右借物返済請返し候又ハ其儀不相成
取次太兵衛方へ相渡候筋ニ候ハ」」書面之通急度筋立候様

ニ申渡尤請書申付候一件袋ニ入

亮券同月廿一日出ス

一東新町橋元屋甚左衛門後家所持之家屋敷南側ニ而表口拾三間半裏
行拾七間但老軒七步五厘役東隣黒田良朴西隣ハ水口屋も兵衛右家
屋敷之内西之方五間半裏行十七間但七步五厘土蔵式ヶ所午三月願
書差出三丁目若本屋勘兵衛方へ質物ニ書入三貫目借候処此度受返
し願又此家則同町弓削屋太七五三貫八百目ニ相極亮渡候旨願聞届
候

一元魚町さし屋長左衛門借屋居申候かさや安右衛門当月四日ニ与風
罷出一兩日も帰不申行方相知不申候ニ付断書出ス

一東新町山本平右衛門借屋杉屋喜助家内式人此度林田村上之町作人
治助借屋ニ引越

十七日 晴

一坪井町桔梗屋庄右衛門歎出候趣近年不勝手借物等増長シ相統難成
去歳以来銀主方へ断諸道具衣類相渡他町家屋敷質物書入居宅売払

札場借納其 upstream 家内病人多難渋難後ニ付去ル亥歳両度之封印札八
百六拾目開封之歎出勿論右組合尋申付候処庄右衛門願出候趣〇〇
無相違之旨開封之儀被仰付候へ者一同難有之旨連印之歎申ニ付去
十三日及御沙汰候御聞届被成則日大年寄江申渡尤店も相仕廻滞
居致候由

一城正御布施被下方之儀奉畏候此後御法事ニ候へハ頂戴ニ罷出御茶
場ニ候者頂戴ニ罷出不申候段申出候

一安岡町木綿屋次兵衛北側ニ而表口五間裏行拾七間但老軒式步三厘

役西隣打穴屋忠助東隣作人治助西今町今岡屋忠助へ質物ニ書入来

酉五月切式百五拾目借用

同月十八日

一三町目年寄共願先年ハ水手被仰付宮川ハ東出火之節ハ詰米御蔵相
詰西出火之節ハ火元へ相動来候処近年町内ニ而諸役御免之家役多

并割場出人も御座候ニ付人数少ク防方行届兼申候ニ付此度水之手
防方ニ茂相成可申与奉存候ニ付六龍水と申火防道具三町目ハ相調

二町目与申合出火之節相用申度奉存候左候得者割場出人御免被仰

付被為下候様且又別紙ニ町内本役高式拾四軒内札元御用達三軒役
年寄式軒役殘而拾九軒」」と為持式人内老人」」り当町水竈へ取

一つつるへ老人一役所注進一人才許式人内一人水汲場所ちやうちん
持老人水竈往来之裁許

一割場出人式人一年寄人足式人内老人ハ出納年寄召連申候老人ハ在

宿之年寄町内用事申付候町内保頭大保頭兼役仕居申候ニ付人足町
内へ取申候一町内残シ人足式人町内堅メ不時之用意一高十三之内

水竈七人ノ拾九人

右之通ニ而割場出人并札元御用達人足引候ニ付水籠不足

一 二町日本役高拾七軒内三軒御用達年寄式人ニノ拾四軒一注進彦人一燈灯彦人一才許彦人一年寄人足彦人一町内残り人足彦人町内堅メ并用意人足一水籠七人ノ十四人外割場出人式人

右書面之通一通り永井甚大夫^五及噶候割場出人此儀ニ付差免度旨申候処何分御中間頭^五かけ合見可申旨被申聞沼本弥五兵衛へ申談候処当町ハ割場^六出人も無^一「間両町出人に不及旨早刻被申聞則大年寄^五□ス外町水手^六右等之□物を調候ハ、又出人之儀可申出候類例ニ成而ハ故障も出来候儀ニ付品に^六出人可申付儀も可有之段為申聞置候

十八日 晴

同日十九日諸儀并

一 勝間田町^六新田屋次七郎八出と自分畑之内掃溜之内風呂敷包一ツ埋メ有之下男取のけニ罷越見出しくり綿着物類三四包有之届出候処河辺村^六も紛失もの届出郡代所^六も申談ニ付引合候処全其品と符合致候ニ付明十九日双方請渡為致候様申含メ永井甚大夫へ粗及噶候川部村友助從弟文吉^六手形刈田屋ニ有之候

一去ル九日日記久世塚谷屋助大夫掛り合ニ付乃井野へ大脇惣八と申者ハ当時町人ニ而候旨尤内借物ハ濟口致候様申渡候段通用之返書遣候処向方ニて呼出津山町奉行^六之書面如此候と読聞せ為心得写し候様申聞写し帰候由藤森屋半助昨日申出候由今日大目付中^五粗申置候文段扣ニ有之候

一 御蔵米六拾匁町米五拾六匁

一 西々条郡養野村安右衛門粹茂右衛門四国偏路ニ罷出途中ニ而病氣

付御当所於櫻原前ニ而相果粹茂右衛門儀も相煩候処鉄砲町^六庭様

之もの在所^五之為知等致世話候由取捨之儀旁役所^六宜取計候様永井甚大夫被申聞尤御徒目付下目付組も罷出候由ニ付部屋目付^五申遣双方立合申候養野村^六親類ニても可參間小屋之もの申付非常之用心に夜分相詰候様申付候

一 御省略ニ付今年来年御家中ニ而病人有之不輕療治ニ合候類ハ相応之藥礼御取計有之候ニ付今日諸向服用之員數書付出候医師名をも相記候儀也

一 同心室井作右衛門妻女子出生兼而之仰出候儀ニ付外並御手当米之儀申達ス

十九日 晴

同日

一 養野村^六半四郎友右衛門と申者兩人參候旨付置候非人共^六申出候段大年寄共^六届ニ付右之者死骸取置之事ニ付所存ハ無之哉否孫右衛門宅ニて相尋候所決而其儀無之趣申之ニ付一礼取之向寄ニ付書面宛所^六ハおけ屋町年寄ニ為認候郡代山岡与左衛門^五及通用候大目付中ニも同人より達候

廿日 晴

一 養野村鉄山安右衛門死骸惣墓^五取埋ニ付おけ屋町^六祈禱料ニ而借り遣し保頭手引ニ而半四郎友右衛門持行候処横山村庄屋ハ郡代所^六被申付右場^五立札諸事相濟候段年寄大坂屋次十郎届出尚又申達ス

一 安岡町大和屋与惣兵衛北側ニ而大和屋家屋敷表口三間小半裏行拾四間半但六歩五厘東隣ハ日笠屋甚兵衛西隣者久米屋金十郎同町松

田屋徳次郎へ質物ニ書入式百目借り来十月切 體文今目出

一 茅町研屋弥兵衛家屋敷表口四間裏行三間但式歩式厘五毛東隣寺町
堺西隣八米屋利七西今町金谷屋忠助へ書入銀札四拾五匁借

一 廿一日 晴

一新魚町うを屋与八郎の目付島田十助方へ娘遣候処去八月離縁持
參銀式百五十目遣候由此分可相返之処無其儀仲人ハ二階町疊屋吉
左衛門故彼口掛り訴出候ニ付「」候処此者も同様右員數可返之
処無其儀与八互対し致難儀候旨返答書出之尚又掛り合相糺させ追々
取計可付

一 二階町喜太郎の断親源助六拾式歳先月四日近在江罷出候処帰不申
所々尋見申候得共今以行方知不申候ニ付断書出ス

一 廿二日 晴

一 河原町十兵衛儀手錠組合預申付置候処親善右衛門病死致候由届出
候ニ付夜分事穩便ニ取置為致候様申渡候

一 京町河部屋勝八願鉄砲町吉井弥次右衛門厄介新十郎儀廿八才町内
「」屋弥兵衛取持ニ而養子ニ貫申度旨承届

一 廿三日 雪

一 万人講雪降候ニ付延引大目付中へ申達ス

一 同心藤森権六数十年無滞相動候ニ付一生老人扶持被下候旨永井甚
大夫被申渡候即日同役市左衛門立相ニ而申渡ス右畢而十一月廿三
日日記之権六番代願之通五島理作へ番代申付候尤藤森喜作と改号
承届候永井甚大夫江申達ス。今日作右衛門部屋目付ニ申渡す

一 坪井中里藤藏の例歳之通經節廿連到来則返答差遣ス

一 廿四日 晴

一 西川役所酒井良藏永松太惣左衛門の通谷紙千枚例年之通到来返答
遣ス

一 藤森喜作今日目見受候而孟事致候御年限之間ニ付省略致候

一 藏合孫左衛門舟積請込料銀五拾枚斎藤孫右衛門綿実改同式拾枚被
下候

一 登り荷世話焼金三両ツ、被下候由

一 久世藤森屋半助大脇惣八掛り合未相濟候ニ付明日一応帰候由届

一 去ル廿一日書記うを屋与八郎掛り合元魚町とうふ屋源右衛門方島

田十助儀相糺させ候源右衛門と十助とは叔父甥之由源右衛門方人

別にて無之候由

一 廿五日 晴

一 八月十六日書記ニ有之候平田屋安右衛門儀組合親類共の聞入候儀

何とそ差免呉候様願出候併河村市兵衛方ニ掛り合口儀ニ付一通り

ニ而難聞届市兵衛ニも談し候勿論大目付永井甚大夫江も及噂候上

尚又一札取之願之通聞届遣候

一 酒改共の米直段追々高直に罷成候ニ付売口当時之直段ニ而者難波

仕自然と酒風義ニもかゝり候様可相成仍之前格之通直段之上相場

上中下之付差出し六拾目之相場ニ釣合卷分上ニて宜旨大年寄共申

出候同月廿六日及御沙汰候御聞届

一 廿六日 晴

一 今日御用席有之 去ル廿三日坊主を以大目付中へ讀説

一来酉正月廿五日万人講興行伺出及御沙汰処御聞届ニ付申渡

一同心組之内当春已来病氣業礼書付差出ス

一御蔵米六拾目ニ付酒直段壹分ツ、上御聞届成候

一先達而土井官左衛門佐々木兵左衛門へ御預被成居申候処今四時頃
困を出兵左衛門ハ不及申番之組之者或ハ針医島崎周栄療治之半ニ
候由聊取合も候由其上拔身を持御城を差徘徊致候旨拙者儀ハ御城
に罷在候追々之注進候ニ付大目付中同心ニ申付召捕候様被申聞
則勸者中へかけ合中間兩人に申付右手配可致旨差紙為持出し候処

下合同事届出候室井作右衛門馬場ニて行合相渡し候段申出候然る
処官左衛門早鉄御門迄も拔身ニ而入来候由相聞出仕各心得扣候内
大目付役所も同断手配之様子ニ候於御用所同心共へ手配之様子等
御聞被成候ニ付粗御答申上候又々兵衛殿屋敷へ同人這入候由風
聞有之則御用番衛守殿ハ被仰聞拙者儀ハ下乗いたし与兵衛殿近辺
ニ至候処同心共も右門前に扣居候ニ付召連入込可申与存候所物頭

伊藤采女近辺ニてハ黒田彦四郎藤本十兵衛其外太田仙助いつれも
兵左衛門手ニて為召捕度最早夫江參候由仙助と兵左衛門召捕旁挨
拶も有之無大事義尤之段申之候内兵左衛門組引連入込候ニ付拙者
儀ハ外に扣同心共申付屋敷之廻り口を口付候御使組十四五人計小
頭召連拙者「」指図致し候様「」ニ付馬場辺相廻し置候所兵右衛
門組之者官左衛門を高手ニ而兵左衛門引連罷出候相応之及挨拶同
心ハ四人計同人構之外為扣候所又々困に入候上ニ而引取候旨同心
共届出承置

一鍛冶屋喜兵衛十一月廿五日之書記竹田村勘七へ可相渡種銀借物家

を払ニ而も屋敷方へ返納筋有之候間日切請合も得不仕逆も出銀者

用意難成旨法外之難波申之御裁許を相背之義難捨置候ニ付入牢申

付右懸り合家屋敷者役所取上ニ可仕旨御伺申候所御聞届其旨取計
候様被仰渡今晚呼出候処甚我儘を申及遲滞候ニ付同心伝内多蔵差
向召連罷出候ニ付書付を以入牢申付候尤夜に及候ニ付牢番預ケ与
□申達候
一藤森喜作今日出番

廿七日 晴

一野条縫助相見中之町平岡屋忠蔵同町年寄西尾治右衛門不埒有之呼
寄せ候得共何角不善之致返答□罷越候旨申聞候ニ付右之者共役所
ハ申付今夕屋敷へ參候処縫助ハ取次之ものへ同進共得と申付候を
承兩人之者挑灯を消町奉行所へ罷越候由申門内を驅出候始末不届
ニ付同人□申聞候故忠蔵ハ組合預ケ治右衛門ハ相役ニ預ケ申付置

廿八日 晴

西正月十日追込免申渡

一昨日之書記尚又同人ハ右之もの屋舖へ參候様取計呉候得と被申聞
忠蔵者組合召連治右衛門者同役召連參候様申渡候夫ニ付隣町年寄
中之町当分兼帯申付候然ル処又々縫助ハ追込申付呉候様申聞有之
候ニ付永井甚大夫へ相達御用番衛守殿へ及御沙汰今晚兩人共追込
申付候申渡書面扣ニ有之

一組之者今般御製略ニ付動米被下之牢家壹俵壹斗三升五合屋敷詰老
俵壹斗一升五合昼夜之廻り二俵二斗三升三軒家者御使組方ニ而相
当之渡り物有之候由

一下目付島田十助と申者へ相懸り魚屋与八娘同人へ縁付持參銀貳百

五拾匁遣候処娘離縁之後右銀札不相戻依之仲人二階町疊屋吉右衛門を相手に申て与八匁訴状差出懸り合出来右十助者「」ニ付「

「掛合」 吳候様申候得共相對ニ難

成「 附永井甚大夫へ此間相達候処甚大夫今日手紙到来

十助義者弥善次厄介ニ候間一件書付御用番へ差出候可然旨申来即

刻衛守殿へ伺出委細申上訴状其外指出罷帰ル

一安岡町久米屋全十郎北側ニ而屋敷地表口三間小半二間半裏行拾二

間五歩役之处東隣大和屋与兵衛西隣東屋利助同町福輪屋伊助売百

五拾匁

一同人屋敷地表口三間小半之内西之方表口五尺裏行拾四間半但シ一

分五厘役東隣大和屋与惣兵衛銀札五拾匁西隣東屋利助へ売渡

廿九日 晴

一今日歳暮廻勤之儀今般御製略ニ付例歳ニ替り候ニ付在宿

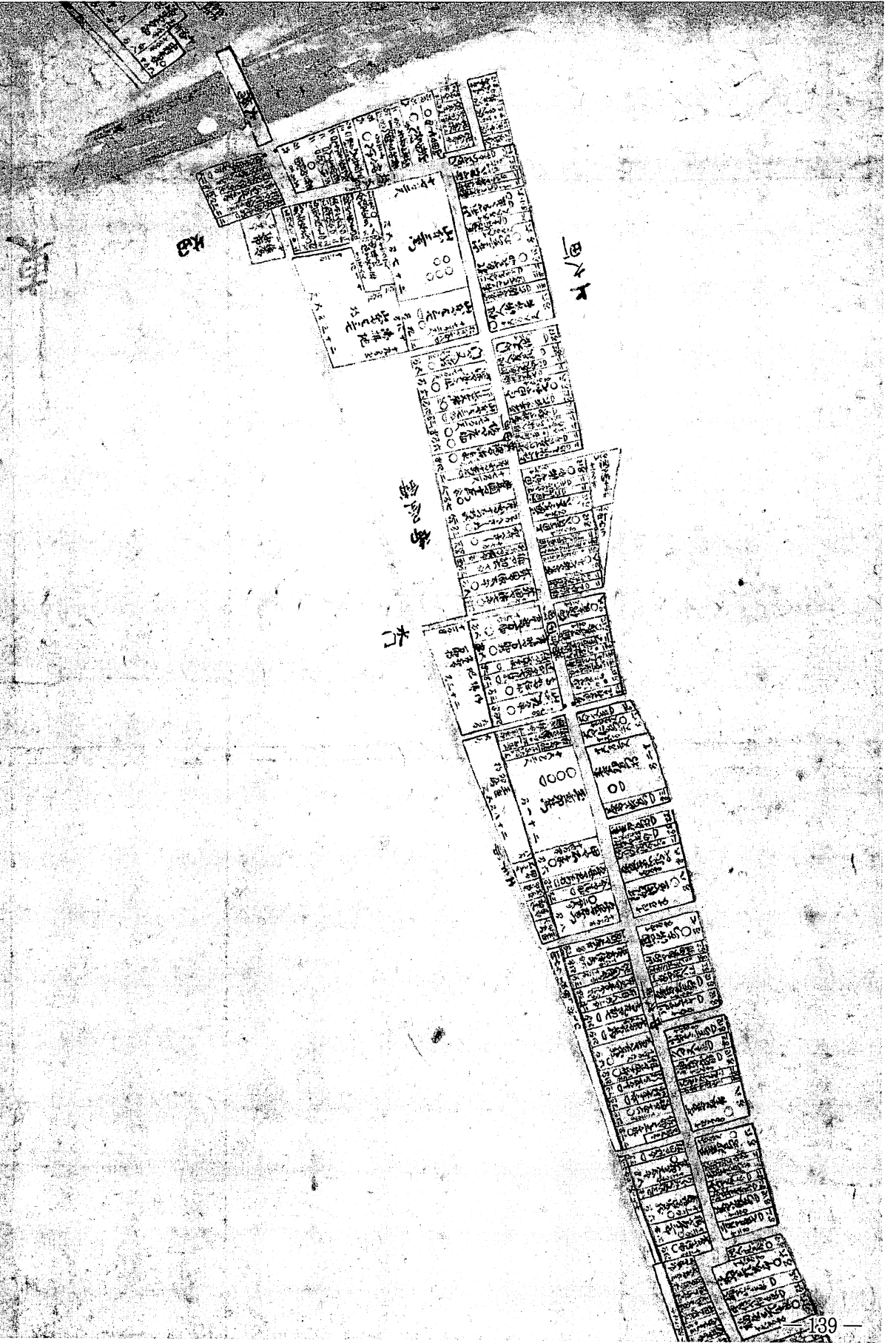
一昨日大目付中々廻伏薬礼之儀追々書付出候処惣数過分ニ相成上ニ

も甚御難渋之御場合御取計難行届者少分百服拾匁之割合を以夫々

へ被下候其余不足者銘々手繰次第自力ニ可致針治俗医薬礼御構無

「旨廻伏扣ニ有之

津山城下町町人地家割図
(江戸時代中頃・日笠勝之氏寄託)



Handwritten mark, possibly 'A' or 'X'.

Handwritten mark, possibly 'A' or 'X'.

Vertical handwritten text, possibly '光'.

Vertical handwritten text, possibly '光'.

西

上之田

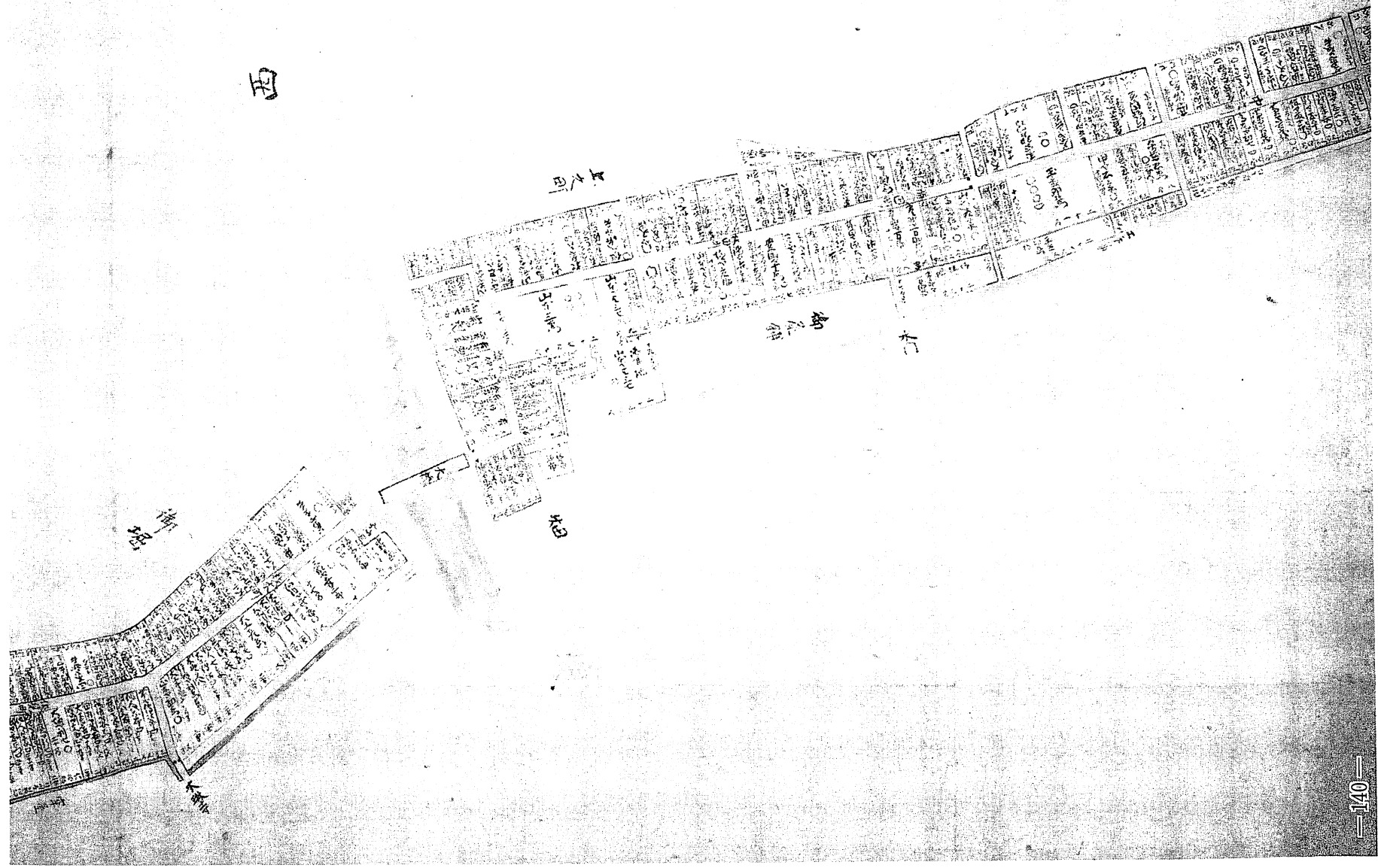
御左衛門

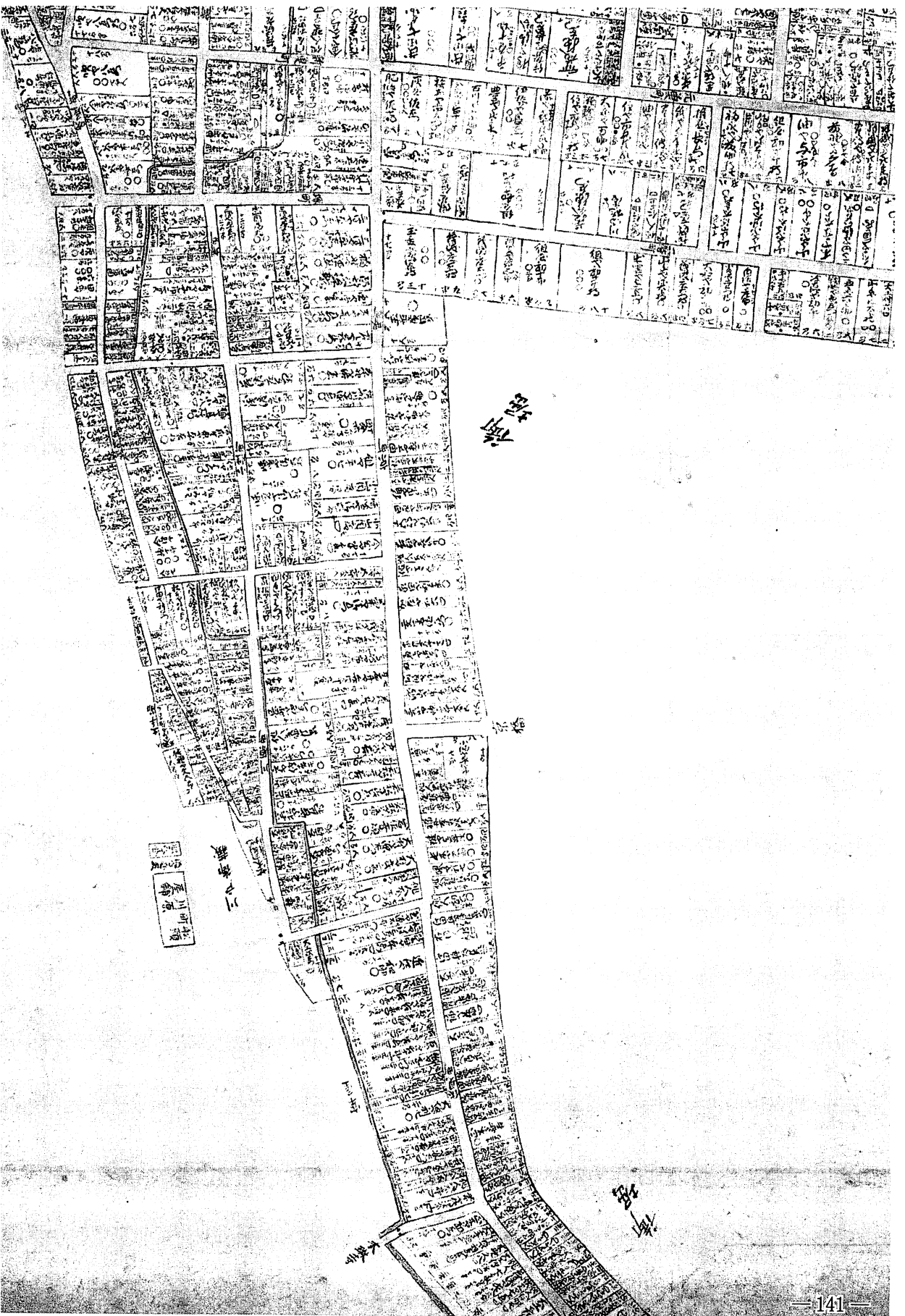
六

北

海

K-1111





三
 路
 新
 街
 三
 路
 新
 街

二
 路
 新
 街

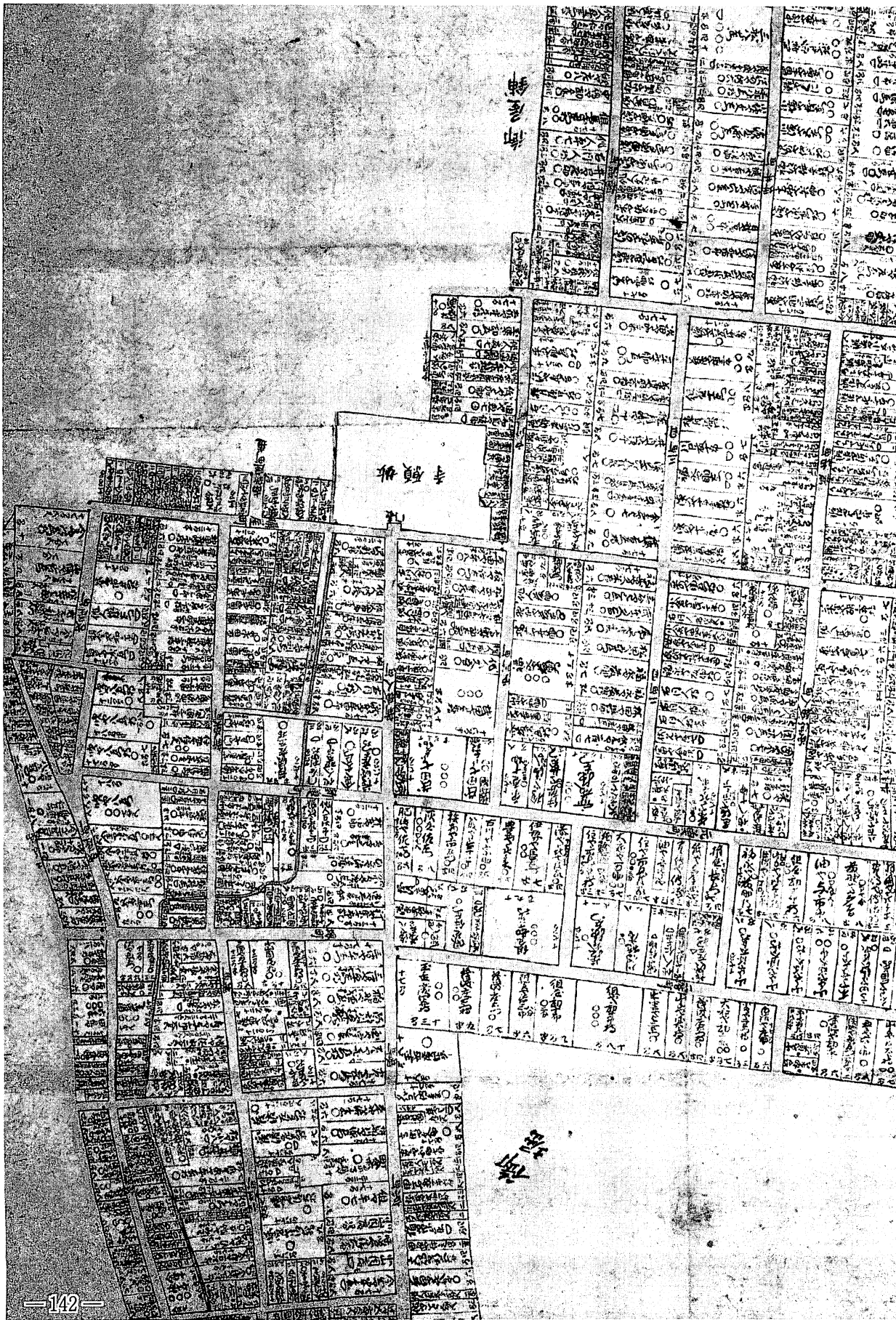
新
 街

新
 街

新
 街

御

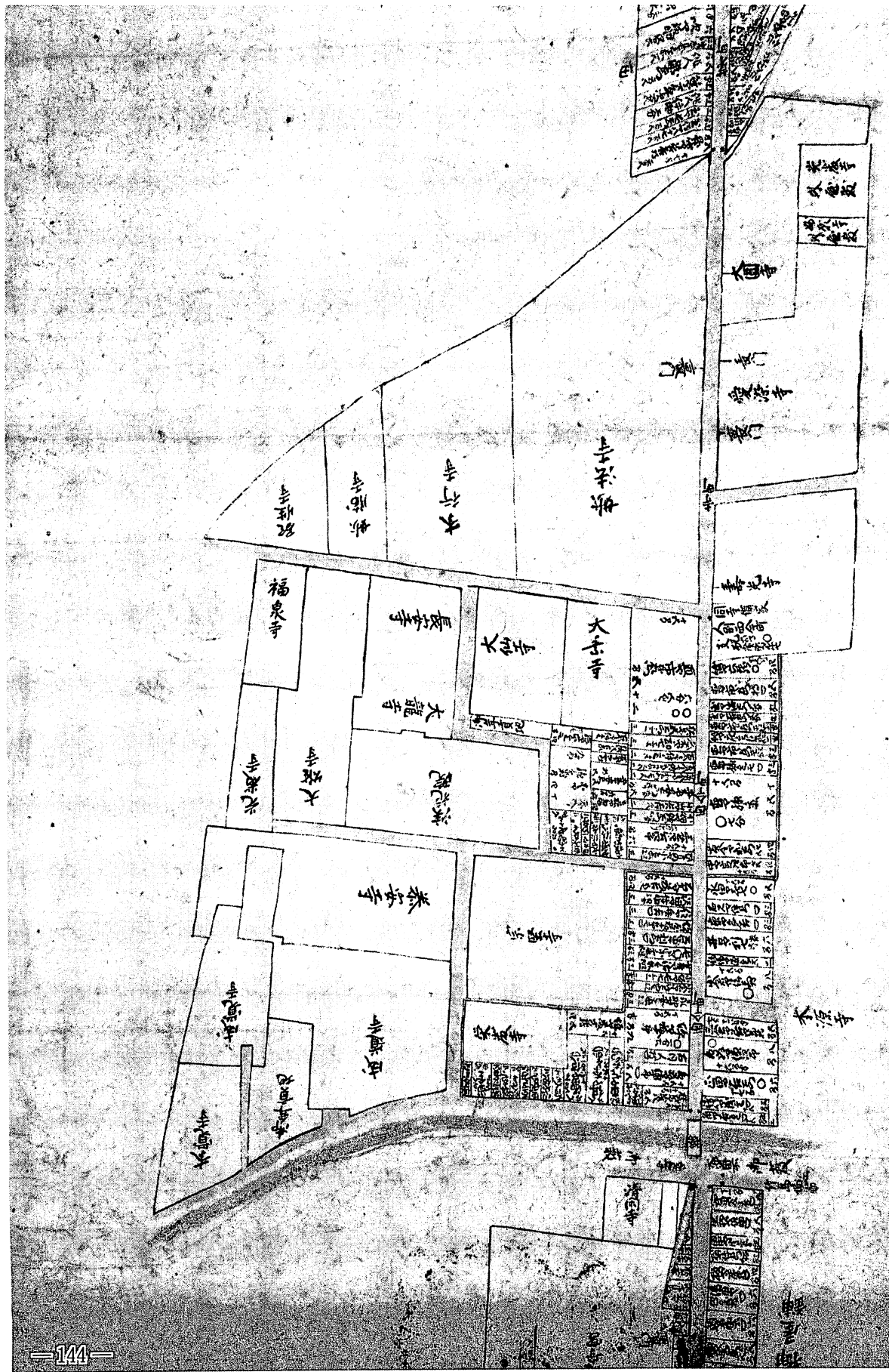
寺願所

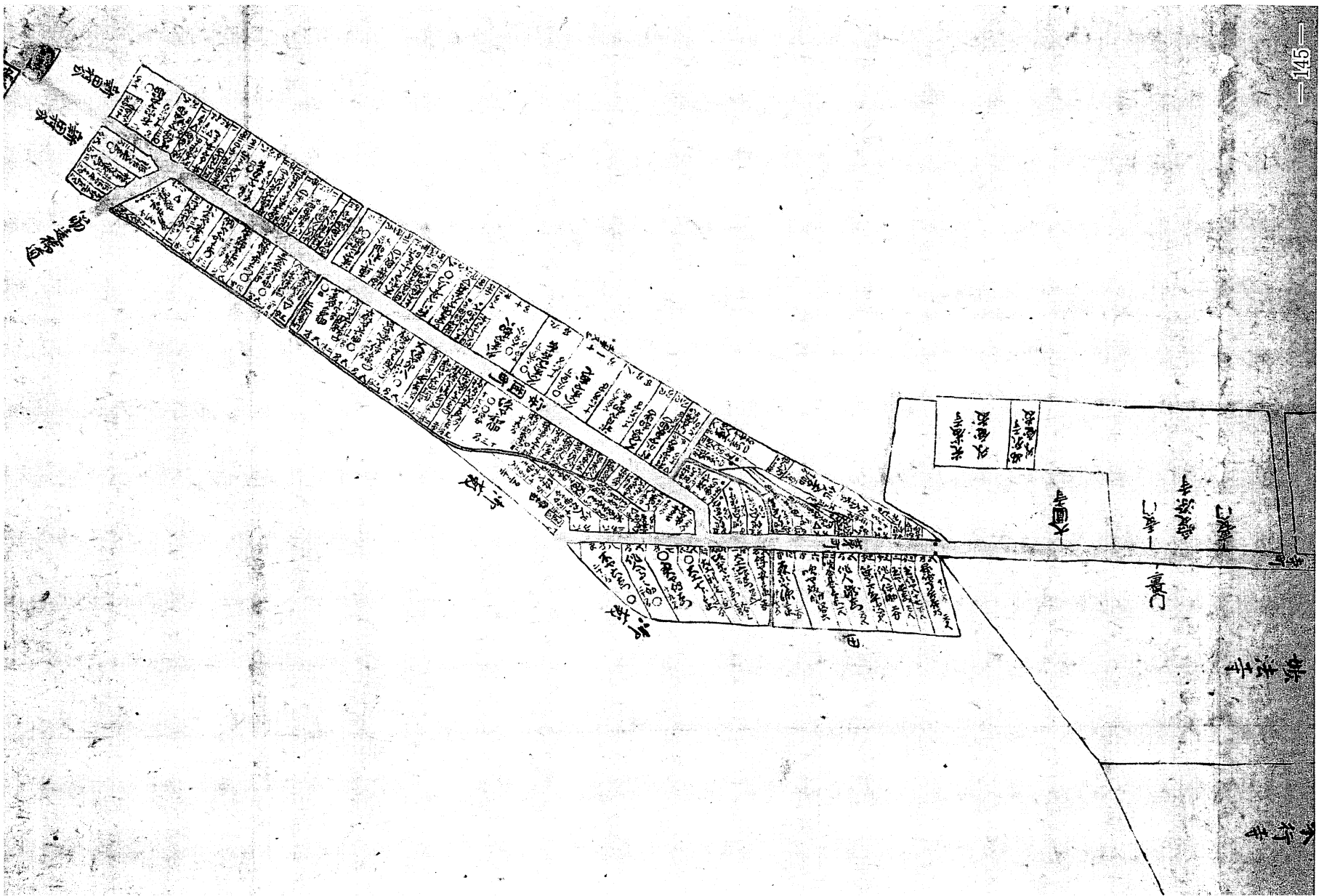




四

四





津山郷土博物館紀要第十三号

津山松平藩町奉行日記八

平成十二年三月三十一日発行

編集 津山郷土博物館 ©

発行 岡山県津山市山下九二番地

印刷 株式会社 三勝

岡山県津山市高野山西三二五―一五

